Canon

EOS-1D X Mark II

EOS-1D X Mark II (G)



- この使用説明書は、EOS-1D X Mark IIのファームウェアがVer.1.1.0以上であることを前提に説明しています。
- 使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます（p.4）。

J
使用説明書

はじめに

EOS-1D X Mark II (G)は、有効画素数約2020万画素・約35.9×23.9mmフルサイズCMOSセンサー、デュアル DIGIC 6+、常用ISO感度100～51200、視野率約100%ファインダー、高精度・高速61点AF（クロス測距点：最大41点）、最高約14.0コマ/秒（ファインダー撮影時）／最高約16.0コマ/秒（ライブビュー撮影時）高速連続撮影、3.2型（約162万ドット）液晶モニター、ライブビュー撮影、4K 59.94p/50.00p動画撮影、ハイフレームレート（フルHD 119.9p/100.0p）動画撮影、デュアルピクセルCMOS AF、GPS機能を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（20～22ページ）、および『取り扱い上のご注意』（23～25ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



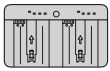
カメラ
（ボディキャップ、
電池室キャップ付き）



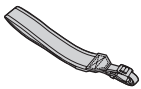
アイカップEg



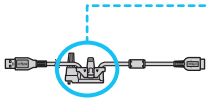
電池
バッテリーパック
LP-E19
（保護カバー付き）



充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E19
（保護カバー付き）



ワイドストラップ



インターフェースケーブル
IFC-150U II



ケーブル
プロテクター

- 使用説明書とCD-ROMについては、次ページを参照してください。
- アイカップEgをファインダーの接眼部に取り付けてください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

有線LAN機能について

Ethernet用RJ-45端子（p.28）を使用した有線LAN機能については、EOS-1D X Mark II (G)『有線LAN使用説明書』（別冊／p.4）を参照してください。

周辺機器との接続について

カメラをパソコンなどと接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。

使用説明書とCD-ROMについて

使用説明書は「カメラ使用説明書」「有線LAN使用説明書」の2冊と、ソフトウェア使用説明書CD-ROMで構成されています。なお、EOS用ソフトウェアは「EOS DIGITAL Solution Disk」に収録されています。



カメラ使用説明書
（本書）



有線LAN使用説明書



EOS DIGITAL Solution Disk（ソフトウェアCD-ROM）

各種ソフトウェアが収録されています。ソフトウェアの概要やパソコンへのインストール方法については、552～553ページを参照してください。



ソフトウェア使用説明書CD-ROM

ソフトウェアの電子マニュアル（PDFファイル）が収録されています。ソフトウェア使用説明書CD-ROMの見かたについては、554ページを参照してください。

使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

● **使用説明書（PDFファイル）のダウンロードサイト**

・**カメラ使用説明書、有線LAN使用説明書**
➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/index.html

・**ソフトウェア使用説明書**
➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく下記のカードが使用できます。なお、**新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（p.74）。

- **CF**（コンパクトフラッシュ）**カード**
  * タイプI準拠、UDMAモード7対応
- **CFast**（シーファスト）**カード**
  * CFast 2.0対応

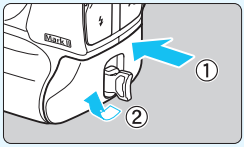
動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録画質に適応する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは316ページを参照してください。

本書では、コンパクトフラッシュカードを「CFカード」、CFastメモリーカードを「CFastカード」、メモリーカードの総称を「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途購入してください。

すぐ撮影するには

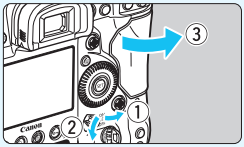
1



電池（バッテリー）を入れる（p.47）

- 電池の充電方法については42ページを参照してください。

2

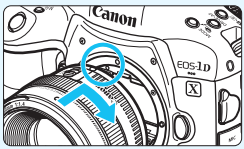


カードを入れる（p.49）

- CFカードは左側、CFastカードは右側のスロットに入れます。

* CFカード、またはCFastカードのどちらかが入っていれば撮影できます。

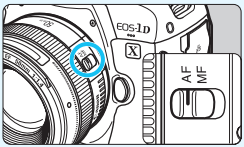
3



レンズを取り付ける（p.59）

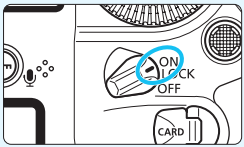
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.59）

5



電源スイッチを〈ON〉にする（p.53）

6



撮影モードを〈P〉にする（p.228）

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 上面表示パネルを見ながら、〈☆〉または〈◎〉を回して〈**P**〉を選びます。

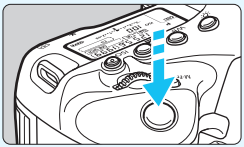
7



ピントを合わせる（p.62）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8



撮影する（p.62）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



撮影した画像を確認する

- 撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.344）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.271）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.344）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.386）を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

〈 〉：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈 〉：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈 〉：マルチコントローラーを示しています。
〈SET〉：設定ボタンを示しています。
6／8／10／16：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ約6秒／8秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

(p.***)：参照ページを示しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

？：困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈**ON**〉になっていることを前提に説明しています(p.53)。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

	はじめに	2
1	撮影前の準備と操作の基本	41
2	AF／ドライブの設定	87
3	画像に関する設定	151
4	GPS機能の設定	211
5	写真表現にあわせた露出制御	227
6	ストロボ撮影	259
7	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	271
8	動画を撮影する	295
9	画像の再生	343
10	撮影した画像を加工する	393
11	撮像素子の清掃	403
12	パソコンへの画像転送と印刷指定	409
13	カメラをカスタマイズする	419
14	資料	479
15	パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて	549

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書と CD-ROM について 4
使用できるカードについて 5
すぐ撮影するには 6
本使用説明書の表記について 8
章目次 9
機能目次 17
安全上のご注意 20
取り扱い上のご注意 23
各部の名称 26

1　撮影前の準備と操作の基本　41

電池を充電する 42
電池を入れる／取り出す 47
カードを入れる／取り出す 49
電源を入れる 53
日付／時刻／エリアを設定する 55
表示言語を選ぶ 58
レンズを取り付ける／取り外す 59
撮影の基本操作 61
Q 撮影機能のクイック設定 68
MENU メニュー機能の操作と設定 71
使い始める前の準備 74
　カードを初期化する 74
　電子音が鳴らないようにする 76
　電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ 76
　撮影直後の画像表示時間を設定する 77

カメラの機能設定を初期状態に戻す 77
ファインダー内にグリッドを表示する 81
水準器を表示する 82
ファインダー内に表示する情報を設定する 84
? ヘルプ機能について 85

2 AF／ドライブの設定 87

AF: AF 動作の選択 88
測距エリアと AF フレームを選択する 91
測距エリア選択モードの内容 96
AF センサーについて 100
使用レンズと AF 測距について 102
AI サーボ AF 特性を選ぶ 113
AF 機能のカスタマイズ 122
AF による合焦位置を微調整する 138
AF の苦手な被写体 144
MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） 145
ドライブモードの選択 146
セルフタイマー撮影 150

3 画像に関する設定 151

記録・再生するカードを選択する 152
記録画質を設定する 155
ISO: 静止画の ISO 感度を設定する 163
ピクチャースタイルを選択する 169
ピクチャースタイルを調整する 172
ピクチャースタイルを登録する 175
WB: ホワイトバランスの設定 177

マニュアルホワイトバランス 180
色温度を直接設定する 185
ホワイトバランスを補正する 186
明るさ・コントラストを自動補正する 189
ノイズ低減機能の設定 190
高輝度側・階調優先の設定 193
レンズの光学特性による影響を補正する 194
フリッカーの影響を低減する 198
色空間を設定する 200
フォルダの作成と選択 201
ファイル名を変更する 203
画像番号の付け方を設定する 206
著作権情報を設定する 208

4 GPS 機能の設定 211

GPS 機能でできること 212
GPS 機能に関するご注意 214
GPS の信号を受信する 215
位置情報の更新間隔を設定する 220
最後に受信した位置情報の付加期限を設定する 221
GPS の時刻をカメラに設定する 222
移動ルートを記録する 223

5 写真表現にあわせた露出制御 227

P: プログラム AE 撮影 228
Tv: シャッター速度を決めて撮る 231
Av: 絞り数値を決めて撮る 233
ピントの合う範囲を確認する 235
M: 露出を自分で決めて撮る 236

測光モードの選択 238
自分の好みに露出を補正する 241
露出を自動的に変えて撮る／ AEB 撮影 243
露出を固定して撮る／ AE ロック撮影 245
bulb：長時間露光（バルブ）撮影 246
多重露出撮影 248
ミラーアップ撮影 256
アイピースシャッターの使い方 258
リモートスイッチ撮影 258

6 ストロボ撮影 259

ストロボを使った撮影 260
ストロボの機能を設定する 263

7 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 271

液晶モニターを見ながら撮影する 272
撮影機能の設定 278
メニュー機能の設定 280
AF でピントを合わせる（AF 方式） 284
MF：手動でピントを合わせる 291

8 動画を撮影する 295

動画を撮影する 296
自動露出撮影 296
シャッター優先 AE 撮影 297
絞り優先 AE 撮影 298
マニュアル露出撮影 301
撮影機能の設定 309
動画記録画質の設定 311

録音の設定 322
動画サイレント設定 325
タイムコードの設定 326
メニュー機能の設定 330

9 画像の再生 343

▶ 画像を再生する 344
INFO.: 撮影情報の内容 346
▶ 見たい画像を素早く探す 352
一度に複数の画像を表示する（インデックス表示） 352
画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示） 353
拡大する 355
回転させる 357
保護する（プロテクト） 358
レーティングを設定する 361
音声メモを記録／再生する 363
Q 再生時のクイック設定 365
撮った動画の楽しみ方 367
動画を再生する 369
動画の前後部分をカットする 372
4K 動画からフレームを切り出す 374
自動再生する（スライドショー） 376
テレビで見る 379
コピーする 382
消去する 386
再生に関する機能の設定を変更する 389
液晶モニターの明るさを調整する 389
液晶モニターの色あいを設定する 390
縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定 391

10 撮影した画像を加工する 393

RAW 画像をカメラで現像する 394
JPEG 画像をリサイズする 399
JPEG 画像をトリミングする 401

11 撮像素子の清掃 403

撮像素子の自動清掃 404
ゴミ消し情報を画像に付加する 405
手作業で撮像素子を清掃する 407

12 パソコンへの画像転送と印刷指定 409

パソコンに画像を送る 410
画像を印刷指定する／DPOF 415

13 カメラをカスタマイズする 419

カスタム機能一覧 420
カスタム機能で変更できる内容 423
C.Fn1：Exposure（露出） 423
C.Fn2：Exposure（露出） 426
C.Fn3：Exposure（露出） 429
C.Fn4：Drive（ドライブ） 433
C.Fn5：Disp./Operation（表示・操作） 435
C.Fn6：Operation（操作） 438
C.Fn7：Others（その他） 441
操作ボタンカスタマイズ 445
クイック設定カスタマイズ 461
マイメニューを登録する 465
カメラ設定の保存と読み込み 470
C: カスタム撮影モードの登録 474

14 資料 479
INFO. ボタンの機能 480
電池情報を確認する 484
家庭用電源を使用する 485
システム図 486
各撮影モードで設定できる機能一覧 488
メニュー機能一覧 492
故障かな？と思ったら 504
カメラシステム情報 522
エラー表示 525
主な仕様 526

15 パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて 549
パソコンに画像を取り込む 550
ソフトウェアの概要 552
ソフトウェアのインストール 553
ソフトウェア使用説明書 554
索 引 555

機能目次

電源

- 電池充電 → p.42
- 電池残量 → p.54
- 電池情報確認 → p.484
- 家庭用電源 → p.485
- オートパワーオフ → p.76

カード

- カード初期化 → p.74
- 記録機能 → p.152
- カード選択 → p.154
- カードなしレリーズ → p.50

レンズ

- 取り付け → p.59
- 取り外し → p.60

基本設定

- 言語 → p.58
- 日付／時刻／エリア → p.55
- 電子音 → p.76
- 著作権情報 → p.208
- カメラ設定初期化 → p.77

ファインダー

- 視度調整 → p.61
- アイピースシャッター → p.258
- 水準器 → p.83
- グリッド → p.81
- ファインダー内表示設定 → p.84
- フォーカシングスクリーン → p.435

液晶モニター

- 明るさ → p.389
- 色あい → p.390
- 水準器 → p.82
- LV時タッチ操作 → p.283
- ヘルプ機能 → p.85

AF

- AF動作 → p.88
- 測距エリア選択モード → p.91
- AFフレーム選択 → p.94
- AFフレーム登録 → p.450
- レンズグループ属性 → p.102
- AIサーボAF特性 → p.113
- EOS iTR AF → p.127
- AF機能カスタマイズ → p.122
- AFフレーム点灯輝度 → p.136
- AFマイクロアジャストメント → p.138
- 手動ピント合わせ → p.145

測光

- 測光モード → p.238
- マルチスポット測光 → p.240

ドライブ

- ドライブモード → p.146
- セルフタイマー → p.150
- 連続撮影可能枚数 → p.161

画像記録

- 記録機能 → p.152
- カード選択 → p.154
- フォルダ作成／選択 → p.201

- ファイル名 → p.203
- 画像番号 → p.206

画質

- 画像サイズ → p.155
- JPEG画質（圧縮） → p.162
- ISO感度（静止画） → p.163
- ピクチャースタイル → p.169
- ホワイトバランス → p.177
- オートライティング オプティマイザ → p.189
- 高感度時ノイズ低減 → p.190
- 長秒時露光ノイズ低減 → p.191
- 高輝度側・階調優先 → p.193
- レンズ光学補正 → p.194
- フリッカー低減 → p.198
- 色空間 → p.200

撮影

- 撮影モード → p.32
- 多重露出 → p.248
- ミラーアップ → p.256
- 被写界深度確認 → p.235
- リモートスイッチ → p.258
- クイック設定 → p.68
- マルチ電子ロック → p.66

露出

- 露出補正 → p.241
- 露出補正（M+ISOオート） → p.237
- AEB → p.243
- AEロック → p.245
- セイフティシフト → p.426

GPS

- GPS機能 → p.211
- ログー機能 → p.223

ストロボ

- 外部ストロボ → p.260
- ストロボ調光補正 → p.260
- FEロック → p.260
- ストロボ機能設定 → p.263
- ストロボカスタム機能 → p.268

ライブビュー撮影

- ライブビュー撮影 → p.271
- AF方式 → p.284
- LV時タッチ操作 → p.283
- 拡大表示 → p.290
- 手動ピント合わせ → p.291
- LVソフト撮影 → p.281

動画撮影

- 動画撮影 → p.295
- ISO感度（動画） → p.330
- AF方式 → p.284
- 動画サーボAF → p.331
- 動画サーボAF時の AF速度 → p.334
- 動画サーボAFの 被写体追従特性 → p.335
- LV時タッチ操作 → p.336
- 動画記録画質 → p.311
- 24.00p → p.317
- ハイフレームレート → p.318
- 録音 → p.322

- マイク → p.323
- ライン入力 → p.322
- ヘッドフォン → p.324
- ウィンドカット → p.323
- アッテネーター → p.323
- 動画サイレント → p.325
- タイムコード → p.326
- HDMI出力 → p.338

再生

- 撮影直後の表示時間 → p.77
- 1枚表示 → p.344
- 撮影情報表示 → p.347
- インデックス表示 → p.352
- 画像送り（ジャンプ表示） → p.353
- 拡大 → p.355
- 回転 → p.357
- プロテクト（保護） → p.358
- レーティング → p.361
- 音声メモ → p.363
- 動画再生 → p.369
- 動画前後カット → p.372
- フレーム切り出し（4K） → p.374
- スライドショー → p.376
- テレビで見る → p.379
- コピー → p.382
- 消去 → p.386
- クイック設定 → p.365

画像加工

- RAW現像 → p.394
- JPEGリサイズ → p.399
- JPEGトリミング → p.401

画像転送／印刷指定

- 画像転送 → p.410
- 印刷指定（DPOF） → p.415

有線LAN

→ 有線LAN使用説明書

カスタマイズ

- カスタム機能（C.Fn） → p.420
- 操作ボタンカスタマイズ → p.445
- クイック設定カスタマイズ → p.461
- マイメニュー → p.465
- カメラ設定保存 → p.470
- カスタム撮影モード → p.474

センサークリーニング／ダスト除去

- センサークリーニング → p.404
- ゴミ消し情報付加 → p.405
- 手作業 → p.407

インターフェース

- ケーブルプロテクター → p.38

エラー／注意

- カメラシステム情報 → p.522
- エラー表示 → p.525

ソフトウェア

- 概要 → p.552
- インストール → p.553
- 使用説明書 → p.554

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。

⚠ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電（使用）可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 同梱のCD-ROMをCD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどをご使用になる場合は、大音量により耳に傷害を負う恐れがあります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、録音に関する設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。

- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を別紙の修理お問合せ専用窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

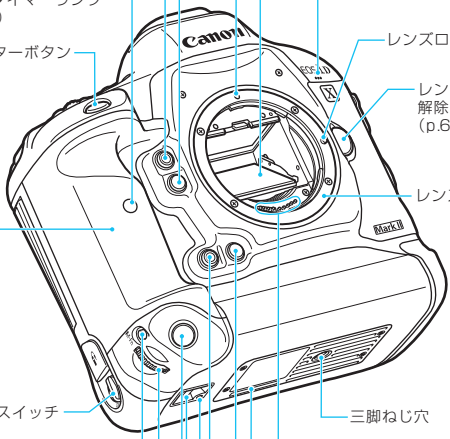
- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



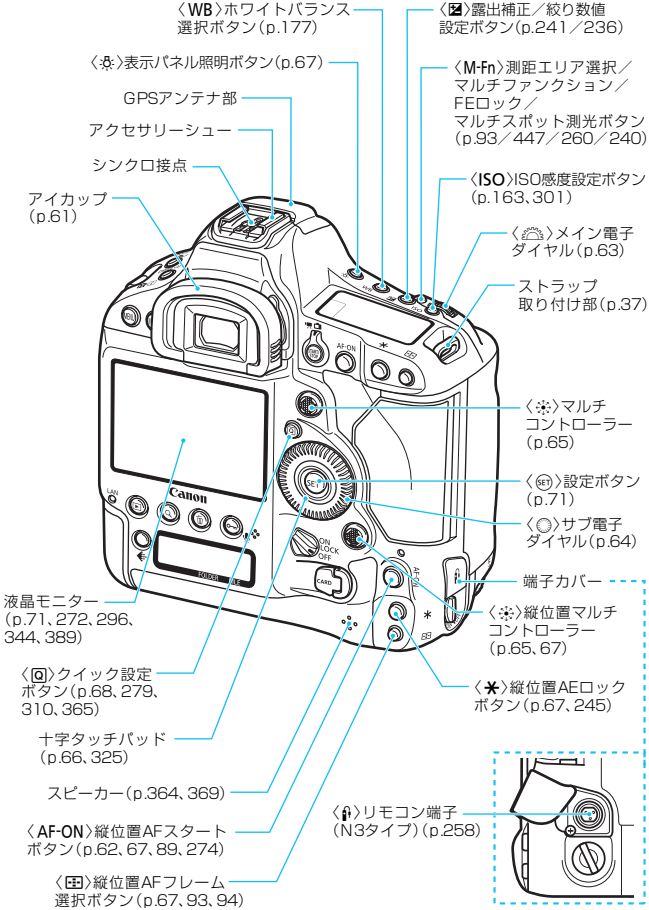
各部の名称

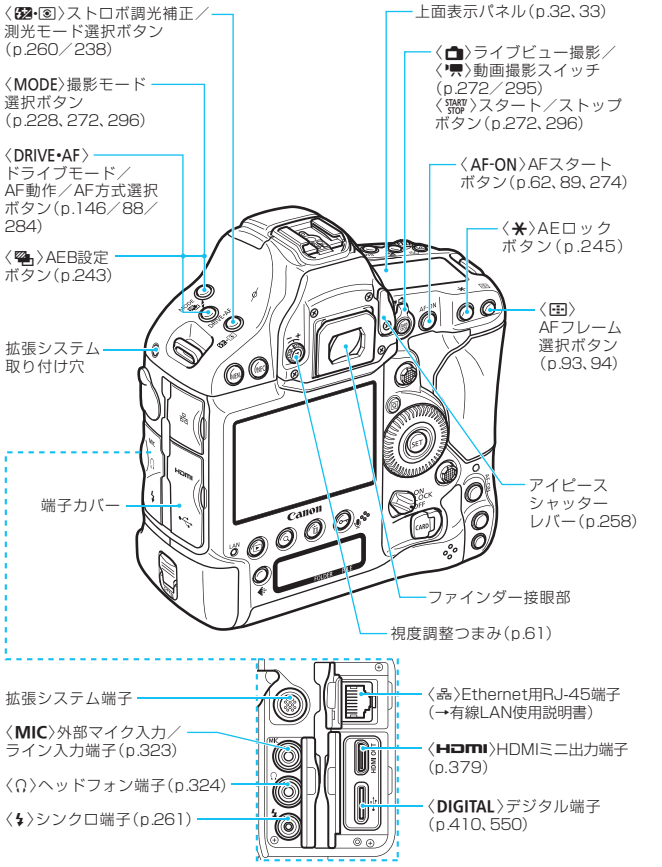


レンズ取り付け指標（p.59）
絞り込みボタン（p.235）
マルチファンクションボタン2（p.447）
セルフタイマーランプ（p.150）
シャッターボタン（p.62）
ミラー（p.256、407）
動画撮影用マイク（p.296）
レンズロックピン
レンズロック解除ボタン（p.60）
レンズマウント
グリップ
縦位置操作スイッチ（p.67）
〈M-Fn〉縦位置測距エリア選択／マルチファンクション／FEロック／マルチスポット測光ボタン（p.67、93／447／260／240）
縦位置メイン電子ダイヤル（p.67、63）
縦位置シャッターボタン（p.67、62）
ハンドストラップ取り付け部（p.486）
アクセサリー位置決め穴
縦位置マルチファンクションボタン2（p.67、447）
三脚ねじ穴
接点（p.25）
シリアル番号
縦位置絞り込みボタン（p.67、235）

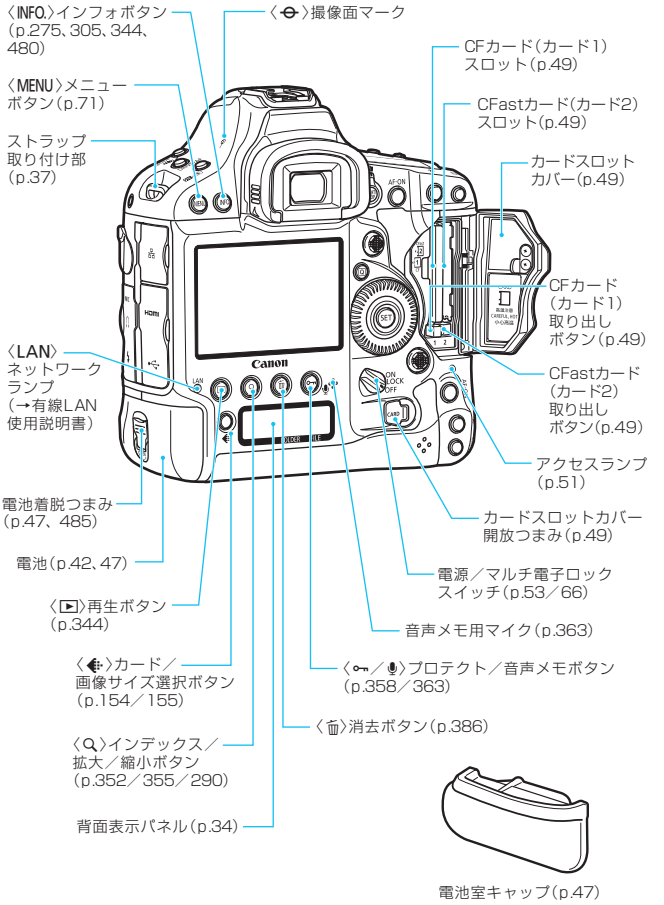


ボディキャップ（p.59）

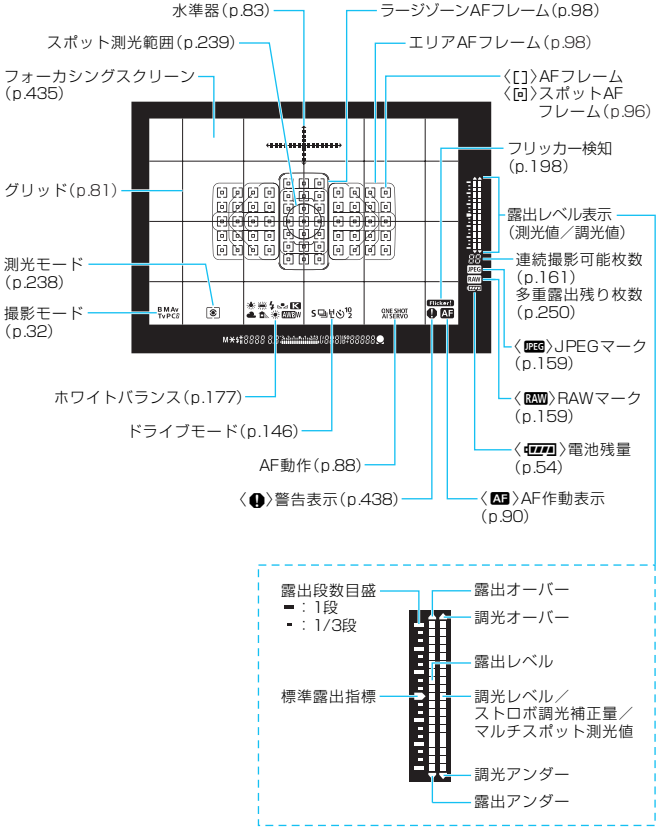

〈WB〉ホワイトバランス
選択ボタン(p.177)
〈露出補正／絞り数値
設定ボタン(p.241／236)
〈表示パネル照明ボタン(p.67)
GPSアンテナ部
アクセサリーシュー
シンクロ接点
〈M-Fn〉測距エリア選択／
マルチファンクション／
FEロック／
マルチスポット測光ボタン
(p.93／447／260／240)
〈ISO〉ISO感度設定ボタン
(p.163、301)
アイカップ
(p.61)
〈メイン電子
ダイヤル(p.63)
ストラップ
取り付け部(p.37)
〈マルチ
コントローラー
(p.65)
〈設定ボタン
(p.71)
〈サブ電子
ダイヤル(p.64)
端子カバー
液晶モニター
(p.71、272、296、
344、389)
〈縦位置マルチ
コントローラー
(p.65、67)
〈クイック設定
ボタン(p.68、279、
310、365)
〈縦位置AEロック
ボタン(p.67、245)
十字タッチパッド
(p.66、325)
スピーカー(p.364、369)
〈リモコン端子
(N3タイプ)(p.258)
〈AF-ON〉縦位置AFスタート
ボタン(p.62、67、89、274)
〈縦位置AFフレーム
選択ボタン(p.67、93、94)



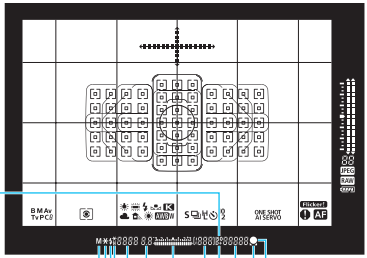
デジタル端子にインターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。


〈INFO.〉インフォボタン
(p.275、305、344、480)
〈⊖〉撮像面マーク
CFカード(カード1)
スロット(p.49)
〈MENU〉メニュー
ボタン(p.71)
CFastカード(カード2)
スロット(p.49)
ストラップ
取り付け部
(p.37)
カードスロット
カバー(p.49)
CFカード
(カード1)
取り出し
ボタン(p.49)
〈LAN〉
ネットワーク
ランプ
(→有線LAN
使用説明書)
CFastカード
(カード2)
取り出し
ボタン(p.49)
アクセスランプ
(p.51)
電池着脱つまみ
(p.47、485)
カードスロットカバー
開放つまみ(p.49)
電池(p.42、47)
電源／マルチ電子ロック
スイッチ(p.53／66)
〈▶〉再生ボタン
(p.344)
音声メモ用マイク(p.363)
〈◈〉カード／
画像サイズ選択ボタン
(p.154／155)
〈🔑／🎙〉プロテクト／音声メモボタン
(p.358／363)
〈🗑〉消去ボタン(p.386)
〈🔍〉インデックス／
拡大／縮小ボタン
(p.352／355／290)
背面表示パネル(p.34)
電池室キャップ(p.47)

ファインダー内表示



* 設定に応じた部分のみ表示されます。
* AFフレームは赤く表示されます。



〈**ISO**〉ISO表示
(p.163)

マニュアル露出

〈☀〉AEロック(p.245)
AEB撮影中(p.243)
マルチスポット測光(p.240)

〈ϟ〉ストロボ充電完了(p.260)
FEロック連動範囲外警告

〈ϟ*〉FEロック(p.260)
FEB撮影中(p.267)
〈ϟH〉ハイスピードシンクロ(p.267)

AFフレーム選択表示
(**[ ]AF**, **SEL [ ]**, **SEL AF**)
AFフレーム登録
(**[ ]HP**, **SEL [ ]**, **SEL HP**)
カード警告(**Card 1/2/1,2**)
カードフル警告(**Full 1/2/1,2**)

〈●〉合焦マーク(p.89)

〈◣◢〉AF作動表示(p.137)

ISO感度(p.163)
ダストデリートデータ取得
(**- - - - -**)

〈**D+**〉高輝度側・階調優先(p.193)

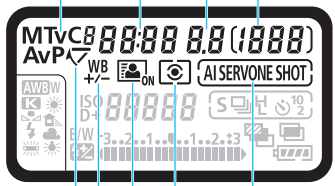
撮影可能枚数
カードフル警告(**Full**)
カードエラー警告(**Err**)
エラー番号

露出レベル表示(設定値)
露出補正量(p.241)
AEBレベル(p.243)

絞り数値(p.233、236)
AEBステップ量(p.243)
ダストデリートデータ取得(**- -**)

シャッター速度(p.231、236)
バルブ(**buLb**)(p.246)
FEロック(**FEL**)
データ処理中(**buSY**)
マルチ電子ロック警告(**L**)
カード未装填警告(**Card**)
エラー表示(**Err**)

上面表示パネル



シャッター速度
バルブ(**buLb**)
バルブ露光時間(分:秒)
FEロック(**FEL**)
データ処理中(**buSY**)
マルチ電子ロック警告(**L**)
撮像素子の清掃中(**CLn**)
カード未装填警告(**Card**)
エラー表示(**Err**)

絞り数値
AEBステップ量
ダストデリートデータ取得(**- -**)

AFフレーム選択表示
(**[ ] AF**, **SEL [ ]**, **SEL AF**)
AFフレーム登録
(**[ ] HP**, **SEL [ ]**, **SEL HP**)
カード警告(**Card 1/2/1,2**)
カードフル警告(**Full 1/2/1,2**)

撮影モード
P プログラムAE
(p.228、296)
Av 絞り優先AE
(p.233、298)
M マニュアル露出
(p.236、301)
Tv シャッター優先AE
(p.231、297)
C1/**C2**/**C3**
カスタム撮影モード
(p.474)

撮影可能枚数
セルフタイマー作動表示
バルブ露光時間(時間)
マニュアルホワイトバランス
取得表示(**[＊]**)
カードフル警告(**Full**)
カードエラー警告(**Err**)
エラー番号
画像記録中の残り枚数

〈⧩〉ミラーアップ撮影
(p.256)

〈WB〉ホワイトバランス補正
(p.186)

〈⧩〉オートライティング
オプティマイザ(p.189)

AF動作(p.88)
ONE SHOT ワンショットAF
AI SERVO AIサーボAF

測光モード(p.238)
評価測光
部分測光
スポット測光
中央部重点平均測光

* 設定に応じた部分のみ表示されます。

〈ISO〉ISO表示(p.163)

〈D+〉高輝度側・階調優先
(p.193)

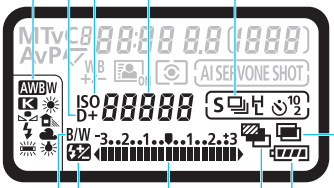
ホワイトバランス
(p.177)

- AWB オート (雰囲気優先)
- AWBW オート (ホワイト優先)
- 太陽光
- 日陰
- くもり
- 白熱電球
- 白色蛍光灯
- ストロボ
- マニュアル
- K 色温度/カスタム ホワイトバランス

ISO感度
色温度数値
マニュアルホワイトバランス番号
カスタムホワイトバランス(**PC-***)
ダストデリートデータ取得(**- - - - -**)

ドライブモード(p.146)

- 1枚撮影
- 高速連続撮影
- 低速連続撮影
- S 1枚:ソフト動作
- S 高速連続撮影
- S 低速連続撮影
- 10秒 セルフタイマー:10秒
- 2秒 セルフタイマー:2秒



〈▣〉多重露出撮影
(p.248)

電池残量(p.54)

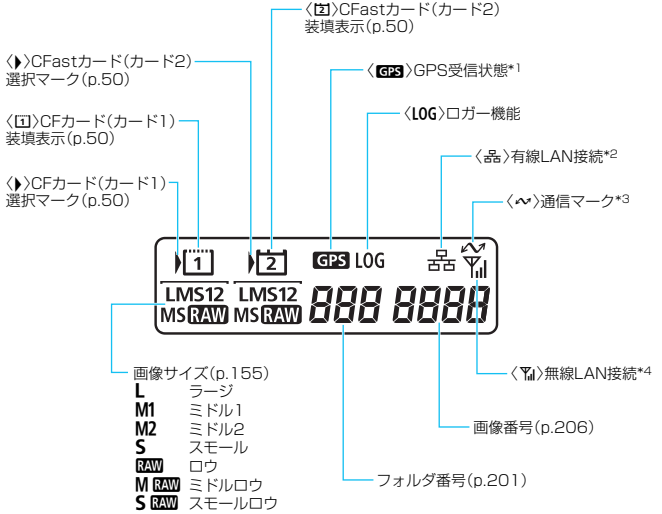
〈AEB〉AEB撮影(p.243)

〈B/W〉モノクロ撮影
(p.170)

〈FE〉ストロボ調光補正
(p.260)

露出レベル表示(設定値)
露出補正量(p.241、237)
AEBレベル(p.243)
ストロボ調光補正量(p.260)

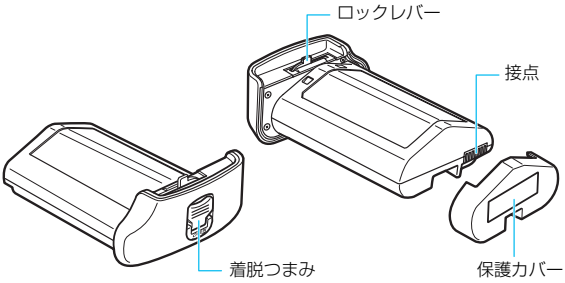
背面表示パネル



*1：内蔵GPS機能使用時に表示
*2：有線LAN接続時に表示
*3：パソコン、スマートフォン接続時に表示
*4：ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E8／WFT-E6装着、無線LAN接続時に表示

* 設定に応じた部分のみ表示されます。

バッテリーパック LP-E19



付属のバッテリーパック LP-E19を充電するときは、付属のバッテリーチャージャー LC-E19（p.36）を使用してください。バッテリーチャージャー LC-E4N/LC-E4では充電できません。

バッテリーパック LP-E19は、バッテリーパック LP-E4N/LP-E4を電源に使用するカメラでも使用できます。

注意

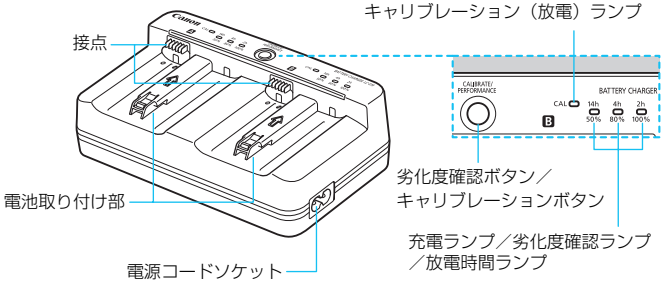
指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

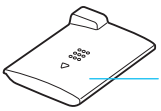
Li-ion

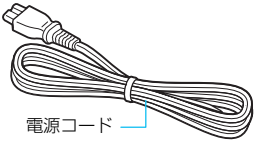
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

バッテリーチャージャー LC-E19

バッテリーパック LP-E19用の充電器です（p.42）。

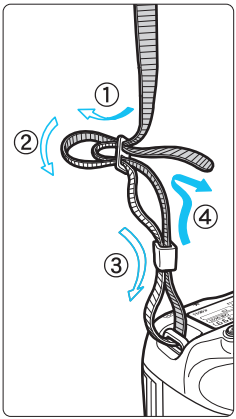






付属のバッテリーチャージャー LC-E19で、バッテリーパック LP-E4N/LP-E4を充電することもできます。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

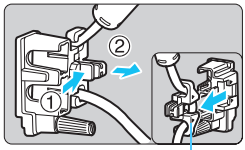
ケーブルプロテクターの使い方

カメラとパソコン／コネクトステーションを接続するときは、付属または純正（システム図に記載：p.487）のインターフェースケーブルを使用してください。

また、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。ケーブルプロテクターを使用すると、ケーブルが不用意に抜けることを防止したり、端子の破損を防止することができます。

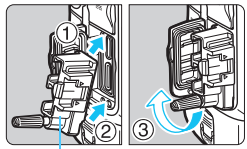
付属インターフェースケーブル／純正HDMIケーブル（別売）使用時

1



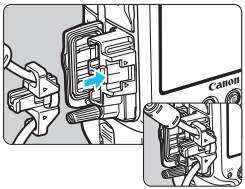
クランパー部

2

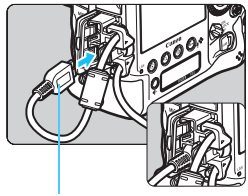


プロテクター本体

3

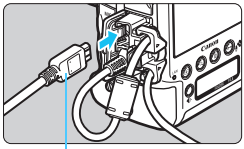


4



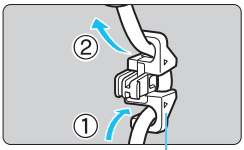
付属インターフェースケーブル

5



HDMIケーブル（別売）

別売の純正インターフェースケーブル使用時



別売のキヤノン純正インターフェースケーブルを使用するときは（p.487）、図のようにケーブルをクランパー部に通してからプロテクター本体に取り付けてください。

- ケーブルプロテクターを使用せずにインターフェースケーブルを接続すると、デジタル端子が破損する恐れがあります。
- デジタル端子が破損する恐れがあるため、Micro B端子を備えたUSB2.0ケーブルは使用しないでください。
- 手順4の右下の図のように、インターフェースケーブルがデジタル端子にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

カメラとテレビを接続するときは、HDMIケーブル HTC-100（別売）の使用をおすすめします。HDMIケーブル接続時もケーブルプロテクターの使用をおすすめします。

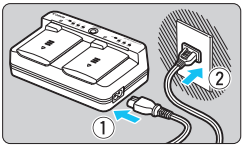
MEMO

1

撮影前の準備と操作の基本

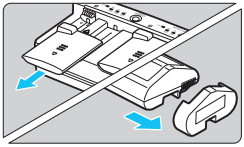
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

電池を充電する



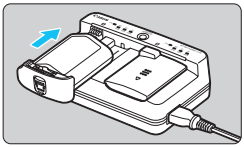
1 充電器をコンセントにつなぐ

- 電源コードを充電器に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 電池を取り付けていない状態では、すべてのランプが消灯しています。



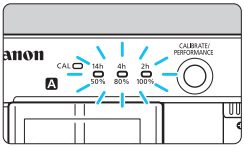
2 保護カバーを外す

- 図のように、充電器の保護カバー（付属）と、電池の保護カバー（付属）を取り外します。



3 充電する

- 保護カバーを外したときと逆の要領で図のように電池をスライドさせ、充電器にしっかりと取り付けます。
- **A**、**B**どちら側に取り付けても充電できます。
- ➡ 充電が始まり、充電ランプが緑色に点滅または点灯します。
- ➡ **3つの充電ランプ**（50%／80%／100%）**が緑色に点灯すると充電完了です。**



- **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で1本あたりLP-E19：約2時間50分、LP-E4N/LP-E4：約2時間20分です。**
（充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。）
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では充電時間が長くなります（最長約5時間／LP-E19充電時のみ）。

- 充電器に電池を2本取り付けたときは、取り付けた順に充電が行われます。
- 付属のバッテリーチャージャー LC-E19で、バッテリーパック LP-E4N/LP-E4 を充電することもできます。

- 付属のバッテリーパック LP-E19を充電するときは、付属のバッテリーチャージャー LC-E19を使用してください。バッテリーチャージャー LC-E4N/LC-E4では充電できません。
- 付属のバッテリーチャージャー LC-E19は、付属のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4以外は充電できません。
- 電池の状態によっては100%まで充電できないことがあります。

電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
  充電してからお使いください。

- **充電は使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**
  電池と充電器を使わないときは、それぞれに付属の保護カバーを取り付けておきます。

- **電池は0℃～＋45℃の範囲で使用する**
  電池の性能を十分に発揮させるためには、＋10℃～＋30℃の範囲で使用することをおすすめします。低温下では電池の性能が一時的に低下し、使用できる時間が短くなることがあります。

- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
  電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態となり、電池寿命短縮の原因になります。電池に保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

● **電池の劣化度が確認できる**

充電中に充電器の〈**PERFORMANCE**〉ボタンを押すと、3つのランプの緑色の点灯で電池の劣化度を確認することができます。

●●●：劣化していません
●●○：少し劣化しています
●○○：電池の買い換えをおすすめします

● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは電池の寿命**

電池の劣化度を確認した上で（p.44、484）、新しい電池をお買い求めください。

?〈CAL〉ランプが点滅した

- 電池に充電できる容量を把握して、カメラの電池残量表示が正しく行われるようにするため、キャリブレーション（放電）を推奨する表示です。
- 〈**CAL**〉ランプが緑色に点滅したときは、キャリブレーションを行うことをおすすめします。なお、充電したいときは、そのまま約10秒間待つと自動的に充電が始まります。
- キャリブレーションを行うときは、〈**CAL**〉ランプが緑色に点滅している間に〈**CALIBRATE**〉ボタンを押します。〈**CAL**〉ランプが緑色に点灯して放電が始まります。
- 放電完了後、自動的に充電が行われますが、電池残量が多いほど放電に時間がかかります。〈**14h**〉〈**4h**〉〈**2h**〉は、放電に要する時間の目安で、〈**14h**〉のランプが緑色に点滅しているときは、放電完了までに約4時間から最大16時間程度かかります。
- キャリブレーションを行うと（放電が行われ）、一旦電池残量が空の状態になるため、その後の充電に約2時間50分かかります（LP-E19充電時）。キャリブレーションを途中で中止して電池を充電したいときは、充電器から電池を取り外し、再度取り付けます。

- キャリブレーションを行わずに電池の充電／使用を何度も繰り返すと、電池残量（p.54）が正しく表示されないことがあります。
- 充電とキャリブレーション（放電）を2本同時に行うことはできますが、2本同時に充電したり、2本同時にキャリブレーションすることはできません。
- キャリブレーションを行うときは、電池の残量が少ない状態で行うことをおすすめします。フル充電されたLP-E19のときは、キャリブレーション開始から充電完了まで約18時間50分かかります。なお、同様の条件でLP-E4Nは約15時間20分、LP-E4は約14時間20分かかります。

? 電池を取り付けた直後に〈100%〉のランプだけが点灯した

- 充電を開始してすぐに〈**100%**〉のランプだけが緑色に点灯したときは、電池内部の温度が適正範囲外の状態です。電池内部の温度が＋5～＋40℃の範囲内になると、自動的に充電が始まります。
- 充電器に電池を2本取り付けたときに、後から取り付けた電池側の〈**100%**〉のランプだけが緑色に点灯したときは、充電待機状態を表しています。

? 3つのランプが全部点滅した

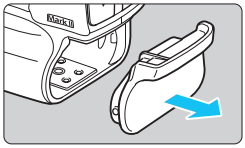
- 付属のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4以外の電池を充電器に取り付けたときは充電できません。3つのランプと〈**CAL**〉ランプが緑色で点滅します。
- 充電時に3つのランプが緑色で順番に点滅したときや、3つのランプが緑色で順番に点滅しながら、〈**CAL**〉ランプも緑色で点滅したときは、電池を充電器から取り外し、お買い上げになった販売店、または別紙の修理お問合せ専用窓口にご連絡ください。
- キャリブレーション時に、3つのランプが点滅したときは、電池を充電器から取り外し、お買い上げになった販売店、または別紙の修理お問合せ専用窓口にご連絡ください。

電池を入れる／取り出す

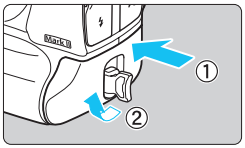
充電したバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4をカメラに入れます。

このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を取り出すと暗くなります。また、電池が入っていないときは、ファインダー像がぼやけた状態になるため、ピント合わせはできません。

入れ方



1 電池室キャップを取り外す



2 電池を入れる

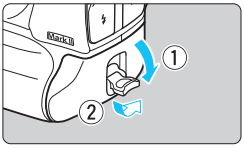
- 電池を奥までしっかりと入れ、着脱つまみを矢印の方向に回します。

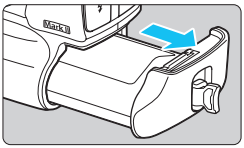
- このカメラで初めて使用する電池を入れたときは、電源が入るまでに時間がかかることがあります。
- 付属のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4以外は使用できません。

電池の防滴パッキンにゴミなどが付着しているときは、湿らせた綿棒などで取り除いてください。



取り出し方





着脱つまみを回して電池を取り出す

- 電源スイッチが〈**OFF**〉になっていることを確認します（p.53）。
- 着脱つまみを起こし、矢印の方向に回して取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.42）を取り付けてください。
- カメラを使用しないときは、電池室キャップ（p.29）をカメラに取り付けてください。

使用できる電池について

付属のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4を使用することができます。また、家庭用電源アクセサリー（別売／p.485）を使用することもできます。

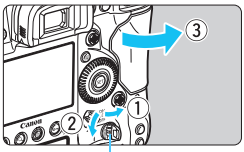
ただし、使用する電池の種類（電源）、撮影条件（ファインダー撮影／ライブビュー撮影）、ISO感度、電池の残量や温度などにより、高速連続撮影時の最高連続撮影速度が異なります。詳しくは148ページを参照してください。

カードを入れる／取り出す

このカメラは、CFカードとCFastカードが使用できます。**どちらかのスロットにカードが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。**

両方のカードを入れたときは、どちらのカードを使用するか選択したり、両方のカードに同時に画像を記録することができます（p.152）。

入れ方

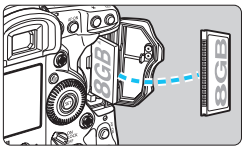


カバー開放つまみ

1 カバーを開ける

- カードスロットカバー開放つまみを起こし、矢印の方向に回して開きます。

CFカード（カード1）

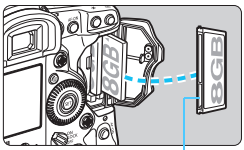


2 カードを入れる

- CFカードは左側、CFastカードは右側のスロットに入れます。
- CFカードが［1］（カード1）、CFastカードが［2］（カード2）です。
- **CFカードは、カードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。入れる向きを間違えるとカメラが壊れることがあります。**

➡ CFカード取り出しボタン（灰色）がせり出します。

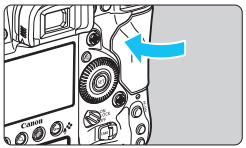
CFastカード（カード2）



小さい溝

- **CFastカードは、小さい方の溝を下にして、溝がある方を奥にして差し込みます。入れる向きを間違えるとカメラが壊れることがあります。**

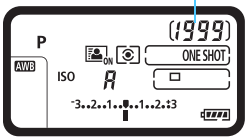
➡ CFastカード取り出しボタン（オレンジ色）がせり出します。



3 カバーを閉める

- 「カチッ」と音がするまでカバーを押します。

撮影可能枚数

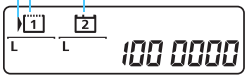


4 電源スイッチを〈ON〉にする（p.53）

➡ 上面表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

➡ 背面表示パネルには、装填したカードが表示されます。
〈▶〉マークが付いているカードに画像が記録されます。

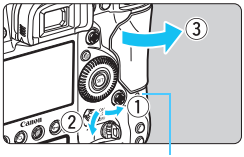
カード選択マーク
CFカード装填表示
CFastカード装填表示



Type II のCFカードとハードディスクタイプのカードは使用できません。

- CFカードは、Ultra DMA（UDMA）対応のカードも使用できます。UDMA対応のカードを使用すると、より高速なデータ書き込み処理が行われます。
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- 撮影可能枚数が2000枚以上の場合でも、上面表示パネルには「1999」と表示されます。
- [**📷3：カードなしレリーズ**]を[**しない**]に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.493）。

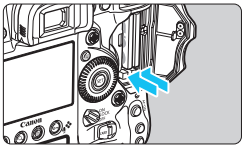
取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- 液晶モニターに［**書き込み中...**］と表示されたときは、カバーを閉じてください。



2 カードを取り出す

- カード取り出しボタンを押し込むと、カードが出てきます。
- カードをまっすぐに取り出して、カバーを閉じます。

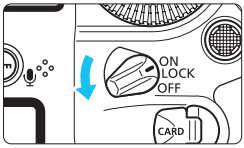
注意

ライブビュー撮影／動画撮影時に画面に赤い[!]が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源スイッチを〈**OFF**〉にして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。**
  - **・カードを取り出す**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **・電源コードの抜き差しを行う**
    （家庭用電源アクセサリー（別売）使用時／p.485）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.206）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.74)。正常な状態に戻ることがあります。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、55ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**



〈**ON**〉　：カメラが作動します。
〈**LOCK**〉：カメラが作動します。マルチ電子ロック機能が働きます（p.66）。
〈**OFF**〉　：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について



- 電源スイッチを〈**ON**/**LOCK**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈 〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押しすると（p.62）、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈**ON**/**LOCK**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

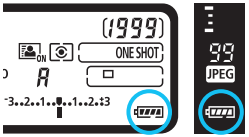
MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押しすると（p.62）、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、[**2：オートパワーオフ**]で変更することができます（p.76）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、[**書き込み中...**]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池残量表示について

電池の残量は、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅〈 〉したときは、もうすぐ電池切れになります。



表示			
残量（%）	100~70	69~50	49~20

表示			
残量（%）	19~10	9~1	0

撮影可能枚数の目安

（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	1210	1020

- フル充電のバッテリーパック LP-E19使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

- 下記の操作を行うと電池が早く消耗します。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、273ページを参照してください。
- [**3：バッテリー情報**] で電池の状態を確認することができます（p.484）。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

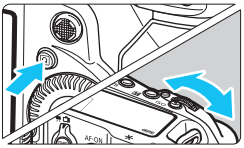
初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されます。以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。住んでいるエリアを設定しておくと、他の地域に旅行したときにエリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。

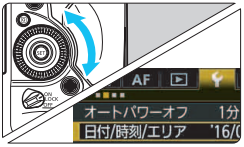
撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。



1 メニューを表示する

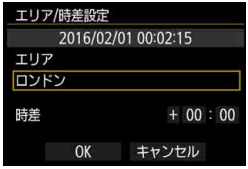
- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



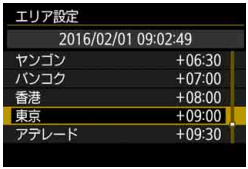


2 ［4 2］タブの［日付/時刻/エリア］を選ぶ

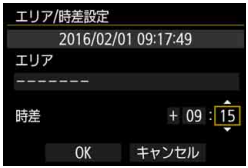
- 〈Q〉ボタンを押して［4］タブを選びます。
- 〈



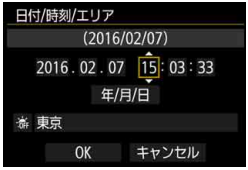
- 〈◯〉を回して［**エリア**］の下の枠を選び、〈(SET)〉を押します。



- 〈◯〉を回して設定するエリアを選び、〈(SET)〉を押します。
- 設定したいエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押したあと、次の操作（協定世界時との時差）で設定します。

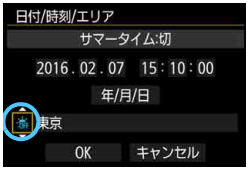


- 「協定世界時との時差」で設定するときは、〈◯〉を回して［**時差**］の項目（＋－/時/分）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⌂〉の状態にします。
- 〈◯〉を回して設定し、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- エリア/時差の設定が終わったら、〈◯〉を回して［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。



4 日付/時刻を設定する

- 〈◯〉を回して項目を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⌂〉の状態にします。
- 〈◯〉を回して設定し、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◯〉を回して［☀］を選びます。
- 〈SET〉を押して〈◇〉の状態にします。
- 〈◯〉を回して［☀］を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が1時間進みます。［☀］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



6 設定を終了する

- 〈◯〉を回して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

- カメラから電池を取り出して保管したときや、カメラの電池残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- ［**エリア/時差設定**］を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。
- 有線LAN機能、ワイヤレスファイルトランスミッターを使用して［**カメラ間時刻同期**］を行うときは、EOS-1D X Mark IIどうしで行うことをおすすめします。他の機種と［**カメラ間時刻同期**］を行うと、エリアや時刻が正しく設定されないことがあります。

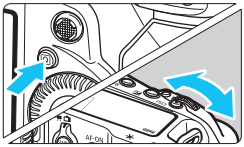
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で［OK］を選んだときに始まります。
- 手順3の［**エリア設定**］に表示される時間は、協定世界時との時差です。
- ［**🔧2：オートパワーオフ**］を［**1分**］［**2分**］［**4分**］に設定していても、［**🔧2：日付/時刻/エリア**］の設定画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が約6分になります。
- GPS機能による自動時刻設定を行うことができます（p.222）。

MENU 表示言語を選ぶ



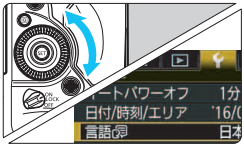
1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 [4]2] タブの [言語] を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押して [4] タブを選びます。
- 〈〉を回して [4]2] タブを選びます。
- 〈◯〉を回して [言語] を選び、〈SET〉を押します。





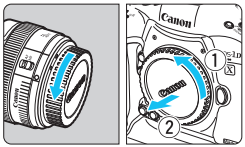
3 言語を設定する

- 〈◯〉を回して言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

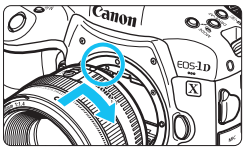
すべてのEFレンズを使用することができます。**なお、EF-S、EF-Mレンズは使用できません。**

取り付け方



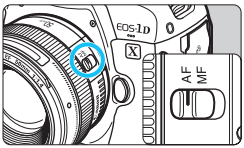
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

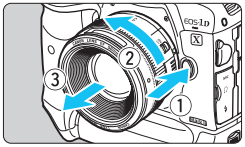


3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

4 レンズキャップを外す

取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

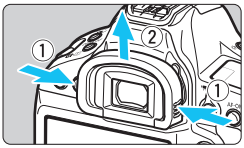
- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

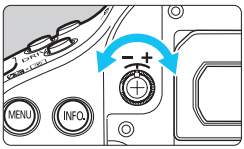
ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する





1 アイカップを取り外す

- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。

2 調整する

- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- アイカップを取り付けます。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズEg（別売）の使用をおすすめします。

カメラの構え方



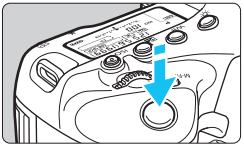
手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、271ページを参照してください。

シャッターボタン

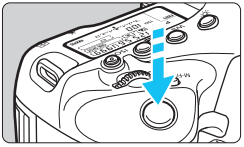
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内と上面表示パネルに約6秒間表示されます（測光タイマー／⏱6）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

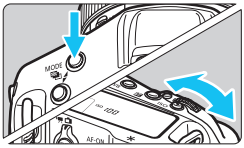
● **手ブレしにくい撮影のしかた**

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

● 〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
● メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

メイン電子ダイヤル

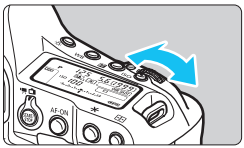


(1) ボタンを押したあと〈メイン電子ダイヤル〉を回す

〈MODE〉〈DRIVE•AF〉〈⚡•⊙〉〈ISO〉ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈メイン電子ダイヤル〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 撮影モード、AF動作、測光モード、AFフレーム、ISO感度、〈⚡〉ボタンによる露出補正、カードの選択などに使用します。



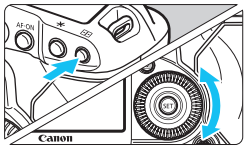
(2) 〈メイン電子ダイヤル〉のみを回す

ファインダー内表示や上面表示パネルを見ながら〈メイン電子ダイヤル〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、電源スイッチが〈LOCK〉（マルチ電子ロック／p.66）でも行うことができます。

サブ電子ダイヤル

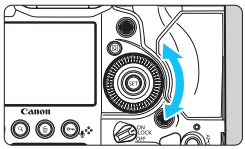


(1) ボタンを押したあと〈◯〉を回す

〈MODE〉〈DRIVE•AF〉〈⚡•⊙〉〈ISO〉ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈◯〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- 撮影モード、ドライブモード、ストロボ調光補正、AFフレーム、ISO感度、〈⚡〉ボタンによる露出補正、ホワイトバランス、画像サイズの選択などに使用します。



(2) 〈◯〉のみを回す

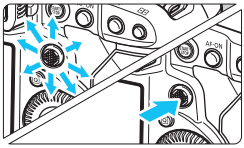
ファインダー内表示や上面表示パネルを見ながら〈◯〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、電源スイッチが〈LOCK〉（マルチ電子ロック／p.66）でも行うことができます。

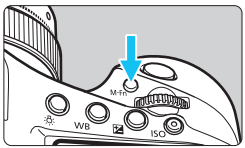
マルチコントローラー

〈✣〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。〈✣〉に親指の腹を軽くあてて操作します。



- AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影／動画撮影時におけるAFフレーム／拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定などに使用します。
- メニューの選択・設定を行うこともできます。

M-Fn マルチファンクションボタン



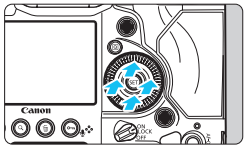
〈M-Fn〉ボタンは測距エリア選択モードの選択（p.93）、FEロック（p.260）、マルチスポット測光（p.240）などに使用します。

測距エリアを選ぶときは、〈⊡〉ボタンを押したあと（⏱6）、〈M-Fn〉ボタンを押します。

十字タッチパッド

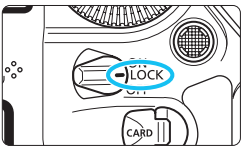
動画撮影中に静かな操作で、シャッター速度、絞り数値、露出補正、ISO感度の設定、録音レベル、ヘッドフォン音量の調整を行いたいときに使用します（p.325）。

［5：**動画サイレント設定**］を［**有効**］にすると機能します。



〈Q〉ボタンを押したあと、〈◌〉の内側の上/下/左/右部分に触れる

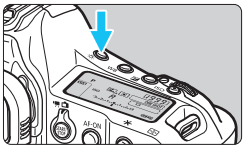
LOCK：マルチ電子ロック



［6：**マルチ電子ロック**］を設定し（p.439）、電源スイッチを〈**LOCK**〉位置にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いて、設定が変わることを防止することができます。

- 電源スイッチが〈**LOCK**〉位置の状態で、禁止した操作部材を操作すると、ファインダー内と上面表示パネルに〈**L**〉、クイック設定画面（p.67）に［**LOCK**］が表示されます。
- 初期状態で電源スイッチを〈**LOCK**〉の位置にしたときは、〈◌〉がロックされます。

表示パネル照明

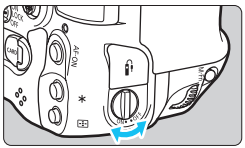


〈表示パネル照明〉ボタンを押すと、上面表示パネルと背面表示パネルを照明することができます。〈表示パネル照明〉ボタンを押すたびに点灯（6）／消灯します。

なお、バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

縦位置撮影時の操作

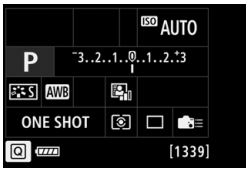
カメラの下部には、縦位置撮影用のボタン、ダイヤル、マルチコントローラーが配置されています（p.26、27）。



- 縦位置撮影用の操作部材を使用するときは、縦位置操作スイッチを〈**ON**〉にします。
- 使用しないときは、誤って作動しないように〈**OFF**〉にします。

縦位置マルチファンクションボタン2、縦位置絞り込みボタン（p.26）は、縦位置操作スイッチが〈**OFF**〉の位置でも作動します。

クイック設定画面を表示する



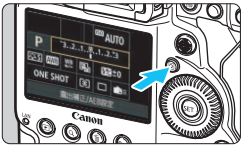
〈INFO.〉ボタンを何回か押すと（p.480）、クイック設定画面（p.482）、またはクイック設定カスタマイズ画面（p.463）が表示され、撮影機能の設定状態を確認することができます。

〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（p.68）。さらに〈INFO.〉ボタンを押すと、表示を消すことができます。

Q 撮影機能のクイック設定

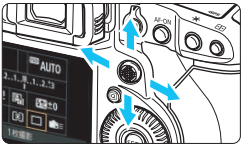
液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。

なお、クイック設定の基本操作は、「クイック設定画面」（p.482）、「クイック設定カスタマイズ画面」（p.463）で共通です。



1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。



2 機能を設定する

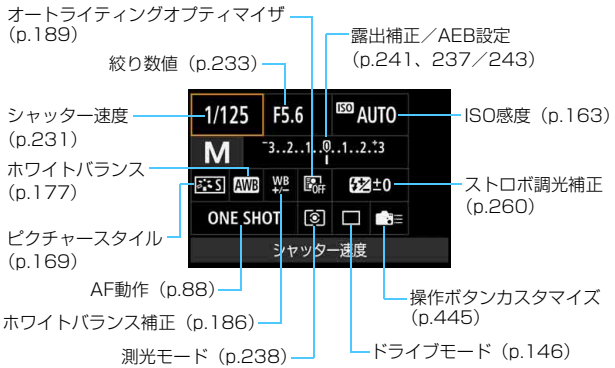
- 〈✣〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容が画面に表示されます。
- 〈◯〉または〈⌓〉を回して設定を変更します。



3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影した画像が表示されます。

クイック設定できる機能



クイック設定画面については、482ページを参照してください。

クイック設定カスタマイズについて

画面に表示したい撮影機能の項目を任意に選んでレイアウトすることができます。この機能を「クイック設定カスタマイズ（画面）」といいます。クイック設定カスタマイズについては、461ページを参照してください。

クイック設定カスタマイズ画面で〈Q〉ボタンを押したときに、クイック設定できる項目がないときは、画面左下に表示されるクイック設定マークがオレンジ色で表示されます。

クイック設定について



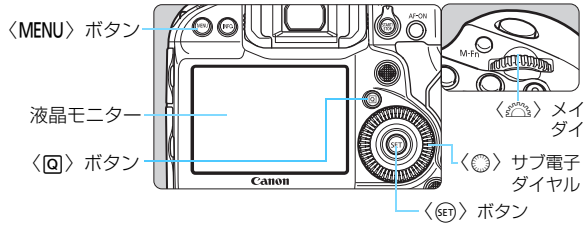
〈SET〉



- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◯〉または〈◯〉を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈📷〉(p.445)を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。





メニュー機能の設定操作



1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈◌〉を回してサブタブを選びます。
- 例えば、本文中の［📷4］タブは、📷（撮影）タブの左から4番目の「■」を選んでいる画面のことです。



3 項目を選ぶ

- 〈◌〉を回して項目を選び、〈(SET)〉を押します。



4 内容を選ぶ

- 〈◌〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



5 内容を設定する

- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

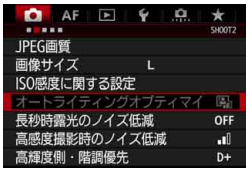
6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 〈☆〉でメニュー機能の操作と設定を行うこともできます（［▶1：画像消去］［4：カード初期化］を除く）。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、492ページを参照してください。

メニュー項目の灰色表示について

例：高輝度側・階調優先設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈SET〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

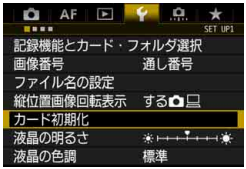
［4：カメラ設定初期化］でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（p.77）。

使い始める前の準備

MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



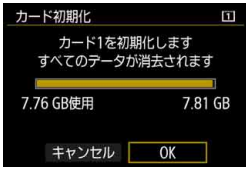
1 ［カード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 カードを選ぶ

- ［1］はCFカード、［2］はCFastカードです。
- カードを選び〈(SET)〉を押します。



3 初期化する

- ［OK］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ カードが初期化されます。

こんなときにカードを初期化します

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（p.525）

● カード初期化時のファイルフォーマットについて

容量が128GBまでのCFカードはFAT32形式、128GBを超えるCFカードはexFAT形式でフォーマットされます。CFastカードは容量に関わらず、exFAT形式でフォーマットされます。

なお、exFAT形式でフォーマットされた128GBを超えるCFカードや、CFastカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

- このカメラで初期化した128GBを超えるCFカード、またはCFastカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され、使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーにより、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときに、電子音が鳴らないようにすることができます。



1 ［電子音］を選ぶ

● ［📷3］タブの［**電子音**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［切］を選ぶ

➡ 電子音が鳴らないようになります。

［📷3：**電子音**］の設定に関わらず、ライブビュー撮影時、動画撮影時にタッチ操作を行ったときに電子音（タッチ音）は鳴りません。ただし、AFでピントが合ったときは、［📷3：**電子音**］の設定に応じて電子音（合焦音）が鳴ります。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置すると、節電のため設定されている時間で電源が自動的に切れます。初期状態では1分に設定されていますが、この時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、［**しない**］に設定します。なお、電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。



1 ［オートパワーオフ］を選ぶ

● ［🔧2］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 時間を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

［**しない**］に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。



1 **［撮影画像の確認時間］を選ぶ**

- ［📷3］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈(SET)〉を押します。

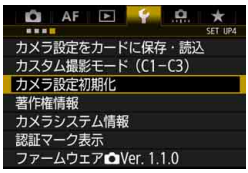
2 **時間を設定する**

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで画像が表示されます。

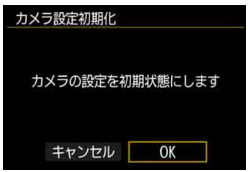
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。



1 **［カメラ設定初期化］を選ぶ**

- ［🔧4］タブの［**カメラ設定初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 **［OK］を選ぶ**

➡ カメラ設定初期化を行うと、カメラの設定が78～80ページのようになります。

カスタム機能の一括解除については、422ページを参照してください。

撮影機能

撮影モード	**P**（プログラムAE）
AF動作	ワンショットAF
測距エリア選択モード	1点AF（任意選択）
AFフレーム選択	中央
登録AFフレーム	解除
測光モード	⦿（評価測光）
ISO感度に関する設定	
ISO感度設定	自動設定（オート）
静止画撮影の範囲	下限値：100 上限値：51200
オートの範囲	下限値：100 上限値：25600
オートの低速限界	自動設定
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	解除
多重露出	しない
フリッカーレス撮影	しない
ミラーアップ撮影	しない
ファインダー内表示	
水準器	表示しない
グリッド	表示しない
ファインダー内表示設定	フリッカー検知のみ選択
カスタム機能	そのまま
外部ストロボ制御	
ストロボの発光	する
E-TTL II 調光方式	評価調光
Avモード時のストロボ同調速度	自動

AF

Case1～6	Case1／各ケースの設定内容解除
AIサーボAF 1コマ目レリーズ	バランス重視
AIサーボAF連続撮影中レリーズ	バランス重視
レンズの電子式手動フォーカス	ワンショットAF作動後・可能
AF補助光の投光	する
ワンショットAF時のレリーズ	ピント優先
自動選択：EOS iTR AF	する（顔優先）
AF測距不能時のレンズ動作	サーチ駆動する
任意選択可能なAFフレーム	全点
測距エリア選択モードの限定	全項目選択
測距エリア選択モードの切換	M-Fnボタン
縦位置/横位置のAFフレーム設定	同じ
(◌)時のAIサーボAF開始測距点	自動
AFフレーム選択時の循環	しない（端で突き当たり）
測距時のAFフレーム表示	選択AFフレーム
AFフレーム点灯輝度	通常
ファインダー内のAF作動表示	視野内に表示
AFマイクロアジャストメント	しない／調整値保持

画像記録

画像サイズ	L（ラージ）
JPEG画質	8
ピクチャースタイル	スタンダード
オートライティング オプティマイザ	標準
レンズ光学補正	
周辺光量補正	する
色収差補正	する
歪曲収差補正	しない
回折補正	する
ホワイトバランス	AWB（雰囲気優先）
MWBデータ	登録保持
カスタムWB	登録保持
WB補正	解除
WB-BKT	解除
色空間	sRGB
長秒時露光のノイズ低減	しない
高感度撮影時のノイズ低減	標準
高輝度側・階調優先	しない
記録機能とカード・フォルダ選択	
記録機能	標準
記録・再生	そのまま
画像番号	通し番号
ファイル名の設定	カメラ固有設定
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告表示	しない
AFフレーム表示	しない
再生時のグリッド	表示しない
ヒストグラム	輝度
動画再生カウント	そのまま
拡大倍率設定（約）	2倍（中央から）
HDMI機器制御	切
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
液晶の色調	2：標準
日付/時刻/エリア	そのまま
ビデオ方式	そのまま
INFOボタンで 表示する内容	全項目選択
クイック設定 カスタマイズ	そのまま
言語	そのまま
自動クリーニング	する
通信機能の設定	そのまま
GPS	使わない
カスタム撮影モード	そのまま
著作権情報	そのまま
カメラシステム情報	内容保持
設定：MY MENU	そのまま
メニュー表示	通常表示

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影	する
AF方式	+追尾優先AF
グリッド	表示しない
露出Simulation	する
LVソフト撮影	モード1
測光タイマー	8秒
LV時のタッチ操作	標準

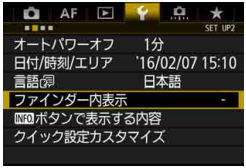
動画撮影

ISO感度に関する設定	
ISO感度設定	自動設定（オート）
動画撮影の範囲	下限値：100 上限値：25600
4Kの範囲	下限値：100 上限値：12800
動画サーボAF	する
AF方式	+追尾優先AF
グリッド	表示しない
動画記録画質	
MOV/MP4	MOV
動画記録サイズ	NTSC：FHD 29.97P IPB PAL：FHD 25.00P IPB
24.00P	切
ハイフレームレート	切
録音	オート
ウィンドカット	切
アッテネーター	切

動画サーボAF時のAF速度	
作動条件	常時
AF速度	0（標準）
動画サーボAFの被写体追従特性	0
測光タイマー	8秒
LV時のタッチ操作	標準
タイムコード	
カウントアップ	そのまま
スタート時間設定	そのまま
動画記録カウント	そのまま
動画再生カウント	そのまま
HDMI	そのまま
ドロップフレーム	そのまま
動画サイレント設定	無効
ボタンの機能	AF/ー
HDMI接続時の表示	
HDMI出力フレームレート	自動

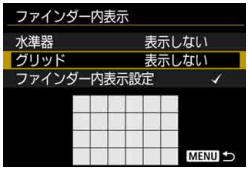
ファインダー内にグリッドを表示する

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。



1 **［ファインダー内表示］を選ぶ**

- ［2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。

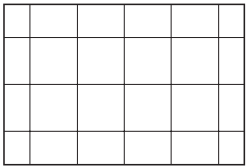


2 **［グリッド］を選ぶ**



3 **［表示する］を選ぶ**

➡ メニューを終了すると、ファインダー内にグリッドが表示されます。

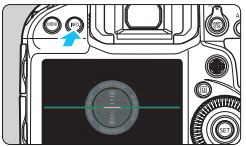


ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、液晶モニターにグリッドを表示することができます（p.280、333）。

水準器を表示する

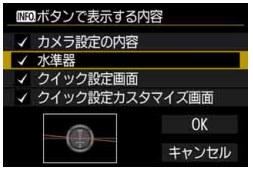
カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内に表示することができます。

液晶モニターに水準器を表示する

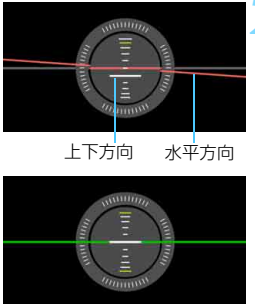


1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。



- 水準器が表示されないときは、[**2**: **INFO. ボタンで表示する内容**]で、水準器が表示されるように設定します(p.480)。



2 カメラの傾きを確認する

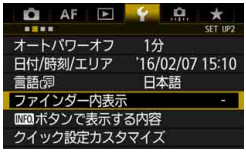
- 水平方向と上下方向の傾きが1°きざみで表示されます。
- 赤い線が緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

- 傾きが補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは誤差が大きくなります。

ライブビュー撮影時、動画撮影開始前に、同じ操作で水準器を表示することができます(+追尾優先AF時を除く)。

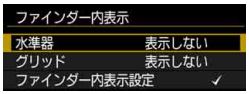
MENU ファインダー内に水準器を表示する

ファインダー内の上部に水準器を表示することができます。この機能は撮影時に表示されるため、傾きを確認しながら撮影することができます。



1 [ファインダー内表示] を選ぶ

- [2] タブの [**ファインダー内表示**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [水準器] を選ぶ

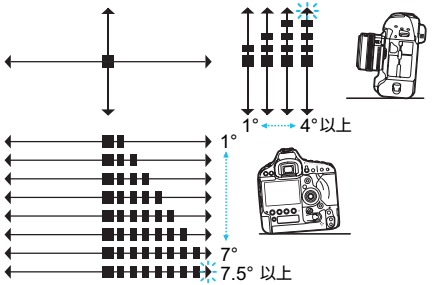


3 [表示する] を選ぶ

4 シャッターボタンを半押しする

➡ ファインダー内の上部に水準器が表示されます。

- 縦位置撮影時も機能します。

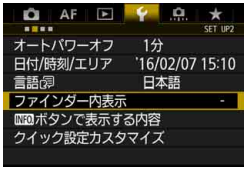


傾きが補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。

MENU ファインダー内に表示する情報を設定する

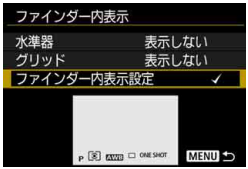
撮影に関する機能（撮影モード、測光モード、ホワイトバランス、ドライブモード、AF動作、フリッカー検知）の設定情報をファインダー内に表示することができます。

なお、初期状態ではフリッカー検知のみ［✓］が設定されています。



1 **［ファインダー内表示］を選ぶ**

- ［2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈SET〉を押します。



2 **［ファインダー内表示設定］を選ぶ**



3 **表示する項目に［✓］を付ける**

- 表示する項目を選び〈SET〉を押すと、［✓］が表示されます。
- この手順を繰り返して、表示する項目に［✓］を付け、［**OK**］を選びます。

➡ メニューを終了すると、ファインダー内に設定情報が表示されます（p.31）。

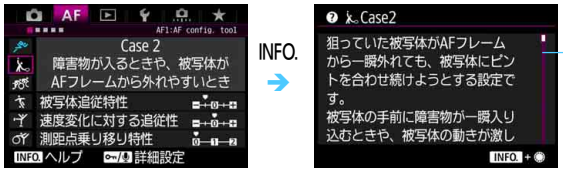


〈MODE〉〈DRIVE•AF〉〈•〉〈WB〉ボタンを押したときや、レンズのフォーカスモードスイッチを操作したとき、電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時にレンズのフォーカスリングを回してAF/MFが切り換わったときは（p.124）、［✓］の設定に関わらず、ファインダー内に設定情報が表示されます。

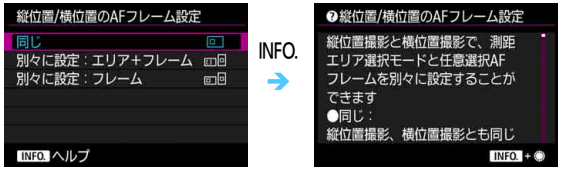
❓ ヘルプ機能について

メニュー画面の下に［INFO.ヘルプ］が表示されているときは、機能の説明（ヘルプ）を表示することができます。〈INFO.〉ボタンを押している間だけヘルプが表示されます。説明が1ページを超えるときは、画面の右側にスクロールバーが表示されます。そのときは、〈INFO.〉ボタンを押しながら〈◯〉を回します。

● ［AF1：Case2］の例



● ［AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定］の例



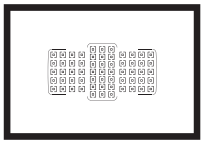
● ［6：マルチ電子ロック］の例



MEMO

2

AF／ドライブの設定



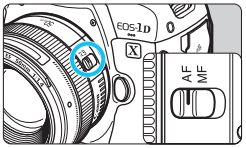
ファインダー内に配置されたAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

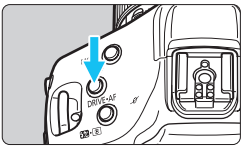
〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

AF: AF動作の選択

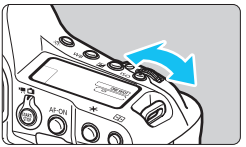
撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

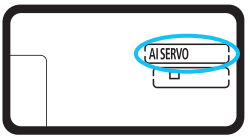


2 〈DRIVE•AF〉ボタンを押す（⏱6）



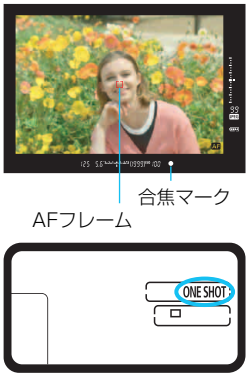
3 AF動作を選ぶ

- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈 〉を回します。
  ONE SHOT：ワンショットAF
  AI SERVO：AIサーボAF



- 測距エリア選択モード（p.96）が、自動選択AF、ラージゾーンAF、ゾーンAFのときに、人の顔や被写体の色の情報を利用したAFを行うことができます（p.127）。
- 〈**AF-ON**〉ボタンでAFを行うこともできます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF



止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが赤く光り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光（p.238）のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないときは、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.144）を参照してください。
- ［**3：電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。エリアAFフレームに入らない、画面の端に被写体があるときなどに有効です。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、ピントを合わせたあと、シャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを回すと、手動でピント合わせができます。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF



撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード（p.96）が、自動選択AFのときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AF作動表示について



シャッターボタンを半押しして、AFでピント合わせを行っているとき（AF作動中）は、ファインダー視野内の右下に〈AF〉が表示されます。

なお、ワンショットAF時は、ピントが合ったあと、シャッターボタンを半押ししている間も表示されます。

AF作動表示の表示位置を、ファインダーの視野外に変更することができます（p.137）。

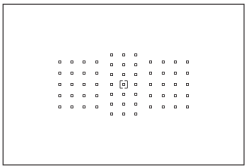
測距エリアとAFフレームを選択する

このカメラは自動ピント合わせを行うためのAFフレーム（測距点）を61点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、測距エリア選択モードとAFフレームを選ぶことができます。

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは102ページ『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

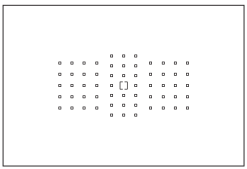
測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを7種類の中から選ぶことができます。選択方法は93ページを参照してください。



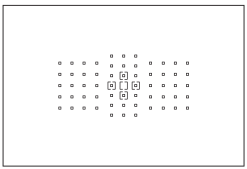
スポット1点AF（任意選択）

狭い部分にピントを合わせることができます。



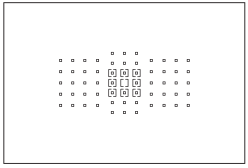
1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。



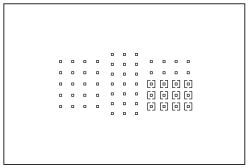
領域拡大AF（任意選択）

任意に選択した1点〈[]〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。



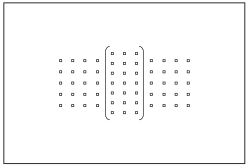
領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択した1点〈[]〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。



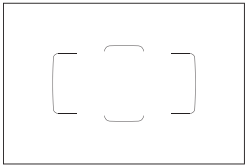
ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

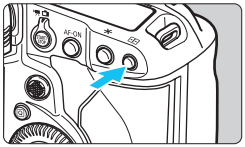
AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



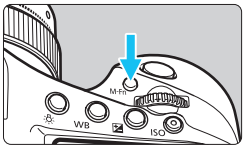
〔◌〕自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。

測距エリア選択モードを選ぶ



1 **〈⊡〉ボタンを押す**（⏱6）



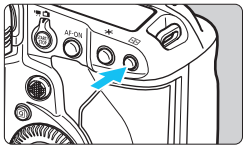
2 **〈M-Fn〉ボタンを押す**

- ファインダーをのぞきながら〈M-Fn〉ボタンを押します。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

- ［**AF4：測距エリア選択モードの限定**］で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます（p.131）。
- ［**AF4：測距エリア選択モードの切換**］を［⊡ **→メイン電子ダイヤル**］に設定すると、〈⊡〉ボタンを押したあと〈☜〉で測距エリア選択モードを選ぶことができます（p.132）。

AFフレームを任意選択する

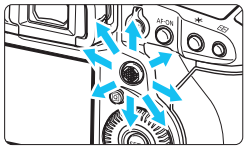
AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。



1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

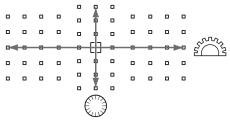
➡ ファインダー内にAFフレームが表示されます。

- 領域拡大AFのときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。



2 AFフレームを選択する

- 〈✥〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈✥〉をまっすぐに押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。



- 〈⌒〉で横方向、〈◎〉で縦方向の AFフレームを選択することもできます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、〈⌒〉または〈◎〉を回すと、ゾーンが切り換わります（ゾーンAF時は循環）。

- ［**AF4：◌時のAIサーボAF開始測距点**］を［**◌時に選択した開始測距点**］に設定したときは（p.134）、この方法でAIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。
- 〈⊡〉ボタンを押したときに、上面表示パネルに表示される内容は、次のとおりです。
  ·ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF：**[⋯] AF**
  ·スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL AF**（中央以外）

AFフレームの点灯／点滅について

〈⊡〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。詳しくは100～108ページを参照してください。

AFフレームの登録について

使用頻度が高いAFフレームをカメラに登録することができます。

［⚙6：**操作ボタンカスタマイズ**］（p.445）の［**測光・AF開始**］［**登録AFフレームに切り換え**］［**AFフレームダイレクト選択**］［**撮影機能の登録と呼出**］の詳細設定画面で設定したボタンを操作すると、そのとき使用しているAFフレームから登録したAFフレームに瞬時に切り換えることができます。

なお、AFフレームの登録方法については450ページを参照してください。

測距エリア選択モードの内容

⊡ スポット1点AF（任意選択）



1点AFよりも狭い範囲にピントを合わせることができます。ピント合わせに使うAFフレーム1点〈⊡〉を選択します。

ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物などを撮影するときなどに効果的です。

なお、スポット1点AFは測距範囲が狭いため、手持ち撮影のときや動きのある被写体に対しては、ピントが合いにくいことがあります。

□ 1点AF（任意選択）



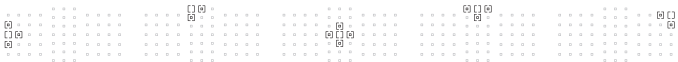
ピント合わせに使うAFフレーム1点〈[ ]〉を選択します。

⁘ 領域拡大AF（任意選択⁘）

任意に選択したAFフレーム〈[ ]〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAFのときは、初めに任意選択したAFフレーム〈[ ]〉で被写体を捉える必要がありますが、ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。

ワンショットAFのときは、領域拡大したAFフレームでピントが合うと、任意選択したAFフレーム〈[ ]〉に加えて、そのAFフレームも〈[ ]〉で表示されます。



領域拡大AF（任意選択周囲）

任意に選択したAFフレーム〈[]〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。領域拡大AF（任意選択▫）より、さらに広い範囲でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

AIサーボAF、ワンショットAF時の動作は、領域拡大AF（任意選択▫）と同じです（p.96）。

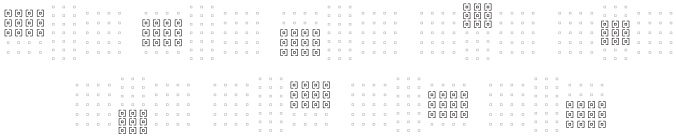


ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈[]〉で表示されます。

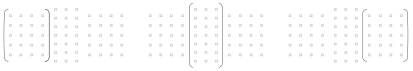


〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。ゾーンAFよりも範囲が広く、選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈[]〉で表示されます。

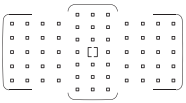


〔◌〕自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。ピントが合ったAFフレームは、〈[]〉で表示されます。



ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈[]〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。



AIサーボAFのときは、［**AF4：〔◌〕時のAIサーボAF開始測距点**］（p.134）で、AIサーボAFを開始する位置を設定することができます。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

- 自動選択AF、またはラージゾーンAF、ゾーンAFで、AIサーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〈[]〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- スポット1点AF設定時は、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央AFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。
- 低温下では、エリアAFフレーム、ラージゾーンAFフレームが見えにくくなることがあります。
- 偏光サングラスなどをかけてファインダーをのぞくと、AFフレームが見えにくいことがあります。

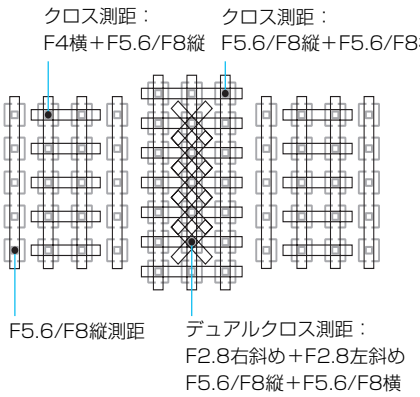
- ［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（p.132）。
- ［**AF4：任意選択可能なAFフレーム**］で、任意選択できるAFフレームの数を変更することができます（p.130）。

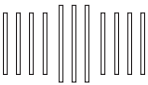
AFセンサーについて

このカメラのAFセンサーは、測距点を61点備えています。各測距点に対する測距センサーのパターンは、図に示すとおりです。開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズを使用すると、ファインダー中央部で高精度なAF測距を行うことができます。

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは102ページの『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

概念図



	開放絞り数値がF2.8までのレンズに対応した、より高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。斜め配列でクロスしているため、ピントが合いにくい被写体が少なくなっています。ファインダー中央部の縦5点をカバーしています。
	開放絞り数値がF4までのレンズに対応した、高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。
	開放絞り数値がF5.6まで（エクステンダー使用時はF5.6超～F8まで）のレンズに対応した測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。ファインダー中央部の縦3列の測距点をカバーしています。
	開放絞り数値がF5.6まで（エクステンダー使用時はF5.6超～F8まで）のレンズに対応した測距センサーです。縦配列になっているため、横線を検出することができます。61点すべての測距点をカバーしています。

使用レンズとAF測距について

- このカメラは61点のAFフレーム（測距点）を備えていますが、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Kの11グループに分類されます。**
- **G～Kグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。**
- **レンズのグループ属性を109～112ページに記載しています。使用するレンズのグループ属性を確認してください。**

- 〈⊡〉ボタンを押したときに、「□」で示した位置のAFフレームが点滅します（「■/■/□」は点灯）。AFフレームの点灯／点滅については、95ページを参照してください。
- EOS-1D X Mark II（2016年上期）以降に発売された、新しいレンズのグループ属性については、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によって販売されているレンズは異なります。

Aグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Bグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Cグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Dグループ

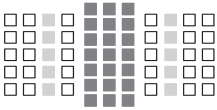
61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。
■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Eグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

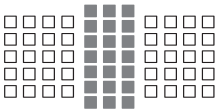


■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Fグループ

61点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

Gグループ

図に示す47点でAF測距を行うことができます（61点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、61点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

Hグループ

図に示す33点でAF測距を行うことができます（61点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、61点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

Iグループ

図に示す13点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、13点自動選択AFから選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線（中央横方向の測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

- 領域拡大AF（任意選択）設定時も13点の中で領域拡大が行われます。任意選択した測距点の上下左右に測距点がないときは、隣接する有効な測距点のみ領域拡大されます。
- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

Jグループ

図に示す9点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、9点自動選択AFから選ぶことができます。

なお、レンズにエクステンダーを装着したときに（エクステンダー装着可能レンズのみ）、開放絞り数値がF8（F5.6超～F8まで）のときは、AFを行うことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線（中央横方向の測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

- 領域拡大AF（任意選択）設定時も9点の中で領域拡大が行われます。任意選択した測距点の上下左右に測距点がないときは、隣接する有効な測距点のみ領域拡大されます。
- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

Kグループ

中央測距点、およびその上下左右の測距点でAF測距を行うことができます。測距エリア選択モードは、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択▫▫）のみ選ぶことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

□：横線（中央の左右測距点）、または縦線（中央の上下測距点）を検出できる測距点です。任意選択はできません。領域拡大AF（任意選択▫▫）選択時のみ機能します。

□：使用できません（非表示）。

レンズのグループ属性 （2016年6月現在）

EF14mm F2.8L USM	B
EF14mm F2.8L II USM	B
EF15mm F2.8 Fisheye	B
EF20mm F2.8 USM	B
EF24mm F1.4L USM	A
EF24mm F1.4L II USM	A
EF24mm F2.8	B
EF24mm F2.8 IS USM	B
EF28mm F1.8 USM	A
EF28mm F2.8	D
EF28mm F2.8 IS USM	B
EF35mm F1.4L USM	A
EF35mm F1.4L II USM	A
EF35mm F2	A
EF35mm F2 IS USM	A
EF40mm F2.8 STM	D
EF50mm F1.0L USM	A
EF50mm F1.2L USM	A
EF50mm F1.4 USM	A
EF50mm F1.8	A
EF50mm F1.8 II	A
EF50mm F1.8 STM	A
EF50mm F2.5 Compact Macro	C
EF50mm F2.5 Compact Macro + LIFE SIZE Converter	F
EF85mm F1.2L USM	A
EF85mm F1.2L II USM	A
EF85mm F1.8 USM	A
EF100mm F2 USM	A
EF100mm F2.8 Macro	C
EF100mm F2.8 Macro USM	F
EF100mm F2.8L Macro IS USM	C
EF135mm F2L USM	A
EF135mm F2L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF135mm F2L USM + Extender EF2x I/II/III	C
EF135mm F2.8 (Softfocus)	A
EF180mm F3.5L Macro USM	H
EF180mm F3.5L Macro USM + Extender EF1.4x I/II/III	H
EF200mm F1.8L USM	A
EF200mm F1.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A※
EF200mm F1.8L USM + Extender EF2x I/II/III	C※
EF200mm F2L IS USM	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF2x I/II/III	C
EF200mm F2.8L USM	A
EF200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF200mm F2.8L II USM	A
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF300mm F2.8L USM	A
EF300mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	C※
EF300mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	F※
EF300mm F2.8L IS USM	A
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF300mm F2.8L IS II USM	A
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF300mm F4L USM	C
EF300mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF300mm F4L USM + Extender EF2x I/II	J (F8)

EF300mm F4L USM + Extender EF2x III	I (F8)
EF300mm F4L IS USM	C
EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x III	I (F8)
EF400mm F2.8L USM	A
EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	C※
EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	F※
EF400mm F2.8L II USM	A
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	C※
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	F※
EF400mm F2.8L IS USM	A
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF400mm F2.8L IS II USM	A
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF400mm F4 DO IS USM	C
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x III	F (F8)
EF400mm F4 DO IS II USM	C
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x III	F (F8)
EF400mm F5.6L USM	F
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II	J (F8)
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x III	F (F8)
EF500mm F4L IS USM	C
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x III	F (F8)
EF500mm F4L IS II USM	C
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x III	F (F8)
EF500mm F4.5L USM	F
EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x I/II	J (F8)
EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x III	F (F8)※
EF600mm F4L USM	C
EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	F※
EF600mm F4L USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF600mm F4L USM + Extender EF2x III	F (F8)※
EF600mm F4L IS USM	C
EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x III	F (F8)
EF600mm F4L IS II USM	C
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x III	F (F8)
EF800mm F5.6L IS USM	G
EF800mm F5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	J (F8)
EF1200mm F5.6L USM	H

EF1200mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	J (F8)※
EF8-15mm F4L Fisheye USM	C
EF11-24mm F4L USM	E
EF16-35mm F2.8L USM	A
EF16-35mm F2.8L II USM	A
EF16-35mm F4L IS USM	C
EF17-35mm F2.8L USM	A
EF17-40mm F4L USM	C
EF20-35mm F2.8L	A
EF20-35mm F3.5-4.5 USM	F
EF22-55mm F4-5.6 USM	G
EF24-70mm F2.8L USM	B
EF24-70mm F2.8L II USM	A
EF24-70mm F4L IS USM	C
EF24-85mm F3.5-4.5 USM	F
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM	F
EF24-105mm F4L IS USM	C
EF28-70mm F2.8L USM	A
EF28-70mm F3.5-4.5	G
EF28-70mm F3.5-4.5 II	G
EF28-80mm F2.8-4L USM	C
EF28-80mm F3.5-5.6	G
EF28-80mm F3.5-5.6 USM	G
EF28-80mm F3.5-5.6 II	G
EF28-80mm F3.5-5.6 II USM	G
EF28-80mm F3.5-5.6 III USM	G
EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM	G
EF28-80mm F3.5-5.6 V USM	G
EF28-90mm F4-5.6	F
EF28-90mm F4-5.6 USM	F
EF28-90mm F4-5.6 II	F
EF28-90mm F4-5.6 II USM	F
EF28-90mm F4-5.6 III	F
EF28-105mm F3.5-4.5 USM	F
EF28-105mm F3.5-4.5 II USM	F
EF28-105mm F4-5.6	G
EF28-105mm F4-5.6 USM	G
EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM	F
EF28-200mm F3.5-5.6	F
EF28-200mm F3.5-5.6 USM	F
EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM	F
EF35-70mm F3.5-4.5	G
EF35-70mm F3.5-4.5A	G
EF35-80mm F4-5.6	G
EF35-80mm F4-5.6 PZ	G
EF35-80mm F4-5.6 USM	G
EF35-80mm F4-5.6 II	G
EF35-80mm F4-5.6 III	G
EF35-105mm F3.5-4.5	F
EF35-105mm F4.5-5.6	K
EF35-105mm F4.5-5.6 USM	K
EF35-135mm F3.5-4.5	F
EF35-135mm F4-5.6 USM	F
EF35-350mm F3.5-5.6L USM	G
EF38-76mm F4.5-5.6	F
EF50-200mm F3.5-4.5	F
EF50-200mm F3.5-4.5L	F
EF55-200mm F4.5-5.6 USM	F
EF55-200mm F4.5-5.6 II USM	F
EF70-200mm F2.8L USM	A
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	C※※
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	F※※
EF70-200mm F2.8L IS USM	A
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF70-200mm F2.8L IS II USM	A
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	C
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	F
EF70-200mm F4L USM	C
EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x III	I (F8)
EF70-200mm F4L IS USM	C
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	F

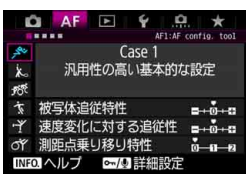
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x III	I (F8)
EF70-210mm F3.5-4.5 USM	F
EF70-210mm F4	C
EF70-300mm F4-5.6 IS USM	F
EF70-300mm F4-5.6L IS USM	F
EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM	F
EF75-300mm F4-5.6	F
EF75-300mm F4-5.6 USM	F
EF75-300mm F4-5.6 II	F
EF75-300mm F4-5.6 II USM	F
EF75-300mm F4-5.6 III	F
EF75-300mm F4-5.6 III USM	F
EF75-300mm F4-5.6 IS USM	F
EF80-200mm F2.8L	A
EF80-200mm F4.5-5.6	F
EF80-200mm F4.5-5.6 USM	G
EF80-200mm F4.5-5.6 II	G
EF90-300mm F4.5-5.6	F
EF90-300mm F4.5-5.6 USM	F
EF100-200mm F4.5A	F
EF100-300mm F4.5-5.6 USM	F
EF100-300mm F5.6	F
EF100-300mm F5.6L	F
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM	F
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II	J (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x III	F (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM	F
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x I/II	J (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x III	F (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x	E
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用	F
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用 + Extender EF1.4x I/II	J (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用 + Extender EF1.4x III	F (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x I/II	J (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x III	F (F8)
TS-E17mm F4L	C
TS-E24mm F3.5L	C
TS-E24mm F3.5L II	C
TS-E45mm F2.8	A
TS-E90mm F2.8	A

- EF180mm F3.5L Macro USMにExtender EF2x（I/II/III型）を装着したときは、AFを行うことはできません。
- 表内に「※」が付いたレンズとExtender EF1.4x III／EF2x IIIの組み合わせのときや、「※※」が付いたレンズとエクステンダーの組み合わせのときは、AFでピントが正確に合わないことがあります。そのときは、使用するレンズやエクステンダーの使用説明書を参照してください。

TS-Eレンズ使用時は手動ピント合わせになります。グループ分類はティルト/シフトなしの条件です。

MENU AIサーボAF特性を選ぶ

撮影する被写体や撮影シーンにあわせて「Case1」～「Case6」を選ぶだけで、被写体や撮影シーンに適したAIサーボAF撮影を簡単に行うことができます。この機能を「AFカスタム設定ガイド機能」といいます。



1 ［AF1］タブを選ぶ

2 ケースを選ぶ

- 〈◎〉を回してケース（マーク）を選び、〈(SET)〉を押します。

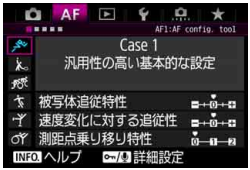
➡ 選択したケースに設定されます。選択したケースは青色で表示されます。

各ケースの内容について

「Case1」～「Case6」は、118～120ページで説明する「被写体追従特性」「速度変化に対する追従性」「測距点乗り移り特性」の組み合わせを6種類用意したものです。表の内容から、被写体や撮影シーンに適したケースを選びます。

ケース	マーク	内容	撮影シーン例	ページ
Case1		汎用性の高い基本的な設定	動きのある被写体全般	114
Case2		障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき	テニス、水泳のバタフライ、フリースタイルスキーなど	114
Case3		急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき	自転車ロードレースのスタート、アルペン滑降スキーなど	115
Case4		被写体が急加速/急減速するとき	サッカー、モータースポーツ、バスケットボールなど	115
Case5		被写体の上下左右の動きが大きいとき	フィギュアスケートなど	116
Case6		被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき	新体操など	117

Case1：汎用性の高い基本的な設定



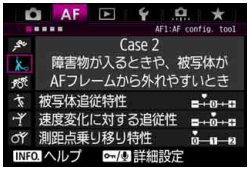
初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：0
- 測距点乗り移り特性：0

動きのある被写体全般に適応する、標準的な設定です。多くの被写体、撮影シーンに対応しています。

障害物がAFフレームを横切るときやAFフレームが被写体から外れやすいとき、急に現れた被写体にピントを合わせたいとき、被写体の速度が急激に変わるとき、被写体が上下左右に大きく移動するときは、［**Case2**］～［**Case6**］を選んでください。

Case2：障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき



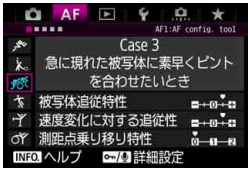
初期設定

- 被写体追従特性：粘る：－1
- 速度変化に対する追従性：0
- 測距点乗り移り特性：0

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとする設定です。障害物や（ピント抜けで）背景にピントを合わせたくないときに有効です。

障害物がAFフレームに入り込んでいる時間、またはAFフレームが被写体から外れている時間が長く、初期設定では狙った被写体からピントが外れてしまうときは、［**被写体追従特性**］を［**−2**］に設定すると、改善することがあります（p.118）。

Case3：急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき



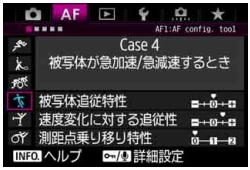
AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができる設定です。狙っていた被写体の手前に、新たな被写体が入り込んだときは、新たな被写体にピントを合わせます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。

初期設定

- 被写体追従特性：俊敏：+1
- 速度変化に対する追従性：+1
- 測距点乗り移り特性：0

急に現れた被写体により素早くピントを合わせたいときは、［**被写体追従特性**］を［+2］に設定すると、改善することがあります（p.118）。

Case4：被写体が急加速/急減速するとき



被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。

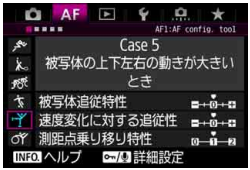
急な動き出しや、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。

初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：+1
- 測距点乗り移り特性：0

瞬時に速さが大きく変化するときは、［**速度変化に対する追従性**］を［+2］に設定すると、改善することがあります（p.119）。

Case5：被写体の上下左右の動きが大きいとき



初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：0
- 測距点乗り移り特性：+1

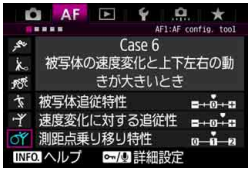
狙っている被写体の上下左右の動きが大きくても、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えて、ピントを追従させる設定です。上下左右の動きが大きい被写体を撮影するときに有効です。

この設定は、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFで使用することをおすすめします。

スポット1点AF、1点AF時は、Case1と同じ動作になります。

被写体の上下左右の動きが激しいときは、［**測距点乗り移り特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.120）。

Case6：被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき



初期設定

- 被写体追従特性：0
- 速度変化に対する追従性：+1
- 測距点乗り移り特性：+1

被写体の動く速さが瞬時に大きく変化しても、その速度変化に追従してピントを合わせようとする設定です。また、狙っている被写体の上下左右の動きが大きく、ピントが合わせにくいときは、被写体の移動に合わせて、AFフレームを自動的に切り換えながら、ピントを合わせ続けます。

この設定は、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFで使用することをおすすめします。

スポット1点AF、1点AF時は、Case4と同じ動作になります。

- 瞬時に速さが大きく変化するときは、［**速度変化に対する追従性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.119）。
- 被写体の上下左右の動きが激しいときは、［**測距点乗り移り特性**］を［**+2**］に設定すると、改善することがあります（p.120）。

各特性について

● 被写体追従特性



AIサーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

0

標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

粘る：−2／粘る：−1

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。

その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

俊敏：+2／俊敏：+1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

［**被写体追従特性**］は、EOS-1D Mark III/IV、EOS-1Ds Mark III、EOS 7Dの［**AIサーボ時の被写体追従敏感度**］と同じ機能です。

● 速度変化に対する追従性



被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

0

移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。

−2／−1

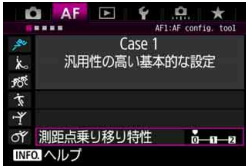
移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。

+2／+1

急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。

その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

● 測距点乗り移り特性



被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。

測距エリア選択モードが、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFのときに機能します。

0

測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。

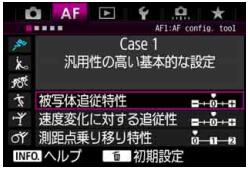
+2／+1

狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点が乗り移りやすくなります。

その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

各ケースの設定内容を変更する

「Case1」～「Case6」に設定されている、「①被写体追従特性」、「②速度変化に対する追従性」、「③測距点乗り移り特性」を、任意に調整することができます。

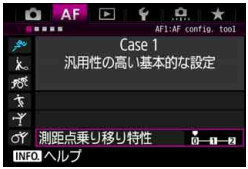


1 ケースを選ぶ

- 〈◯〉を回して調整したいケース（マーク）を選びます。

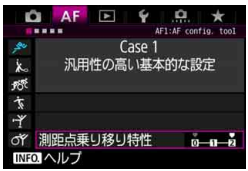
2 〈🔑/🎤〉ボタンを押す

- 項目に紫色の枠が付きます。



3 項目を選ぶ

- 調整したい項目を選び、〈SET〉を押します。
- ［**被写体追従特性**］［**速度変化に対する追従性**］を選んだときは、設定画面が表示されます。



4 調整する

- 内容を設定し〈SET〉を押します。
- ➡ 調整した内容が保存されます。
- 初期設定は［■］の薄い灰色で表示されます。
- 〈🔑/🎤〉ボタンを押すと、手順1の状態に戻ります。

- 手順2で〈🔑/🎤〉ボタンを押したあと、〈🗑〉ボタンを押すと、ケースごとに①②③の設定を初期状態に戻すことができます。
- マイメニューに①②③を登録することもできます（p.465）。そのときは、選択しているケースの設定変更になります。
- 調整したケースで撮影するときは、調整したケースを選択してから撮影します。

MENU AF機能のカスタマイズ



撮影スタイルや被写体に応じて、［**AF2**］～［**AF5**］タブで、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

AF2：AI Servo

AIサーボAF1コマ目レリーズ

AIサーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。



□/◉：バランス重視

ピントとレリーズタイミングのバランスをとった設定です。

□：レリーズ優先

シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

◉：ピント優先

シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

AIサーボAF連続撮影中レリーズ

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。



0：バランス重視

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや被写体のコントラストが低いときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

−2／−1：連続撮影速度優先

ピントよりも連続撮影速度を優先します。−1よりも−2のほうが連続撮影速度が低下しにくくなります。

+2／+1：ピント優先

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。+1よりも+2のほうが暗い場所でピントが合いやすくなりますが、連続撮影速度が遅くなることがあります。

［**連続撮影速度優先**］：［-1］［-2］に設定しても、フリッカー低減処理が行われる撮影条件のときは（p.198）、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。

［**0：バランス重視**］設定時に暗い場所でピントが合わないときは、［**ピント優先**］：［+1］［+2］に設定すると改善することがあります。

AF3：One Shot

レンズの電子式手動フォーカス

電子式の手動フォーカス機能を備えた以下のUSMレンズ、STMレンズを使用したときに、電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。

EF50mm F1.0 L USM	EF300mm F2.8L USM	EF600mm F4L USM
EF85mm F1.2L USM	EF400mm F2.8L USM	EF1200mm F5.6L USM
EF85mm F1.2L II USM	EF400mm F2.8L II USM	EF28-80mm F2.8-4L USM
EF200mm F1.8L USM	EF500mm F4.5L USM	

EF40mm F2.8 STM	EF50mm F1.8 STM	EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM

* 2016年6月現在



ON：ワンショットAF作動後・可能

AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

OFF：ワンショットAF作動後・不可

AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。

OFF：AF時すべて不可

レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント合わせを禁止します。

AF補助光の投光

EOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。



ON：する

必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。

OFF：しない

外部ストロボからAF補助光は投光されません。「AF補助光が他の人の迷惑になるとき」などに設定します。

IR：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、「赤外光方式」のAF補助光だけを投光します。「ストロボ間欠発光方式のAF補助光は投光したくない」というときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

外部ストロボのカスタム機能の［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、この設定内容に関わらず、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

ワンショットAF時のレリーズ

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。



◉：ピント優先

ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

□：レリーズ優先

ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

ピントが合っていなくても撮影されますので、注意してください。

AF4

自動選択：EOS iTR AF

EOS iTR* AFは、人の顔や被写体の色を認識してAFを行う機能です。測距エリア選択モードが、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFのときに機能します。

* intelligent Tracking and Recognition：測光センサーで被写体を認識して測距点を追従させる機能



：する（顔優先）

AF情報だけでなく、人の顔や被写体の色の情報を加味して、測距点の自動選択が行われます。

AIサーボAF時は、［**する**］に設定したときよりも、人の顔の情報を優先的に活用しながら被写体追尾が行われます。そのため、AF情報だけのときよりも被写体を捉え続けやすくなります。

ワンショットAF時は、人の顔にピントが合いやすくなるため、構図を優先した撮影を行うことができます。

ON：する

AF情報だけでなく、人の顔や被写体の色の情報を加味して、測距点の自動選択が行われます。AIサーボAF時は、人の顔の情報だけでなく、初めにピントを合わせた位置（測距点）の情報も重視して被写体追尾が行われます。なお、ワンショットAF時の動作は［**する（顔優先）**］と同じです。

OFF：しない

AF情報だけで測距点の自動選択が行われます（人の顔や被写体の色の情報を活用したAFは行われません）。

- ［**する（顔優先）**］［**する**］に設定したときは、［**しない**］に設定したときよりも、ピント合わせにやや時間がかかることがあります。
- ［**する（顔優先）**］［**する**］に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。
- EOS用外部ストロボからAF補助光が自動的に投光されるような暗い場所では、AF情報だけで測距点の自動選択が行われます。
- 人の顔が小さいときや暗い場所では、顔を検知できないことがあります。

AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。



ON：サーチ駆動する

AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

OFF：サーチ駆動しない

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、［**サーチ駆動しない**］に設定することをおすすめします。

任意選択可能なAFフレーム

任意選択できるAFフレームの数を変更することができます。なお、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF設定時は、[**任意選択可能なAFフレーム**]の設定に関わらず、選択した測距エリア選択モード（ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF）でAFが行われます。



：全点

すべてのAFフレームが任意選択できます。

：クロス測距点のみ

クロス測距点のみ任意選択できます。AFフレームの数は、使用するレンズにより異なります。

：15点

主要な15点の任意選択ができます。

：9点

主要な9点の任意選択ができます。

使用レンズがG～Kグループのときは（p.105～108）、任意選択できるAFフレームの数が少なくなります。

- [**全点**] 以外に設定しても、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF、ラージゾーンAFを行うことができます。
- 〈⊡〉ボタンを押したときに、任意選択できないAFフレームはファインダー内に表示されません。

測距エリア選択モードの限定

測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。項目を選び〈SET〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

なお、測距エリア選択モードについては、96～98ページを参照してください。



- ：スポット1点AF（任意選択）
- ：1点AF（任意選択）
- ：領域拡大AF（任意選択）
- ：領域拡大AF（任意選択周囲）
- ：ゾーンAF（ゾーン任意選択）
- ：ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）
- ：自動選択AF

- ［**1点AF（任意選択）**］の［✓］を外すことはできません。
- 使用レンズがI, J, Kグループの時は、［**測距エリア選択モードの限定**］で［✓］を付けても、使用できない測距エリア選択モードがあります（p.106～108）。

測距エリア選択モードの切換

測距エリア選択モードの切り換え方法を設定することができます。



M-Fn：⊞ → **M-Fnボタン**

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈M-Fn〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

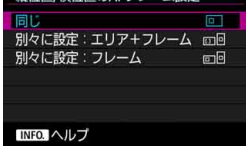
メイン電子ダイヤル：⊞ → **メイン電子ダイヤル**

〈⊞〉ボタンを押したあと、〈メイン電子ダイヤル〉を回すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

［⊞**→メイン電子ダイヤル**］設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈✲〉を操作してください。

縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを別々に設定することができます。



□：**同じ**

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AFフレーム（またはゾーン）になります。

: 別々に設定：エリア+フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を設定することができます。

①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）に切り換わります。

: 別々に設定：フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームを設定することができます。同じ測距エリア選択モードで、姿勢に応じて自動的にAFフレームを切り換えたいときに有効です。

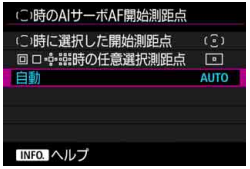
①②③のそれぞれの姿勢で、AFフレームを任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、任意選択したAFフレームに切り換わります。測距エリア選択モードをスポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）のいずれかに変更したときは、各姿勢で設定したAFフレームは保持されます。

測距エリア選択モードをゾーンAF、ラージゾーンAFに変更したときは、各姿勢で任意選択していたゾーンに切り換わります。

- カメラ設定初期化を行うと（p.77）、設定が［**同じ**］になります。また、①②③の姿勢で設定した内容が解除され、1点AFで中央のAFフレームが選択された状態になります。
- 設定後に異なるAFグループ（p.102～108／特にI, J, Kグループ）のレンズを装着したときは、設定した内容が解除されることがあります。

〔 〕時のAIサーボAF開始測距点

測距エリア選択モードを自動選択AFに設定したときに、AIサーボAFをどのAFフレーム（測距点）から開始するかを設定することができます。



〔 〕：〔 〕時に選択した開始測距点

AF動作がAIサーボAF、測距エリア選択モードが自動選択AFに設定されているときに、任意選択したAFフレームからAIサーボAFが始まります。

：時の任意選択測距点

スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）から、自動選択AFに切り換えたときに、それまで任意選択していたAFフレームからAIサーボAFが始まります。自動選択AFに切り換える前に選択していたAFフレームからAIサーボAFを開始したいときに有効です。

なお、［6：**操作ボタンカスタマイズ**］の［**測光・AF開始**］（p.450）、［**登録AF機能に切り換え**］（p.452）、［**撮影機能の登録と呼出**］（p.458）で、測距エリア選択モードを自動選択AFに設定したあと、スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）で撮影しているときに、機能を割り当てたボタンを押すと、直前に使用していたAFフレームから自動選択AFによるAIサーボAF撮影を行うことができます。

AUTO：自動

撮影状況に応じてAIサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

［**時の任意選択測距点**］設定時に、測距エリア選択モードをゾーンAF、ラージゾーンAFに切り換えたときも、それまで任意選択していたAFフレームに対応するゾーンからAIサーボAFが始まります。

AF5

AFフレーム選択時の循環

AFフレーム選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。



：しない（端で突き当たり）
一番端のAFフレームを頻繁に使用するときに有効です。

：する
一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

［**AF4**：〔〕**時のAIサーボAF開始測距点**］が［〔〕**時に選択した開始測距点**］に設定されているときは、AIサーボAFの開始測距点を選択するときにも機能します。

測距時のAFフレーム表示

AF開始時、AF中、合焦時、合焦後の測光タイマー作動中にAFフレームを表示するかどうかを設定することができます。



：選択AFフレーム
：全AFフレーム
：選択フレーム（合焦時/中）
：選択AFフレーム（合焦時表示）
OFF：表示しない

○：表示／×：非表示

測距時のAFフレーム表示	AFフレーム選択時	AF開始前（撮影準備状態）	AF開始時
選択AFフレーム	○	×	○
全AFフレーム	○	×	○
選択フレーム（合焦時/中）	○	×	○
選択AFフレーム（合焦時表示）	○	×	○
表示しない	○	×	×

測距時のAFフレーム表示	AF中	合焦時	合焦後の測光タイマー作動中
選択AFフレーム	○	○	○
全AFフレーム	○	○	○
選択フレーム（合焦時/中）	×	○	○
選択AFフレーム（合焦時表示）	×	○	×
表示しない	×	×	×

ラージゾーンAF、自動選択AF設定時は、ラージゾーンAFフレーム、エリアAFフレームが表示されるため、AFフレームの表示／非表示は、表の内容と異なります。

AFフレーム点灯輝度



☼：**通常**

☼：**明るい**

ファインダー内のAFフレームがより明るく表示されます。

ファインダー内のAF作動表示

AFが作動していることを示すマーク（AF作動表示）を、ファインダーの視野内に表示するか、視野外に表示するかを選ぶことができます。



：視野内に表示

ファインダー視野内の右下に〈AF〉が表示されます。

：視野外に表示

ファインダー視野外の合焦マーク〈●〉の下に〈◣◢〉が表示されます。

AF作動表示については、90ページを参照してください。

AFマイクロアジャストメント

AFでピントが合う位置を微調整することができます。詳しくは、次ページの『AFによる合焦位置を微調整する』を参照してください。

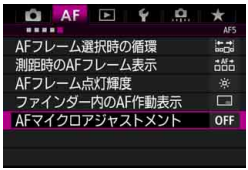
MENU AFによる合焦位置を微調整する

ファインダー撮影でAFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。この機能を「AFマイクロアジャストメント」といいます。調整を行う前に、143ページの『AFマイクロアジャストメント全般の注意事項』『AFマイクロアジャストメント共通事項』をあわせてお読みください。

通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

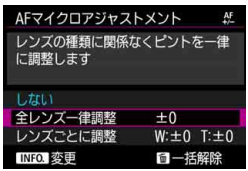
全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。



1 [AFマイクロアジャストメント] を選ぶ

● [**AF5**] タブの [**AFマイクロアジャストメント**] を選び、〈(SET)〉を押します。

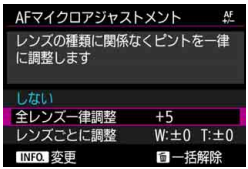


2 [全レンズ一律調整] を選ぶ

3 〈INFO.〉ボタンを押す

➡ [**全レンズ一律調整**] 画面が表示されます。





4 調整する

- 調整値を設定します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら〈SET〉を押します。
- [**全レンズー律調整**]を選び〈SET〉を押します。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.344）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

[**全レンズー律調整**]のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズ本数は最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。



1 ［レンズごとに調整］を選ぶ



2 〈INFO.〉ボタンを押す

➡ ［**レンズごとに調整**］画面が表示されます。



登録番号

3 レンズ情報を確認／変更する

レンズ情報表示

- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面にレンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、［**OK**］を選び手順4に進みます。
- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されますので、次ページの操作で番号を入力します。
- 番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。



シリアル番号の入力

- 入力する桁を選び〈SET〉を押して〈⌂〉の状態にします。
- 数値を入力し〈SET〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら［**OK**］を選びます。

レンズのシリアル番号について

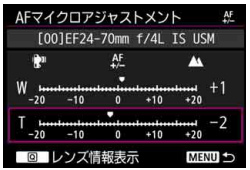
- **手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。**
- **レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。**
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を入力してください。
- レンズのシリアル番号が11桁以上のときは、「下10桁」の番号を入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、任意の番号を入力してください。

- ［**レンズごとに調整**］を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。

単焦点レンズ



ズームレンズ





4 調整する

- ズームレンズのときは、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈SET〉を押すと紫色の枠が消え、調整ができるようになります。
- 調整値を設定し〈SET〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、この手順を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。
- [**レンズごとに調整**] を選び〈SET〉を押します。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.344）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正が行われます。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に［**一括解除**］が表示されているときに、〈🗑〉ボタンを押すと、［**全レンズ一律調整**］［**レンズごとに調整**］で調整した内容をすべて解除することができます。

AFマイクロアジャストメント全般の注意事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- 調整した内容は、ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFには反映されません。
- カメラ設定初期化を行っても（p.77）、調整した内容は保持されますが、設定は［**しない**］になります。

AFマイクロアジャストメント共通事項

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは三脚の使用をおすすめします。
- 調整結果を確認するときは、画像サイズ：JPEG **L**（ラージ）、JPEG画質（圧縮）：8以上で撮影することをおすすめします。

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合
  （例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合
  （例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- AFフレームに対してパターンが細かい被写体
  （例：AFフレームと同じ、または小さいサイズの顔や花など）

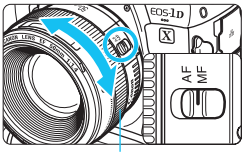
これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.89）。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う（p.145）。

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。
- ライブビュー撮影、動画撮影時にAFでピントが合いにくい撮影条件については、289ページを参照してください。

MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）



フォーカスリング

1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

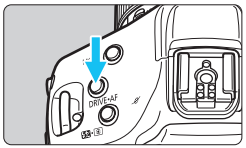
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

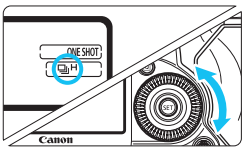
- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。



1 **〈DRIVE•AF〉ボタンを押す**（⏱6）



2 **ドライブモードを選ぶ**

- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◌〉を回します。

□：**1枚撮影**

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

□ᴴ（□ᴴ）：高速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約14.0コマ／秒**の連続撮影を行うことができます（LP-E19／DR-E19＋AC-E19（p.485）使用時）。

また、[📷4：**連続撮影速度**]の［**高速連続撮影**］を［**14 (16) コマ/秒**］に設定すると（p.433）、ライブビュー撮影時に最高約16.0コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

なお、最高連続撮影速度は撮影条件により異なります。詳しくは148、149ページを参照してください。

□ᴸ：低速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ／秒**の連続撮影を行うことができます。

S（□s）：**1枚：ソフト動作**

ファインダー撮影時に作動音を抑えた1枚撮影を行うことができます。シャッターボタンを半押しの位置に戻すまで、内部機構の動作は行われません。

S□H（□ŝ）：ソフト高速連続撮影

ファインダー撮影時に（〈□H〉設定時に比べて）作動音を抑えながら、**最高約5.0コマ／秒**で連続撮影を行うことができます。

S□L（□ŝ）：ソフト低速連続撮影

ファインダー撮影時に（〈□L〉設定時に比べて）作動音を抑えながら、**最高約3.0コマ／秒**で連続撮影を行うことができます。

(10)（(10)）：セルフタイマー：10秒
(2)：セルフタイマー：2秒

セルフタイマー撮影については、150ページを参照してください。

- ライブビュー撮影時、およびミラーアップ撮影［**する SET でミラーダウン**］設定時に、〈**S**〉〈**S□H**〉〈**S□L**〉に設定しても、ドライブモードによる作動音の低減効果はほとんどありません（ライブビュー撮影またはミラーアップ撮影による作動音の低減効果のみ）。
- カメラ内部の温度が高くなり、ドライブモードのマークが点滅しているときは、内部機構の損傷を防止するため、最高連続撮影速度が低下します。電源スイッチを〈**OFF**〉にして、しばらく撮影を休止することをおすすめします。

各ドライブモードに記載している連続撮影速度は、カメラが初期状態のときの数値です。［**4：連続撮影速度**］で各ドライブモードの連続撮影速度を設定することができます（p.433）。

〈H〉高速連続撮影時の連続撮影速度について

[4:連続撮影速度]の[高速連続撮影]を[14(16)コマ/秒]に設定し(p.433)、〈H〉高速連続撮影の設定で連続撮影を行ったときの最高速度は、以下のとおりです。

(最高・約・コマ/秒)

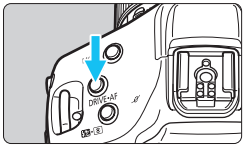
電源	ISO感度	ファインダー撮影時			ライブビュー撮影時
		フリッカー低減処理			
		なし	あり		
			100Hz光源	120Hz光源	
バッテリーパック LP-E19 (付属品)	ISO51200以下 (低温時ISO25600以下)	14.0	11.1	10.9	16.0
	H1 (ISO102400相当) 以上 (低温時ISO32000以上)	10.0			14.0
バッテリーパック LP-E4N/LP-E4	ISO51200以下 (低温時ISO25600以下)	12.0	11.1	10.9	16.0
	H1 (ISO102400相当) 以上 (低温時ISO32000以上)	10.0			14.0
家庭用電源アクセサリー (p.485) DR-E19+AC-E19	ISO51200以下 (低温時ISO25600以下)	14.0	11.1	10.9	16.0
	H1 (ISO102400相当) 以上 (低温時ISO32000以上)	10.0			14.0
ACアダプターキット ACK-E4	−	8.0	7.7	8.0	14.0

- 〈H〉高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリーパック使用時：フル充電、シャッター速度：1/1000 秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）*、ドライブモードマーク点滅なしの条件で連続撮影を行ったときの最高速度です。
  * EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USMは、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時

- 〈H〉高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、電池残量、温度、ISO感度、フリッカー低減処理、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- 前ページの表に示したとおり、H1（ISO102400相当）以上（カメラ内部が低温状態のときはISO32000以上）のときは、最高連続撮影速度が低下します。
- ISOオート設定時（p.165）や、セイフティシフト（p.426）によりISO感度が自動設定されたときも、前ページの表に示した条件で最高連続撮影速度が制御されます。
- [3：フリッカーレス撮影]を[する]に設定して（p.198）、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 電池残量が50%未満のときや、暗い場所で撮影を行ったときは、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- カメラ内部の温度が高くなり、ドライブモードのマークが点滅しているときは、内部機構の損傷を防止するため、最高連続撮影速度が低下します。撮影を継続しカメラ内部の温度がさらに上昇したときは、最高連続撮影速度が大幅に低下したり、内部の温度が下がるまで一時的に撮影できなくなることがあります。ドライブモードのマークが点滅したときは、電源スイッチを〈OFF〉にして、しばらく撮影を休止することをおすすめします。
- 低温下で電池自体の温度が極端に低くなったときは、最高連続撮影速度が約10.0コマ/秒に低下することがあります。
- 〈S〉〈SH〉〈SL〉設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりも長くなります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（p.161）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマー機能は、記念撮影を行うときなどに使用します。

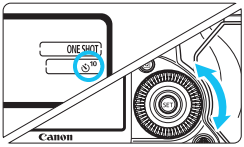


1 〈DRIVE•AF〉ボタンを押す（6）

2 セルフタイマーを選ぶ

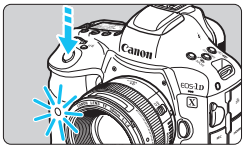
- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◎〉を回します。

  10：約10秒後に撮影
  2：約2秒後に撮影



3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプの点滅と、上面表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- ➡ 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなります。



ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、アイピースシャッターを閉じてから撮影してください（p.258）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

- 〈2〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）に使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（p.344）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.89）。
- ［3：電子音］が［入］に設定されていても、セルフタイマー撮影時に電子音は鳴りません。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、電源スイッチを〈OFF〉にします。

3

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、ノイズ低減機能、高輝度側・階調優先、レンズ光学補正、フリッカー低減撮影など、画像に関係する機能について説明しています。

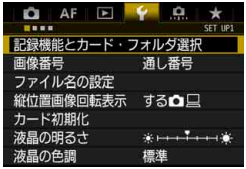
MENU 記録・再生するカードを選択する

カメラにCFカード、またはCFastカードのどちらかが入っていれば、撮影した画像を記録することができます。カードを１枚だけ入れたときは、152～154ページの操作を行う必要はありません。

両方のカードを入れたときは、次の手順で記録方法、記録・再生を行うカードを選択します。

なお、［1］はCFカード、［2］はCFastカードを表しています。

カードを2枚入れたときの記録方法の設定

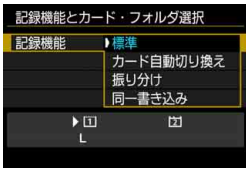


1 ［記録機能とカード・フォルダ選択］を選ぶ

● ［1］タブの［**記録機能とカード・フォルダ選択**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［記録機能］を選ぶ



3 記録方法を選ぶ

● 記録方法を選び〈(SET)〉を押します。

● **標準**
［**記録・再生**］で選択したカードに画像が記録されます。

● **カード自動切り換え**
［**標準**］と同じですが、記録先のカードの空き容量がなくなると、記録先が自動的にもう一方のカードに切り換わります。なお、自動切り換えの際は、新しいフォルダが作成されます。

● **振り分け**
カードごとに記録する画像サイズを設定することができます（p.155）。1回の撮影でCFカードとCFastカードに、設定した記録画質の画像が記録されます。**L**と RAW、**M2**と**S** RAW など、画像サイズを自由に設定して撮影することができます。

● **同一書き込み**
1回の撮影でCFカードとCFastカードに同じ画像が記録されます。RAW＋JPEGを選ぶこともできます。

● ［**振り分け**］設定時に、CFカードとCFastカードの画像サイズの設定が異なるときは、連続撮影可能枚数が少なくなります（p.158）。
● 動画をCFカードとCFastカードに同時記録することはできません。［**再生**］に設定されているカードに動画が記録されます。

振り分け／同一書き込みについて
● CFカードとCFastカードに同じ画像番号で記録されます。
● ファインダー内と上面表示パネルには、撮影可能枚数が少ない方のカードの枚数が表示されます。
● どちらかのカードの空き容量がなくなると、［**カード＊がいっぱいです**］が表示され、撮影できなくなります。そのときはカードを交換するか、［**記録機能**］を［**標準**］にして空き容量のあるカードを選ぶと、撮影することができます。
● ［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**フォルダ**］については201ページを参照してください。

カードを2枚入れたときの記録・再生カードの選択

［**記録機能**］を［**標準**］［**カード自動切り換え**］に設定したときは、画像を「記録・再生」するカードを選択します。

［**振り分け**］［**同一書き込み**］に設定したときは、画像を「再生」するカードを選択します。

● メニュー画面で設定

標準／カード自動切り換え



振り分け／同一書き込み



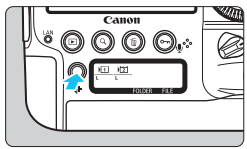
［記録・再生］を選ぶ

- ［**記録・再生**］を選び〈(SET)〉を押します。
  - 1：CFカードに記録、CFカードの画像を再生
  - 2：CFastカードに記録、CFastカードの画像を再生
- カードを選び〈(SET)〉を押します。

［再生］を選ぶ

- ［**再生**］を選び〈(SET)〉を押します。
  - 1：CFカードの画像を再生
  - 2：CFastカードの画像を再生
- カードを選び〈(SET)〉を押します。

● 背面表示パネルで設定



1 〈◀⋯〉ボタンを押す（☆6）

2 カードを選ぶ

- 〈◯〉を回してカードを選びます。
- 〈▶〉を付けたカードが、［**記録・再生**］または［**再生**］カードになります。

記録画質を設定する

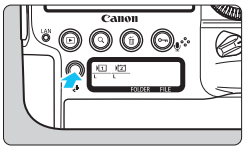
画像サイズ（JPEG/RAWの記録画素数）と、JPEG画質（圧縮）を設定することができます。

画像サイズの選択

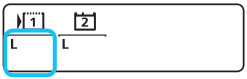
L/**M1**/**M2**/**S**はJPEG画像、RAW/**M** RAW/**S** RAWはRAW画像です。撮影後、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で現像処理を行うことができます。なお、RAWで撮影した画像は、カメラで現像処理を行うこともできます（p.394）。

なお、画像サイズは、次の2通りの方法で設定することができます。

● 背面表示パネルで設定



1 **〈 〉ボタンを押す**（⏱6）

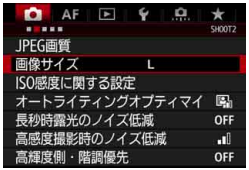


2 **画像サイズを選ぶ**

- 〈◯〉を回して画像サイズを選びます。
- RAW/**M** RAW/**S** RAW と、**L**/**M1**/**M2**/**S** が同時に表示されているときは、RAW画像と、JPEG画像がカードに同時記録されます。
- 〈 〉を回すと、記録・再生するカードを選ぶことができます（p.154）。

- ［**記録機能**］が［**振り分け**］に設定されているときは（p.153）、〈 〉を回してカードを選び、カードごとに画像サイズを設定します。
- 本書では、画像サイズとJPEG画質（p.162）を合わせて、「記録画質」と表記しています。

● メニュー画面で設定



1 [画像サイズ] を選ぶ

- [📷2] タブの [**画像サイズ**] を選び、〈(SET)〉を押します。

標準／カード自動切り換え／同一書き込み



2 画像サイズを設定する

- RAW画像は〈🎛〉、JPEG画像は〈◎〉を回してサイズを選びます。
- 画面の数字「****M**(百万画素) ******×******」は記録画素数、[********] は撮影可能枚数（9999まで表示）を示しています。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

振り分け



- [**1：記録画質とカード・フォルダ選択**] の [**記録機能**] が [**振り分け**] に設定されているときは、[1] CFカードまたは [2] CFastカードを選び、〈(SET)〉を押します。



- 表示された画面で画像サイズを選び、〈(SET)〉を押します。

画像サイズの設定例

Lのみ



RAWのみ



RAW＋**L**



S RAW＋M2



- RAW画像とJPEG画像のサイズを両方［－］に設定したときは、**L**に設定されます。
- ファインダー内と上面表示パネルに表示される撮影可能枚数は、1999 までです。

画像サイズを選ぶときの目安（約）

画像サイズ	記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数		
					CFカード		CFastカード
					標準	高速	
JPEG							
L	20M	A2	6.2	1160	140	Full	Full
M1	13M	A3	4.3	1650	190	Full	Full
M2	8.9M	A3	3.4	2120	250	Full	Full
S	5.0M	A4	2.2	3180	740	Full	Full
RAW							
RAW	20M	A2	23.2	300	59	73	170
M RAW	11M	A3	18.5	370	72	94	330
S RAW	5.0M	A4	12.7	530	100	170	Full
RAW＋JPEG							
RAW L	20M 20M	A2＋A2	23.2＋6.2	230	48	54	81
M RAW L	11M 20M	A3＋A2	18.5＋6.2	280	53	65	100
S RAW L	5.0M 20M	A4＋A2	12.7＋6.2	360	54	70	130

- 撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカード使用時の枚数です。
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、当社試験基準CFカード（標準：8GB／高速：UDMAモード7対応 64GB）、CFastカード（CFast2.0対応：128GB）を使用し、当社試験基準（ファインダー撮影、〈H〉高速連続撮影、JPEG画質：8、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード、IPTC情報の付加：しない）で測定したものです。
- **ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体やカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 「Full」と記載された条件のときは、カードの空き容量がなくなる（カードフル）まで撮影可能です。

- UDMA対応のCFカードや、CFastカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、前ページの表に示した枚数の連続撮影ができます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で記録されます。
- 設定した画像サイズに応じて、ファインダー内の右側に〈JPEG〉〈RAW〉が点灯します。
- 画像サイズの読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、**L**（ラージ）、**M1**（ミドル1）、**M2**（ミドル2）、**S**（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます。

RAWで撮影した画像は、［▶2：RAW現像］で現像処理を行い（p.394）、JPEG画像として保存することができます（M RAW、S RAWはカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、EOS DIGITAL Solution DiskからDPPをアップデート（上書きインストール）してください（p.553）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

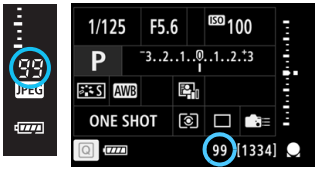
ワンタッチ記録画質切り換え

操作ボタンカスタマイズ機能で、〈M-Fn〉ボタン、マルチファンクションボタン2、絞り込みボタンに、画像サイズを一時的に切り換える機能を割り当てることができます。これらのボタンに［**ワンタッチ記録画質切換**］［**ワンタッチ記録画質切換（ホールド）**］を割り当てると、記録画質を素早く切り換えて撮影することができます。

詳しくは、『操作ボタンカスタマイズ』（p.445）を参照してください。

［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］が［**振り分け**］のときは、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



ファインダー内の右側、またはクイック設定画面、クイック設定カスタマイズ画面の下側の数値で、連続撮影できる枚数の目安が確認できます。

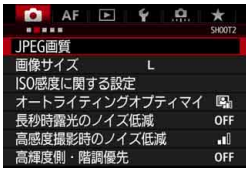
「99」と表示されているときは、連続して99枚以上撮影できることを示しています。

連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。

連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と上面表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、158ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

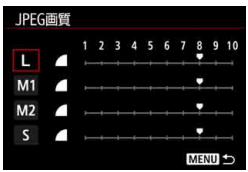
MENU JPEG画質の設定

JPEG画像を記録する際の画質（圧縮）を、画像サイズ**L**/**M1**/**M2**/**S**ごとに設定することができます。



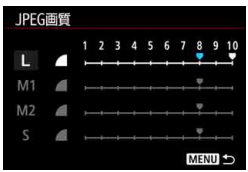
1 ［JPEG画質］を選ぶ

- ［📷2］タブの［**JPEG画質**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 画像サイズを選ぶ

- 画像サイズを選び〈(SET)〉を押します。



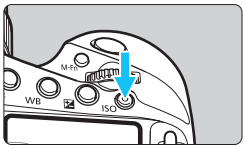
3 画質（圧縮）を設定する

- 数値を選び〈(SET)〉を押します。
- 大きな数値に設定するほど、高画質（低圧縮）で記録されます。
- 6～10は〈◢〉、1～5は〈▟〉で表示されます。

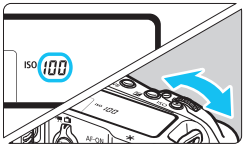
大きな数値に設定するほど高画質になりますが、撮影可能枚数は少なくなります。逆に小さな数値に設定するほど画質は低下しますが、撮影可能枚数は多くなります。

ISO: 静止画のISO感度を設定する

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。
なお、動画撮影時のISO感度については、299、302ページを参照してください。



1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）



2 ISO感度を設定する

- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈⊞〉または〈◎〉を回します。
- ISO100～51200の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」は「ISO オート」を表しています。ISO感度が自動設定されます（p.165）。

ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
L（50）、100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～51200、H1（102400）、H2（204800）、H3（409600）	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

［📷2：ISO感度に関する設定］の［ISO感度設定］の画面で設定することもできます。

- H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）、H3（ISO409600相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L（ISO50相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- [**2：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定すると（p.193）、L（ISO50相当）、ISO100/125/160、H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）、H3（ISO409600相当）は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラツキ感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- H1（ISO102400相当）以上（カメラ内部が低温状態のときはISO32000以上）に設定したときは、高速連続撮影時の連続撮影速度が、ファインダー撮影時：最高約10.0コマ/秒、ライブビュー撮影時：最高約14.0コマ/秒に低下します。詳しくは148ページを参照してください。

- [**2：ISO感度に関する設定**]の[**静止画撮影の範囲**]で、ISO感度の設定範囲をL（ISO50相当）からH1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）、H3（ISO409600相当）まで拡張することができます（p.166）。
- ISO感度の設定により、撮影終了時のシャッター音が異なることがあります。

ISOオートについて



ISO 感度の設定が「**A**」(AUTO) のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度が表示されます。

ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

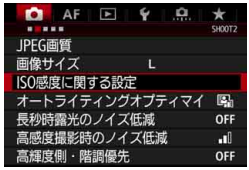
撮影モード	ISO感度設定	
	ストロボなし	ストロボあり
P/**Tv**/**Av**/**M**	ISO100～51200*1	ISO400*1*2*3
bulb	ISO400*1	

*1：[**オートの範囲**] の [**下限値**] [**上限値**] による
*2：日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる
(〈**M**〉〈**bulb**〉モードを除く)
*3：〈**P**〉モードで外部ストロボをバウンスしたときは、ISO400～1600の範囲で自動設定

H1 (ISO102400相当) 以上 (カメラ内部が低温状態のときはISO32000以上) に自動設定されたときは、高速連続撮影時の連続撮影速度が、ファインダー撮影時：最高約10.0コマ/秒、ライブビュー撮影時：最高約14.0コマ/秒に低下します。詳しくは148ページを参照してください。

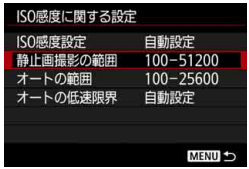
MENU ISO感度の手動設定範囲を設定する

手動で設定できるISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50相当）～H2（ISO204800相当）、上限値はISO100～H3（ISO409600相当）の範囲で設定することができます。



1 [ISO感度に関する設定] を選ぶ

- [📷2] タブの [**ISO感度に関する設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [静止画撮影の範囲] を選ぶ



3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。



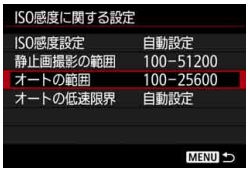
4 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

5 [OK] を選ぶ

MENU ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート設定時に自動設定される感度を、ISO100～51200の範囲で設定することができます。下限値はISO100～25600の範囲、上限値はISO200～51200の範囲で、1段ステップで設定することができます。



1 ［オートの範囲］を選ぶ



2 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。



3 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

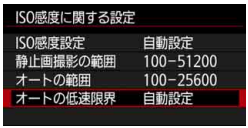
4 ［OK］を選ぶ

［**下限値**］［**上限値**］は、ISO感度でセイフティシフト（p.426）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

MENU ISOオート時のシャッター速度の低速限界を設定する

ISOオート設定時に、シャッター速度が自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。

この機能は〈**P**〉〈**Av**〉モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。



1 ［オートの低速限界］を選ぶ

自動設定



手動設定



2 低速限界を設定する

- ［**自動設定**］または［**手動設定**］を選びます。
- ［**自動設定**］を選んだときは、〈〉を回して標準設定からの度合い（遅め／速め）を設定し、〈(SET)〉を押します。
- ［**手動設定**］を選んだときは、〈〉を回してシャッター速度を選び、〈(SET)〉を押します。

- ［**オートの範囲**］で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、［**オートの低速限界**］で設定した速度よりも遅いシャッター速度が設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。

［**自動設定：0**］設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、［**遅め**］から［**速め**］の1ステップは、シャッター速度1段分です。

MENU ピクチャースタイルを選択する

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。



1 [ピクチャースタイル] を選ぶ

- [1] タブの [**ピクチャースタイル**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面が表示されます。



2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ スタイルが設定され、メニューに戻ります。

各スタイルの画像特性について

オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

173ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ディテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

ニュートラル

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

JPEG画質で撮影した画像を、カラー写真に戻すことはできません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。なお、[**モノクロ**] 設定時は、上面表示パネルに〈**B/W**〉が表示されます。

[**モノクロ**] 設定時に、ファインダー内に〈⚠〉を表示することができます（p.438）。

ユーザー設定1～3

[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.175）。登録されていないときは、[**スタンダード**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の記号は、[**シャープネス**]の[**強さ**][**細かさ**][**しきい値**]や、[**コントラスト**]などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。





記号の意味

◑	シャープネス	
	強さ	
	細かさ	
	しきい値	
◐	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果（モノクロ）	
	調色（モノクロ）	

動画撮影時、[**シャープネス**]の[**細かさ**][**しきい値**]は、「*, *」と表示されます。また、[**細かさ**][**しきい値**]は動画には反映されません。

MENU ピクチャースタイルを調整する

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（［**シャープネス**］の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］、［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。［**モノクロ**］の調整については、174ページを参照してください。



1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［1］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面が表示されます。



2 スタイルを選ぶ

- 調整するスタイルを選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］の［**強さ**］などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- 設定内容と効果については、次ページを参照してください。





4 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果について

	シャープネス		
	強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
	細かさ*1	1：細かい	5：粗い
	しきい値*2	1：小さい	5：大きい
	コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
	色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

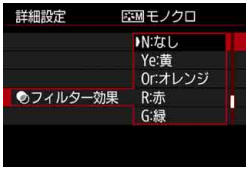
*1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。
*2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

- 動画撮影時は［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前ページで説明した［**シャープネス**］の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

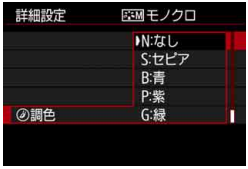


フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye: 黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or: オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

MENU ピクチャースタイルを登録する

［ポートレート］や［風景］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［ユーザー設定1］から［ユーザー設定3］に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

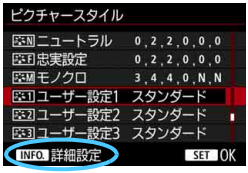
また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。



1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［1］タブの［ピクチャースタイル］を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ スタイル選択画面が表示されます。



2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- ［ユーザー設定＊］を選び〈INFO.〉ボタンを押します。



3 〈(SET)〉を押す

- ［ピクチャースタイル］が選ばれた状態で〈(SET)〉を押します。



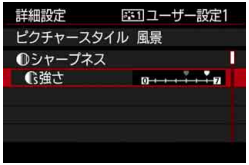
4 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選び〈(SET)〉を押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



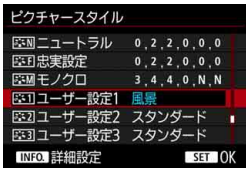
5 項目を選ぶ

- ［**シャープネス**］の［**強さ**］などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。



6 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.172）を参照してください。



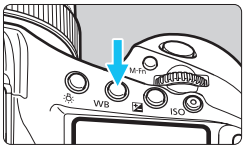
- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ ［**ユーザー設定**＊］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ➡ ［**ユーザー設定**＊］に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

- ［**ユーザー設定**＊］にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- ［**カメラ設定初期化**］（p.77）を行うと、［**ユーザー設定**＊］に設定したスタイルと内容が初期化されます。

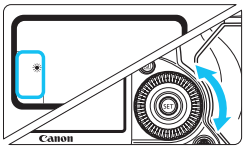
- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した［**ユーザー設定**＊］を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility 使用説明書（p.554）を参照してください。

WB: ホワイトバランスの設定

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、［AWBW］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。



1 **〈WB〉ボタンを押す**（☆6）



2 **ホワイトバランスを選ぶ**

- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈◎〉を回します。

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート（雰囲気優先／p.179）	3000～7000
AWBW	オート（ホワイト優先／p.179）	
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
▦	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	自動設定*
✎	マニュアル（p.180）	2000～10000
K	色温度（p.185）	2500～10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

- ［**1：ホワイトバランス**］の画面で設定することもできます。
- オート［AWB］（雰囲気優先）、［AWB W］（ホワイト優先）を切り換えるときは、［**1：ホワイトバランス**］の画面で設定します（p.179）。
- カスタムWBを設定するときは、前ページの手順2で［K：PC-＊］を選びます。カスタムWBのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書（p.554）を参照してください。

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

AWB オートホワイトバランスの設定

［AWB］（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。［AWB W］（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

なお、従来機種のEOSデジタルカメラのオートホワイトバランスに合わせたいときは、［AWB］（雰囲気優先）を選びます。



1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

- ［1］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［AWB］を選ぶ

- ［AWB］を選んだ状態で〈INFO.〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- ［**オート（雰囲気優先）**］または［**オート（ホワイト優先）**］を選び、〈SET〉を押します。

AWB ：オート（雰囲気優先）
AWB W：オート（ホワイト優先）

［AWB W］（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は［AWB］（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

MWBデータは、カメラに最大5件登録することができます。また、登録したMWBデータにキャプション（見出し）を付けることもできます。

MENU MWBデータを登録する

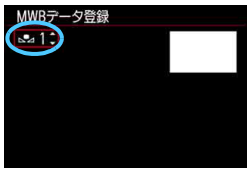
MWBデータの登録方法は、その場で撮影して登録する方法と、カードに記録されている画像から登録する方法があります。

● 画像を撮影して登録



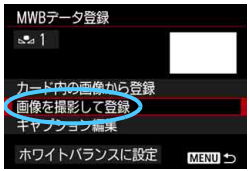
1 **［MWBデータ登録］を選ぶ**

- ［📷1］タブの［**MWBデータ登録**］を選び、〈(SET)〉を押します。



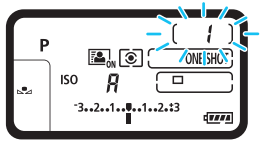
2 **登録するMWB番号を選ぶ**

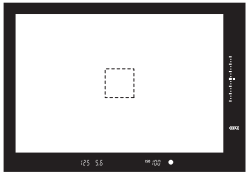
- 〈(SET)〉を押します。
- 〈◯〉を回して〈✱*〉の1～5の番号を選び、〈(SET)〉を押します。選択した番号にMWBデータが登録されます。



3 **［画像を撮影して登録］を選ぶ**

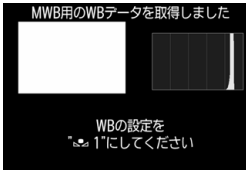
➡ 液晶モニターの表示が消え、上面表示パネルに選択した番号が点滅します。





4 白い無地の被写体を撮影する

- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



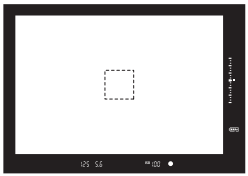
➡ カメラにMWBデータが登録されます。

- 登録したMWBで撮影するときは、『登録したMWB データを選んで撮影する』（p.183）を参照してください。

手順4で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

- 次の方法でMWBデータを登録することもできます。
  1.〈**WB**〉ボタンを押し、〈◯〉を回して〈⚙〉を選びます（p.177）。
  2. 続けて〈⛰〉を回して、MWBデータを登録する番号を選びます。
  3.〈🔑〉ボタンを押します。
  →上面表示パネルに手順2で選択した番号が点滅します。
  4. 手順4と同じ方法で白い無地の被写体を撮影します。
  →選択した番号にMWBデータが登録されます。
- 手順4で［**指定された画像では適切なWBが得られないことがあります**］と表示されたときは、手順1に戻って再度撮影してください。
- 手順4で撮影した画像はカードには記録されません。
- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

● カード内の画像から登録

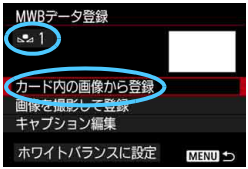


1 白い無地の被写体を撮影する

● 前ページの手順4を参考にして、白い無地の被写体を撮影します。

2 [MWBデータ登録] を選ぶ

● [📷1] タブの [**MWBデータ登録**] を選び、〈(SET)〉を押します。



3 登録するMWB番号を選ぶ

● 〈(SET)〉を押します。
● 〈◯〉を回して〈✱*〉の1～5の番号を選び、〈(SET)〉を押します。選択した番号にMWBデータが登録されます。

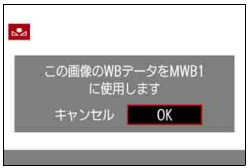
4 [カード内の画像から登録] を選ぶ

➡ カードに記録されている画像が表示されます。



5 MWBデータ登録用の画像を選ぶ

● 〈◯〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈(SET)〉を押します。



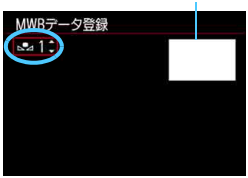
6 [OK] を選ぶ

➡ カメラにMWBデータが登録されます。
● メッセージを確認して [**OK**] を選ぶと、手順3の画面に戻ります。

ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像、多重露出画像、4K動画からフレーム切り出しを行った画像、他のカメラで撮影した画像は、手順5で選択できません。

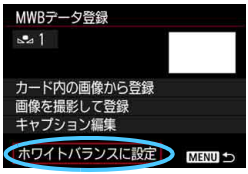
登録したMWBで撮影するときは、登録したMWB番号を選んでから撮影します。

MENU 登録したMWBデータを選んで撮影する



1 MWB番号を選ぶ

- ［**MWBデータ登録**］の画面で、登録した番号を選びます。



2 ［ホワイトバランスに設定］を選ぶ

➡ WBの設定が〈＊〉になります。

3 撮影する

➡〈＊〉の設定で撮影されます。

上面表示パネルを見ながら、登録したMWB番号を選ぶこともできます。そのときは、〈**WB**〉ボタンを押し〈◯〉を回して〈〉を選びます。続けて〈〉を回して登録したMWB番号を選びます。

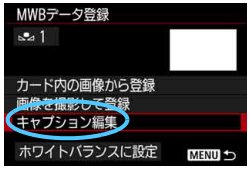
MENU 登録したMWBデータにキャプションを付ける

登録したMWBデータ5件（MWB番号1～5）に、それぞれキャプション（見出し）を付けることができます。



1 MWB番号を選ぶ

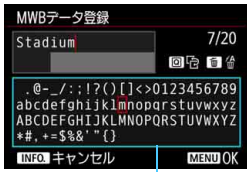
- ［MWBデータ登録］の画面で、見出しを付ける番号を選びます。



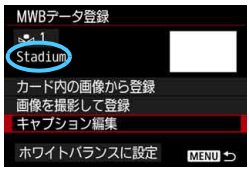
2 ［キャプション編集］を選ぶ

3 文字を入力する

- 〈◎〉〈☁〉または〈✲〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈(SET)〉を押すと入力されます。
- 最大20文字入力することができます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。
- 入力をキャンセルするときは、〈INFO.〉ボタンを押して［OK］を選びます。



文字パレット



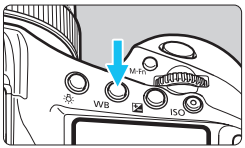
4 設定を終了する

- 入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
- ➡ 設定した内容が保存され、手順2の画面に戻ります。
- ➡ 入力したキャプションが〈☁ *〉の下に表示されます。

- 手順3で文字が入力できないときは、〈Q〉ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。
- MWBを登録した場所や、光源の名前などをキャプションにすると便利です。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。



1 **〈WB〉ボタンを押す**（☆6）



2 **〈K〉を選ぶ**

- 上面表示パネルを見ながら、〈◎〉を回して〈K〉を選びます。



3 **数値を設定する**

- 続けて〈⌓〉を回して数値を設定します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500K～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じて WB 補正（マゼンタ／グリーン寄り）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を〈K〉に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

［📷1：ホワイトバランス］の画面で設定することもできます。

WB +/− ホワイトバランスを補正する

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

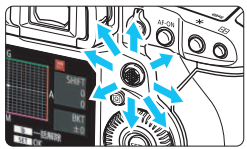
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正



1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

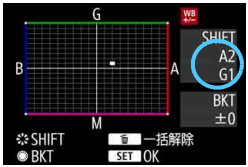
- [1] タブの [**WB補正/BKT設定**] を選び、〈SET〉を押します。



2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✥〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

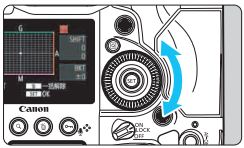
設定例：A2, G1



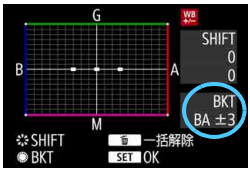
- WB補正時は上面表示パネルに〈WB〉が表示されます。
- WB補正時に、ファインダー内に〈❗〉を表示することができます (p.438)。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能を「ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）」といいます。設定できる補正幅は1段ステップ±3段です。



B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◎〉を回すと、画面上の「■」が「■■■」（3点）に変わります。右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定を一括解除することができます。
- 〈(SET)〉を押すと設定が終了します。

● 記録される順序について

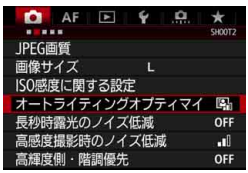
①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WB ブラケティング時の記録順序（p.424）と撮影枚数（p.425）を変更することができます。
- 「**BKT**」はBracketing：ブラケティングの略です。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する

撮影結果が暗いときやコントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では［**標準**］に設定されています。JPEG画像は撮影時に補正されます。



1 ［オートライティングオプティマイザ］を選ぶ

- ［2］タブの［**オートライティングオプティマイザ**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

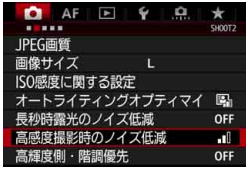
- 撮影条件によりノイズが増えることがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、画像が明るすぎるときは、［**弱め**］または［**しない**］に設定して撮影してください。
- ［**しない**］以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、［**しない**］に設定してください。
- 多重露出（p.248）、高輝度側・階調優先（p.193）設定時は、［**オートライティングオプティマイザ**］の設定が自動的に［**しない**］になります。

手順2で〈INFO.〉ボタンを押して［**M, Bulb時はOFF**］の［✓］を外すと、〈**M**〉〈**bulb**〉モードでも［**オートライティングオプティマイザ**］が設定できるようになります。

MENU ノイズ低減機能の設定

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 ［高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ

- ［📷2］タブの［**高感度撮影時のノイズ低減**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 レベルを設定する

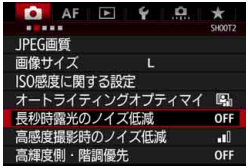
- 低減レベルを選び〈(SET)〉を押します。

3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。



1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

● ［📷2］タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 低減内容を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

● **自動**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

● **する**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

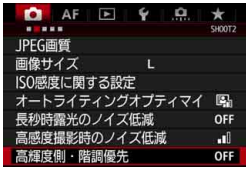
3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でもファインダー内の連続撮影可能枚数が「1」以上のときは、続けて撮影することができます。
- 高ISO感度で撮影すると、［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ［**する**］設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

MENU 高輝度側・階調優先の設定

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [高輝度側・階調優先] を選ぶ

- [📷2] タブの [**高輝度側・階調優先**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [する] を選ぶ

- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

3 撮影する

- 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

- [**する**] 設定時はノイズが若干増えることがあります。
- [**する**] 設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 多重露出（p.248）設定時は、[**高輝度側・階調優先**] の設定が自動的に [**しない**] になります。

高輝度側・階調優先設定時は、ファインダー内と上面表示パネルに〈**D+**〉が表示されます。

MENU レンズの光学特性による影響を補正する

レンズの光学特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」、レンズの光学特性によって起こる画像のゆがみを「歪曲収差」、絞りの影響により画像の先鋭さが低下することを「回折現象」といいますが、これらの現象を補正することができます。初期状態では、［**周辺光量補正**］［**色収差補正**］［**回折補正**］は［**する**］、［**歪曲収差補正**］は［**しない**］に設定されています。

なお、設定画面に［**補正データなし**］と表示されたときや、［🖻］マークが表示されたときは、レンズ光学補正を行うための補正データがカメラに登録されていません。197ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

周辺光量補正



1 ［レンズ光学補正］を選ぶ

- ［📷1］タブの［**レンズ光学補正**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［周辺光量補正］を選ぶ



3 ［する］を選ぶ

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

4 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

色収差補正



1 ［色収差補正］を選ぶ

2 ［する］を選ぶ

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

3 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

歪曲収差補正



1 ［歪曲収差補正］を選ぶ

2 ［する］を選ぶ

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

3 撮影する

- 歪曲収差が補正された画像が記録されます。

- ゆがみの補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 動画撮影時は、［**歪曲収差補正**］は表示されません（補正できません）。
- ライブビュー撮影時は、歪曲収差補正の設定により画角がわずかに変化します。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。そのため、画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（p.405）は付加されません。また、再生時にAFフレーム表示（p.351）は行われません。

回折補正



1 **［回折補正］を選ぶ**

2 **［する］を選ぶ**

- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

3 **撮影する**

- 回折現象が補正された画像が記録されます。

- 撮影条件によっては、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、［**回折補正**］は表示されません（補正できません）。

「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。

レンズの補正データについて

レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。補正［**する**］を選んでおくと、自動的に周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正、回折補正が行われます。

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）を使用すると、登録されているレンズが確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.554）を参照してください。

なお、補正データが内蔵されているレンズを使用したときは、カメラに補正データを登録する必要はありません。

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正の効果は映像に反映されません。なお、回折補正の効果は、ライブビュー撮影時の映像には反映されません。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

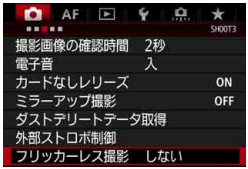
各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。

RAW現像時のデジタルレンズオプティマイザ用の補正データについては、397、398ページを参照してください。

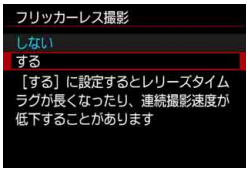
MENU フリッカーの影響を低減する

蛍光灯などの光源下で、速いシャッター速度で撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時にこの機能を利用すると、カメラが光源の点滅周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 ［フリッカーレス撮影］を選ぶ

- ［3］タブの［**フリッカーレス撮影**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［する］を選ぶ

3 撮影する

- フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

- ［**する**］設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- ミラーアップ撮影時、ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
- 〈**P**〉〈**Av**〉モードで連続撮影中にシャッター速度が変化したときや、同一シーンでシャッター速度を変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なる（ばらつく）ことがあります。色あいの変化が気になるときは、〈**Tv**〉〈**M**〉モードでシャッター速度を一定にして撮影してください。
- ［**フリッカーレス撮影**］を［**する**］に設定したときと、［**しない**］に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- 100Hz、120Hz の点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。

- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、ファインダー内の〈Flicker!〉が点灯しても、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 構図変更を行ったときは、〈Flicker!〉の表示が点いたり消えたりすることがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ファインダー内に〈Flicker!〉が表示されないときは、[**ファインダー内表示設定**]の[**フリッカー検知**]に[✓]を付けます（p.84）。フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、〈Flicker!〉が点灯します。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、〈Flicker!〉は表示されません。
- [**フリッカー検知**]に[✓]が付いている状態で、[**📷3：フリッカーレス撮影**]を[**しない**]に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の〈Flicker!〉が点滅して警告が行われます。[**する**]に設定して撮影することをおすすめします。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

MENU 色空間を設定する

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。



1 ［色空間］を選ぶ

- ［1］タブの［**色空間**］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

- ［**sRGB**］または［**Adobe RGB**］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

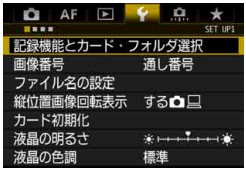
- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、Digital Photo Professional使用説明書（p.554）を参照してください。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

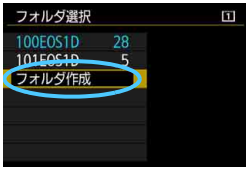


1 [記録機能とカード・フォルダ選択] を選ぶ

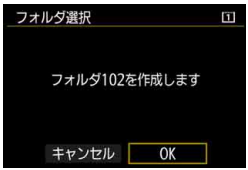
- [1] タブの [**記録機能とカード・フォルダ選択**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [フォルダ] を選ぶ



3 [フォルダ作成] を選ぶ



4 [OK] を選ぶ

➡ 番号が１つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択



- フォルダ選択画面でフォルダを選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100EOS1D**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.207）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

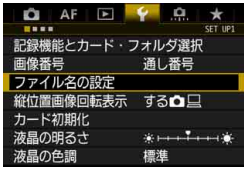
MENU ファイル名を変更する

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号（p.206）、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっていますが、これを任意に変更することができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

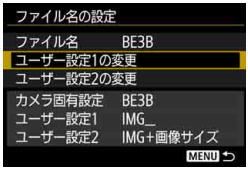
ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

ファイル名の登録・変更

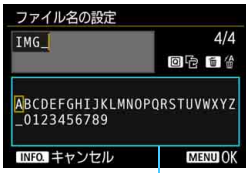


1 ［ファイル名の設定］を選ぶ

- ［1］タブの［**ファイル名の設定**］を選び、〈SET〉を押します。



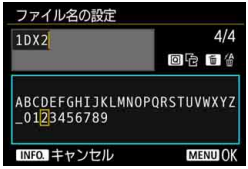
2 ［ユーザー設定＊の変更］を選ぶ



文字パレット

3 任意の英数字を入力する

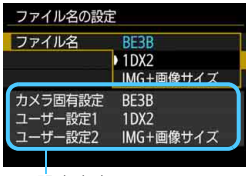
- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。



- 〈◯〉〈⌓〉または〈✣〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 入力をキャンセルするときは、〈INFO.〉ボタンを押して［OK］を選びます。

4 設定を終了する

- 所定の文字数を入力し、〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
- ➡ 登録したファイル名が保存されます。



設定内容

5 登録したファイル名を選ぶ

- ［ファイル名］を選び〈SET〉を押します。
- 登録したファイル名を選び〈SET〉を押します。
- ユーザー設定2に登録したときは、「(登録した3文字) ***+画像サイズ」を選びます。

「_」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

ユーザー設定2について

ユーザー設定2で登録した「***＋画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた画像サイズ（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」＝ L、 RAW　　「***M」＝ M1、 M RAW
「***N」＝ M2　　「***S」＝ S、 S RAW

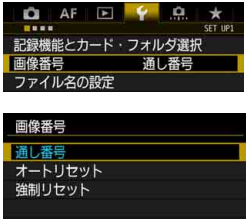
パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像は、拡張子から判別することができます。

- 手順3で文字が入力できないときは、〈Q〉ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。
- 拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」「.MP4」になります。
- ユーザー設定2で動画を撮影すると、ファイル名の先頭から4文字目が「_」（アンダーバー）になります。

MENU 画像番号の付け方を設定する

撮影した画像には0001～9999までの連続した4桁の画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

（例）**BE3B0001.JPG**
画像番号



1 ［画像番号］を選ぶ

● ［1］タブの［**画像番号**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 画像番号の付け方を選ぶ

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

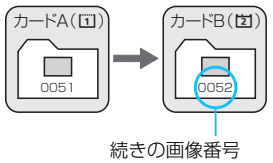
通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

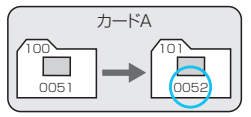
カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：1 → 2）を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換・変更した場合



フォルダを作成した場合

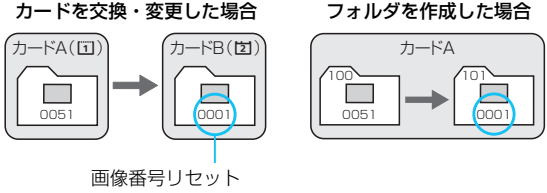


オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成、カードの変更（例：[1]→[2]）を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換・変更したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

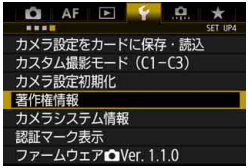
この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります（強制リセットの確認表示は行われません）。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

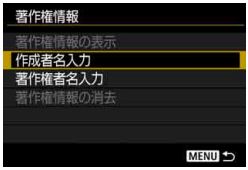
MENU 著作権情報を設定する

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。



1 ［著作権情報］を選ぶ

- ［4］タブの［**著作権情報**］を選び、〈SET〉を押します。



2 設定する項目を選ぶ

- ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈SET〉を押します。



文字パレット

3 文字を入力する

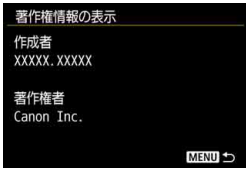
- 〈◯〉〈⁂〉または〈✲〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 最大63文字入力できます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。
- 入力をキャンセルするときは、〈INFO.〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

➡ 設定した内容が保存されます。

著作権情報の確認



手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。

入力した作成者名または著作権者名が長いときは、［**著作権情報の表示**］を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

- 手順3で文字が入力できないときは、〈Q〉ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

MEMO

4

GPS 機能の設定

この章では、カメラに内蔵されているGPS機能の設定について説明しています。なお、EOS-1D X Mark II (G)は、GPS衛星（アメリカ）、およびGLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）からの信号に対応しています。

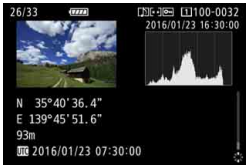
- GPS機能は、初期設定では［**使わない**］に設定されています。
- 本書では測位機能の総称として「GPS機能」と記載しています。

［GPS］が［モード1］に設定されているときは（p.215）、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしても一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。GPS機能を使用しないときは、［GPS］を［使わない］または［モード2］に設定することをおすすめします。

GPS機能を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制に従ってください。国外でGPS機能を使用するときは、特にご注意ください。

GPS機能でできること

位置情報を画像に付加



- 位置情報*1（緯度、経度、標高）と協定世界時*2を画像に付加することができます。
- この情報を利用して、パソコンの地図上に撮影場所を表示することができます。

*1：移動条件やGPS機能の設定により、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

*2：協定世界時（UTC：Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

移動ルートを記録

ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報を一定間隔で自動的に記録することができます。たどった位置情報は、パソコンの地図上で確認することができます。

* 移動条件や移動場所、GPS機能の設定により、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

時刻の設定

GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。

GPS情報を記録した静止画や動画は、個人を特定できる情報が含まれていることがあります。そのため、GPS情報が記録されている静止画や動画を他人に渡したり、インターネットなど複数の人が閲覧できる環境に掲載するときは、十分注意してください。

パソコンの地図上に画像や情報を表示

EOS用ソフトウェアのMap Utility（p.552）を使用して、パソコンの地図上に撮影場所や移動ルートを表示することができます。



地図データ©2015 ZENRIN

GPS機能に関するご注意

■ GPS機能が使える国や地域について

GPS機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、GPS機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域でGPS機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

EOS-1D X Mark II (G) ： DS126561
（GPSモジュールモデル：ES300）

- 国や地域によっては、GPS機能の使用などが規制されていることがありますので、お使いになる国や地域の法令等の規制にしたがってご使用ください。国外でGPS機能を使用するときは特に注意してください。
- 電子機器の使用が制限されている場所での使用には十分注意してください。
- GPS機能を使って撮影した静止画や動画に記録されるカメラの位置情報は、個人を特定する情報が含まれていることがあります。そのためGPS機能を使ってカメラの位置情報が記録されている静止画、動画、GPSログファイルを他人に渡したり、インターネットなどの複数の人が閲覧できる環境へ掲載するときは、十分注意してください。
- GPS衛星からの信号を受信するのに時間がかかることがあります。

GPSの信号を受信する

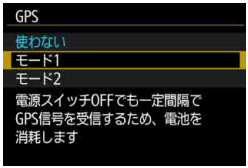
GPS信号を受信するときは、空が見通せる屋外でカメラを使用し、カメラに手や物などをのせないようにして、カメラの上面が空に向くようにしてください。

なお、受信状態が良いときは、[GPS]を[モード1]または[モード2]に設定したあと、約30秒～60秒で衛星捕捉状態になります。背面表示パネルに[GPS]が表示されていることを確認してから撮影してください。



1 **[GPSの設定]を選ぶ**

- [3]タブの[GPSの設定]を選び、〈(SET)〉を押します。



2 **モードを選ぶ**

- [モード1]または[モード2]を選びます。
- ➡ 背面表示パネルに[GPS]が表示されます。

- **モード1**

  電源スイッチが〈ON〉のときだけでなく、電源スイッチを〈OFF〉にしたときも一定間隔でGPS信号を受信し続けます。

- **モード2**

  電源スイッチが〈ON〉のときにGPS信号を受信します。電源スイッチを〈OFF〉にすると、GPS機能もオフになります。ただし、カメラがオートパワーオフ状態のときは、一定間隔でGPS信号を受信し続けます。

GPS信号が受信できなくなったときに、最後に受信した位置情報を画像に付加することができます（p.221）。

GPS信号の受信状態について



背面表示パネルに表示される［GPS］で、GPS信号の受信状態を確認することができます。

GPS 点灯：衛星捕捉状態
GPS 点滅：衛星未捕捉

- ［**モード1**］設定時は、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしても一定間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、［**使わない**］に設定してください。
- ［**モード2**］設定時は、カメラがオートパワーオフ状態のときに一定間隔でGPS信号を受信し続けるため、オートパワーオフ状態を長く続けると、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。
- GPS のアンテナは、アクセサリーシューの前方に内蔵されています。なお、外部ストロボを取り付けてもGPS信号を受信することはできますが、受信感度は少し低下します。
- GPSレシーバー GP-E1（別売）、およびGP-E2（別売）は使用できません。

GPS信号を受信しにくい条件

次のような環境ではGPS衛星からの信号が正しく受信できないため、位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。

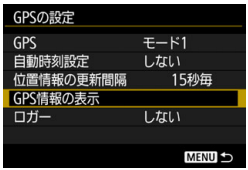
- 屋内、地下、トンネルや森の中、ビルなどの近くや谷間
- 高圧電線や1.5GHz帯の携帯電話などの近く
- カメラをかばんなどに入れて持ち歩いたとき
- 長い距離を移動したとき
- 周囲の環境が異なる場所へ移動したとき
- GPS衛星は時間の経過とともに移動するため、上記以外の環境でも位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。また、同じ場所でカメラを使っていても移動した位置情報が記録されることがあります。

- GPS機能の影響により、カメラを使うときに電池の残量が少なくなっていることがあります。必要に応じて電池を充電するか、充電した予備の電池（別売）を用意しておくことをおすすめします。
- 縦位置撮影時もGPS信号を受信することができます。

GPS情報を表示する

1 [GPS] の設定を確認する

● [GPS] が [モード1] または [モード2] に設定されていることを確認します。



2 [GPS情報の表示] を選ぶ

➡ GPS情報が表示されます。



3 撮影する

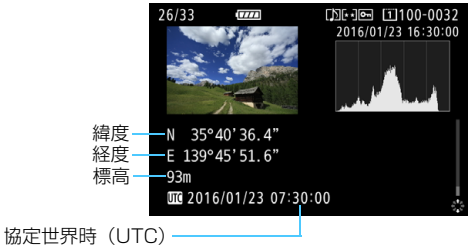
● 位置情報が画像に付加されます。

一般的にGPSの特性上、標高の精度は、緯度・経度の精度よりも劣ります。

- 衛星捕捉状態の〈〉は電波状態を示しています。〈**3D**〉が表示されているときは標高も記録されます。〈**2D**〉が表示されているときは標高は記録されません。
- UTC（協定世界時）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

画像に付加される位置情報について

画像を再生し、〈INFO.〉ボタンを押して撮影情報表示の画面（p.347）を表示した状態で〈✣〉を上下に操作すると、位置情報を確認することができます。



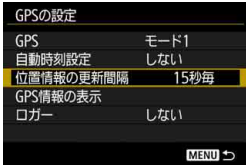
- 動画撮影のときは、撮影を開始したときの位置情報が記録されます。なお、衛星捕捉状態は記録されません。
- EOS用ソフトウェアのMap Utility（p.552）を使用すると、パソコンの地図上に撮影場所を表示することができます。

位置情報の更新間隔を設定する

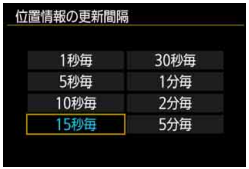
位置情報の更新間隔（時間）を設定することができます。なお、更新間隔が短いほど撮影時の位置情報が正確に記録されますが、電池が消耗するため撮影可能枚数が少なくなります。

1 [GPS] の設定を確認する

- [GPS] が [**モード1**] または [**モード2**] に設定されていることを確認します。



2 [位置情報の更新間隔] を選ぶ



3 更新間隔を設定する

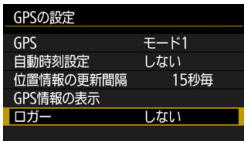
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。

- GPS信号の受信状態が悪い場所で使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- GPSの特性上、更新間隔に誤差が生じます。

最後に受信した位置情報の付加期限を設定する

屋外から屋内に入るなど、衛星からの信号が受信できなくなっても、位置情報を画像に付加し続けたいときに有効です。

［**制限なし**］を選んだときは、新しい位置情報が得られるまで、最後に受信した位置情報が付加されます。「時間」を選んだときは、位置情報が得られなくなってから設定した時間になるまで、最後に受信した位置情報が付加されます。



1 **［GPS］の設定を確認する**

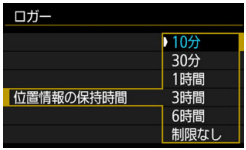
- ［GPS］が［**モード1**］または［**モード2**］に設定されていることを確認します。

2 **［ログー］を選ぶ**



3 **［ログ記録］を［する］に設定する**

- ［**ログ記録**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。



4 **［位置情報の保持時間］を選ぶ**

5 **時間を設定する**

- 電源スイッチを〈**ON**〉にした直後や、オートパワーオフから復帰した直後に撮影したときは、位置情報が付加されないことがあります。
- ［**ログ記録**］が［**しない**］に設定されている（［**位置情報の保持時間**］を設定していない）ときでも、位置情報が得られなくなってから約10分間は、位置情報が付加されます。
- ログー機能については、223～226ページを参照してください。なお、ログデータをパソコンに取り込んだり、ログデータをカードに移動したときは、位置情報は画像に付加されません。

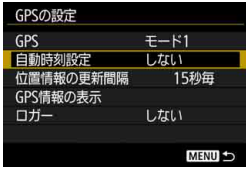
電源スイッチを〈**OFF**〉にしたり、電池交換を行っても、最後に受信した位置情報はカメラに記憶されています。

GPSの時刻をカメラに設定する

GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。なお、誤差は約±0.02秒です。

1 [GPS] の設定を確認する

- [GPS] が [**モード1**] または [**モード2**] に設定されていることを確認します。



2 [自動時刻設定] を選ぶ



3 項目を選ぶ

- [**自動更新**] または [**今すぐ実行**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- [**自動更新**] は、カメラの電源が入り、GPS信号を受信したときに更新されます。

- GPS衛星を5基以上捕捉できないときは、時刻の自動更新は行われません。また、[**今すぐ実行**] が灰色に表示されて選択できません。
- [**今すぐ実行**] が選択できても、GPS衛星の捕捉タイミングによっては、時刻合わせが行われないことがあります。
- [**自動時刻設定**] が [**自動更新**] に設定されているときは、[**2：日付/時刻/エリア**] の設定で日付/時刻の手動設定はできません。
- ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E8（別売）、またはWFT-E6（別売）を使用して [**カメラ間時刻同期**] を行ったあと、時刻を変えたくないときは、手順2で [**自動時刻設定**] を [**しない**] に設定してください。

移動ルートを記録する



地図データ©2015 ZENRIN

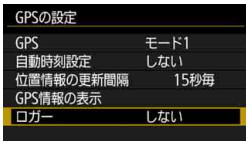
ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報がカメラの内蔵メモリーに自動的に記録されます。

EOS用ソフトウェアのMap Utility（p.552）を使用すると、パソコンの地図上に撮影場所や移動ルートを表示することができます。

---

1 [GPS] の設定を確認する

- [GPS] が [**モード1**] または [**モード2**] に設定されていることを確認します。



2 [ロガー] を選ぶ



3 [ログ記録] を [する] に設定する

- [**ログ記録**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**する**] を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 背面表示パネルに［**LOG**］が表示されます。



- ［GPS］が［**モード1**］のときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にしてもロガー機能が働きます。
- ［**モード2**］のときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、ロガー機能もオフになります。ただし、オートパワーオフ状態のときは、ロガー機能が働きます。

位置情報のログデータについて

カメラがたどった位置情報は、［**位置情報の更新間隔**］（p.220）ごとに記録され、日付別のログデータとしてカメラの内蔵メモリーに保存されます。保存できるログデータの日数は下表のとおりです。

位置情報の更新間隔と保存できるログデータの日数　（約）

更新間隔	ログデータ	更新間隔	ログデータ
1秒毎	4.1日分	**30秒毎**	100日分
5秒毎	20日分	**1分毎**	100日分
10秒毎	41日分	**2分毎**	100日分
15秒毎	61日分	**5分毎**	100日分

* 1日8時間分のログデータを記録した場合

- 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動することができます（p.225）。
- ログファイルは、日付+番号（16031800など）のファイル名で、1日単位で作成されます。エリア（p.55）を変えたときは、新たなログファイルが作成されます。
- 内蔵メモリーがいっぱいになると、古いログデータから順に消去され、新しいログデータが保存されます。

ログ記録時の電池消耗について

［**GPS**］が［**モード1**］に設定されているときは、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても、［**モード2**］に設定されているときは、オートパワーオフ状態でも一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。また、［**ログ記録**］が［**する**］に設定されているときは、更新間隔が短いほどさらに電池の消耗が早くなります。

移動していないときや、GPS信号の受信状態が悪いときは、［**GPS**］を［**使わない**］に設定することをおすすめします。

ログデータをパソコンに取り込む

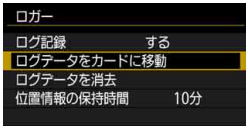
カメラの内蔵メモリーに保存されたログデータをパソコンに取り込む方法は、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）で取り込む方法と、カードに移動してから取り込む方法があります。

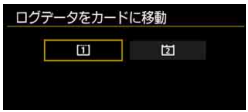
パソコンに取り込んだログファイルをEOS 用ソフトウェアのMap Utility（p.552）で開くと、地図上に移動ルートが表示されます。

● EOS用ソフトウェアで取り込む

カメラとパソコンを付属のインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、ログデータをパソコンに取り込むことができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.554）を参照してください。

● カードに移動して取り込む





- ［**ログデータをカードに移動**］を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを、ログファイルとしてCFカード［1］またはCFastカード［2］に移動することができます。
  なお、カードに移動すると、内蔵メモリーに保存されていたログデータは消去されます。
- カードに取り込まれたログファイルは、「MISC」フォルダの中にある「GPS」フォルダに入っています。ログファイルの拡張子は「.LOG」です。
- ［**ログデータを消去**］を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを消去することができます。なお、消去には1分程度かかることがあります。

- カメラとパソコンを接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.487）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。
- GPSアンテナがカメラの上部に配置されているため、バッグなどに入れて持ち歩くときは、カメラの上面を空に向け、カメラの上に物がのらないように収納してください。
- カメラの日付/時刻はできるだけ正確に設定してください。また、エリアとサマータイムは、撮影する地域に対応した設定にしてください。

5

写真表現にあわせた露出制御

シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内と上面表示パネルに露出値が約6秒間表示されます（⏱6）。
- 各撮影モードで設定できる機能については、488ページを参照してください。



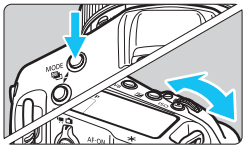
あらかじめ電源スイッチを〈**ON**〉の位置にしてください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これを「プログラムAE」といいます。

＊〈**P**〉はProgram（プログラム）の略です。

＊ AEはAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。





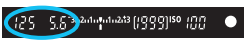
1 撮影モードを〈P〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈☼〉または〈◎〉を回して〈**P**〉を選びます。



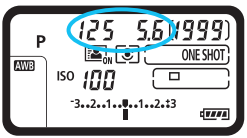
2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と上面表示パネルに表示されます。



3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。



4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。





- シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
  ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。





- シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
  ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈☆〉を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマー（⏱6）が終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

ブレの少ない画像を撮影するには

- 1枚：ソフト動作（p.147）、ミラーアップ撮影（p.256）、LVソフト撮影（p.281）などが効果的です。
- 連続撮影を行うときは、ソフト高速連続撮影、ソフト低速連続撮影が効果的です（p.147）。
- （撮影機材の重さに耐えられる）しっかりした三脚を使用してください。また、カメラを三脚にしっかり固定してください。
- リモートスイッチなどの使用をおすすめします（p.258）。

? こんなときは

● 合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.62）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● 複数のAFフレームが同時に表示される

表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

● 合焦マーク〈●〉が点灯しない

AIサーボAFでピントを合わせ続けている状態です（AF作動表示〈AF〉は点灯しますが、合焦マーク〈●〉は点灯しません）。

なお、AIサーボAFのときは、フォーカスロック撮影（p.89）はできません。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● シャッター速度と絞り数値が点滅している

光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EXスピードライト（別売／p.260）を使用して撮影することをおすすめします。

● 外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった

レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

Tv：シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これを「シャッター優先AE」といいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

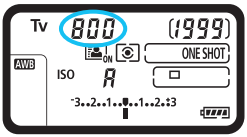


動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）



1 撮影モードを〈Tv〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈〉を回して〈**Tv**〉を選びます。



2 シャッター速度を設定する

- 上面表示パネルを見ながら〈〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。





- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。





- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示について

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを「絞り優先AE」といいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

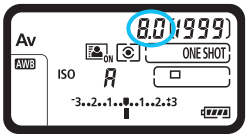


背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 撮影モードを〈Av〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈☆〉または〈◎〉を回して〈**Av**〉を選びます。



2 絞り数値を設定する

- 上面表示パネルを見ながら〈☆〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ標準露出です。





- シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈  〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。





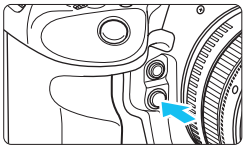
- シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  シャッター速度の点滅が止まるまで〈  〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示について

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影していないときは、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら（p.272）、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよく分かります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 露出を自分で決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これを「マニュアル露出」といいます。

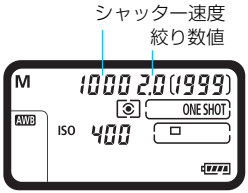
＊〈**M**〉はManual（マニュアル）の略です。



1 撮影モードを〈M〉にする

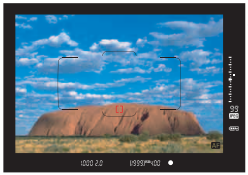
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈  〉または〈◯〉を回して〈**M**〉を選びます。

2 ISO感度を設定する （p.163）



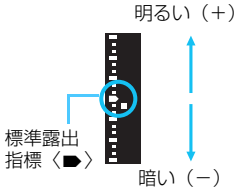
3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は〈〉、絞り数値は〈◯〉を回して設定します。
- 設定できないときは、電源スイッチを〈**ON**〉の位置にしてから〈〉または〈◯〉を回します。



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と上面表示パネルに露出値が表示されます。
- ファインダー内右側の露出レベル表示で、露出レベル〈■〉が標準露出〈▬〉からどのくらいズレているか、確認することができます。



5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▲〉または〈▼〉の表示になります。

ISOオート設定時の露出補正について

マニュアル露出撮影時にISO感度を「**A**」(AUTO) に設定したときは、以下の方法で露出補正 (p.241) を行うことができます。

- [**6：操作ボタンカスタマイズ**] の [**：露出補正 (押しながら)**] (p.456)
- クイック設定 (p.68)

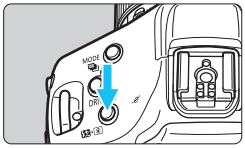
ファインダー内下側、または上面表示パネルの「露出レベル表示 (設定値)」を見ながら露出補正量を設定します。

- ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

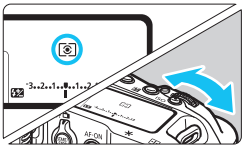
- [**2：オートライティングオプティマイザ**] で [**M, Bulb時はOFF**] の [✓] を外すと、〈**M**〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります (p.189)。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定 (ロック) することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで露出補正 (p.241) を行っていたときは、〈**M**〉モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に [**1：露出設定ステップ**] を [**設定1/2 露出補正1/2**] に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度 (1/3段分) とシャッター速度で露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッター速度は変化しません。

測光モードの選択

被写体の明るさを測る機能の特性を4種類の中から選ぶことができます。



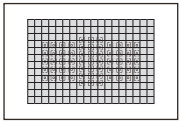
1 **〈⚡·⊙〉ボタンを押す**（⏱6）



2 **測光モードを選ぶ**

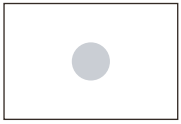
- 上面表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈 〉を回します。

⊙：評価測光
⊡：部分測光
·：スポット測光
[ ]：中央部重点平均測光



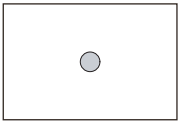
⊙ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



⊡ 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約6.2%の範囲を測光します。



[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約1.5%の範囲を測光します。ファインダー内にスポット測光範囲が表示されます。



[□] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

- 〈[評価測光]〉（評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます（ワンショットAF時）。〈[部分測光]〉／〈[•]〉（スポット測光）／〈[□]〉（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- 〈[•]〉（スポット測光）設定時に、ファインダー内に〈❶〉を表示することができます（p.438）。
- [📷1：**測距点連動スポット測光**]を[**測距点に連動**]に設定すると（p.425）、すべてのAFフレームに連動したスポット測光を行うことができます。

マルチスポット測光

画面の複数の場所をスポット測光し、その場所が相対的にどのような露出になるかを考えながら、狙いどおりの最終露出を決めることができます。

〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードのときにマルチスポット測光を行うことができます。

---

1 **〈[•]〉（スポット測光）にする**

2 **〈M-Fn〉ボタンを押す**（⏱16）

- 相対的な露出レベルを知りたい場所にスポット測光範囲マークを合わせ、それぞれの場所で〈M-Fn〉ボタンを押します。
- ➡ ファインダー内の右側に、スポット測光を行った位置の相対的な露出レベルが表示されます。露出値は平均値が設定されます。



- この状態で露出補正を行うと、3点の露出レベル表示全体を見ながら、表現意図に合わせた最終露出を決めることができます。

- 8点までスポット測光を行うことができます。
- 露出値の記憶は次の条件で解除されます。
  ・スポット測光後、測光タイマー（⏱16）が切れたとき
  ・〈MODE〉〈DRIVE•AF〉〈[•]•[⊡]〉〈ISO〉〈[⊞]〉〈[▣]〉〈WB〉ボタンを押したとき
- [**1：測距点連動スポット測光**]が［**測距点に連動**］に設定されているときも(p.425)、マルチスポット測光を行うことができます。

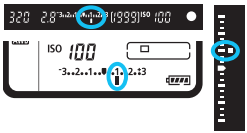
± 自分の好みに露出を補正する

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。

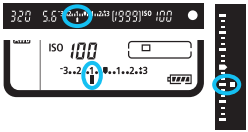
〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±5段ですが、ファインダー内と上面表示パネルの露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、クイック設定（p.68）で行ってください。

なお、〈**M**〉モード+ISOオート設定時の露出補正については、237ページを参照してください。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして（⏱6）、露出レベル表示を確認します。

2 補正量を設定する

- ファインダー内、または上面表示パネルを見ながら〈◯〉を回します。
- 設定できないときは、電源スイッチを〈**ON**〉の位置にしてから〈◯〉を回します。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈■/▌〉を標準露出指標（〈▶/▼〉）の位置に戻します。

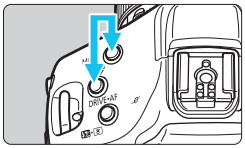
［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.189）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 〈 〉ボタンを押したあと、〈 〉または〈 〉を回して設定することもできます。
- 設定した補正量は、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても記憶されています。
- 補正量を設定してから電源スイッチを〈**LOCK**〉の位置にすると、補正量が不用意に変わることを防止することができます。
- 露出補正量が±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▶/▲〉または〈◀/▼〉の表示になります。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

＊AEBはAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

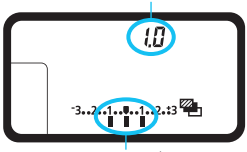




1 〈MODE〉ボタンと〈DRIVE•AF〉ボタンを同時に押す（⏱6）

➡ 上面表示パネルに〈⧉〉と「**0.0**」が表示されます。

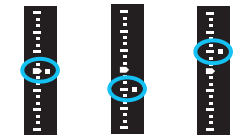
AEBステップ量



AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

- 〈⏲〉または〈◎〉を回してAEBレベルを設定します。



標準露出　マイナス補正　プラス補正

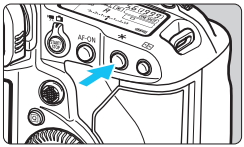
3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBステップ量を「**0.0**」に戻します。

- AEB 撮影中は、ファインダー内の〈✳〉と上面表示パネルの〈⧉〉が点滅します。
- ドライブモードが〈□/**S**〉のときは、3回撮影してください。〈□H/□L/**S**□H/**S**□L〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈⏲10/⏲2〉のときは、約10秒後または約2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈▶/▲〉または〈◀/▼〉の表示になります。
- ストロボ使用時、バルブ撮影時はAEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

✳ 露出を固定して撮る／AEロック撮影

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。



1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✳〉ボタンを押す（☆6）

- ➡ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。



3 構図を決めて撮影する

- AE ロックした露出値と新しい露出値がファインダー内の右側にリアルタイムで表示されます。
- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（p.238）	AFフレーム選択（p.93）	
	自動選択	任意選択
⊙*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
⊡ • [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

バルブ撮影時はAEロックできません。

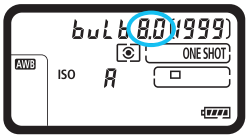
bulb：長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。この撮影方法を「バルブ撮影」といいます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。



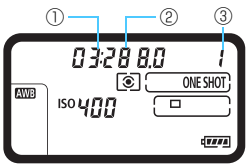
1 撮影モードを〈buLb〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈◎〉を回して〈**buLb**〉を選びます。



2 絞り数値を設定する

- 上面表示パネルを見ながら〈〉または〈◎〉を回します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➡ 上面表示パネルに露光経過時間が表示されます。
  ①：分　②：秒　③：時間

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400になります（p.165）。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影機能を併用してバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- ［**2：長秒時露光のノイズ低減**］で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（p.191）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.258）。
- ミラーアップ撮影機能（p.256）を併用することもできます。

多重露出撮影

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。なお、ライブビュー撮影（p.271）のときは、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。



1 ［多重露出］を選ぶ

- ［1］タブの［**多重露出**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 多重露出の設定画面が表示されます。



2 ［多重露出撮影］を設定する

- ［**機能・操作優先**］または［**連続撮影優先**］を選び〈(SET)〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、［**しない**］を選びます。

- **機能・操作優先**

  画像の確認を行いながら、じっくり多重露出撮影を行いたいときに適しています。連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。

- **連続撮影優先**

  動いている被写体を連続して重ね合わせるときに設定します。連続撮影を行うことができますが、撮影途中に「メニュー画面の表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」「撮影のやり直し（p.254）」はできません。また、ライブビュー撮影を行ったときは、撮影した画像は重なって表示されません。

  なお、撮影画像は多重露出画像のみ保存されます（多重露出画像を生成するために撮影した画像の保存はできません）。



3 ［多重露出制御］を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び〈(SET)〉を押します。

- **加算**

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。［**重ねる枚数**］に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：－1段」「3枚：－1.5段」「4枚：－2段」

- **加算平均**

［**重ねる枚数**］に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

- **比較（明）／比較（暗）**

ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ（暗さ）比較して、明るい（暗い）部分を残します。重なる色によっては、明るさ（暗さ）の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。



4 ［重ねる枚数］を設定する

- 枚数を選び〈(SET)〉を押します。
- 2～9枚の範囲で設定することができます。



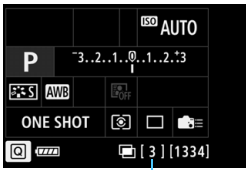
5 保存する画像を設定する

- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、［**全画像**］を選び〈(SET)〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、［**多重画像のみ**］を選び〈(SET)〉を押します。



6 ［多重露出撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順2で［**しない**］を選ぶまで多重露出撮影が続きます。



残り撮影枚数

7 1枚目を撮影する

➡ ［**機能・操作優先**］設定時は、撮影した画像が表示されます。

➡ 〈(カメラ)〉が点滅します。

- 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内右側の数値、または画面に表示される［ ］内の数値で確認することができます。
- 〈(再生)〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（p.254）。

8 2枚目以降を撮影する

➡ [**機能・操作優先**] 設定時は、撮影した画像が重なって表示されます。

- [**機能・操作優先**] の設定でライブビュー撮影を行ったときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈INFO.〉ボタンを押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。連続撮影時は、シャッターボタンを押し続けると、設定した枚数を連続撮影して停止します。

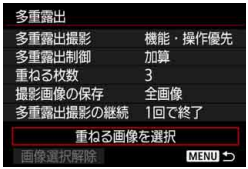
- [**機能・操作優先**] のときは、撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した多重露出画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます（p.254）。
- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

- 記録画質（画像サイズ、JPEG画質）、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- 多重露出撮影時は、［**1：レンズ光学補正**］［**2：オートライティングオプティマイザ**］［**2：高輝度側・階調優先**］の設定が自動的に［**しない**］になります。
- ［**1：ピクチャースタイル**］が［**オート**］に設定されているときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- ［**機能・操作優先**］＋［**加算**］設定時に、撮影途中に表示される画像のノイズ、色ムラ、縞などは、最終的に記録される多重露出画像と異なることがあります。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- ［**加算**］設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- ［**加算**］の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
- 手順8でライブビュー撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- ［**連続撮影優先**］設定時は、設定した枚数の撮影が終わったらシャッターボタンから指を離してください。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、電池交換、カード交換、動画撮影への切り換えを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 多重露出撮影中は、［**3：センサークリーニング**］の［**今すぐクリーニング**］［**手作業でクリーニング**］は選択できません。
- 撮影中に撮影モードを〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されているRAW画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したRAW画像の画像データはそのまま残ります。

指定できるのはRAW画像のみです。M RAW / S RAW画像、およびJPEG画像は選択できません。



1 ［重ねる画像を選択］を選ぶ

➡ カード内の画像が表示されます。

2 1枚目の画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して1枚目に設定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［OK］を選びます。

➡ 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。例えば、［**重ねる枚数**］が3枚のときは、2枚撮影します。

- ［**📷2：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定して撮影した画像、トリミング情報が付加された画像（p.441）は、1枚目に指定できません。
- ［**📷1：レンズ光学補正**］［**📷2：オートライティングオプティマイザ**］は、1枚目に指定したRAW画像の設定に関わらず、［**しない**］で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定したRAW画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定したRAW画像のピクチャースタイルが［**オート**］のときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。

- 多重露出撮影を行った RAW 画像を選ぶこともできます。
- [**画像選択解除**] を選ぶと指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去について



[**機能・操作優先**] 設定時に、設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます（[**連続撮影優先**] 時不可）。

この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	[**撮影画像の保存：全画像**] 設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。 [**撮影画像の保存：多重画像のみ**] 設定時は、途中まで撮影した多重露出画像だけを保存して終了します。
保存しないで終了	途中まで撮影した全画像を保存しないで終了します。
前の画面に戻る	〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

? こんなときは

● 記録画質に制限はありますか？

JPEGはすべての記録画質を選択できます。M RAW / S RAW のときは、多重露出画像は RAW で記録されます。

画像サイズ設定	各撮影画像	多重露出画像
JPEG	JPEG	JPEG
RAW	RAW	RAW
M RAW / S RAW	M RAW / S RAW	RAW
RAW +JPEG	RAW +JPEG	RAW +JPEG
M RAW / S RAW +JPEG	M RAW / S RAW +JPEG	RAW +JPEG

● カードに記録されている画像に重ね合わせたい

［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（p.253）。なお、カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

● ライブビュー撮影でも多重露出ができますか？

ライブビュー撮影（p.271）でも多重露出を行うことができます。ただし、［**連続撮影優先**］のときは、撮影した画像は重なって表示されません。

● 多重露出画像の画像番号はどうなりますか？

全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で、多重露出画像が保存されます。

● 多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？

［**2：オートパワーオフ**］が［**しない**］以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が約30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間どおりにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

ミラーアップ撮影

撮影時にミラーが上下に動作することで発生する機械的な振動を「ミラーショック」といいます。ミラーアップ機能を使うと、撮影時にあらかじめミラーが上がった状態になり、ミラーショックによるブレを低減することができます。近接（マクロ）撮影や超望遠レンズを使用した撮影、低速シャッターによる撮影などに効果的です。

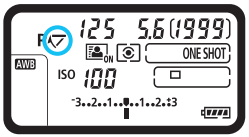


1 ［ミラーアップ撮影］を選ぶ

- ［3］タブの［**ミラーアップ撮影**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 項目を選ぶ

- ［**する**］または［**する（SETでミラーダウン）**］を選び、〈(SET)〉を押します。



3 シャッターボタンを全押しする

- ピントを合わせたあと、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ ミラーが上がり、上面表示パネルの〈▽〉が点滅します。

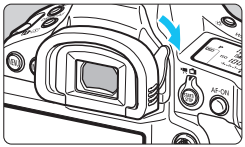
4 もう一度全押しする

- ➡ 撮影が行われます。
- ［**する**］設定時は、撮影が終わるとミラーが下がります。
- ［**する（SETでミラーダウン）**］設定時は、撮影後もミラーが上がったままになります。ミラーを下げるときは〈(SET)〉を押します。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定やメニュー操作などはできません。

- ［**する**］設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1枚撮影になります。［**する（SET でミラーダウン）**］設定時は、設定したドライブモードで撮影されます。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.258）。

アイピースシャッターの使い方



セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真（露出不足）になることがあります。このようなときは、アイピースシャッターレバーを矢印の方向に操作して、ファインダーを遮光します。

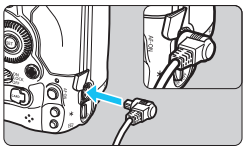
なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、ファインダーを遮光する必要はありません。

リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を備えたEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます（p.487）。

アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。

1 **端子カバーを開ける**



2 **リモコン端子にプラグを取り付ける**

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

6

ストロボ撮影

この章では、外部ストロボ（EXスピードライト／別売）を使った撮影、カメラのメニュー画面から外部ストロボの設定を行う方法について説明しています。

ストロボを使った撮影

EOS用EXスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能やストロボのカスタム機能を設定する方法については、263～269ページを参照してください。



クリップオンタイプストロボ



マクロストロボ

ストロボ調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

カメラの〈ϟ·⊡〉ボタンを押したあと、ファインダー内、または上面表示パネルを見ながら〈◌〉を回します。

FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈M-Fn〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

［**📷2：オートライティングオプティマイザ**］（p.189）が［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

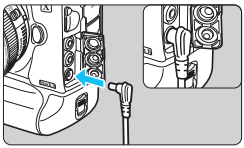
- **EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードをマニュアル露出〈**M**〉、または絞り優先AE〈**Av**〉に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

● 同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

● シンクロ端子について



- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。なお、端子にはコードの抜け落ちを防止するための、ロック用のねじ山が付いています。
- シンクロ端子には極性はありません。シンクロコードの極性に関わらず、そのまま使用することができます。

● ライブビュー撮影時の注意

汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[**5：LVソフト撮影**]を[**しない**]設定にしてください（p.281）。[**モード1**][**モード2**]に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- シンクロ端子に 250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

ストロボメータードマニュアル撮影について

手動で調光レベルを決める近距離撮影向けの機能です。マニュアル発光できるEXスピードライトと18%標準反射板を使って、次のように撮影します。

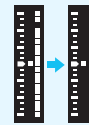
1. カメラとストロボの機能を設定する
- カメラの撮影モードを〈**M**〉、または〈**Av**〉にします。
- ストロボの発光モードをマニュアル発光にします。

2. 被写体にピントを合わせる

3. 18%標準反射板をセットする
- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内のスポット測光範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4.〈M-Fn〉ボタンを押す（16）

5. 調光レベルを設定する
- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と、カメラの絞り数値を設定します。

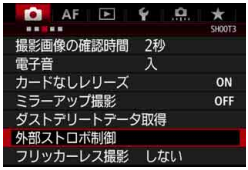


6. 撮影する
- 標準反射板を取り除いて撮影します。

MENU ストロボの機能を設定する

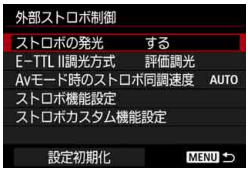
ストロボ機能設定に対応したEXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。**設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。**

なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。



1 [外部ストロボ制御] を選ぶ

- [📷3] タブの [**外部ストロボ制御**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 外部ストロボ制御画面が表示されます。



2 項目を選ぶ

- 設定する項目を選び、〈(SET)〉を押します。

ストロボの発光



ストロボ撮影を行うときは、[**する**] に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、[**しない**] に設定します。

E-TTL II 調光方式



通常は、標準的なストロボ露出が得られる [**評価調光**] に設定します。[**平均調光**] に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

Avモード時のストロボ同調速度



絞り優先AE〈**Av**〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

- **AUTO：自動**
  明るさに応じてシャッター速度が1/250～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。
- **1/250 -1/60 A：1/250-1/60秒自動**
  暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。
- **1/250：1/250秒固定**
  シャッター速度が1/250秒に固定されるため、［**1/250-1/60秒自動**］よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では［**1/250-1/60秒自動**］よりも被写体の背景が暗くなります。

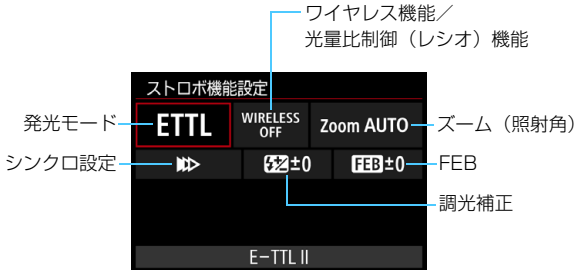
［**1/250-1/60秒自動**］［**1/250秒固定**］設定時は、〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

なお、使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



● **発光モード**

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



［**E-TTL II**］は、ストロボの自動露出撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。

［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。

その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能



電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。

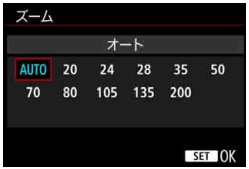
詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。



ストロボ機能設定に対応したマクロストロボ（例：MR-14EX II）使用時に、発光部A, Bの発光量の比率（光量比）を設定したり、スレーブストロボを増灯したワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

● ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する［AUTO］に設定します。

● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロと［**E-TTL II**］の組み合わせのときは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回発光します。

［**ハイスピード**］に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。日中の屋外などで、被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。

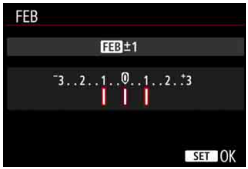
● 調光補正



ストロボの発光量を1/3段ステップ±3段の範囲で調整することができます。

詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● FEB



ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

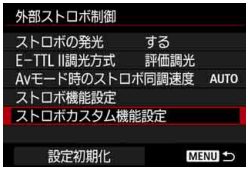
詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載したストロボの使用説明書を参照してください。

後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボの発光**］［**E-TTL II 調光方式**］、および［**ストロボ機能設定**］の［**調光補正**］のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）。
- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。



1 ［ストロボカスタム機能設定］を選ぶ

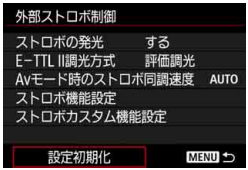


2 機能を設定する

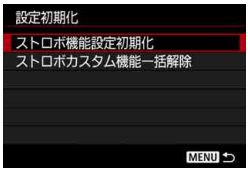
- 番号を選び〈(SET)〉を押します。
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［TTL］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除



1 ［設定初期化］を選ぶ



2 初期化する内容を選ぶ

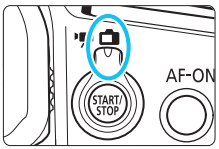
- ［**ストロボ機能設定初期化**］［**ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選び、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［OK］を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

［**外部ストロボ制御**］の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

MEMO

7

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）



カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

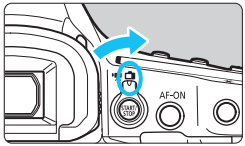
ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

- カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

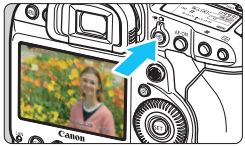
リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影を行うことができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.554）を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする



2 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。



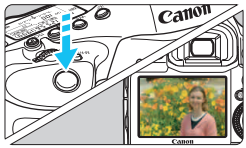
3 撮影モードを選ぶ

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈⚙〉または〈◎〉を回して撮影モードを選びます。



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.284）でピント合わせが行われます。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます（p.284）。



5 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

ライブビュー撮影ができないときは



［4：ライブビュー撮影］を［する］に設定します。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	260	240

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E19使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E19でライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約2時間20分、低温（0℃）：合計約2時間です。

連続撮影中の表示について

ライブビュー撮影時に画像サイズをJPEG（**L**/**M1**/**M2**/**S**）、RAWに設定して（**M** RAW/**S** RAWを除く）連続撮影を行ったときは、シャッターボタンを全押ししている間、撮影した画像が連続して表示（再生）されます。連続撮影を終了すると（シャッターボタンを半押しに戻すと）、ライブビュー映像が表示されます。

- ライブビュー撮影時に連続撮影を行ったときは、AFによるピントと露出は固定された状態で撮影されます。
- ライブビュー撮影時に外部ストロボを使用し、［4：**連続撮影速度**］の［**高速連続撮影**］を［**14 (16) コマ/秒**］に設定して（p.433）、高速連続撮影を行ったときは、ストロボは発光しません。
- 長秒時露光を行ったときなど、連続撮影時の撮影条件によっては、撮影した画像が連続して表示（再生）されないことがあります。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **『ライブビュー撮影全般の注意事項』は、293～294ページにまとめて記載しています。**

- 映像の視野率は約100%（画像サイズ：JPEGラージ時）です。
- 絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- 記録画質がM RAW、S RAWの設定で撮影を行うと、「**BUSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。
- ピント合わせは〈**AF-ON**〉ボタンで行うこともできます。
- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。また、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間が、ファインダー撮影時より少し長くなります。
- カメラを操作しない状態が続くと、［**2：オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.76）。［**しない**］に設定されているときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- HDMIケーブルHTC-100（別売）を使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.379）。ただし、音声は出力されません。なお、テレビに映像が表示されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［NTSC］［PAL］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

情報表示について

〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



● 設定に応じた部分のみ表示されます。

⚠ **警告**

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

- ヒストグラムは、［4：露出Simulation］が［する］に設定されているときに（p.281）表示することができます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.82）。ただし、AF方式が［+追尾優先AF］のときや、カメラとテレビがHDMIケーブルで接続されているときは、水準器は表示されません。
- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- バルブ撮影時、ストロボ撮影時は、露出シミュレーションは行われません（p.281）。〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき液晶モニターに表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

「ファイナルイメージシミュレーション」は、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

ライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。なお、撮影結果と若干異なる場合があります。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 測光モード
- 露出（[📷4：露出Simulation：する] 設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 歪曲収差補正
- 高輝度側・階調優先

撮影機能の設定

MODE／DRIVE／AF／／／ISO／／WB設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈MODE〉／〈DRIVE•AF〉／〈•〉／〈〉／〈ISO〉／〈〉／〈WB〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈〉または〈〉を回して撮影機能の設定を行うことができます。

- 〈WB〉ボタンを押したあと〈INFO.〉ボタンを押すと、WB補正、WBブラケティングの設定を行うことができます。

（部分測光）、（スポット測光）設定時は、画面の中央に測光範囲を示す円が表示されます。

Q クイック設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、AF方式／ドライブモード／測光モード／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザの設定を行うことができます。



1 〈Q〉ボタンを押す（☆10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈✣〉で機能を選びます。
➡ 選んだ機能の設定内容が、画面に表示されます。
- 〈◎〉または〈◯〉を回して設定します。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選んだ状態で〈SET〉を押します。
- WB補正/WBブラケティングの設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 〈SET〉を押すとライブビュー撮影に戻ります。

MENU メニュー機能の設定

📷4



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときは、［📷4］［📷5］タブにライブビュー撮影特有の項目が表示されます。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

● **ライブビュー撮影**

ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● **AF方式**

［**+追尾優先AF**］［**ライブ1点AF**］が選択できます。AF方式については、284～288ページを参照してください。

● **グリッド**

［**9分割**＃］または［**24分割**＃］でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角**＊］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● **露出Simulation**

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

・**する**（Exp.SIM）

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

・**絞り込み中**

通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます（DISP）。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます（Exp.SIM）。

・**しない**（DISP）

ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

［**2：高輝度側・階調優先**］［**しない**］設定時に、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**静止画撮影の範囲**］で［**上限値**］を初期設定から拡張すると（p.166）、より暗い場所でも露出シミュレーションを行うことができます。

5



● **LVソフト撮影**

・**モード1**

ファインダー撮影時よりも作動音を抑えた撮影を行うことができます。

任意のドライブモード（p.146）で撮影することができます。なお、〈H〉設定時に［**4：連続撮影速度**］の［**高速連続撮影**］を［**14 (16) コマ/秒**］に設定すると（p.433）、最高約16.0コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

・モード2

シャッターボタンを全押しすると１枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

・しない

TS-Eレンズ（📝に記載したレンズを除く）を使用して**シフトやティルト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

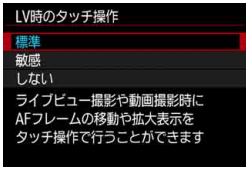
- ライブビュー撮影時にドライブモードを〈**S**〉〈**S 連H**〉〈**S 連L**〉に設定しても（p.147）、ドライブモードによる作動音の低減効果はほとんどありません（ライブビュー撮影による作動音の低減効果のみ）。
- ［**モード1**］と［**しない**］の違いは、ドライブモードが1枚撮影のとき、および連続撮影時の１枚目における内部機構の動作のみです。［**モード1**］の設定で連続撮影を行ったときは、連続撮影２枚目以降の作動音が［**しない**］と同じになります。
- ［**モード2**］設定時にドライブモードを〈**連H**〉〈**連L**〉〈**S 連H**〉〈**S 連L**〉に設定しても、連続撮影はできません。
- ストロボ撮影時に発光モードがE-TTL II/E-TTL自動調光のときは、ファインダー撮影時と同じ内部機構の動作で撮影が行われるため、（［**LVソフト撮影**］の設定に関わらず）作動音を抑えた撮影はできません。
- 汎用ストロボを使用するときは、［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。
- H1（ISO102400相当）以上（カメラ内部が低温状態のときはISO32000以上）のときは、高速連続撮影時の連続撮影速度が、ライブビュー撮影時：最高約14.0コマ/秒に低下します。詳しくは148ページを参照してください。

TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II は、［**モード1**］［**モード2**］を使用することができます。

● 測光タイマー

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● LV時のタッチ操作



ライブビュー撮影時、動画撮影時に液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、AFフレームの移動とピント合わせ、拡大操作を行うことができます。

通常は［**標準**］を選びます。［**敏感**］に設定すると、［**標準**］に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。タッチ操作を禁止するときは、［**しない**］を選びます。

タッチパネル操作時の注意事項

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- ［**敏感**］設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

- タッチシャッター機能は搭載していません（タッチ操作で撮影を行うことはできません）。
- 以下のメニュー項目を選ぶと、ライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度〈START/STOP〉ボタンを押してください。
  ［**📷1：MWBデータ登録**］：［**画像を撮影して登録**］［**📷3：ダストデリートデータ取得**］［**🔧3：センサークリーニング**］［**🔧4：カメラ設定をカードに保存・読込**］［**🔧4：カメラ設定初期化**］［**🔧4：ファームウェア📷**］

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、［**+追尾優先AF**］（p.285）、［**ライブ1点AF**］（p.287）からAF方式を選ぶことができます。なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.291）。



1 **〈DRIVE•AF〉ボタンを押す**

2 **AF方式を選ぶ**

- 〈〉を回してAF方式を選び、〈(SET)〉を押します。

- ［**4：AF方式**］の画面で設定することもできます。
- ライブビュー撮影時にコンティニュアスAFを行うことはできません（コンティニュアスAF機能は搭載していません）。

AF時のタッチ操作について



［**5：LV時のタッチ操作**］が［**標準**］［**敏感**］に設定されているときは（p.283）、ピントを合わせたい位置に指で触れて（画面にタッチして）、顔または被写体を選んで（AFフレームの移動）、ピントを合わせることができます。

- タッチシャッター機能は搭載していません。
- ［**3：電子音**］の設定に関わらず、タッチ操作を行ったときに電子音（タッチ音）は鳴りません。ただし、AFでピントが合ったときは、［**3：電子音**］の設定に応じて電子音（合焦音）が鳴ります。

（顔）＋追尾優先AF：AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈 〉も動いて顔を追尾します。

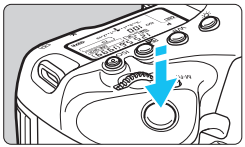
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈 〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈 〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外の被写体にタッチしたときは、AFフレームが〈 〉に変わります（p.286）。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ 顔が検知できないときや、画面にタッチしなかったときは、ライブ1点AF（p.287）に切り換わります。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.272）。

● 人の顔以外にピントを合わせるとき

・ピントを合わせたい被写体（位置）にタッチします。
・〈✥〉または〈(SET)〉を押すと、画面にAFフレーム〈[ ]〉が表示され、〈✥〉でAFフレームを移動することができます。
・被写体にAFフレーム〈[ ]〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AFフレーム〈[ ]〉も動いて被写体を追尾します。

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（p.291）、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができないため、〈[ ]〉または〈[ ]〉が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、ライブ1点AFでピント合わせが行われます。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

ライブ1点AF：AF□

1点のAFフレームでピント合わせを行います。狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。



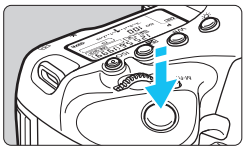
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。
- ［**動画サーボAF**］を［**する**］に設定したときは、AFフレームが大きく表示されます。



2 AFフレームを移動する

- 〈✣〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈✣〉〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 画面にタッチして、AFフレームを移動することもできます。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.272）。

AFに関するおことわり

AFの動作について

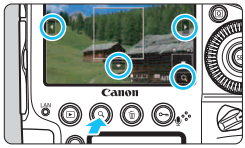
- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AF中とAFを行った後で、映像の明るさが変わることがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。

- AFでピントが合わないときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行ってください（p.291）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 外部ストロボからAF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 近づく、または遠ざかる被写体
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

ライブ1点AF時の拡大表示について



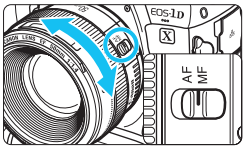
［**ライブ1点AF**］のときに〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された［🔍］にタッチすると、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

- AFフレームを移動するときは、〈✥〉を操作するか、拡大したい部分にタッチします。
- 〈Q〉ボタンを押すか［🔍］にタッチすると、拡大表示されます。〈Q〉ボタンを押す、または［🔍］にタッチするごとに拡大倍率が切り換わります。
- 等倍（約1倍）表示のときに〈✥〉を操作するか、画面にタッチすると、拡大表示枠を移動することができます。〈✥〉〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すと、拡大表示枠が画面中央に戻ります。
- 〈Q〉ボタンを押すか［🔍］にタッチすると、拡大表示枠の位置が拡大表示されます。
- 約5倍、約10倍表示のときに〈✥〉を操作するか、画面の上下左右に表示された「三角」のマークにタッチすると、拡大位置を変更することができます。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままAFが行われます。
- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。

- ［**+追尾優先AF**］のときは拡大表示できません。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、動画サーボAF（p.331）は行われません。
- 拡大表示中の映像は、色収差補正、歪曲収差補正が行われていない状態で表示されます。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

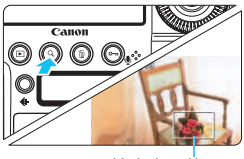
MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

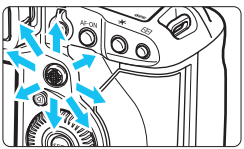
- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



拡大表示枠

2 拡大表示枠を表示する

- 〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された［🔍］にタッチします。
- ➡ 拡大表示枠が表示されます。



3 拡大表示枠を移動する

- 〈✥〉を操作するか、拡大したい部分にタッチして、ピントを合わせたい位置に拡大表示枠を移動します。
- 〈✥〉〈SET〉または〈🗑〉ボタンを押すと、拡大表示枠が画面中央に戻ります。



AEロック
拡大表示位置
拡大率（約）

4 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された［🔍］にタッチするたびに、次のように画面が切り換わります。

通常表示 → 1倍 → 5倍 → 10倍

- 拡大した状態で〈✥〉を操作するか、画面の上下左右に表示された「三角」のマークにタッチすると、拡大位置を変えることができます。

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈Q〉ボタンを押して通常表示にします。

6 撮影する

- 露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.272）。

拡大表示中は露出が固定されます（シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます）。

ライブビュー撮影全般の注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い〈🌡〉と赤い〈🔥〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🔥〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🔥〉は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、ライブビュー撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🔥〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🌡〉が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

ライブビュー撮影全般の注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**1：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

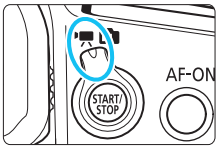
- ライブビュー撮影時は、一部のカスタム機能は機能しません（設定が無効になるカスタム機能があります）。詳しくは420ページを参照してください。

レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光、ストロボメータードマニュアル撮影はできません。

8

動画を撮影する



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、動画を撮影することができます。

- **動画撮影を行う前に316ページを参照して、各動画記録画質で動画が記録できるカードを確認してください。**
- カメラを手に持って動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

Full HD 1080について

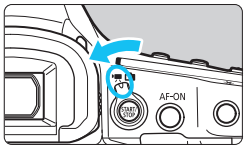
Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

FULL HD 1080

動画を撮影する

自動露出撮影

撮影モードが〈**P**〉〈**bulb**〉のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。なお、露出制御の内容は〈**P**〉〈**bulb**〉で同じです。



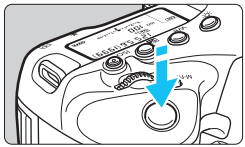
1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



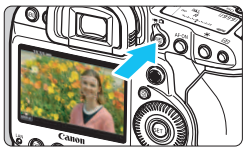
2 撮影モードを〈P〉〈bulb〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈☆〉または〈◯〉を回して〈**P**〉または〈**bulb**〉を選びます。



3 ピントを合わせる

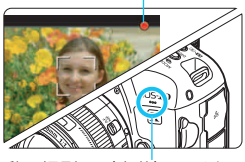
- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.284）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。



4 動画を撮影する

- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- ➡ 動画撮影中は画面右上に［●］が表示されます。
- ➡ 音声は動画撮影用の内蔵マイクで記録されます。
- もう一度〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

動画撮影中



動画撮影用（内蔵）マイク

シャッター優先AE撮影

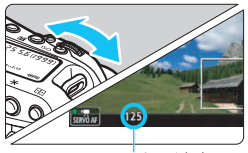
撮影モードを〈**Tv**〉に設定すると、任意にシャッター速度を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

2 撮影モードを〈Tv〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈☆〉または〈◎〉を回して〈**Tv**〉を選びます。



シャッター速度

3 シャッター速度を設定する

- 液晶モニターを見ながら〈☆〉を回します。
- 設定できるシャッター速度は、フレームレートにより異なります。304ページを参照してください。



4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです（p.296）。

- 動画撮影中にシャッター速度の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- ハイフレームレート動画撮影時は、シャッター速度の下限が、NTSC設定時：1/125秒／PAL設定時：1/100秒になります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

絞り優先AE撮影

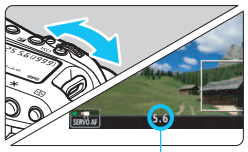
撮影モードを〈**Av**〉に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッター速度は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

2 撮影モードを〈Av〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈〉または〈◯〉を回して〈**Av**〉を選びます。



絞り数値

3 絞り数値を設定する

- 液晶モニターを見ながら〈〉を回します。



4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです(p.296)。

動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈bulb〉モード時のISO感度について

FHD：フルHD動画撮影時

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- [**2：ISO感度に関する設定**]の[**動画撮影の範囲**]の[**上限値**]を[**H2 (204800)**]に設定すると（p.330）、自動設定範囲の上限がH2（ISO204800相当）まで拡張されます。なお、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～25600）から狭めても機能しません。
- [**2：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定したときは（p.193）、ISO感度の自動設定範囲がISO200～25600になります。

4K：4K動画撮影時

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- [**2：ISO 感度に関する設定**]の[**4K の範囲**]の[**上限値**]を[**H2 (204800)**]に設定すると（p.330）、自動設定範囲の上限がH2（ISO204800相当）まで拡張されます。なお、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～12800）から狭めても機能しません。
- [**2：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定したときは（p.193）、ISO感度の自動設定範囲がISO200～12800になります。

- 動画撮影時は、L（ISO50相当）、H3（ISO409600相当）のISO感度拡張はできません。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にISO感度の設定を再確認してください。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈bulb〉モード共通事項

- 〈✳〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊡〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊡〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 電源スイッチを〈**ON**〉の位置にして〈◎〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 〈**P**〉〈**bulb**〉モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッター速度、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**bulb**〉モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています（ただし305ページの情報表示の画面にLEDライトの点灯を表すマークは表示されません）。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

マニュアル露出撮影

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

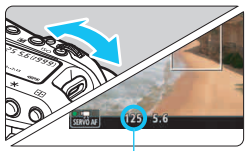
2 撮影モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押し、〈☆〉または〈◯〉を回して〈**M**〉を選びます。

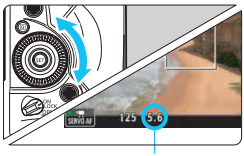


3 ISO感度を設定する

- 〈**ISO**〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに ISO 感度の設定画面が表示されます。
- 〈☆〉または〈◯〉を回して設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。



シャッター速度



絞り数値

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は〈☆〉、絞り数値は〈◯〉を回して設定します。
- 設定できるシャッター速度は、フレームレートにより異なります。304ページを参照してください。

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです（p.296）。

〈M〉モード時のISO感度について

FHD：フルHD動画撮影時

- [AUTO]（A）のときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。なお、[**2：ISO感度に関する設定**]の[**動画撮影の範囲**]の[**上限値**]を[**H2 (204800)**]に設定すると（p.330）、自動設定範囲の上限がH2（ISO204800相当）まで拡張されます。なお、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～25600）から狭めても機能しません。
- 手動設定のときは、ISO100～25600の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。なお、[**動画撮影の範囲**]の[**上限値**]を[**H2 (204800)**]に設定すると、手動設定範囲の上限がH2（ISO204800相当）まで拡張されます。また、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～25600）から狭めることもできます。
- [**2：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定したときは（p.193）、ISO感度の自動/手動設定範囲がISO200～25600になります。

4K：4K動画撮影時

- [AUTO]（A）のときは、ISO100～12800 の範囲で自動設定されます。なお、[**2：ISO感度に関する設定**]の[**4K の範囲**]の[**上限値**]を[**H2 (204800)**]に設定すると（p.330）、自動設定範囲の上限がH2（ISO204800相当）まで拡張されます。なお、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～12800）から狭めても機能しません。
- 手動設定のときは、ISO100～12800の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。なお、[**4K の範囲**]の[**上限値**]を[**H2 (204800)**]に設定すると、手動設定範囲の上限がH2（ISO204800相当）まで拡張されます。また、[**上限値**][**下限値**]による範囲を初期状態（ISO100～12800）から狭めることもできます。
- [**2：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定したときは（p.193）、ISO感度の自動/手動設定範囲がISO200～12800になります。

- 動画撮影時は、L（ISO50相当）、H3（ISO409600相当）のISO感度拡張はできません。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にISO感度の設定を再確認してください。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- ハイフレームレート動画撮影時は、シャッター速度の下限が、NTSC設定時：1/125秒／PAL設定時：1/100秒になります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- 手順4でシャッター速度、絞り数値が設定できないときは、電源スイッチを〈**ON**〉の位置にしてから〈  〉または〈  〉を回します。
- ［**6：操作ボタンカスタマイズ**］で［**：露出補正（押しながら）**］に設定すると(p.456)、ISOオート設定時に露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈⊞〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.305）で確認することができます。
- 撮影準備状態で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

設定できるシャッター速度について

〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**M**〉マニュアル露出撮影時に設定できるシャッター速度は、設定した動画記録画質のフレームレートによって異なります。

フレームレート	設定できるシャッター速度
119.9P	1/4000～1/125秒
100.0P	1/4000～1/100秒
59.94P	1/4000～1/60秒
50.00P	1/4000～1/50秒
29.97P	1/4000～1/30秒
25.00P 24.00P 23.98P	1/4000～1/25秒

静止画撮影について

動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

情報表示について

〈INFO.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



* 1回の撮影可能時間です。

● 設定に応じた部分のみ表示されます。

- [**AF方式**] が [**ライブ1点AF**] のときに〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.82）。
- [**AF方式**] が [**+追尾優先AF**] のときと、カメラとテレビがHDMIケーブルで接続されているときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- [**1：記録機能とカード・フォルダ選択**] の [**記録機能**] を [**同一書き込み**] に設定しても（p.153）、動画をCFカード [1] とCFastカード [2] に同時記録することはできません。なお、[**振り分け**] [**同一書き込み**] に設定されているときは、[**再生**] に設定されているカードに動画が記録されます。
- 〈AWB〉〈AWB W〉の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- 動画撮影中に〈Q〉ボタンを押しても、拡大表示はできません。
- 動画撮影用の内蔵マイク（p.296）を指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。

⚠ 警告
長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

- **『動画撮影全般の注意事項』は、341～342ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて293～294ページの『ライブビュー撮影全般の注意事項』もお読みください。**

動画撮影時共通事項

- [📷4] [📷5] タブで動画撮影に関する設定を行うことができます（p.331）。
- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は4K撮影時：約100%、フルHD撮影時：約100%です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- [📷5：ボタンの機能] で [AF/🎥] [⏺/🎥] を選ぶと、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます（p.337）。
- 音声はカメラに内蔵された動画撮影用のマイク（p.296）でモノラル録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.28）に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます（p.323）。
- ミニプラグ（φ3.5mm）を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E19で動画撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約2時間20分、低温（0℃）：合計約2時間です（[📷4：動画サーボAF：しない]、FHD 29.97P/25.00P/24.00P/23.98P IPB設定時）。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先

撮影機能の設定

MODE／AF／ISO／▨／WB設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈MODE〉／〈DRIVE•AF〉／〈ISO〉／〈▨〉／〈WB〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈  〉または〈  〉で撮影機能の設定を行うことができます。

- マニュアル露出撮影時（p.301）に〈ISO〉ボタンを押すと、ISO感度を設定することができます。ISO感度の設定については、302ページを参照してください。
- 〈WB〉ボタンを押したあと〈INFO.〉ボタンを押すと、WB補正の設定を行うことができます。
- ドライブモード、測光モード、調光補正は設定できません。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、AF方式／動画記録サイズ／録音レベル（マニュアル／ライン入力設定時）／音量（ヘッドフォン）／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザの設定を行うことができます。



1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈✲〉で機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の設定内容が、画面に表示されます。
- 〈◯〉または〈◯〉を回して設定します。
- 動画記録サイズの設定を行うときは、〈(SET)〉を押します。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選んだ状態で〈(SET)〉を押します。
- WB補正の設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 〈(SET)〉を押すと動画撮影に戻ります。

［📷4：動画記録画質］の［ハイフレームレート］が［入］に設定されているときは、録音レベルの項目は表示されません。また、動画記録サイズの設定はできません。

MENU 動画記録画質の設定



［**4：動画記録画質**］で、動画記録形式、動画記録サイズ（画像サイズ、フレームレート、映像記録方式／圧縮方式）などを設定することができます。

なお、［**動画記録サイズ**］の画面に表示されるフレームレートは、［**3：ビデオ方式**］の設定（p.499）により自動的に切り換わります。

動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み／読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録画質により異なります。動画撮影を行う前に316ページを参照して、要求カード性能を確認してください。

MOV/MP4

動画の記録形式を選ぶことができます。



MOV MOV

MOV形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MOV」）。パソコンなどでの編集などに適しています。

MP4 MP4

MP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。MOV形式よりも再生互換性が高いファイル形式です。

［**MP4**］設定時は、［**ハイフレームレート**］は設定できません。

動画記録サイズ

動画の画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を選ぶことができます。



● **画像サイズ**

4K 4096×2160

4K画質で記録します。画面の横縦比は約17：9です。なお、4K 59.94P／50.00P MJPG動画を撮影するときは、CFastカードを使用してください。

FHD 1920×1080

フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

119.9P 119.9fps／59.94P 59.94fps／29.97P 29.97fps

テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。119.9Pについては、318ページを参照してください。

100.0P 100.0fps／50.00P 50.00fps／25.00P 25.00fps

テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。100.0Pについては、318ページを参照してください。

23.98P 23.98fps／24.00P 24.00fps

主に映画関連で使用します。24.00Pについては、317ページを参照してください。

23.98P（23.98fps）は、[3:ビデオ方式]を[NTSC]に設定したときに選択できます。

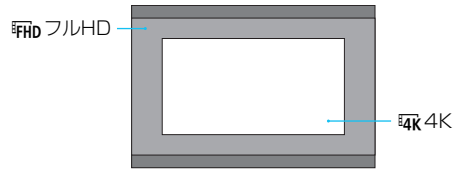
● 4K動画撮影について

- 4K動画を撮影するには高性能なカードが必要です。特に 4K 59.94P / 50.00P の動画を撮影するときは、CFastカードを使用してください。詳しくは、316ページの『動画が記録できるカードについて』を参照してください。
- 4K 動画撮影時やハイフレームレート動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。動画撮影時に赤い 88 が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約880万画素（4096×2160）のJPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（p.374）。

カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（p.74）。

● 撮影範囲について

撮像素子の以下の範囲を使って4K動画、フルHD動画の撮影が行われます。



- 4K動画撮影時は、［**2：高感度撮影時のノイズ低減**］は機能しません。そのため撮影条件によっては、ノイズが多くなることがあります。
- ［**3：ビデオ方式**］の設定を変更したときは、動画記録サイズを再設定してください。
- 4K動画、ハイフレームレート動画、FHD 59.94P / 50.00Pで撮影した動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 同じフルHD画質の動画でもフレームレートの設定により、解像感やノイズ感は多少異なります。
- 4K 59.94P / 50.00P撮影時に液晶モニターに表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。

- 動画記録サイズの画面に表示される項目（フレームレート）は、［**3：ビデオ方式**］の［NTSC］［PAL］の設定に応じて変わります。
- ハイビジョン（HD）画質、標準（VGA）画質の動画を撮影することはできません。
- 画像サイズをフルHDから4Kに変更すると、動画撮影範囲がやや望遠側に変化します。
- 4K動画の撮影範囲は、EOS-1D Cと異なります。
- カラーサンプリングは、4K：YCbCr 4:2:2（8bit）、フルHD：YCbCr 4:2:0（8bit）、カラーマトリックスは、4K：Rec. ITU-R BT.601、フルHD：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

● **映像記録方式／圧縮方式**

MJPG **MJPG**

動画記録形式が［**MOV**］のときに選択できます。Motion JPEG形式で圧縮して記録されます。フレーム間の圧縮を行わず、1フレーム単位で圧縮して記録するため、圧縮率が低くなります。また、4K画質で画像サイズも大きいため、ファイルサイズが大きくなります。

ALL-I **ALL-I**（編集用／I-only）

動画記録形式が［**MOV**］のときに選択できます。1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

IPB **IPB**（標準）

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-I（編集用）よりもファイルサイズが小さくなるため、（同じ容量のカードであれば）撮影できる時間が長くなります。

IPB **IPB**（軽量）

動画記録形式が［**MP4**］のときに選択できます。IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）4つの方式の中で撮影できる時間が最も長くなります。

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が下表の速度、または規格以上で、大容量のカードを使用してください。なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録画質（p.311）で正しく記録できるかどうか確認してください。

動画記録画質			CFカード	CFastカード
4K	59.94P 50.00P	MJPG	—	CFast2.0
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	MJPG	UDMA7 100MB/秒以上	CFast2.0
FHD	119.9P 100.0P	ALL-I	UDMA7 100MB/秒以上	CFast2.0
	59.94P 50.00P	ALL-I	UDMA7 60MB/秒以上	CFast2.0
	59.94P 50.00P	IPB	30MB/秒以上	
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	30MB/秒以上	
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	IPB	10MB/秒以上	
	29.97P 25.00P	IPB	10MB/秒以上	

● 4K 59.94p/50.00p撮影について

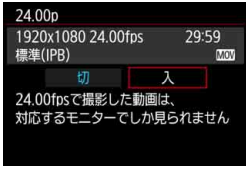
4K 59.94P／50.00P MJPGの動画を撮影するときは、CFastカード（CF）を使用してください。なお、高速タイプのCFカードを使用しても、一度にごく短時間（最大約10秒程度）しか記録できません（動画撮影が自動的に停止します）。

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- ビットレートについては、532ページを参照してください。

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（p.74）。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせてご確認ください。

24.00p

フレームレートが24.00fpsの動画を撮影するときに設定します。



［入］に設定したときは、4K 24.00P MJPG、FHD 24.00P ALL-I、FHD 24.00P IPB から動画記録画質を選ぶことができます。

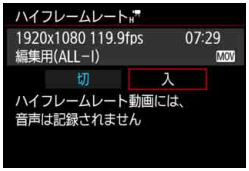
［**動画記録サイズ**］の設定を行ったあとで、［**24.00p**］を［**入**］にしたときは、もう一度［**動画記録サイズ**］の設定を行ってください。

［24.00p：入］設定時の注意事項

- ［**MP4**］設定時は、［**動画記録サイズ**］の設定はできません。FHD 24.00P IPB に設定されます。
- ［**ハイフレームレート**］（p.318）は設定できません。
- ［**3：ビデオ方式**］は設定できません。
- ［**3：HDMI出力フレームレート**］（p.340）は設定できません。1080/24.00pで映像がHDMI出力されます。なお、1080/24.00pの信号に対応していないテレビなどにHDMI接続したときは、映像が表示されないことがあります。
- 設定を［**切**］に戻すと、［**3:HDMI出力フレームレート**］の設定が［**自動**］になります。
- 設定を［**切**］に戻しても元の動画記録サイズの設定には戻りません。再度、動画記録サイズの設定を行ってください。

ハイフレームレート

フルHD画質で119.9fps/100.0fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。



FHD 119.9P ALL-I MOV、または FHD 100.0P ALL-I MOV で記録されます。

ハイフレームレート動画に音声は記録されません。

なお、動画撮影時にタイムコードを表示しているときは、実時間1秒で4秒分カウントアップします。

なお、ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

［ハイフレームレート：入］設定時の注意事項

- ［**5：タイムコード**］の［**カウントアップ**］を［**フリーラン**］に設定したときは(p.326)、タイムコードは記録されません。
- ［**MOV/MP4**］［**動画記録サイズ**］［**24.00p**］の設定はできません。
- 設定を［**切**］に戻しても元の動画記録サイズの設定には戻りません。再度、動画記録サイズの設定を行ってください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレームレート動画撮影時に液晶モニターに表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- ヘッドフォンは使用できません（音声は聞こえません）。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

●MOV形式設定時　（約）

動画記録画質		カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
		4GB	16GB	64GB	
4K：4K					
59.94P 50.00P	MJPG	39秒	2分	10分	5733MB/分
29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	MJPG	1分	4分	17分	3587MB/分
FHD：フルHD					
119.9P 100.0P	ALL-I	1分	5分	23分	2585MB/分
59.94P 50.00P	ALL-I	2分	11分	47分	1298MB/分
59.94P 50.00P	IPB	8分	34分	138分	440MB/分
29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	5分	23分	93分	654MB/分
29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	IPB	16分	67分	270分	225MB/分

●MP4形式設定時　（約）

動画記録画質		カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
		4GB	16GB	64GB	
FHD：フルHD					
59.94P 50.00P	IPB	8分	35分	141分	431MB/分
29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	IPB	17分	70分	281分	216MB/分
29.97P 25.00P	IPB	43分	173分	695分	87MB/分

カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.341）。

● **ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について**

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

● **このカメラで初期化した「128GBまでのCFカード」使用時**

容量が128GBまでのCFカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。

FAT32形式でフォーマットされたCFカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。

なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● **このカメラで初期化した「128GBを超えるCFカード」「CFastカード」使用時**

容量が128GBを超えるCFカード、またはCFastカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。

exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず)1つの動画ファイルに記録されます(4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか（p.550）、カードリーダーを使用してください（p.551）。カメラとパソコンをつないで、パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルは取り込まれません。
- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超え、複数の動画ファイルが作成されたときに、その一部の動画ファイルを消去すると、EOS MOVIE Utility（p.553）で1つの動画として連続再生したり、結合保存することができなくなります。

EOS MOVIE Utilityを使用すると、4GBごとに分割されたMOV形式の動画ファイルを自動的に結合して、1つの動画ファイルとして保存することができます。

● 撮影時間の制限について

● ハイフレームレート以外の動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

● ハイフレームレート動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

MENU 録音の設定



内蔵のモノラルマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

［**4：録音**］で録音に関する設定を行うことができます。

録音／録音レベル

オート　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

マニュアル：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。

［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◯〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

ライン入力：音声をライン入力することができます。入力された音声は映像とともに動画に記録されます。なお、録音レベルは64段階で任意に調整することができます。調整方法は［**マニュアル**］と同じです。

しない　：録音は行われません。また、HDMI 出力時（p.338）に音声は出力されません。

ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。また、［**4：録音**］の設定はできません。

ウィンドカット／アッテネーター

ウィンドカット：［入］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。動画撮影用の内蔵マイク使用時のみ機能します。ただし、［入］に設定すると、低い音の一部も低減されるため、風の影響を受けない場所では［切］に設定することをおすすめします。［入］のときよりも自然な音で録音されます。

アッテネーター：音割れを抑制する機能です。［録音］を［オート］または［マニュアル］に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは［入］に設定することをおすすめします。

● **マイクについて**

通常は動画撮影用の内蔵マイクでモノラル録音されます。

外部マイク入力端子（p.28）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた外部ステレオマイクを接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします。

● **ライン入力について**

ミキサーなどからステレオでライン出力した音声を、カメラに直接入力することができます。ライン入力端子（p.28）にミニプラグ（φ3.5mm）を接続すると、音声がステレオで動画に記録されます。標準入力レベルは－8dBVです。ライン出力レベルに合わせて録音レベルの調整を行ってください。

● **ヘッドフォンについて**

ヘッドフォン端子（p.28）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。外部ステレオマイクを使用したときは、ステレオで聴くことができます。ヘッドフォンの音量を調整するときは、〈Q〉ボタンを押して〈🎧〉を選び、〈◎〉を回して調整します（p.310）。

なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用すると、これらの音を録音しないように（低減）できる場合があります。
- ライン入力時は最大+ 6dBV までの音声を入力できますが、標準入力レベル（−8dBV）以上の音声を入力すると、ひずみ率が悪化することがあります。事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ライン入力時は、必ず［**録音**］の設定を［**ライン入力**］に設定してください。［**ライン入力**］以外の設定で音声を入力すると、故障の原因になります。
- ［**ライン入力**］設定時は、動画撮影用の内蔵マイクによる録音は行われません。また［**ウィンドカット**］［**アッテネーター**］は設定できません（機能しません）。
- ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、［**マニュアル**］［**ライン入力**］の設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（［**録音：しない**］設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起こったときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。
- ［**📷5：動画サイレント設定**］を［**有効**］にすると（p.325）、動画撮影中に〈✥〉（十字タッチパッド）を使って操作音を抑えながら録音レベルを調整することができます。

MENU 動画サイレント設定

動画撮影中に操作音を抑えながら、ISO感度や録音レベルなどの設定を変更することができます。







［**5：動画サイレント設定**］を［**⊕有効**］に設定すると、サブ電子ダイヤルの内側にある、〈⊕〉（十字タッチパッド）が機能するようになります。

〈⊕〉の上下左右に触れるだけで静かに操作することができます。

動画撮影中に〈Q〉ボタンを押して、クイック設定状態にすると、〈⊕〉で以下の機能の設定を変更することができます。

変更可能項目	撮影モード			
	P/bulb	Tv	Av	M
シャッター速度	−	○	−	○
絞り数値	−	−	○	○
露出補正	○	○	○	○*1
ISO感度	−	−	−	○
録音レベル*2	○	○	○	○
∩音量	○	○	○	○

*1：ISOオート設定時
*2：［**録音：マニュアル／ライン入力**］設定時

- ［**5：動画サイレント設定**］を［**⊕有効**］に設定したときは、動画撮影中に〈◯〉〈⟳〉（サブ/メイン電子ダイヤル）でクイック設定を行うことはできません。
- 〈⊕〉で絞り数値を静かに変更しても、絞りの駆動音は動画に記録されます。
- 〈⊕〉に水や汚れなどが付くと、動作しないことがあります。そのときは、布などできれいにふき取ってください。ふき取っても動作しないときは、しばらく経ってから操作してください。

動画撮影開始前は、［**録音レベル**］の設定で〈⊕〉を使って録音レベルの調整を行うことができます。

MENU タイムコードの設定



タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

［**5：タイムコード**］でタイムコードの設定を行うことができます。

カウントアップ

レックラン：動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

フリーラン：動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

手動入力設定：「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

リセット：［**手動入力設定**］［**カメラ時間に設定**］で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります（p.329）。

カメラ時間に設定：カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

- ［**フリーラン**］の設定でハイフレームレート動画撮影を行ったときは、タイムコードは付加されません。
- ［**フリーラン**］設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると（p.55）、タイムコードに影響が生じます。
- MP4形式で撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

記録時間　：動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。
タイムコード：動画撮影時にタイムコードが表示されます。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

記録時間　：動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
タイムコード：動画再生時にタイムコードが表示されます。

［タイムコード］設定時



動画撮影時



動画再生時

- タイムコードは、［**動画記録カウント**］の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画＋［**フリーラン**］設定時を除く）。
- ［**5：タイムコード**］の［**動画再生カウント**］と［**3：動画再生カウント**］は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

HDMI

● **タイムコード**

HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

入：HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。［**入**］に設定すると、［**記録コマンド**］が表示されます。

切：HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

● **記録コマンド**

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始／停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

入：動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録が同期します。

切：外部記録機器側で記録開始／停止を行います。

- ハイフレームレート動画撮影時に、［**タイムコード**］の［**カウントアップ**］を［**フリーラン**］に設定してHDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- 使用する外部記録機器が［**タイムコード**］［**記録コマンド**］に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- ［**タイムコード**］を［**切**］に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

ドロップフレーム

フレームレートの設定が、119.9P（119.9fps）、59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。[**する**] 設定時はこの差が自動的に補正されます。この機能を「ドロップフレーム」といいます。動画編集などを行う上級者向けの機能です。

する　：タイムコードを間引く補正が自動的に行われます（DF：ドロップフレーム）。

しない　：補正は行われません（NDF：ノンドロップフレーム）。

なお、タイムコードは次のように表示されます。

する（DF）　：00:00:00.（再生時：00:00:00.00）
しない（NDF）　：00:00:00:（再生時：00:00:00:00）

フレームレートが100.0P（100.0fps）、50.00P（50.00fps）、25.00P（25.00fps）、24.00P（24.00fps）、23.98P（23.98fps）のときは、ドロップフレームは行われません（100.0P/50.00P/25.00P/24.00P/23.98P設定時、および［**3：ビデオ方式**］が［**PAL**］に設定されているときは、［**ドロップフレーム**］の項目は表示されません）。

MENU メニュー機能の設定

📷2



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、[📷2：**ISO感度に関する設定**]の設定項目が、[**ISO感度設定**] [**動画撮影の範囲**] [**4K の範囲**] に変わります。

● ISO感度に関する設定

● ISO感度設定

〈**M**〉モードの時に、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。〈**ISO**〉ボタンでも同じ設定を行うことができます。

● 動画撮影の範囲

フルHD動画撮影時のISO感度の自動／手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。初期状態ではISO100～25600に設定されています。下限値はISO100～H1（ISO102400相当）、上限値はISO200～H2（ISO204800相当）の範囲で設定することができます。

● 4K の範囲

4K動画撮影時のISO感度の自動／手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。初期状態ではISO100～12800に設定されています。下限値はISO100～H1（ISO102400相当）、上限値はISO200～H2（ISO204800相当）の範囲で設定することができます。

- フルHD撮影時のISO32000/40000/51200、4K動画撮影時のISO16000/20000/25600/32000/40000/51200は拡張感度です。設定時に［H］と表示されます。
- 静止画撮影（ファインダー撮影／ライブビュー撮影）時の［📷2：**ISO感度に関する設定**］については、166ページを参照してください。

4



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、［4］［5］タブが、動画撮影特有の項目として表示されます。

● **動画サーボAF**

動画撮影のときに被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。初期設定では［**する**］に設定されています。

［する］設定時

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、以下の方法で動画サーボAFを一時的に停止することができます。
  - ・画面左下の［SERVO AF］にタッチする
  - ・［6：**操作ボタンカスタマイズ**］で［**動画サーボAF一時停止**］（p.454）を割り当てたときは、そのボタンを押すと動画サーボAFが停止します。もう一度ボタンを押すと動画サーボAFが再開します。
  - ・［**AF停止**］（p.451）を割り当てたときは、そのボタンを押している間、動画サーボAFが停止します。ボタンを離すと動画サーボAFが再開します。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

［しない］設定時

- シャッターボタンを半押しするか、〈AF-ON〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

［動画サーボAF：する］設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - ・速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - ・近距離で動いている被写体
  - ・絞り数値が大きいとき
  - ・289ページの『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。
- 常にレンズが作動して電池を消耗するため、動画撮影できる時間（p.307）が短くなります。
- レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用することで、作動音の記録を低減できる場合があります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。
- 動画サーボAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にしてから操作してください。

● **AF方式**

［**+追尾優先AF**］［**ライブ1点AF**］が選択できます。AF方式については、284ページを参照してください。

● **グリッド**

［**9分割**］または［**24分割**］でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを撮影開始前に確認することができます。また、［**9分割+対角**］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図にすることができます。

なお、動画撮影中は液晶モニターにグリッドは表示されません。

● **動画記録画質**

動画記録形式（MOV／MP4）、動画記録サイズ、24.00pの設定、ハイフレームレート動画の設定を行うことができます。詳しくは311ページを参照してください。

● **録音**

録音に関する設定を行うことができます。詳しくは322ページを参照してください。

● 動画サーボAF時のAF速度





動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。

また、この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

作動条件：設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（［**常時**］）、動画撮影中のみ有効にするか（［**撮影中**］）を設定することができます。

AF速度：作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さから遅い方向に7段階、速い方向に2段階の調整を行うことができます。

＊「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

［**AF方式**］が［**ﾋﾞ+追尾優先AF**］のときは、［**AF速度**］を［**標準 (0)**］に設定したときと同じ動作になります。

● 動画サーボAFの被写体追従特性



動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、AFフレームが被写体から外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。

粘る：-3/-2/-1

AFフレームが被写体から外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

敏感：+1/+2/+3

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

［**AF方式**］が［**+追尾優先AF**］のときは、［**0**］に設定したときと同じ動作になります。

📷5



● **測光タイマー**

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● **LV時のタッチ操作**

ライブビュー撮影時、動画撮影時に液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、AFフレームの移動や拡大操作を行うことができます。

通常は［**標準**］を選びます。［**敏感**］に設定すると、［**標準**］に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。タッチ操作を禁止するときは、［**しない**］を選びます。

● **タイムコード**

タイムコードを設定することができます。詳しくは326ページを参照してください。

［📷**3：電子音**］の設定に関わらず、タッチ操作を行ったときに電子音（タッチ音）は鳴りません。ただし、AFでピントが合ったときは、［📷**3：電子音**］の設定に応じて電子音（合焦音）が鳴ります。

● 動画サイレント設定

［**有効**］にすると、動画撮影中のクイック設定時に〈✥〉十字タッチパッドを使って、操作音を抑えながら設定を変更することができます。詳しくは325ページを参照してください。

● ボタンの機能



動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。

項目	半押し	全押し
AF/−	測光・AF	無効
/−	測光のみ	無効
AF/	測光・AF	動画撮影の開始/終了
/	測光のみ	動画撮影の開始/終了

なお、［AF/］［/］に設定すると、〈START/STOP〉ボタンだけでなく、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます（p.258）。

［**6:操作ボタンカスタマイズ**］でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は［**ボタンの機能**］の設定が優先されます。

HDMI接続時の表示



外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。映像はフルHD（1920×1080）画質で出力されます。なお、初期状態では［］に設定されています。

［］設定時

- HDMI出力を行ったときは、カメラの液晶モニターが消灯します。
- HDMI出力した映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〈INFO.〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。
- HDMI接続を行わずに、カメラの液晶モニターを見ながら〈INFO.〉ボタンを押しても、情報なし出力の設定はできません。
- 情報なしの映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。［情報表示なし］に設定することをおすすめします。

［情報表示なし］設定時

- HDMI出力を行ったときは、カメラの液晶モニターが消灯します。
- 映像のみHDMI出力されます（撮影情報やAFフレームなどは表示されません）。

［+］設定時

- 液晶モニターに映像を表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。
- 画像再生やメニュー表示を行っても、HDMI出力先に画像やメニュー画面は表示されません。

? HDMI出力を長時間行いたい

30分以上連続してHDMI出力を行うときは、[□]または[□情報表示なし]を選び、[⚡2：オートパワーオフ]を[しない]に設定してください（p.76）。

- 4K画質のHDMI出力はできません（[動画記録サイズ]が 4K に設定されていても、フルHD画質で出力されます）。
- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇（p.341）などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。特に［□情報表示なし］設定時は注意してください。［📷+□］設定時は、カメラの液晶モニターで警告を確認することができます。
- 動画撮影を行わないときは、［⚡2：オートパワーオフ］の設定時間で自動的に電源が切れます。なお、［📷+□］選び、［⚡2：オートパワーオフ］を［しない］に設定したときは、カメラを操作せずに30分経過すると、HDMI出力が停止します（動画撮影の状態が終了します）。
- ［□情報表示なし］設定時に〈DRIVE・AF〉〈WB〉ボタンなどを押すと、HDMI出力映像に設定画面が表示されることがあります。外部記録機器で映像を記録しているときは、ボタン操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

- 〈INFO.〉ボタンを押すと、画面に表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます（p.328）。
- HDMI出力時に音声も出力されます（[録音：しない]設定時を除く）。

3



● HDMI出力フレームレート

HDMI出力時のフレームレートを［**自動**］［**59.94i/50.00i**］［**59.94p/50.00p**］［**23.98p**］から選ぶことができます。HDMI出力した映像を市販の外部記録機器に記録する際に、外部記録機器が対応するフレームレートに合わせて設定します。

- ［**4：動画記録画質**］の［**24.00p**］が［**入**］に設定されているときは、［**3：HDMI出力フレームレート**］は設定できません。1080/24.00pで映像がHDMI出力されます。
- **4K** **59.94P** / **50.00P** の設定でHDMI出力を行ったときは、29.97p/25.00pの映像が［**HDMI出力フレームレート**］の設定に応じてHDMI出力されます。
- ハイフレームレート動画撮影時にHDMI出力を行っても、119.9p/100.0pで映像出力は行われません。

- 表示されるフレームレートの項目は、［**3：ビデオ方式**］の設定に応じて変わります。
- HDMI出力先の機器に映像が出力（表示）されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（出力先の機器が対応している方式に合わせてください）。
- 手動設定したフレームレートに外部記録機器が対応していないときは、フレームレートが自動設定されます。
- ［**3：HDMI出力フレームレート**］の［**59.94i**］［**59.94p**］と動画記録サイズ **23.98P**（23.98fps）の組み合わせのときは、「2-3プルダウン」処理が行われます。

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い〈🔥〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い〈🔥〉が表示されます。
- 赤い〈🔥〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🔥〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

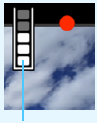
記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- 自動露出撮影、シャッター優先 AE 撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、絞り優先AE、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(MOV／MP4形式に対応していても) 再生できないことがあります。

動画撮影全般の注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。



インジケーター

- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

MP4形式の動画の制約について

MP4形式の動画には、一般的に以下の制約事項がありますので、ご了承ください。

- 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
- Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

9

画像の再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

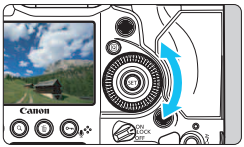
▶ 画像を再生する

1枚表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



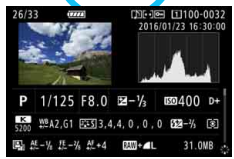
2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。


情報表示なし



簡易情報表示



撮影情報表示

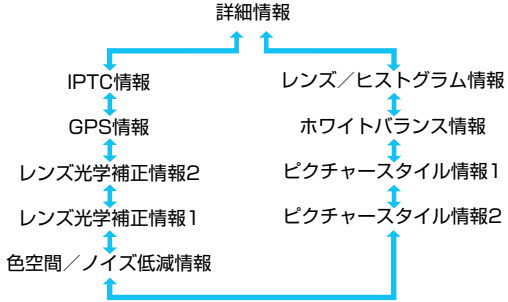
［📷7：トリミング情報の付加］を［しない（比率3：2）］以外に設定して（p.441）撮影した画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。

3 再生を終了する

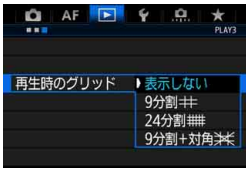
● 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

撮影情報表示について

撮影情報表示の画面（p.344）が表示されている状態で〈❋〉を上下に操作すると、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。詳しくは347～349ページを参照してください。



MENU グリッド表示について



1枚表示のときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。

［▶3:**再生時のグリッド**］で［**9分割**］［**24分割**］［**9分割+対角**］から選ぶことができます。

撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

動画再生時にグリッドは表示されません。

INFO.: 撮影情報の内容

静止画の例

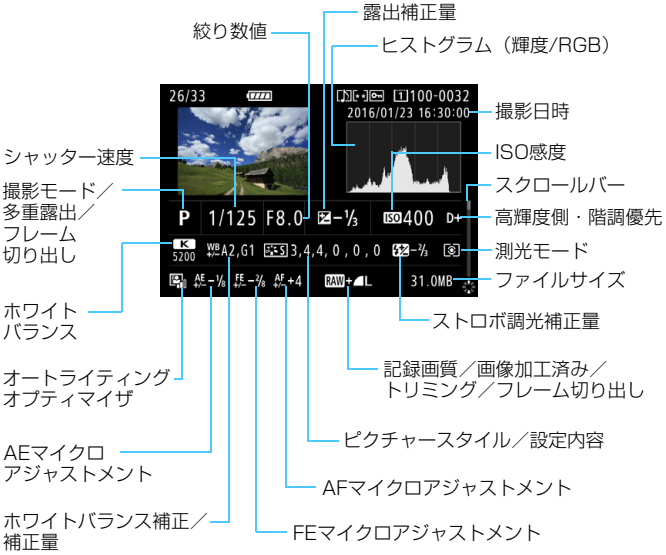
● 簡易情報表示



- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

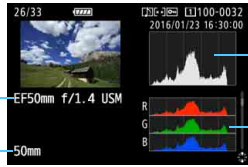
撮影情報表示

• 詳細情報



* RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* トリミング情報が付加された画像は（p.441）、撮影範囲を示す線が表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行った画像は、〈〉が表示されます。
* 多重露出撮影を行った画像は、〈〉が表示されます。
* RAW現像、リサイズ処理、トリミング、フレーム切り出しを行って保存した画像は、〈〉が表示されます。
* トリミングを行って保存した画像は、〈〉が表示されます。

• レンズ／ヒストグラム情報



• ホワイトバランス情報



• ピクチャースタイル情報1



• ピクチャースタイル情報2



4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は（p.374）、一部の撮影情報表示の画面は表示されません。

• 色空間／ノイズ低減情報



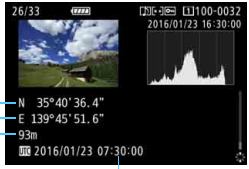
• レンズ光学補正情報1



• レンズ光学補正情報2



• GPS情報

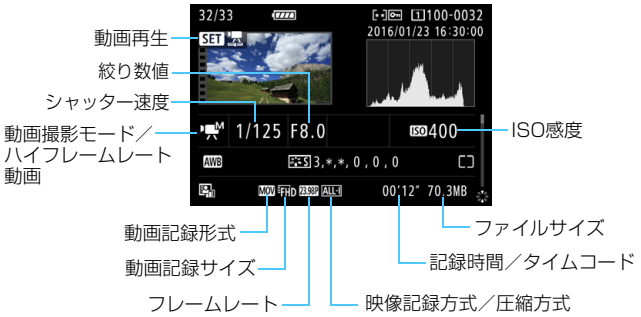


• IPTC情報



画像にGPS情報が記録されていないときや、IPTC情報が付加されていないときは、GPS情報の画面、IPTC情報の画面は表示されません。

動画の例



・〈 ／ 〉：シャッター速度、絞り数値、ISO感度は表示されません。
・〈 ／ 〉：絞り数値、ISO感度は表示されません。
・〈 ／ 〉：シャッター速度、ISO感度は表示されません。
・〈 ／ 〉＋ISOオート：ISO感度は表示されません。

動画再生時、［**ピクチャースタイル**］の［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］は、「*, *」と表示されます。

● **ハイライト警告表示について**

［▶3：**ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

AFフレーム表示について

［▶3：AFフレーム表示］を［する］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

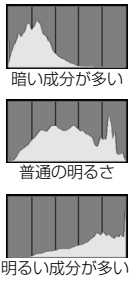
ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、［▶3：ヒストグラム］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



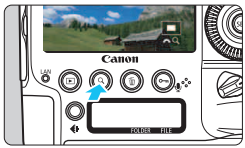
［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊞ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、「インデックス表示」といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。



1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態、または撮影準備状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面右下に［Q］が表示されます。



2 インデックス表示にする

- 〈⌒〉を左に回していきます。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈⌒〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。



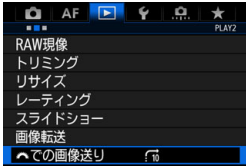


3 画像を選ぶ

- 〈✳〉または〈◎〉を操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して［Q］が表示されていない状態で〈⌒〉を回すと、1画面分先、または1画面分前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈(SET)〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈☆〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。



1 [☆での画像送り]を選ぶ

- [▶2]タブの[☆での画像送り]を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ジャンプ方法を選ぶ

- ジャンプ方法を選び〈(SET)〉を押します。

1：1枚ずつ画像表示
10：10枚飛びに画像表示
100：100枚飛びに画像表示
撮影日：撮影日を切り換えて画像を表示
フォルダ：フォルダを切り換えて画像を表示
動画：動画だけを表示
静止画：静止画だけを表示
プロテクト：プロテクト画像だけを表示
★：指定したレーティング（p.361）の画像を表示
〈☆〉を回してレーティングを指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。



ジャンプ方法

再生位置

3 画像送りをする

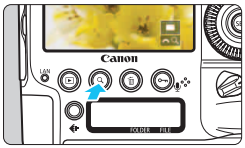
- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- １枚表示の状態で〈☆〉を回します。

➡ 設定した方法で画像が送られます。

- ［**撮影日**］は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- ［**フォルダ**］は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- ［**動画**］［**静止画**］は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- ［**プロテクト**］［**レーティング**］設定時に対象となる画像がないときは、〈☆〉を回しても画像送りは行われません。

拡大する

撮影した画像を約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

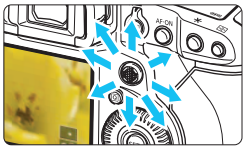




拡大表示位置

1 画像を拡大する

- ①画像再生中（1枚表示）、②撮影直後の画像表示中、③撮影準備状態から拡大することができます。
- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示になります。画面右下に拡大位置と［Q］が表示されます。
- 〈◌〉を右に回すたびに拡大します。約10倍まで拡大することができます。
- 〈◌〉を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示（p.352）になります（①③のみ）。



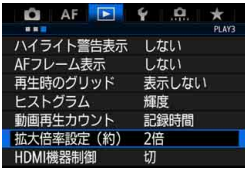
2 表示位置を移動する

- 〈✣〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉ボタンまたは〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。



- 〈◌〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります（①③のみ）。
- 動画は拡大表示できません。

MENU 拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する





［▶3］タブの［**拡大倍率設定（約）**］を選ぶと、拡大表示を開始したときの、表示倍率、拡大位置を設定することができます。

- **1倍（拡大なし）**
  拡大表示は行われません。1枚表示の状態で拡大表示が始まります。
- **2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）**
  選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。
- **等倍（任意選択合焦点から）**
  記録画像の画素を約110%で表示します。ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。
- **前回と同じ倍率（中央から）**
  前回、〈▶〉〈Q〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

［**+追尾優先AF**］［**ライブ1点AF**］（p.284）で撮影した画像や、［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定して（p.195）撮影した画像は、［**等倍（任意選択合焦点から）**］に設定しても画面中央から拡大表示が始まります。

回転させる

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。



1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像回転**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 回転させる画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して回転させる画像を選びます。
- インデックス表示（p.352）にして選ぶこともできます。



3 回転させる

- 〈(SET)〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

- ［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］（p.391）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］に設定します。
- 動画は回転できません。

保護する（プロテクト）

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

〈🔑/🎤〉ボタンで1枚ずつプロテクト

プロテクト表示



1 プロテクトする画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、〈◌〉を回してプロテクトする画像を選びます。

2 プロテクトする

- 〈🔑/🎤〉ボタンを押すと、画像がプロテクトされ、画面の上に〈🔑〉が表示されます。
- もう一度〈🔑/🎤〉ボタンを押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順1、2を繰り返します。

MENU メニューから1枚ずつプロテクト



1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［画像を選択］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。



3 プロテクトする画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してプロテクトする画像を選びます。
- インデックス表示（p.352）にして選ぶこともできます。

4 プロテクトする

- 〈(SET)〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈⚿〉が表示されます。
- もう一度〈(SET)〉を押すと、プロテクトが解除され〈⚿〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



［▶1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.74）、**プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（p.388）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。
- ［**カード内・全画像**］［**カード内・全解除**］を選んだときに画像がプロテクト／解除されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

レーティングを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[★1]/[★2]/[★3]/[★4]/[★5]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

MENU メニューからレーティング



1 ［レーティング］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**レーティング**］を選び、〈SET〉を押します。



2 レーティングする画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してお気に入りマークを付ける画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈◎〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。



3 レーティングを設定する

- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈◎〉を回してお気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると［###］と表示されます。

〈🔑/🎤〉ボタンでレーティング

［📷6：🔑/🎤ボタンの機能］を［**レーティング（🔑/🎤不可）**］に設定すると（p.440）、画像再生時に〈🔑/🎤〉ボタンでレーティングを行うことができます。



1 〈🔑/🎤〉ボタンの機能を設定する

- ［📷6］タブの［🔑/🎤**ボタンの機能**］を［**レーティング（🔑/🎤不可）**］に設定します。

2 レーティングする画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、〈◯〉を回してお気に入りマークを付ける画像を選びます。



3 レーティングを設定する

- **〈🔑/🎤〉**ボタンを押すたびに、お気に入りマークが切り換わります（[1]/[2]/[3]/[4]/[5]/OFF）。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

レーティングの利用方法

- ［▶2：**での画像送り**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- ［▶2：**スライドショー**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- パソコンのOSによっては、ファイルの詳細表示を行ったときや、標準装備された画像表示機能で再生したときに、お気に入りマークを確認することができます（JPEG画像のみ）。

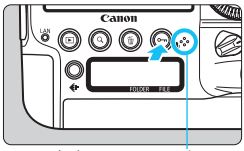
音声メモを記録／再生する

撮影した画像に音声メモを付加する（記録する）ことができます。音声メモは、画像と同じ画像番号で音声ファイル（WAV形式）として記録されます。カメラやパソコンなどで再生することができます。

音声メモを記録する

1 音声メモを付加する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、〈◎〉を回して音声メモを付加する画像を選びます。



音声メモ用マイク

2 音声メモを記録する

- 〈🔑/🎙〉ボタンを約2秒間押したままにします。
- ［**音声メモ記録中...**］が表示されたら、ボタンを押したまま、音声メモ用マイクに向かって話します。一回に記録できる時間は最大約30秒です。
- 話し終わったら、ボタンから指を離します。
- ➡ 画面の上に［♪］が表示されます。



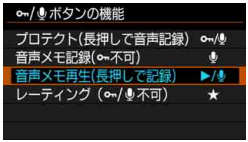


- プロテクトされている画像に、音声メモを付加することはできません。
- 動画に音声メモを付加することはできません。
- 外部マイクで音声メモを記録することはできません。

- ［**7：音声メモの音質**］で記録するときの音質を変更することができます。
- 30秒以上記録するときは、手順2を繰り返します。
- 撮影直後の画像表示中に、手順2の操作で1回だけ音声メモを記録することができます。

音声メモを再生する

［.6：🔑/🎙ボタンの機能］を［**音声メモ再生（長押しで記録）**］に設定すると（p.440）、画像に付加した音声メモを再生することができます。



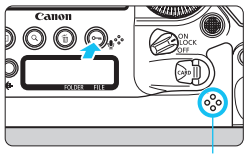
1 〈🔑/🎙〉ボタンの機能を設定する

- ［.6］タブの［**🔑/🎙ボタンの機能**］を［**音声メモ再生（長押しで記録）**］に設定します。



2 音声メモを再生する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、〈◯〉を回して画面の上に［♪］が表示されている画像を選びます。



スピーカー

3 音声メモを再生する

- 〈🔑/🎙〉ボタンを押すと、音声メモが再生されます。
- 〈◯〉を回すと、音量を調整することができます。
- 再生を中止するときは、〈🔑/🎙〉ボタンを押します。



- 画像に複数の音声メモが付加されているときは、連続して再生されます。
- 画像に付加した音声メモだけを、このカメラで消去することはできません。
- 画像を消去すると（p.386）、その画像に付加されている音声メモも消去されます。

Q 再生時のクイック設定

画像再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら［**：画像プロテクト**］［：画像回転］［**★：レーティング**］［RAW/JPEG：RAW現像（RAW画像のみ）］［：リサイズ（JPEG画像のみ）］［：トリミング（JPEG画像のみ）］［**：ハイライト警告表示**］［**：AFフレーム表示**］［：**での画像送り**］の設定を行うことができます。

なお、**動画のときは太字の項目のみ**設定できます。



1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。

➡ クイック設定の項目が表示されます。



2 項目を選んで設定する

- 〈☆〉を上下に押して、項目を選びます。

➡ 選んだ項目と設定内容が、画面下側に表示されます。

- 〈◯〉を回して設定します。
- RAW現像、リサイズ、トリミングは、さらに〈SET〉を押して設定を行います。詳しくは、『RAW現像』（p.394）、『リサイズ』（p.399）、『トリミング』（p.401）を参照してください。
- キャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈Q〉ボタンを押すとクイック設定が終了します。

画像回転を行うときは、[**1：縦位置画像回転表示**]を[**する** 凵]に設定してください。[**1：縦位置画像回転表示**]が[**する** 凵]［**しない**]に設定されているときは、[**画像回転**]で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

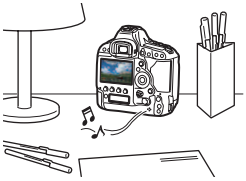
テレビに接続して再生する (p.379)



HDMIケーブル HTC-100（別売）でカメラとテレビを接続すると、撮影した静止画や動画をテレビで再生することができます。

- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、4K画質で撮影した動画を再生しても、フルHD画質で再生されます（4K画質での再生はできません）。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI入力端子を備えていないため、HDMIケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する (p.369)



カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。

また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、4K動画から任意のフレームを選んで静止画として保存したり、カードに記録されている静止画と動画をスライドショーで自動再生することができます。

- パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する



カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、（カメラで撮影した動画の記録形式に対応した）OS標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアで、動画の再生・編集を行うことができます。

- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV 形式、MP4 形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
- MOV形式の動画は、EOS用ソフトウェアのEOS MOVIE Utility（p.553）で再生することもできます。

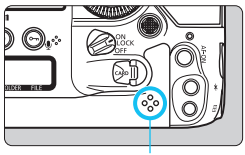
動画を再生する











スピーカー

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。

2 動画を選ぶ

- 〈◎〉を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET 🎥〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈(SET)〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈(SET)〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。

4 動画を再生する

- 〈◎〉を回して［▶］(再生)を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 動画再生が始まります。
- 再生中に〈(SET)〉を押すと、一時停止します。もう一度押すと再開します。
- 〈🔊〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

- ヘッドフォンで動画の音声を聴くときは、耳を痛めないように、音量を下げてから取り付けてください。
- 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◯〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
✂ 編集	編集画面を表示します（p.372）。
フレーム切り出し	4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG画像）として保存することができます（p.374）。
▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒／［**動画再生カウント：記録時間**］設定時）
hh:mm:ss:ff（DF） **hh:mm:ss:ff**（NDF）	タイムコード（hh：時、mm：分、ss：秒、ff：フレーム／［**動画再生カウント：タイムコード**］設定時）
音量	〈〉を回すと、内蔵スピーカー（p.369）またはヘッドフォンの音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

ハイフレームレート動画の再生について

ハイフレームレート（119.9fps/100.0fps）の設定で撮影したフルHD動画を再生したときは、1/4倍速のスローモーション（29.97fps/25.00fps）で再生されます。（ハイフレームレート動画撮影時に音声は録音されませんので）音声は再生されません。なお、再生時間／タイムコードのカウントアップ1秒は、実時間で1/4秒です。

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（p.379）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈 〉を回しても音量は変わりません）。なお、ハウリングが起きたときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- 動画再生中にレンズの取り付け／取り外しを行ったときや、カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了します。

- フル充電のバッテリーパック LP-E19で連続再生できる時間は、常温（+23℃）：約4時間30分です（FHD 29.97P / 25.00P / 24.00P / 23.98P IPB設定時）。
- ヘッドフォン端子（p.28）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画の音声を聴くことができます（p.324）。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。



1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。





2 削除する範囲を指定する

- ［前部を削除］（前部を削除）か、［後部を削除］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈✣〉を左右に押すとフレームが送られます。押したままにすると早送りになります。〈◯〉を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部に白く表示された範囲が残ります。



3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押し、確認画面で［OK］を選びます。



4 保存する

- [🖫] を選んで〈(SET)〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選んで、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

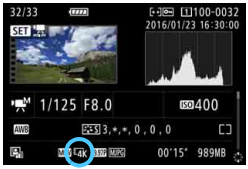
- 約1秒単位（画面上部に［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、動画編集はできません。フル充電した電池を使用してください。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。

4K動画からフレームを切り出す

4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選び、約880万画素（4096×2160）の静止画（JPEG画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4Kフレームキャプチャー）」と言います。

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。



2 4K動画を選ぶ

- 〈◯〉を回して 4K 画質で撮影した動画を選びます。
- 撮影情報表示の画面（p.350）で［4K］と表示されている画像が4K動画です。
- インデックス表示のときは、〈(SET)〉を押して1枚表示にします。

3 1枚表示の状態で〈(SET)〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。



4 切り出すフレームを選ぶ

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法については、370ページを参照してください。



5 ［📷］を選ぶ

- 〈◯〉を回して［📷］を選び、〈(SET)〉を押します。



6 保存する

- [OK] を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

7 表示する画像を選ぶ

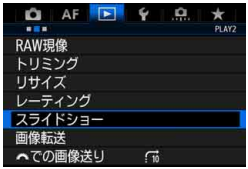
- [**元の動画**] または [**切り出した静止画**] を選びます。

➡ 選択した画像が表示されます。

- フルHD画質で撮影した動画や、他のカメラで撮影した4K動画からは、フレーム切り出しはできません。
- カメラとパソコンを接続しているときは、フレーム切り出しはできません。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。



1 ［スライドショー］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**スライドショー**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 再生する画像を選ぶ

- 画面に示す項目を選び〈(SET)〉を押します。

全画像/動画/静止画/プロテクト

- 〈◯〉を回して［**全画像**］［**動画**］［**静止画**］［**プロテクト**］のいずれかを選び、〈(SET)〉を押します。

日付/フォルダ/レーティング

- 〈◯〉を回して［**日付**］［**フォルダ**］［**★レーティング**］のいずれかを選びます。
- 〈INFO.〉が明るく表示された状態で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- 内容を選び〈(SET)〉を押します。

日付



フォルダ



レーティング



項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
プロテクト	カード内のプロテクトされた静止画、動画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。



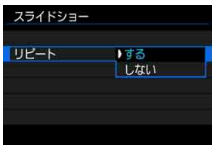
3 再生内容を設定する

- ［**設定**］を選び〈(SET)〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）を設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

再生間隔



リピート



画像が再生されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。



4 スライドショーを開始する

- ［**スタート**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ ［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

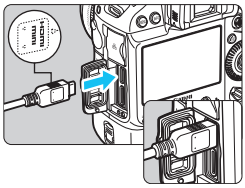
- 〈MENU〉ボタンを押すとスライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈(SET)〉を押します。一時停止中は画面の左上に［❚❚］が表示されます。再度〈(SET)〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（p.344）。
- 動画再生中に〈⚙〉を回すと、音量を調節することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◎〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフ機能は働きません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、379ページを参照してください。

テレビで見る

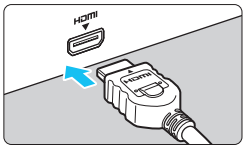
カメラとテレビをHDMIケーブル（別売）で接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

なお、テレビに映像が表示されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［NTSC］［PAL］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈**▲HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

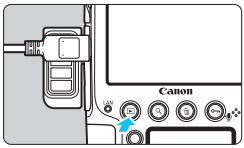


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

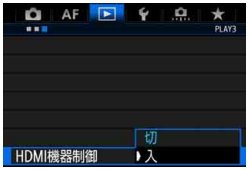
- ➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、369ページを参照してください。

- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、4K画質で撮影した動画を再生しても、フルHD画質で再生されます（4K画質での再生はできません）。
- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。



1 ［HDMI機器制御］を選ぶ

- ［▶3］タブの［**HDMI 機器制御**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［入］を選ぶ

3 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。

➡ テレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に自動的に切り換わります。切り換わらないときは、テレビのリモコンなどを操作して、接続したHDMIの入力端子を選びます。

4 カメラの〈▶〉ボタンを押す

➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで再生操作ができるようになります。

5 画像を選ぶ

● リモコンをテレビに向けて ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

6 リモコンの決定ボタンを押す

➡ メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。

● ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。

● [**戻る**]を選択し決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

静止画再生メニュー



動画再生メニュー



- ⮌ ：戻る
- ▦ ：9枚インデックス表示
- ▶ ：動画再生
- ：スライドショー
- **INFO.**：撮影情報の切り換え
- ：画像回転

● テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくは、テレビの使用説明書を参照してください。

● HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。そのときは、[▶3：**HDMI機器制御**]を[**切**]にして、カメラ側で再生操作を行ってください。

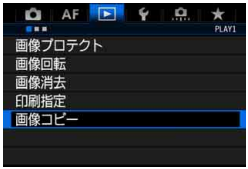
コピーする

カードに記録されている画像を、もう一方のカードにコピー（複製保存）することができます。

4GBを超える動画ファイルについて

- CFastカード（[2]）からCFカード（[1]）に画像をコピーする際に、CFカードが128GBまででFAT32形式でフォーマットされているときは、CFastカード（[2]）からCFカード（[1]）に4GBを超える動画ファイルはコピーできません。
- 4GBを超える動画ファイルは、CFカード（[1]）が128GBを超えるカードでexFAT形式でフォーマットされているときに、CFカード（[1]）とCFastカード（[2]）との間でコピーすることができます。

MENU 画像を1枚ずつ選んでコピーする



1 ［画像コピー］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像コピー**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［画像選択］を選ぶ

- コピー元のカード番号、コピー先のカード番号と空き容量を確認します。
- ［**画像選択**］を選び〈(SET)〉を押します。

コピー元は、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。



3 フォルダを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているフォルダを選び、〈(SET)〉を押します。
- 画面右側に表示される画像を参考にして、フォルダを選びます。

➡ 選択したフォルダ内の画像が表示されます。



4 コピーする画像を選ぶ

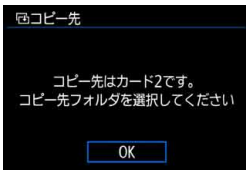
- 〈◯〉を回してコピーする画像を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ 画面左上に［✓］が表示されます。

- 〈Q〉ボタンを押して〈▭〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他にコピーしたい画像があるときは、手順4を繰り返します。

5 〈⊶/🎙〉ボタンを押す

- 画像を選び終わったら、〈⊶/🎙〉ボタンを押します。



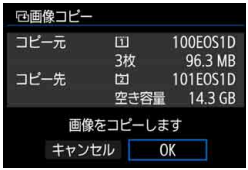
6 ［OK］を選ぶ

- コピー先のカードを確認して［OK］を選びます。



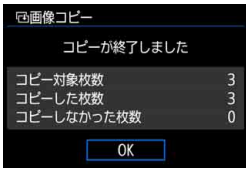
7 コピー先のフォルダを選ぶ

- 画像をコピー保存するフォルダを選び、〈(SET)〉を押します。
- [**フォルダ作成**]を選ぶと、新しいフォルダを作成することができます。



8 [OK]を選ぶ

- コピー元とコピー先の情報を確認して[OK]を選びます。



➡ コピーが始まり、コピー状況が表示されます。

- コピーが終了すると、結果が表示されます。[OK]を選ぶと手順2の画面に戻ります。

MENU フォルダ内／カード内全画像コピー

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてコピーすることができます。



[▶1:**画像コピー**]の[**選択**]または[**全画像**]を選ぶと、その中のすべての画像がコピーされます。

- コピー先のフォルダ／カードに、同じ画像番号の画像が記録されているときは、[**スキップしてコピー**]［**上書きコピー**］[**コピー中止**] が表示されます。コピー方法を選んで〈(SET)〉を押します。
  ・[**スキップしてコピー**]：画像番号が重複する画像だけコピーされません
  ・[**上書きコピー**]：画像番号が重複する画像は、コピー画像に書き換えられます（プロテクト画像を含む）
  なお、印刷指定（p.415）されている画像に対して上書きコピーを行ったときは、再度印刷指定を行ってください。
- [■**選択**]［**全画像**］を選んだときに、フォルダ内、またはカード内にファイルサイズが4GBを超える動画ファイルが含まれていて、4GBを超える動画ファイルをコピー先にコピーできないときは、メッセージが表示されます。コピーを行うと、4GBを超える動画ファイル以外の画像がコピーされます。
- 印刷指定情報、画像転送情報はコピーされません。
- コピー実行中は撮影できません。[**キャンセル**] を選んでから撮影してください。

- オリジナルの画像と同じファイル名でコピーされます。
- [**画像選択**] のときに、複数フォルダ内の画像を同時にコピーすることはできません。フォルダごとに画像を選んでコピーしてください。
- 音声メモが付加されている画像は、音声メモもコピーされます。

消去する

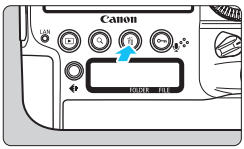
不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.358）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。なお、RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 〈◎〉を回して消去する画像を選びます。



2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 消去メニューが表示されます。



3 消去する

- ［消去］を選び〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

［**7：画像消去の初期設定**］を［**［消去］を選択**］に設定すると、画像を素早く消去することができます（p.443）。

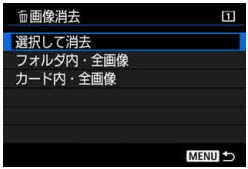
MENU チェック［✓］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 ［画像消去］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**画像消去**］を選び、〈(SET)〉を押します。



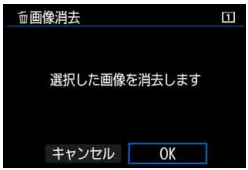
2 ［選択して消去］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。



3 消去する画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して消去する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画面の左上に［✓］が表示されます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈☞〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

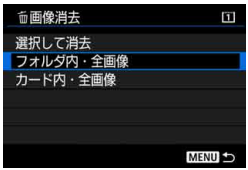


4 消去する

- 〈🗑〉ボタンを押して［OK］を選びます。
- ➡ 選択した画像がまとめて消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



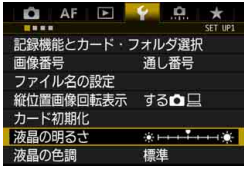
［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

- プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.74）。
- ［**カード内・全画像**］を選んだときに画像が消去されるカードは、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録・再生**］または［**再生**］で選択しているカードです。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。



1 [液晶の明るさ] を選ぶ

- [1] タブの [**液晶の明るさ**] を選び、〈(SET)〉を押します。



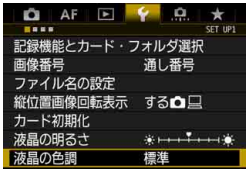
2 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◎〉を回して調整し、〈(SET)〉を押します。

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.351）で確認することをおすすめします。
- 画像再生時に〈☼〉ボタンを押すと、手順2の画面が表示されます。

MENU 液晶モニターの色あいを設定する

液晶モニターの色調（色あい）を、標準的な色あいから、暖色系、寒色系の色あいに変更することができます。



1 ［液晶の色調］を選ぶ

- ［1］タブの［**液晶の色調**］を選び、〈SET〉を押します。



2 色調を選ぶ

- 液晶モニターに表示される画像を見ながら内容（1～4の番号）を選び、〈SET〉を押します。
- ［**1：暖色**］［**2：標準**］［**3：寒色1**］［**4：寒色2**］から選ぶことができます。

画像再生時に最後に再生した画像が、手順2の画面に表示されます。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定



縦位置で撮影した画像をカメラで再生したときや、パソコンで表示したときは、被写体が横向きで表示されないように、画像が自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。



1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

● ［1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 表示方法を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

● **する**
　カメラで再生するときとパソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

● **する**
　パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

● **しない**
　自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

- 撮影直後に表示される画像は、自動回転表示は行われません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

MEMO

10

撮影した画像を加工する

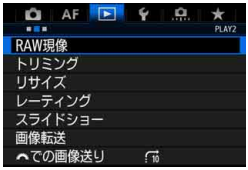
この章では、RAW画像の現像、JPEG画像のリサイズ、JPEG画像のトリミングについて説明しています。

- 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

RAW JPEG↓ RAW画像をカメラで現像する

RAWで撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

なお、M RAW、S RAWで撮影した画像はカメラで現像処理できません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で現像処理を行ってください。



1 ［RAW現像］を選ぶ

- ［▶2］タブの［RAW現像］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ RAWで撮影された画像が表示されます。



2 現像する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して現像処理を行う画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈☁〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 現像条件を設定する

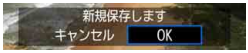
- 〈SET〉を押してしばらくすると、現像処理の項目（p.396）が表示されます。
- 〈✣〉で項目を選び〈◎〉または〈☁〉を回すと、設定が切り換わります。
- ➡「明るさ補正」や「ホワイトバランス」などは、その設定が反映された画像が表示されます。
- 〈INFO.〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。



設定画面について

- 〈SET〉を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。〈◯〉または〈⌓〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。





4 保存する

- [🖫]（保存）を選び〈SET〉を押します。
- [OK]を選ぶと、現像処理によって生成されたJPEG画像がカードに保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して[OK]を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

拡大表示について

手順3で〈🔍〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、[**RAW現像**]の画面で設定した[**記録画質**]の設定により異なります。〈✣〉で拡大表示位置を変えることができます。

もう一度〈🔍〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

現像処理の項目について

- **明るさ補正**
  1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **ホワイトバランス**（p.177）
  ホワイトバランスを選ぶことができます。［AWB］を選んだときは、〈INFO.〉ボタンを押すと、［**オート（雰囲気優先）**］［**オート（ホワイト優先）**］を選ぶことができます。［K］を選んだときは、〈INFO.〉ボタンを押すと、色温度を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **ピクチャースタイル**（p.169）
  ピクチャースタイルを選ぶことができます。〈INFO.〉ボタンを押すと、シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **オートライティングオプティマイザ**（p.189）
  オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

- **高感度撮影時のノイズ低減**（p.190）
  ノイズ低減処理の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.395）で確認してください。

- **L 記録画質**（p.155）
  JPEG画像を生成する際の記録画質（画像サイズ、JPEG画質）を設定することができます。〈☆〉を上下に操作すると、画像サイズとJPEG画質の項目を選ぶことができます。

● sRGB **色空間**（p.200）
　sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

● **レンズ光学補正**

● □OFF **周辺光量補正**（p.194）
　レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.395）で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● OFF **歪曲収差補正**
　レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
　解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● ©OFF **デジタルレンズオプティマイザ**
　レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。［**する**］設定時の効果は拡大表示（p.395）で確認してください。画像全体を表示しているときはデジタルレンズオプティマイザの効果は表示されません。なお、［**する**］を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに［**する**］で現像されます。

- **色収差補正**（p.195）
  レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.395）で確認してください。

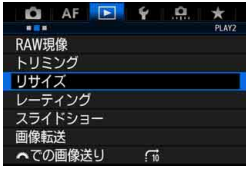
- **回折補正**
  レンズの絞りの影響によって画像の先鋭さが低下する現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.395）で確認してください。

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- ［**明るさ補正**］を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ**］設定時は、撮影条件により画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ってください。
- ［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定して現像を行ったときは、AF フレーム表示用の情報（p.351）、ダストデリートデータ（p.405）は画像に付加されません。

- レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 新たに発売されたレンズのデジタルレンズオプティマイザ用の補正データは、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）から追加することができます。
- ［**デジタルレンズオプティマイザ用の補正データが無効です**］と表示されたときは、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、デジタルレンズオプティマイザ用の補正データをカメラに登録してください。

JPEG画像をリサイズする

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**/**M1**/**M2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのSとRAWで撮影した画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、リサイズできません。**



1 [リサイズ] を選ぶ

- [▶2] タブの [**リサイズ**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



2 リサイズする画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してリサイズする画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈☞〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。



リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈(SET)〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズを選び、〈(SET)〉を押します。



4 保存する

- ［OK］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

撮影時の画像サイズとリサイズできるサイズ

撮影時の画像サイズ	リサイズできるサイズ		
	M1	M2	S
L	○*	○	○
M1		○	○
M2			○

「*」印の付いた画像は、リサイズ時にわずかにトリミングされます。

JPEG 画像をトリミングする

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGの**L**/**M1**/**M2**/**S**で撮影した画像で行うことができます。**RAWで撮影した画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、トリミングできません。**



1 [トリミング] を選ぶ

- [▶2] タブの [**トリミング**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してトリミングする画像を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押して〈⬭〉を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 〈(SET)〉を押すとトリミング枠が表示されます。
- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

● **枠の大きさを変える**

〈⬭〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

● **枠を移動する**

〈✣〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

● **枠の縦/横を切り換える**

〈INFO.〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにトリミングすることもできます。



4 トリミング範囲を確認する

● 〈Q〉ボタンを押します。
➡ 切り抜かれる範囲が表示されます。
● もう一度〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。



5 保存する

● 〈SET〉を押して［OK］を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
● 保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
● 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

● トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
● トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（p.351）、ダストデリートデータ（p.405）は付加されません。
● トリミングする画像や、トリミングするサイズによっては、元の画像よりもファイルサイズが小さくならないことがあります。

11

撮像素子の清掃

このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットを搭載しています。

また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミの他に、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

撮像素子の自動清掃

このカメラは、電源スイッチを〈**ON/LOCK**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニング センサーユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する



1 **［センサークリーニング］を選ぶ**

- ［**3**］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈㊾〉を押します。

2 **［今すぐクリーニング］を選ぶ**

- ［**今すぐクリーニング**］を選び〈㊾〉を押します。
- ［**OK**］を選びます。

➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません。

➡ クリーニングが終わると、自動的にカメラが再起動（電源OFF→ON）します。

- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が一時的に選べなくなります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点」が生じることがあります。［**今すぐクリーニング**］を行うと、輝点の発生が改善することがあります（p.520）。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。

➡ 電源スイッチを〈**ON/LOCK**〉にしたときと〈**OFF**〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

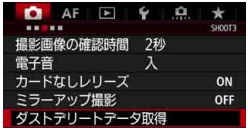
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する

通常はセルフクリーニングセンサーユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができますが、除去できなかったゴミがある場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

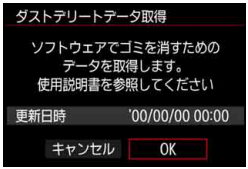
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する



1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

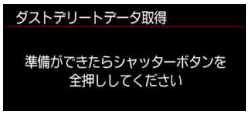
- ［📷3］タブの［**ダストデリートデータ取得**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［OK］を選ぶ

➡ 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

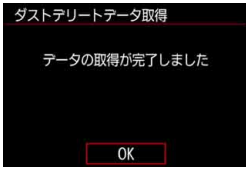






3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。
- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK]を選んだあと、もう一度撮影します。



ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）による自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書（p.554）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する

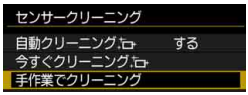
撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口にお申し付けください。

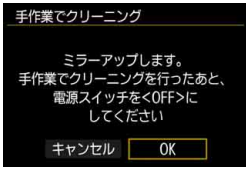


1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [3] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。



2 [手作業でクリーニング] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 上面表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 撮像素子を清掃する

5 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

手作業で撮像素子を清掃するときは、必ずフル充電した電池を使用してください。

家庭用電源アクセサリー（別売／p.485）の使用をおすすめします。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池を取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

12

パソコンへの画像転送と印刷指定

- **パソコンに画像を送る**（p.410）
  カメラとパソコンをつないで、カメラを操作するだけで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。
- **画像を印刷指定する／DPOF**（p.415）
  カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

パソコンに画像を送る

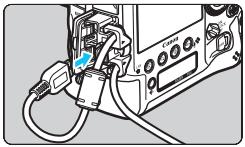
カメラとパソコンをつないで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。この機能を「ダイレクト画像転送」といいます。

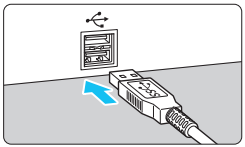
画像転送の操作は、カメラの液晶モニターに表示される画面を見ながら、カメラ側で行います。

パソコンに送られた画像は、パソコンの［**ピクチャ**］または［**マイピクチャ**］フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

カメラとパソコンを接続する前に、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください（p.552、553）。

画像転送の準備



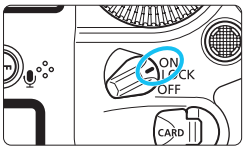


1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.38）、プラグの〈SS〉がカメラの背面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.487）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。



3 電源スイッチを〈ON〉にする

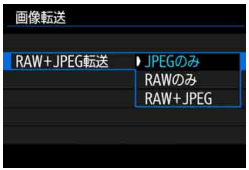
- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、[**EOS Utility**]を選びます。

➡ パソコンにEOS Utilityの画面が表示されます。

EOS Utilityの画面が表示されたあと、EOS Utilityを操作しないでください。
EOS Utilityのメイン画面以外が表示された状態では、413ページの手順5で[**ダイレクト転送**]が表示されません（パソコンへの画像転送ができません）。

- EOS Utilityの画面が表示されないときは、EOS Utility使用説明書（p.554）を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってからプラグの側面を持って引いてください。
- Ethernet用RJ-45端子（p.28）を使って、有線LAN経由でFTPサーバーに画像を転送することもできます。詳しくは、『有線LAN使用説明書』（p.4）を参照してください。

MENU RAW+JPEGで撮影した画像を転送するとき



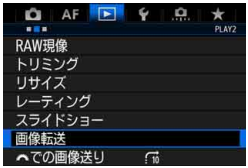
RAW+JPEGで撮影した画像は、どの画像を転送するかを設定することができます。

次ページの手順2で[**RAW+JPEG転送**]を選び、[**JPEGのみ**][**RAWのみ**][**RAW+JPEG**]から選びます。

[**RAW+JPEG転送**]の設定は、[**3：通信機能の設定**]→[**ネットワークの設定**]→[**機能設定**]→[**FTP転送の設定**]→[**転送画像サイズタイプ**]の[**RAW+JPEG転送**]の設定と連動して切り換わります。

MENU 転送する画像を選択する

● **画像選択**



1 [画像転送] を選ぶ

● [▶2] タブの [**画像転送**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [画像選択/転送] を選ぶ



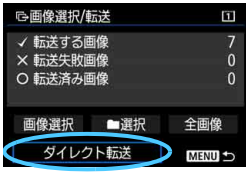
3 [画像選択] を選ぶ

4 転送する画像を選ぶ

● 〈◯〉を回して転送する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
● 〈◯〉を回して画面の左上に［✓］を表示させ、〈(SET)〉を押します。
● 〈Q〉ボタンを押して〈▭〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
● 他に転送したい画像があるときは、手順4を繰り返します。



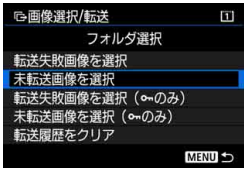
● [**画像選択**] を選んだときに、画面の左上に表示されるマークで転送履歴を確認することができます（マークなし：未選択画像、✓：転送する画像、×：転送失敗画像、○：転送済み画像）。
● 411ページの［**RAW+JPEG転送**］、および上記の手順1～4の操作は、カメラとパソコンが接続されていない状態でも行うことができます。



5 画像を転送する

- パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認します。
- [**ダイレクト転送**]を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で[**OK**]を選ぶと、画像がパソコンに転送されます。
- [**選択**][**全画像**]で選択した画像も、この操作で転送します。

● 選択



[**選択**]を選び、[**未転送画像を選択**]を選びます。フォルダを選択すると、そのフォルダに入っている、パソコンに転送していない「すべての画像」が選択されます。

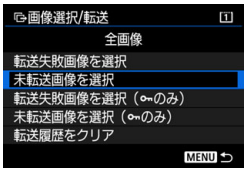
[**未転送画像を選択（🔑のみ）**]を選び、フォルダを選択すると、そのフォルダに入っている、パソコンに転送していない「プロテクトされている画像」が選択されます。

[**転送失敗画像を選択**]を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。

[**転送失敗画像を選択（🔑のみ）**]を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗したプロテクト画像が選択されます。

[**転送履歴をクリア**]を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから、[**未転送画像を選択**]または[**未転送画像を選択（🔑のみ）**]を選ぶと、フォルダに入っている「すべての画像」、または「プロテクトされている画像」をもう一度転送することができます。

● 全画像



［**全画像**］を選び、［**未転送画像を選択**］を選ぶと、カードに記録されている、パソコンに転送していない「すべての画像」が選択されます。

［**未転送画像を選択（🔑のみ）**］を選ぶと、カードに記録されている、パソコンに転送していない「プロテクトされている画像」が選択されます。

［**全画像**］選択時における［**転送失敗画像を選択**］［**転送失敗画像を選択（🔑のみ）**］［**転送履歴をクリア**］の内容は、前ページの「■**選択**」を参考にしてください。

- パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面以外が表示されているときは、［**ダイレクト転送**］は表示されません。
- 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

- 動画を転送することもできます。
- 音声メモが付加された画像は、画像転送時に音声ファイルも一緒に転送されます。
- 画像転送中も撮影を行うことができます。
- ［**▶2：画像転送**］の［**キャプション付きで転送**］については、『有線LAN使用説明書』（p.4）を参照してください。

画像を印刷指定する／DPOF

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

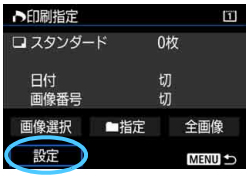
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 ［印刷指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

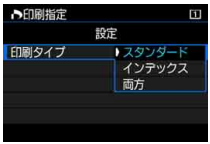


2 ［設定］を選ぶ

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

印刷タイプ



日付



画像番号



印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	［入］にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4 設定を終了する

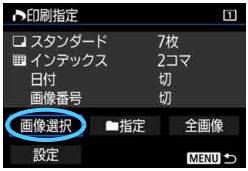
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。

- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**■指定**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- 画像サイズが大きい画像を［**インデックス**］［**両方**］の設定で印刷すると（p.417）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（p.399）インデックス印刷を行ってください。
- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- ［**インデックス**］に設定したときは、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像を指定する

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈Q〉ボタンを押して〈◯〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



● スタンダード／両方

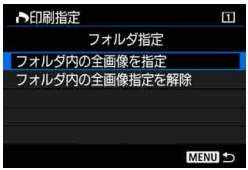
〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◯〉を回すと、枚数を最大99枚に設定することができます。



● インデックス

〈(SET)〉を押して［✓］を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

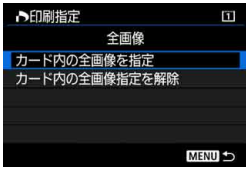
● ■指定



［**フォルダ内の全画像を指定**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

なお、［**フォルダ内の全画像指定を解除**］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● 全画像



［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

なお、［**カード内の全画像指定を解除**］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

■指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。

13

カメラをカスタマイズする

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。この機能を「カスタム機能」「操作ボタンカスタマイズ」といいます。

また、カメラに設定されている内容をカードに保存したり、撮影モードの〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉に登録することができます。

MENU カスタム機能一覧

1：Exposure（露出）

		LV撮影	動画撮影
露出設定ステップ	p.423	○	○
ISO感度設定ステップ		○	M時
ブラケティング自動解除	p.424	○	
ブラケティング順序		○	
ブラケティング時の撮影枚数	p.425	○	
測距点連動スポット測光			

2：Exposure（露出）

セイフティシフト	p.426	○	
絞り数値変化時の露出維持	p.427	○	

3：Exposure（露出）

撮影モードの限定	p.429	○	○
測光モードの限定		○	
マニュアル露出時の測光モード			
シャッター速度の制御範囲の設定	p.430	○	○
絞り数値の制御範囲の設定		○	○
AEマイクロアジャストメント	p.431	○	○
FEマイクロアジャストメント	p.432	○	

▭ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

4：Drive（ドライブ）

		LV撮影	動画撮影
連続撮影速度	p.433	○	
連続撮影時の撮影枚数制限	p.434	○	
ドライブモードの限定		○	

5：Disp./Operation（表示・操作）

フォーカシングスクリーン	p.435		
露光中のファインダー内表示	p.436		
バルブ撮影中の表示パネル照明		○	
記録カードと画像サイズの設定	p.437	○	○

6：Operation（操作）

ファインダー内❗警告の項目	p.438		
Tv/Av値設定時のダイヤル回転		○	○
レンズ未装着時の絞り数値設定	p.439	○	○
マルチ電子ロック		○	○
操作ボタンカスタマイズ		設定により異なる	
⊶/🎙ボタンの機能	p.440	（再生時）	

7：Others（その他）

		LV撮影	動画撮影
トリミング情報の付加	p.441	○	
各種タイマー保持時間	p.442	*1	
レリーズタイムラグ最速化			
音声メモの音質	p.443		
画像消去の初期設定		（再生時）	
電源オフ時のレンズ収納	p.444	○	○
IPTC情報の付加		○	

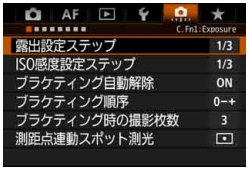
*1：［**レリーズ後タイマー**］のみ

8：Clear（解除）

［8：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

［8：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を行っても、［5：**フォーカシングスクリーン**］［6：**操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容は解除されません。また、［3：**AEマイクロアジャストメント**］［3：**FEマイクロアジャストメント**］［7：**IPTC情報の付加**］の設定内容は解除されませんが、設定は［**しない**］になります。

MENU カスタム機能で変更できる内容



撮影スタイルに応じて、[📷] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

C.Fn1：Exposure（露出）

露出設定ステップ C.Fn1

1/3：設定1/3　露出補正1/3

シャッター速度と絞り数値、露出補正量、AEBレベル、ストロボ調光補正量を1/3段ステップで設定することができます。

1/1：設定1　露出補正1/3

シャッター速度と絞り数値を1段ステップ、露出補正量、AEBレベル、ストロボ調光補正量を1/3段ステップで設定することができます。

1/2：設定1/2　露出補正1/2

シャッター速度と絞り数値、露出補正量、AEBレベル、ストロボ調光補正量を1/2段ステップで設定することができます。

［**設定 1/2　露出補正 1/2**］設定時の露出レベル表示は図のようになります。



ISO感度設定ステップ C.Fn1

1/3：1/3段

ISO感度を1/3段ステップで手動設定することができます。

1/1：1段

ISO感度を1段ステップで手動設定することができます。

［**1 段**］に設定しても、ISO オート設定時は 1/3 段ステップで自動設定されます。

ブラケティング自動解除 C.Fn1

ON：する

電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、AEB、WBブラケティングの設定が解除されます。また、ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBの設定が解除されます。

OFF：しない

電源スイッチを〈**OFF**〉にしても、AEB、WBブラケティングの設定が解除されないようになります（ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

ブラケティング順序 C.Fn1

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0−+： 0→−→+

−0+： −→0→+

+0−： +→0→−

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0：標準露出	0：基準ホワイトバランス	0：基準ホワイトバランス
−：マイナス補正	−：ブルー寄りに補正	−：マゼンタ寄りに補正
+：プラス補正	+：アンバー寄りに補正	+：グリーン寄りに補正

ブラケティング時の撮影枚数 C.Fn1

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を、初期設定の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。

［.1：**ブラケティング順序：0→−→+**］設定時は、下表のように撮影されます。

3：3枚　　**5：5枚**

2：2枚　　**7：7枚**

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準（0）	−1	+1				
2：2枚	標準（0）	±1					
5：5枚	標準（0）	−2	−1	+1	+2		
7：7枚	標準（0）	−3	−2	−1	+1	+2	+3

［**2枚**］設定時は、AEB レベルを設定するときに補正方向（＋または−）を選ぶことができます。WB ブラケティング設定時は、B/A 方向、または M/G 方向のマイナス補正になります。

測距点連動スポット測光 C.Fn1

測光モードが〈[•]〉のときに、測距点（AFフレーム）に連動したスポット測光を行うかどうかを設定することができます。

[•] 中央AFフレームのみ

測距エリア選択モードやAFフレームの選択状態に関わらず、常にファインダーの中央部でスポット測光が行われます。

[•] 測距点に連動

任意選択AFフレームに連動したスポット測光を行うことができます。なお、測距エリア選択モードが、自動選択AF、ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、ファインダーの中央部でスポット測光が行われます。

外部ストロボ使用時は、任意選択AFフレームに連動したFEロックを行うことができます（ストロボメーターモードマニュアル撮影時（p.262）に活用することもできます）。

C.Fn2：Exposure（露出）

セイフティシフト C.Fn2

OFF：しない

Tv/Av：Tv値/Av値

〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

ISO：ISO感度

〈**P**〉プログラムAE、〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定したISO感度をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

［**ISO感度**］設定時、かつカメラ内部が低温状態のときに、セイフティシフトが行われてISO32000以上に自動設定されたときは、最高連続撮影速度が低下します（ACアダプターキット ACK-E4使用時を除く）。詳しくは148ページを参照してください。

- ［**ISO感度**］設定時は、〈**M**〉モードでAEB撮影を行ったときも機能します。
- ［**2：ISO感度に関する設定**］で、［**静止画撮影の範囲**］［**オートの低速限界**］が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、［**オートの範囲**］の設定によります（p.167）。ただし、手動設定されているISO感度が［**オートの範囲**］を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

絞り数値変化時の露出維持 C.Fn2

〈**M**〉モード（マニュアル露出撮影）＋ISO感度任意設定時に（ISOオート設定時を除く）、①レンズを交換したとき、②エクステンダーを装着したとき、③開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。絞り開放の設定のまま撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッター速度（Tv値）を自動的に変更して、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。

OFF：しない

露出を維持するための自動変更は行われません。設定したISO感度、シャッター速度、絞り数値で撮影されます。①②③を行って開放絞り数値が暗くなったときは、ISO感度、シャッター速度を調整してから撮影してください。

ISO：ISO感度

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、ISO感度が自動的に高くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。なお、ISO感度は、［**静止画撮影の範囲**］で設定した範囲内で自動変更されます。

ISO/Tv：ISO感度/Tv値

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、ISO感度が自動的に高くなります。ISO感度が［**静止画撮影の範囲**］で設定した範囲の上限に達したときは、さらにシャッター速度が自動的に遅くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。なお、シャッター速度は、［**3：シャッター速度の制御範囲の設定**］で設定した範囲内で自動変更されます。

Tv：Tv値

①②③を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、シャッター速度が自動的に遅くなり、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。なお、シャッター速度は、［**3：シャッター速度の制御範囲の設定**］で設定した範囲内で自動変更されます。

なお、この機能は、上記とは逆方向の「開放絞り数値が小さい数値（開放側）に変化したとき」も作用します。

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- 動画撮影時は機能しません。
- [**ISO感度**] 設定時に、[**静止画撮影の範囲**] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- [**Tv値**] 設定時に、[**3：シャッター速度の制御範囲の設定**] で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- ①②③を行い、露出維持が行われている状態で（電源スイッチを〈**OFF**〉にするなど）カメラの電源が切れたときは、基準となる露出が電源が切れた時の値に更新されます。

- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- [**ISO感度**] [**Tv値**] の設定で①②③を行ったあと、ISO感度、シャッター速度、絞り数値を任意に変更せずに①②③を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- [**ISO感度**] 設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッター速度が変化することがあります。

C.Fn3：Exposure（露出）

撮影モードの限定 C.Fn3

〈MODE〉ボタンを押したときに選択できる撮影モードを限定することができます。

撮影モード〈**P**/**Av**/**M**/**Tv**/**BULB**/**C1**/**C2**/**C3**〉を選び、〈(SET)〉を押して〈✓〉を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

- 撮影モードの限定で設定した内容は、〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉には登録されません。
- 8項目すべての〈✓〉を外すことはできません。

測光モードの限定 C.Fn3

〈⚡·⊛〉ボタンを押したときに選択できる測光モードを限定することができます。

測光モード〈⊛/⊙/•/[ ]〉を選び、〈(SET)〉を押して〈✓〉を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

- 4項目すべての〈✓〉を外すことはできません。

マニュアル露出時の測光モード C.Fn3

撮影モードが〈**M**〉のときに使用する測光モードを設定することができます。

✓⊛：**設定測光モード**
撮影時に設定されている測光モードで測光が行われます。

⊛：**評価測光**

⊙：**部分測光**

•：**スポット測光**

[ ]：**中央部重点平均測光**

- 〈⊛/⊙/•/[ ]〉設定時は、マニュアル露出撮影時に〈⚡·⊛〉ボタンを押しても、測光モードは選択できません。

シャッター速度の制御範囲の設定 C.Fn3

シャッター速度の制御範囲を設定することができます。〈**Tv**〉〈**M**〉モードのときは、設定した範囲でシャッター速度を手動設定することができます。〈**P**〉〈**Av**〉モードのときは、設定した範囲でシャッター速度が自動設定されます（動画撮影時を除く）。［OK］を選ぶと設定されます。

高速側

1/8000～15秒の範囲で設定することができます。

低速側

30秒～1/4000秒の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲の設定 C.Fn3

絞り数値の制御範囲を設定することができます。〈**Av**〉〈**M**〉〈**bulb**〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます。〈**P**〉〈**Tv**〉モードのときは、設定した範囲で絞り数値が自動設定されます（動画撮影時を除く）。［OK］を選ぶと設定されます。

小絞り側

F91～F1.4の範囲で設定することができます。

開放側

F1.0～F64の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

AEマイクロアジャストメント C.Fn3

通常はこの機能で露出基準を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切な露出で撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

露出基準を微調整することができます。露出補正を行わずに自動露出で撮影した画像が、常に露出アンダー、または露出オーバーと感じるときに有効です。

OFF：しない

ON：する

［**する**］を選び〈Q〉ボタンを押すと、調整画面が表示されます。1/8段ステップ±1段の範囲で露出基準を調整することができます。撮影画像が露出アンダー傾向にあるときはプラス側に、露出オーバー傾向にあるときはマイナス側に調整します。

AEマイクロアジャストメントで露出基準の調整を行っても、露出基準が変更になるだけで、動画撮影時に実際に露出補正ができる範囲は変わりません。動画撮影時に実際に露出補正ができる範囲を超えたときは、AEマイクロアジャストメントによる調整分の露出補正量は撮影結果に反映されません（例：AEマイクロアジャストメント：+1段、露出補正：+3段に設定したときは、+1段分の露出補正は行われません）。

ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時は、調整した露出基準から±5段の露出補正を行うことができます。

FEマイクロアジャストメント C.Fn3

通常はこの機能で調光露出の基準を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切な露出でストロボ撮影ができなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

ストロボ撮影時の調光露出の基準を微調整することができます。調光補正を行わずに自動調光で撮影した際に、主被写体が常に露出アンダー、または露出オーバーと感じるときに有効です。

OFF：しない

ON：する

［**する**］を選び〈Q〉ボタンを押すと、調整画面が表示されます。1/8段ステップ±1段の範囲で調光基準を調整することができます。主被写体が露出アンダー傾向にあるときはプラス側に、露出オーバー傾向にあるときはマイナス側に調整します。

C.Fn4：Drive（ドライブ）

連続撮影速度 C.Fn4

〈□H〉高速連続撮影、〈□L〉低速連続撮影、〈S□H〉ソフト高速連続撮影、〈S□L〉ソフト低速連続撮影時の連続撮影速度を設定することができます。［OK］を選ぶと設定されます。

高速連続撮影

初期状態では14コマ/秒に設定されています。ファインダー撮影時は14～2コマ/ 秒の範囲、ライブビュー撮影時は16, 14～2コマ秒の範囲で設定することができます。なお、「(16)」はライブビュー撮影時の連続撮影速度を表しています。

低速連続撮影

初期状態では3コマ/秒に設定されています。13～1コマ/秒の範囲で設定することができます。

ソフト高速連続撮影

初期状態では5コマ/秒に設定されています。5～2コマ/秒の範囲で設定することができます。

ソフト低速連続撮影

初期状態では3コマ/秒に設定されています。4～1コマ/秒の範囲で設定することができます。

- ファインダー撮影時に［**高速連続撮影**］を［**14(16)コマ/秒**］～［**11コマ/秒**］、［**低速連続撮影**］を［**13コマ/秒**］～［**11コマ/秒**］に設定しても、H1（ISO102400相当）以上（カメラ内部が低温状態のときはISO32000以上）のときは、最高連続撮影速度が約10.0コマ/秒になります（ACアダプターキット ACK-E4使用時はISO感度に関わらず最高約8.0コマ/秒／p.148）。
- ライブビュー撮影時に［**高速連続撮影**］を［**14(16)コマ/秒**］に設定しても、H1（ISO102400相当）以上（カメラ内部が低温状態のときはISO32000以上）のときは、最高連続撮影速度が約14.0コマ/秒になります（ACK-E4使用時はISO感度に関わらず最高約14.0コマ/秒／p.148）。
- ライブビュー撮影時に外部ストロボを使用し、［**高速連続速度**］を［**14 (16) コマ/秒**］に設定して高速連続撮影を行ったときは、ストロボは発光しません。
- ［**📷3：フリッカーレス撮影**］が［**する**］に設定されているとき（p.198）は、設定した連続撮影速度で撮影できないことがあります。

連続撮影時の撮影枚数制限 C.Fn4

連続撮影の設定でシャッターボタンを押し続けたときに、何枚で連続撮影を自動停止するかを設定することができます。

99～2枚の範囲で設定することができます。〈🗑〉ボタンを押すと、[**しない**]に戻ります。

[**しない**] 設定時は、ファインダー内の右側に表示されている枚数の連続撮影を行うことができます。

ドライブモードの限定 C.Fn4

〈**DRIVE•AF**〉ボタンを押したときに選択できるドライブモードを限定することができます。

ドライブモード〈□/□H/□L/□S/□Hi/□Lo/⏲10/⏲2〉を選び、〈(SET)〉を押して〈✓〉を付けます。[**OK**]を選ぶと設定されます。

8項目すべての〈✓〉を外すことはできません。

C.Fn5：Disp./Operation（表示・操作）

フォーカシングスクリーン C.Fn5

撮影用途にあわせて別売のフォーカシングスクリーンEcシリーズに交換することができます。

フォーカシングスクリーンを交換したときは、適切な露出で撮影できるように、スクリーンのタイプに応じて必ず設定を変更してください。

Std.：Ec-C6
標準フォーカシングスクリーンです。

L：Ec-A, B, L
レーザーマット使用時に設定します。

- Ec-A/B/Lは中央部がプリズムになっているため、評価測光、および中央部でのスポット測光では適正な露出が得られません。中央部重点平均測光か、AFフレーム連動スポット測光（中央部を除く）で撮影してください。
- Ec-A/B/Lは中央部がプリズムになっているため、［**AF4：自動選択：EOS iTR AF**］を［**する（顔優先）**］［**する**］に設定しても（p.127）、被写体がファインダーの中央付近にいるときは、顔情報や色情報を使ったAFが正しく行われないことがあります。
- Ec-C/CII/CIII/CIV/CV/D/H/I/N/R/Sをこのカメラに取り付けることはできますが、適切な露出が得られません。市販の露出計を使用してマニュアル露出で撮影するか、露出補正を行って撮影してください。
- ［**Ec-A, B, L**］設定時は、ファインダー内にスポット測光範囲は表示されません。
- Ec-CIII/CIV/N/Sのスクリーンに表示されているエリアAFフレームは、このカメラのAF領域と異なります。

- ［**8：カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選んでも、設定内容は解除されません。
- フォーカシングスクリーンの交換方法については、フォーカシングスクリーンの使用説明書を参照してください。

露光中のファインダー内表示 C.Fn5

ファインダー撮影を行ったときに、露光中、ファインダー内に撮影情報を表示するかどうかを設定することができます。

OFF：しない

ON：する

露光中もファインダー内に撮影情報が表示されます。露出や撮影可能枚数などを確認しながら連続撮影したいときなどに有効です。

撮影モードがバルブ撮影のときは、［**する**］に設定しても機能しません。

バルブ撮影中の表示パネル照明 C.Fn5

表示パネル照明が点灯した状態でバルブ撮影を行ったときや、バルブ撮影中に〈☼〉ボタンを押したときに、照明を消灯するか、継続して点灯するかを設定することができます。

OFF：消灯

バルブ撮影を開始すると表示パネル照明が消灯します。バルブ撮影中に〈☼〉ボタンを押したときは、約6秒間表示パネルが照明されます。

ON：継続して点灯

バルブ撮影が終了するまで表示パネル照明が点灯します。暗い場所などで露光時間を確認しながらバルブ撮影を行いたいときに有効です。

記録カードと画像サイズの設定 C.Fn5

〈⊕〉ボタンを押したときに、カードの選択と画像サイズの設定を、背面表示パネルで行うか、液晶モニターで行うかを設定することができます。

背面表示パネル

〈⊕〉ボタンを押して、背面表示パネルを見ながら〈⌓〉〈◯〉で設定することができます。

液晶モニター

〈⊕〉ボタンを押すと、[**画像サイズ**]または[**記録機能とカード・フォルダ選択**]の画面が表示され、押すたびに画面が切り換わります。

OFF：⊕ボタン無効

〈⊕〉ボタンを押しても、カードの選択と画像サイズの設定はできません。〈⊕〉ボタンが不用意に押されて、画像サイズや記録するカードが変わることを防止することができます。カードの選択と画像サイズの設定は、メニュー画面から行います。

C.Fn6：Operation（操作）

ファインダー内❗警告の項目 C.Fn6

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内に〈❗〉を表示することができます（p.30）。

警告表示を行う対象を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

モノクロ設定時

ピクチャースタイルが［**モノクロ**］に設定されているときに（p.170）、警告表示が行われます。

ホワイトバランス補正時

ホワイトバランス補正が設定されているときに（p.186）、警告表示が行われます。

ワンタッチ記録画質切り換え時

ワンタッチ記録画質切り換え機能（p.457）で、記録画質が変更されているときに、警告表示が行われます。

スポット測光設定時

測光モードが〈[•]〉スポット測光に設定されているときに（p.239）、警告表示が行われます。

Tv/Av値設定時のダイヤル回転 C.Fn6

：通常

：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

撮影モードが〈**M**〉のときは〈▱〉〈◯〉、それ以外の撮影モードでは〈▱〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時に〈◯〉を操作したときの設定方向と、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モード時に〈◯〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

レンズ未装着時の絞り数値設定 C.Fn6

カメラにレンズを取り付けていない状態で、絞り数値が設定できるようにするかどうかを設定することができます。

OFF：不可

ON：可能

レンズを取り外した状態で絞り数値の設定を行うことができます。撮影時の絞り数値があらかじめ決まっているときに、この機能を使って準備しておくことができます。

マルチ電子ロック C.Fn6

電源スイッチを〈**LOCK**〉の位置にすると、〈メイン〉〈サブ〉〈マルチ〉による不用意な設定変更を防止することができます。

〈**LOCK**〉にしたときに操作を禁止する操作部材を選び、〈SET〉を押して［✓］を付けます。［**OK**］を選ぶと設定されます。

メイン電子ダイヤル

メイン電子ダイヤル、縦位置メイン電子ダイヤルがロックされます。

サブ電子ダイヤル

サブ電子ダイヤルがロックされます。

マルチコントローラー

マルチコントローラー、縦位置マルチコントローラーがロックされます。

- ロックした状態で禁止した部材を操作すると、ファインダー内と上面表示パネルに〈**L**〉、クイック設定画面（p.67）とクイック設定カスタマイズ画面（p.463）に［**LOCK**］が表示されます。
- 初期状態で電源スイッチを〈**LOCK**〉の位置にしたときは、〈サブ〉がロックされます。
- 〈サブ〉に［✓］を付けてロックしても、〈十字〉十字タッチパッドによる操作はロックされません。

操作ボタンカスタマイズ C.Fn6

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは445ページを参照してください。

🔑/🎙ボタンの機能 C.Fn6

〈🔑/🎙〉ボタンの機能を変更することができます。画像プロテクト、音声メモの記録、レーティングは、画像再生中に行うことができます。

🔑/🎙：プロテクト（長押しで音声記録）

〈🔑/🎙〉ボタンを押すと画像がプロテクトされます。〈🔑/🎙〉ボタンを約2秒間押すと音声メモの記録が始まり、離すと終了します。

🎙：音声メモ記録（🔑不可）

〈🔑/🎙〉ボタンを押すとすぐに音声メモの記録が始まり、離すと終了します。なお、画像をプロテクトするときは、[▶1：**画像プロテクト**]の画面で設定します。

▶/🎙：音声メモ再生（長押しで記録）

音声メモ付きの画像を再生しているときに〈🔑/🎙〉ボタンを押すと、音声メモが再生されます。〈🔑/🎙〉ボタンを約2秒間押すと音声メモの記録が始まり、離すと終了します。なお、画像をプロテクトするときは、[▶1：**画像プロテクト**]の画面で設定します。

★：レーティング（🔑/🎙不可）

〈🔑/🎙〉ボタンを押すとレーティングを行うことができます。ボタンを押すたびにレーティング（**OFF**/[·]/[··]/[···]/[····]/[·····]）が切り換わります。なお、画像をプロテクトするときは、[▶1：**画像プロテクト**]の画面で設定します。

[**レーティング（🔑/🎙不可）**]選択時に〈Q〉ボタンを押すと、〈🔑/🎙〉ボタンを押したときに選択できる（使用する）お気に入りマークを設定することができます。

C.Fn7：Others（その他）

トリミング情報の付加 C.Fn7

トリミング情報の設定を行うと、ライブビュー撮影時に設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。

撮影を行うと、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）でトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。

パソコンに画像を取り込み、Digital Photo Professionalを使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

OFF：しない（比率3：2）
6:6 ：比率6：6
3:4 ：比率3：4
4:5 ：比率4：5（六切）
6:7：比率6：7
5:6：比率5：6（四切）
5:7：比率5：7

- ファインダー撮影時もトリミング情報が付加されますが、トリミング範囲は確認できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像をカメラで現像処理しても（p.394）、JPEG画像はトリミングされた状態では保存されません。RAW現像を行ったときは、トリミング情報が付加されたJPEG画像が保存されます。

各種タイマー保持時間 C.Fn7

ボタンから指を離したあと、タイマーによりその機能の設定状態が保持される時間を変更することができます。0～59秒、1～60分の範囲で設定することができます。

6秒タイマー

測光タイマーとAEロックの保持時間を設定することができます。

16秒タイマー

FEロックとマルチスポット測光の保持時間を設定することができます。

レリーズ後タイマー

レリーズ後の測光タイマー保持時間を設定することができます。通常は撮影後に約2秒間作動します。時間を長くすると、同じ露出でAEロック撮影が行いやすくなります。

レリーズタイムラグ最速化 C.Fn7

通常はレリーズタイムラグを安定化する制御が行われますが、[**する**]に設定すると、この制御を行わないようにして、レリーズタイムラグをさらに短くすることができます。

□ ：しない

□ ：する

レリーズタイムラグは通常時の最速が約0.055秒ですが、最速化すると最高約0.036秒になります。

レリーズタイムラグは撮影条件やレンズの種類、絞り数値などにより変動します。

音声メモの音質 C.Fn7

音声メモを記録する際の音質を設定することができます。

48kHz：高音質(48kHz)

動画撮影時と同じ高音質で音声メモを記録することができます。

8kHz：低音質(8kHz)

［**高音質 (48kHz)**］よりも音声メモのファイルサイズを小さくすることができます。

すでに記録されている音声メモに追加記録するときは、ここで設定した内容に関わらず、先に記録されている音声メモと同じ音質で記録されます。

画像消去の初期設定 C.Fn7

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（p.386）、そのときに［**キャンセル**］と［**消去**］のどちらが選択されているかを設定することができます。

［**消去**］に設定したときは、〈(SET)〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

：［キャンセル］を選択

：［消去］を選択

［**消去**］に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

電源オフ時のレンズ収納 C.Fn7

ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）をカメラに取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

ON：する

OFF：しない

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

［**する**］設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

IPTC情報の付加 C.Fn7

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）からカメラにIPTC（International Press Telecommunications Council）情報を登録すると、静止画（JPEG/RAW画像）撮影時に、IPTC情報を画像に記録（付加）することができます。IPTC情報を活用してファイル管理を行うときなどに有効です。

なお、**IPTC情報のカメラへの登録方法や、登録できる内容については、EOS Utility使用説明書**（p.554）**を参照してください。**

OFF：しない

画像にIPTC情報は記録されません。

ON：する

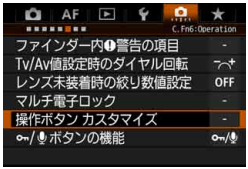
静止画撮影を行うと、カメラに登録されているIPTC情報が画像に記録されます。

動画撮影時（MOV/MP4形式の動画）にIPTC情報は付加されません。

- 再生時にIPTC情報の有無を確認することができます（p.349）。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）を使用すると、画像に記録されたIPTC情報の内容を確認することができます。
- ［**8：カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選んでも（p.422）、カメラに登録されているIPTC情報は消去されませんが、設定は［**しない**］になります。

操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。



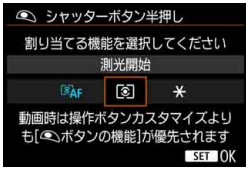
1 [操作ボタンカスタマイズ] を選ぶ

- [6] タブの [**操作ボタンカスタマイズ**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 操作部材の設定画面が表示されます。



2 操作部材を選ぶ

- 操作部材を選び〈SET〉を押します。
- ➡ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。
- ➡ 画面左側のイラストで操作部材の位置を確認することができます。



3 機能を割り当てる

- 機能を選び〈SET〉を押します。
- 画面左下に INFO. マークが表示される機能は、〈INFO.〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

4 設定を終了する

- 〈SET〉を押して設定が終了すると、手順2の画面に戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、設定内容を初期化することができます。なお、[6：**操作ボタンカスタマイズ**] の設定は、[8：**カスタム機能（C.Fn）一括解除**] を選んでも解除されません。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

		機能	参照頁	👁	AF-ON	✳
AF	AF	測光・AF開始	450	○	○*1	○*1
	AF-OFF	AF停止	451		○	○
	AF↔	登録AF機能に切り換え	452			
	ONE SHOT AI SERVO	ワンショット⇄AIサーボ			○*3	○*3
	HP	登録AFフレームに切り換え				
		AFフレームダイレクト選択	453			
		AFフレーム選択＋ ⇄ 切換				
	SERVO AF	動画サーボAF一時停止	454			
露出		測光開始	454	○		
	✳	AEロック			○	○
	✳	AEロック（押している間）		○		
	✳H	AEロック（ホールド）			○	○
	✳AF-OFF	AEロック・AF停止			○	○
	FEL	FEロック	455		○	○
	ISO	ISO感度設定				
	ISO	ISO感度設定（押しながら）				
	ISO	ISO感度設定（測光中）				
	ISO ISO	ISO感度＋ ⇄ ISO切換				
		露出補正（押しながら）	456			
	Tv	Mモード時、シャッター速度変更				
	Av	Mモード時、絞り数値変更				

	LENS	M-Fn	M-Fn2	SET			
	○						
○	○		○				
○*2	○*2		○*2				
○*3	○*3		○*3				
○*4	○*4		○*4				
						○*5	○*6
						○*7	
○			○	○			
○	○	○	○				
○	○	○	○				
○		○	○				
				○			
				○			
						○	
						○	
				○			
					○	○	
					○	○	

〈LENS〉は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

		機能	参照頁		AF-ON	
画像		画像サイズ選択	456			
	RAW JPEG	ワンタッチ記録画質切換	457			
	RAW JPEG H	ワンタッチ記録画質切換（ホールド）				
		記録機能とカード・フォルダ選択				
		ピクチャースタイル選択				
	WB	ホワイトバランス選択				
操作		絞り込み	458			
		手ブレ補正機能作動				
	MENU	メニュー表示				
		撮影機能の登録と呼出			○*9	○*9
	UNLOCK	押している間、ロック解除	459			
		動画撮影開始（設定時有効）				
	C	カスタム撮影モードに切り換え				
		画像の再生				
		拡大/縮小（SETボタン+）				
		拡大/縮小ボタン				
		再生ボタン				
	INFO.	INFOボタン	460			
		消去ボタン				
		プロテクトボタン				
		機能の循環設定				
		ストロボ機能設定				
	OFF	無効			○	○

	LENS	M-Fn	M-Fn2	SET			
				○			
○*8		○*8	○*8				
○*8		○*8	○*8				
				○			
				○			
				○			
○			○				
○	○		○				
				○			
○			○				
○		○	○	○			
		○					
				○			
				○			
○			○				
○			○				
○			○				
○			○				
○			○				
		○*10					
				○			
○		○	○	○	○	○	○

〈LENS〉は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

AF：測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

*1：〈AF-ON〉ボタン、〈✱〉ボタンのときは、設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、AF機能の詳細設定を行うことができます。撮影時に〈AF-ON〉ボタン、または〈✱〉ボタンを押すと、設定した内容でAFが行われます。



● **AF開始位置**

［**登録AFフレーム**］に設定したときは、〈**AF-ON**〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、登録したAFフレームに切り換わります。

【AFフレームの登録方法】

① 測距エリア選択モードを、スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択周囲）／自動選択AFの中から選びます。ゾーンAF、ラージゾーンAFは登録できません。

② AFフレームを任意選択します。

③〈⊞〉ボタンを押しながら〈ISO〉ボタンを押すと、"ピッ"という音がしてAFフレームが登録されます。測距エリア選択モードが、自動選択AF以外のときは、登録したAFフレームが点滅します。

● AFフレーム登録時に表示される内容は次のとおりです。
  · 自動選択AF：**[ ] HP**（HP: Home Position）
  · スポット1点AF、1点AF、領域拡大AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択周囲）：**SEL [ ]**（中央）／**SEL HP**（中央以外）
● 登録したAFフレームを解除するときは、〈⊞〉ボタンを押しながら〈⊠〉ボタンを押します。［**4：カメラ設定初期化**］を選んだときも、登録したAFフレームが解除されます。

- **AIサーボAF特性**（p.113）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、設定した［**Case1**］～［**Case6**］の特性でAFが行われます。
- **AF動作**（p.88）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、設定したAF動作でAFが行われます。
- **測距エリア選択モード**（p.91）
  〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押すと、設定した測距エリア選択モードでAFが行われます。

なお、〈AF-ON〉ボタンまたは〈✱〉ボタンを押したときに、そのとき選択しているAFフレームを使用したいときは［**AF開始位置**］を［**選択AFフレーム**］、そのとき設定されているAIサーボAF特性、AF動作、測距エリア選択モードを維持したいときは［**現在の設定を変更しない**］を選びます。

- ［**AF4：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］を［**別々に設定：エリア+フレーム**］［**別々に設定：フレーム**］に設定しているときは、縦位置撮影（グリップ上/下）、横位置撮影に使用するAFフレームを別々に登録することができます。
- ［**AF開始位置**］の［**登録AFフレーム**］と［**測距エリア選択モード**］を同時に設定したときは、［**登録AFフレーム**］の設定が優先されます。

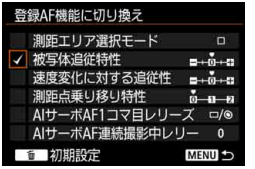
AF-OFF：AF停止

この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にAFを停止したいときなどに有効です。

AF↔：登録AF機能に切り換え

「測距エリア選択モード（p.91）」、「被写体追従特性（p.118）」、「速度変化に対する追従性（p.119）」、「測距点乗り移り特性（p.120）」「AIサーボAF1コマ目レリーズ（p.122）」、「AIサーボAF連続撮影中レリーズ（p.123）」を設定し、この機能を割り当てたボタンを押している間だけ、その設定内容でAFを行うことができます。AIサーボAF中にAF特性を変えたいときに有効です。

*2：設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈◯〉または〈⁂〉を回して項目を選び、〈(SET)〉で［✓］を付けます。項目名を選び〈(SET)〉を押すと、機能の内容を設定することができます。〈🗑〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。



ONE SHOT↔AI SERVO：ワンショット⇄AIサーボ

AF方式を切り換えることができます。ワンショットAF時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、AIサーボAFになり、AIサーボAF時に押すと、ワンショットAFになります。移動／停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

*3：設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、［**押している間だけ切り換え**］［**もう一度押すまで切り換え保持**］を選択することができます。

□HP：登録AFフレームに切り換え

測光タイマー作動中に、この機能を割り当てたボタンを押すと、登録したAFフレームに切り換えることができます。

*4：設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、［**押している間だけ切り換え**］［**もう一度押すまで切り換え保持**］を選択することができます。AFフレームの登録方法については、450ページを参照してください。

⊞：AFフレームダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉または〈✥〉で直接AFフレームを選択することができます。

*5：サブ電子ダイヤルの設定画面で〈INFO.〉を押すと、〈◎〉を操作したときのAFフレームの移動方向を設定することができます。[**AFフレームの移動方向**]の［**横方向**］［**縦方向**］の設定は、スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択周囲）時に、[**ゾーンAFフレームの移動方向**]の［**循環**］［**横方向**］［**縦方向**］の設定は、ゾーンAF時に機能します。



*6：マルチコントローラーの設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、〈✥〉の中央を押したときのAFフレームの切り換えを［**中央AFフレームに切り換え**］［**登録AFフレームに切り換え**］から選択することができます。AFフレームの登録方法については、450ページを参照してください。

⊞：AFフレーム選択 + ⊠ ⇄ ⊞切換

測光タイマーが作動中であれば、〈⊞〉ボタンを押さずに、〈◎〉で直接AFフレームを選択することができます。この機能を設定したときは、〈⊠〉ボタンと〈⊞〉ボタンの機能が入れ換わります。〈⊞〉ボタンを押しながら〈⊞〉を回すと、露出補正/絞り数値の設定を行うことができます。

*7：設定画面で〈INFO.〉を押すと、〈◎〉を操作したときのAFフレームの移動方向を設定することができます。[**AFフレームの移動方向**]の［**横方向**］［**縦方向**］の設定は、スポット1点AF／1点AF／領域拡大AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択周囲）時に、[**ゾーンAFフレームの移動方向**]の［**循環**］［**横方向**］［**縦方向**］の設定は、ゾーンAF時に機能します。

SERVO AF：動画サーボAF一時停止

動画サーボAF作動中にこの機能を割り当てたボタンを押すと、AFを一時停止することができます。もう一度押すと動画サーボAFが再開します。

：測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光が行われます（AFは行われません）。

✳：AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときに有効です。

✳：AEロック（押している間）

シャッターボタンを押している間、露出が固定されます（AEロック）。

✳H：AEロック（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定されます（AEロック）。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すまで、AEロックが継続します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

✳AF-OFF：AEロック・AF停止

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定（AEロック）され、AFが停止します。AIサーボAF中にAFの停止と同時にAEロックを行いたいときなどに有効です。

［**AEロック（押している間）**］をシャッターボタンに割り当てたときは、［**AEロック**］［**AEロック（ホールド）**］を割り当てたボタンも［**AEロック（押している間）**］で動作します。

FEL：FEロック

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

ISO：ISO感度設定

〈(SET)〉を押すと、ISO感度を変更することができます。上面表示パネル、またはファインダー内を見ながら設定します。

ISO：ISO感度設定（押しながら）

〈(SET)〉を押しながら〈 〉を回すと、ISO感度を設定することができます。ISOオートのときに操作すると、ISO感度手動設定になります。ISOオートに戻すことはできません。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

ISO：ISO感度設定（測光中）

測光タイマー作動中に〈 〉を回すと、ISO感度を設定することができます。設定できる内容は［**ISO感度設定（押しながら）**］と同じです。

：ISO感度 + ⇄ ISO切換

測光タイマー作動中に〈 〉を回すと、ISO感度を設定することができます。この機能を設定したときは、〈 〉ボタンと〈**ISO**〉ボタンの機能が入れ換わります。〈**ISO**〉ボタンを押して〈 〉を回すと、露出補正／絞り数値の設定を行うことができます。

：露出補正（押しながら）

〈SET〉を押しながら〈⚙〉を回すと、露出補正を行うことができます。〈**M**〉マニュアル露出＋ISOオート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。

Tv：Mモード時、シャッター速度変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈⚙〉または〈◎〉でシャッター速度を設定することができます。

Av：Mモード時、絞り数値変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈◎〉または〈⚙〉で絞り数値を設定することができます。

：画像サイズ選択

〈SET〉を押すと、背面表示パネルを見ながら、カード選択、画像サイズの設定を行うことができます。カードを選択するときは〈⚙〉を回します。画像サイズを設定するときは〈◎〉を回します。

［**ISO感度設定（押しながら）**］（p.455）、［**露出補正（押しながら）**］の操作は、電源スイッチが〈**LOCK**〉（マルチ電子ロック／p.66）でも行うことができます。

RAW JPEG：ワンタッチ記録画質切換

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した画像サイズに切り換えて撮影することができます。切り換え中は、ファインダー内の JPEG RAW と背面表示パネルの画像サイズが点滅します。撮影が終了すると切り換えが自動解除され、元の画像サイズに戻ります。

*8：設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、切り換える画像サイズを設定することができます。

RAW JPEG H：ワンタッチ記録画質切換（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、ここで設定した画像サイズに切り換えて撮影することができます。切り換え中は、ファインダー内の JPEG RAW と背面表示パネルの画像サイズが点滅します。撮影を行っても、切り換えは自動解除されません。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すと、元の画像サイズに戻ります。

*8：設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、切り換える画像サイズを設定することができます。

：記録機能とカード・フォルダ選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターに記録機能とカード・フォルダ選択画面（p.152）が表示されます。

：ピクチャースタイル選択

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面（p.169）が表示されます。

WB：ホワイトバランス選択

〈SET〉を押すと、ホワイトバランスを変更することができます。上面表示パネル、またはファインダー内を見ながら設定します。

: 絞り込み

この機能を割り当てたボタンを押すと、レンズの絞り込みが行われ、被写界深度を確認することができます（p.235）。

: 手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正スイッチが〈**ON**〉のときに、この機能を割り当てたボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。

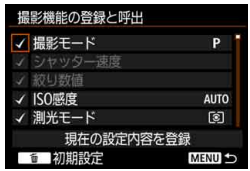
MENU : メニュー表示

〈(SET)〉を押すと、液晶モニターにメニュー画面が表示されます。

: 撮影機能の登録と呼出

シャッター速度、絞り数値、ISO感度、測光モード、測距エリア選択モードなどの主要な撮影機能を任意に設定して、カメラに登録することができます。この機能を割り当てたボタンを押すと、押している間だけ、登録した撮影機能を呼び出して撮影することができます。

*9：設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。〈◯〉または〈⁽ᵀᵃ⁾〉を回して項目を選び、〈(SET)〉で［✓］を付けます。項目名を選び〈(SET)〉を押すと、機能の内容を設定することができます。〈🗑〉ボタンを押すと、設定を初期状態にすることができます。
なお、［**現在の設定内容を登録**］を選ぶと、現在カメラに設定されている内容を登録することができます。AFフレームの登録方法については、450ページを参照してください。



UNLOCK：押している間、ロック解除

電源スイッチが〈**LOCK**〉でも、この機能を割り当てたボタンを押している間だけ、[**6：マルチ電子ロック**]で制限した部材を操作することができます。

：動画撮影開始（設定時有効）

動画撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、動画撮影が始まります。もう一度押すと、動画撮影が終了します。

C：カスタム撮影モードに切り換え

撮影モードが〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉以外のときに、〈M-Fn〉ボタンを押すと、登録されているカスタム撮影モード（p.474）に切り換えることができます。[**3：撮影モードの限定**]の［**C1**］［**C2**］［**C3**］に［✓］が付いているときは、〈M-Fn〉ボタンを押すごとに「**C1**→**C2**→**C3**→現在の撮影モード」の順に切り換わります。

：画像の再生

〈(SET)〉を押すと、画像が再生されます。

：拡大/縮小（SETボタン+）

〈(SET)〉を押すと、カードに記録されている画像を拡大／縮小表示することができます（p.355）。また、ライブビュー撮影時、動画撮影時に映像を拡大表示することができます（p.290、291）。

：拡大/縮小ボタン

〈🔍〉ボタンと同じになります。

：再生ボタン

〈▶〉ボタンと同じになります。

INFO.：INFOボタン

〈INFO.〉ボタンと同じになります。

🗑：消去ボタン

〈🗑〉ボタンと同じになります。

🔑/🎤：プロテクトボタン

〈🔑/🎤〉ボタンと同じになります。

：機能の循環設定

〈M-Fn〉ボタンを押すたびに、撮影機能の設定（ISO感度、露出補正/絞り数値、ホワイトバランス、ドライブモード/AF動作、調光補正/測光モード、AEB設定、撮影モード）を循環して切り換えることができます。

*10：設定画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、詳細設定画面が表示されます。切り換える機能を設定することができます。〈◎〉を回して項目を選び、〈(SET)〉で［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。



：ストロボ機能設定

〈(SET)〉を押すと、ストロボ機能設定の画面が表示されます。

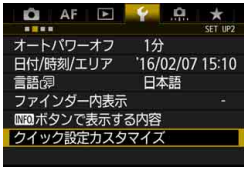
OFF：無効

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

クイック設定カスタマイズ

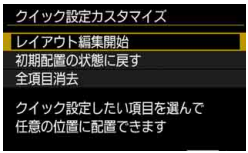
クイック設定画面（p.67）では、あらかじめ決められた撮影機能の項目が表示されますが、画面に表示したい項目を任意に選んでレイアウトすることができます。この機能を「クイック設定カスタマイズ」といいます。

なお、本ページではクイック設定カスタマイズ画面のレイアウト方法を説明しています。クイック設定の操作方法は68ページ、クイック設定カスタマイズ画面の表示方法については480ページを参照してください。



1 ［クイック設定カスタマイズ］を選ぶ

● ［2］タブの［**クイック設定カスタマイズ**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［レイアウト編集開始］を選ぶ



3 操作方法を確認して［OK］を選ぶ

- Q ：項目追加
- 削除
- SET ：選択と確定



● 初期状態では、図に示す項目が配置されています。



4 項目を追加する

- 〈Q〉ボタンを押します。
- 〈◯〉または〈✣〉を操作して追加する項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- 不要な項目を削除するときは、項目を選んだ状態で〈🗑〉ボタンを押すか、手順2で［**全項目消去**］を選びます。



- 表示サイズが選べる項目のときは、さらに〈◯〉または〈✣〉を操作してサイズを選び、〈(SET)〉を押します。
- 配置できる項目とサイズについては、464ページを参照してください。



5 項目を配置する

- 〈✣〉〈◯〉または〈✣〉を操作して、追加する項目（辺に三角が付いた枠）を配置したい位置に移動します。
- サイズを変更したいときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して変更します。
- 〈(SET)〉を押すと配置されます。なお、配置する位置に項目があるときは、上書き配置（削除）されます。
- 配置する位置を変更するときは、項目を選び〈(SET)〉を押すと、移動することができます。

初期状態で配置されている項目をすべて削除してからレイアウトしたいときは、手順2で［**全項目消去**］を選んでから、手順4以降の操作を行います。

配置例

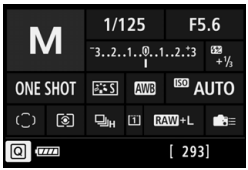


- 手順4、5を繰り返して、画面に表示する項目をレイアウトします。
- 配置されている項目を削除するときは、削除する項目を選び、〈🗑〉ボタンを押します。

6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと設定が終了し、手順2の画面に戻ります。

画面例



7 設定画面を確認する

- [♥2：INFO. ボタンで表示する内容]の[クイック設定カスタマイズ画面]に[✓]が付いていることを確認します（p.480）。
- 〈INFO.〉ボタンを押してクイック設定カスタマイズ画面を表示し（p.480）、レイアウトを確認します。
- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.68）。

クイック設定カスタマイズ画面の初期化／全項目消去

手順2で[**初期配置の状態に戻す**]を選ぶと、設定されている内容が初期化され初期配置の状態に戻ります（p.461）。

[**全項目消去**]を選ぶと、配置されている項目がすべて削除され、画面に項目がない（ブランク／下段のみ表示）状態になります。

画面に配置できる項目とサイズ

（マス／縦×横）

項目／サイズ	1×1	1×2	1×3	1×5	2×2	2×3	3×1	4×1
撮影モード	○				○			
シャッター速度	○	○						
絞り数値	○	○						
ISO感度	○	○						
露出補正/AEB設定	○	○	○					
調光補正	○	○	○					
ピクチャースタイル	○		○					
ホワイトバランス	○	○						
WB補正/BKT設定	○	○						
オートライティング オプティマイザ	○							
操作ボタンカスタマイズ	○							
AF動作	○	○						
AFフレーム選択	○					○		
測光モード	○							
ドライブモード	○							
記録機能とカード選択	○	○			○			
日付/時刻/エリア	○	○		○		○		
外部ストロボ制御	○							
高輝度側・階調優先	○							
ファインダーグリッド	○							
センサークリーニング	○							
露出レベル							○	○
GPSの設定	○							

- 項目によっては、表示サイズにより表示される情報量や、クイック設定時に設定できる内容が異なることがあります。
- 同じ項目を複数配置することはできません。

MENU マイメニューを登録する

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。また、登録したタブに名前を付けたり、〈MENU〉ボタンを押したときにマイメニュータブから表示することもできます。

マイメニュータブを追加（作成）する



1 **［マイメニュータブの追加］を選ぶ**

- ［★］タブの［**マイメニュータブの追加**］を選び、〈(SET)〉を押します。

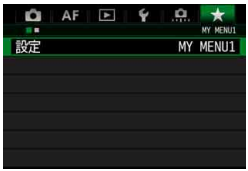


2 **［OK］を選ぶ**

➡ ［MY MENU1］タブが作成されます。

- 手順1、2を繰り返すと、［MY MENU5］まで作成することができます。

マイメニュータブに項目を登録する



1 **［設定：MY MENU*］を選ぶ**

- 〈  〉を回して［**設定**：MY MENU*］（項目を登録するタブ）を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [登録項目の選択] を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で[OK]を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**登録項目の並べ替え**]を選び、並び順を変える項目を選んで〈(SET)〉を押します。[◆]が表示された状態で〈◯〉を回して並び順を変え、〈(SET)〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**]を選ぶと1項目ずつ削除、[**タブ内の全項目削除**]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

● **タブの削除**
　現在設定しているタブを削除することができます。［**タブの削除**］を選ぶと、［MY MENU*］のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**
　タブの名称を［MY MENU*］から任意の名称に変更することができます。

1 ［タブ名の変更］を選ぶ



2 文字を入力する

● 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
● 〈◯〉〈⌒〉または〈✣〉を操作して□を移動し、希望する文字を選び、〈(SET)〉を押すと入力されます。
● 最大16文字入力できます。
● 入力をキャンセルするときは、〈INFO.〉ボタンを押して［OK］を選びます。

3 設定を終了する

● 文字の入力が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
➡ 設定した内容が保存されます。

手順2で文字が入力できないときは、〈Q〉ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

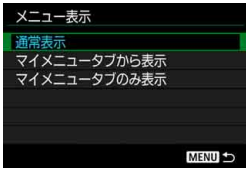
  作成したタブをすべて削除することができます。[**マイメニュータブの全削除**]を選ぶと、[MY MENU1]～[MY MENU5]のタブがすべて削除され、[★]タブが初期状態に戻ります。

- **全項目削除**

  [MY MENU1]～[MY MENU5]タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[**全項目削除**]を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

[**タブの削除**][**マイメニュータブの全削除**]を行うと、[**タブ名の変更**]で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



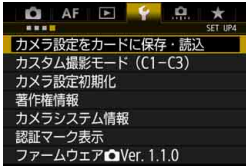
［**メニュー表示**］を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**
  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。
- **マイメニュータブから表示**
  ［★］タブの画面から表示されます。
- **マイメニュータブのみ表示**
  ［★］タブの画面だけが表示されます（［📷］［**AF**］［▶］［🔧］［📷…］タブは表示されません）。

MENU カメラ設定の保存と読み込み

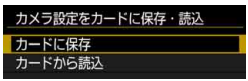
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、「カメラ設定ファイル」としてカードに保存することができます。ファイルの読み込みを行うと、保存されている内容と同じ設定状態になります。撮影シーンごとに最適な設定を保存して使い分けたり、別のEOS-1D X Mark IIでファイルを読み込んで同じ設定状態にすることができます。

カメラ設定の保存



1 **［カメラ設定をカードに保存・読込］を選ぶ**

- ［4］タブの［**カメラ設定をカードに保存・読込**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 **［カードに保存］を選ぶ**



3 **［OK］を選ぶ**

➡ カメラの設定内容がカードに保存されます。



- 手順3の画面で〈INFO.〉ボタンを押すと、ファイル名（8文字）を任意に変更してから保存することができます。
- 操作方法については、203ページ『ファイル名を変更する』を参照してください。入力できる文字数が異なりますが、操作方法は同じです。

- EOS-1D X Mark II以外のカメラで保存したカメラ設定ファイルを、このカメラで読み込むことはできません。
- カメラ設定を保存するときと、読み込むときに、カメラのファームウェアバージョンが異なると、カメラ設定ファイルが読み込めないことがあります。

1枚のカードに10件まで保存できます。すでに10件保存されているときは、上書き保存するか、別のカードに交換するか、保存するカードを変更してください。

保存される設定内容

- **撮影機能**

  撮影モード、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、AF動作、測距エリア選択モード、AFフレーム、ドライブモード、測光モード、露出補正量、AEBステップ量、ストロボ調光補正量

- **メニュー機能**

  [📷1] ホワイトバランス、WB補正/BKT設定（静止画）／WB補正（動画）、色空間、ピクチャースタイル、レンズ光学補正、多重露出（設定値）

  [📷2] JPEG画質、画像サイズ、ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先

  [📷3] 撮影画像の確認時間、電子音、カードなしレリーズ、ミラーアップ撮影、ストロボの発光、E-TTL II調光方式、Avモード時のストロボ同調速度、フリッカーレス撮影

  [📷4 (ライブビュー撮影)]
  ライブビュー撮影、AF方式、グリッド、露出Simulation

  [📷5 (ライブビュー撮影)]
  LVソフト撮影、測光タイマー、LV時のタッチ操作

[**4 (動画撮影)**]
動画サーボAF、AF方式、グリッド、動画記録画質、録音、動画サーボAF時のAF速度、動画サーボAFの被写体追従特性

[**5 (動画撮影)**]
測光タイマー、LV時のタッチ操作、動画サイレント設定、ボタンの機能、HDMI接続時の表示

[**AF1**]Case 1、Case 2、Case 3、Case 4、Case 5、Case 6

[**AF2**]AIサーボAF1コマ目レリーズ、AIサーボAF連続撮影中レリーズ

[**AF3**]レンズの電子式手動フォーカス、AF補助光の投光、ワンショットAF時のレリーズ

[**AF4**]自動選択：EOS iTR AF、AF測距不能時のレンズ動作、任意選択可能なAFフレーム、測距エリア選択モードの限定、測距エリア選択モードの切換、縦位置/横位置のAFフレーム設定、時のAIサーボAF開始測距点

[**AF5**]AFフレーム選択時の循環、測距時のAFフレーム表示、AFフレーム点灯輝度、ファインダー内のAF作動表示、AFマイクロアジャストメント

[**2**] での画像送り

[**3**]ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム、拡大倍率設定（約）

[**1**] 記録機能、画像番号、ファイル名、縦位置画像回転表示、液晶の明るさ、液晶の色調

[**2**] オートパワーオフ、ファインダー内表示、INFO.ボタンで表示する内容

[**3**] 自動クリーニング、GPSの設定（GPS、自動時刻設定、位置情報の更新間隔、ログ記録、位置情報の保持時間）、HDMI出力フレームレート

［📷1］露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケティング自動解除、ブラケティング順序、ブラケティング時の撮影枚数、測距点連動スポット測光

［📷2］セイフティシフト、絞り数値変化時の露出維持

［📷3］撮影モードの限定、測光モードの限定、マニュアル露出時の測光モード、シャッター速度の制御範囲の設定、絞り数値の制御範囲の設定、AEマイクロアジャストメント、FEマイクロアジャストメント

［📷4］連続撮影速度、連続撮影時の撮影枚数制限、ドライブモードの限定

［📷5］フォーカシングスクリーン、露光中のファインダー内表示、バルブ撮影中の表示パネル照明、記録カードと画像サイズの設定

［📷6］ファインダー内❗警告の項目、Tv/Av値設定時のダイヤル回転、レンズ未装填時の絞り数値設定、マルチ電子ロック、操作ボタンカスタマイズ、🔑/🎤ボタンの機能

［📷7］トリミング情報の付加、各種タイマー保持時間、レリーズタイムラグ最速化、音声メモの音質、画像消去の初期設定、電源オフ時のレンズ収納、IPTC情報の付加

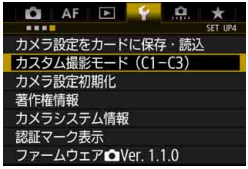
［★］マイメニュータブに登録した項目も保存されます。

カメラ設定の読み込み

手順2で［**カードから読込**］を選ぶと、カードに記録されているカメラ設定ファイルが最大10件表示されます。希望するファイルを選ぶと、読み込みが行われ、保存されている内容と同じ設定状態になります。

C: カスタム撮影モードの登録

撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、撮影モードの〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。なお、〈**C2**〉〈**C3**〉を使用するときは、[**3：撮影モードの限定**]で〈**C2**〉〈**C3**〉を有効にしてください（p.429）。

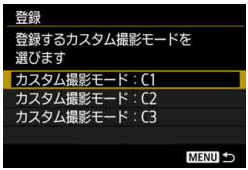


1 [カスタム撮影モード（C1-C3）]を選ぶ

- [4]タブの[**カスタム撮影モード**(C1-C3)]を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [登録]を選ぶ



3 登録する

- 登録するカスタム撮影モードを選び、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で[OK]を選びます。

➡ カメラの設定内容（p.475）が撮影モードのC＊に登録されます。

登録内容の自動更新

〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で[**登録内容の自動更新**]を[**する**]に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で［**登録解除**］を選ぶと、各モードの設定内容を登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

マイメニューの設定内容は、カスタム撮影モードには登録されません。

撮影モードが〈**C1**〉〈**C2**〉〈**C3**〉のときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

登録される設定内容

- **撮影機能**

  撮影モード、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、AF動作、測距エリア選択モード、AFフレーム、ドライブモード、測光モード、露出補正量、AEBステップ量、ストロボ調光補正量

- **メニュー機能**

  ［📷1］ホワイトバランス、WB補正/BKT設定（静止画）／WB補正（動画）、色空間、ピクチャースタイル、レンズ光学補正、多重露出（設定値）

  ［📷2］JPEG画質、画像サイズ、ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先

  ［📷3］撮影画像の確認時間、電子音、カードなしレリーズ、ミラーアップ撮影、ストロボの発光、E-TTL II調光方式、Avモード時のストロボ同調速度、フリッカーレス撮影

[**4 (ライブビュー撮影)**]
ライブビュー撮影、AF方式、グリッド、露出Simulation

[**5 (ライブビュー撮影)**]
LVソフト撮影、測光タイマー、LV時のタッチ操作

[**4 (動画撮影)**]
動画サーボAF、AF方式、グリッド、動画記録画質、録音、動画サーボAF時のAF速度、動画サーボAFの被写体追従特性

[**5 (動画撮影)**]
測光タイマー、LV時のタッチ操作、動画記録カウント、動画再生カウント、動画サイレント設定、ボタンの機能、HDMI接続時の表示

[**AF1**]Case 1、Case 2、Case 3、Case 4、Case 5、Case 6

[**AF2**]AIサーボAF1コマ目レリーズ、AIサーボAF連続撮影中レリーズ

[**AF3**]レンズの電子式手動フォーカス、AF補助光の投光、ワンショットAF時のレリーズ

[**AF4**]自動選択：EOS iTR AF、AF測距不能時のレンズ動作、任意選択可能なAFフレーム、測距エリア選択モードの限定、測距エリア選択モードの切換、縦位置/横位置のAFフレーム設定、時のAIサーボAF開始測距点

[**AF5**]AFフレーム選択時の循環、測距時のAFフレーム表示、AFフレーム点灯輝度、ファインダー内のAF作動表示、AFマイクロアジャストメント（調整値を除く）

[**2**] での画像送り

[**3**]ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム、動画再生カウント、拡大倍率設定（約）

［1］ 画像番号、縦位置画像回転表示、液晶の明るさ、液晶の色調

［2］ オートパワーオフ、ファインダー内表示、INFO.ボタンで表示する内容

［3］ 自動クリーニング、HDMI出力フレームレート

［1］ 露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケティング自動解除、ブラケティング順序、ブラケティング時の撮影枚数、測距点連動スポット測光

［2］ セイフティシフト、絞り数値変化時の露出維持

［3］ 測光モードの限定、マニュアル露出時の測光モード、シャッター速度の制御範囲の設定、絞り数値の制御範囲の設定、AEマイクロアジャストメント（調整値を除く）、FEマイクロアジャストメント（調整値を除く）

［4］ 連続撮影速度、連続撮影時の撮影枚数制限、ドライブモードの限定

［5］ 露光中のファインダー内表示、バルブ撮影中の表示パネル照明、記録カードと画像サイズの設定

［6］ Tv/Av値設定時のダイヤル回転、レンズ未装填時の絞り数値設定、マルチ電子ロック、操作ボタンカスタマイズ（〈M-Fn〉ボタンの設定を除く）、⊶/🎙ボタンの機能

［7］ トリミング情報の付加、各種タイマー保持時間、レリーズタイムラグ最速化、音声メモの音質、画像消去の初期設定、電源オフ時のレンズ収納、IPTC情報の付加

MEMO

14

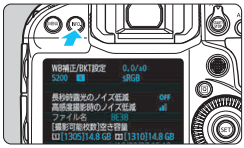
資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

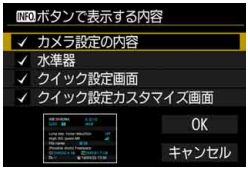
認証マークについて

［**4：認証マーク表示**］を選び〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

INFO.ボタンの機能

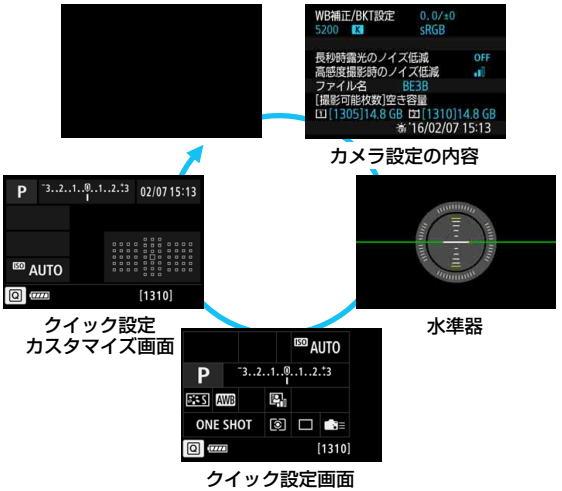


撮影準備状態で〈INFO.〉ボタンを押すと、「カメラ設定の内容」(p.481)、「水準器」(p.82)、「クイック設定画面」(p.482)、「クイック設定カスタマイズ画面」(p.463)を切り換えて表示することができます。



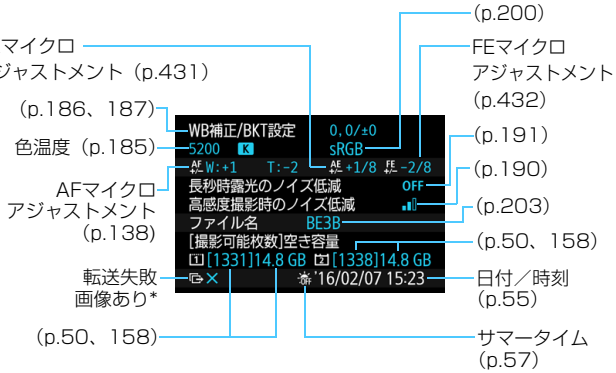
［♥2］タブの［**INFO. ボタンで表示する内容**］で、〈INFO.〉ボタンを押したときに表示する項目を選ぶことができます。

- 使用する項目を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。
- ［OK］を選ぶと設定されます。



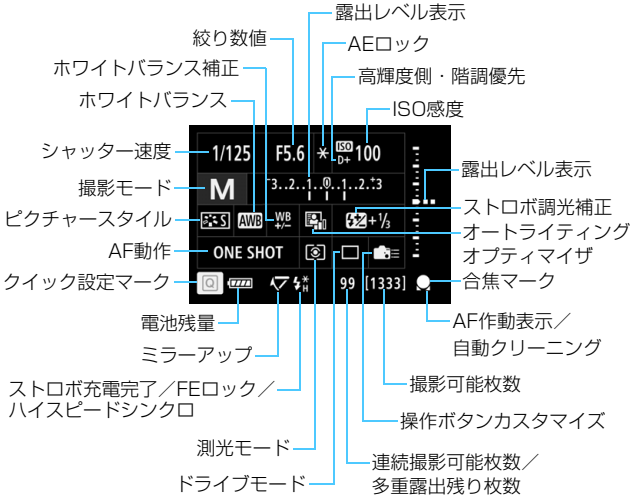
- 「水準器」「クイック設定」「クイック設定カスタマイズ」画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して画面が表示されていない状態で電源を切ります。
- 4項目すべての［✓］を外すことはできません。
- ［**カメラ設定の内容**］のサンプル画面は、どの言語でも英語で表示されます。
- ［**水準器**］を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影時、動画撮影時に〈INFO.〉ボタンを押すと、水準器が表示されます。
- 「クイック設定画面」「クイック設定カスタマイズ画面」を表示しているときに〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.68）。

カメラ設定の内容



* 転送失敗画像があるときに表示されます。

クイック設定画面



* 設定に応じた部分のみ表示されます。

クイック設定カスタマイズ画面

クイック設定カスタマイズについては、461ページを参照してください。

クイック設定画面／クイック設定カスタマイズ画面表示中のボタン操作について

〈MODE〉〈DRIVE•AF〉〈⚡•⊙〉〈⊞〉〈ISO〉〈◪〉〈WB〉ボタンを押すと、設定画面が表示され、〈☁〉〈◯〉〈✳〉〈M-Fn〉で設定することができます。



撮影モード



AF動作／ドライブモード



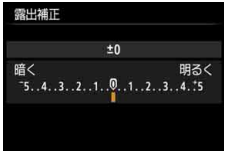
測光モード／調光補正



AFフレーム選択



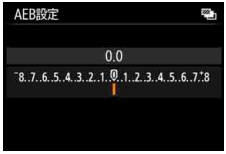
ISO感度



露出補正



ホワイトバランス



AEB設定

MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。



［バッテリー情報］を選ぶ

- ［3］タブの［**バッテリー情報**］を選び、〈SET〉を押します。



使用している電池、または家庭用電源アクセサリー（別売）の型式が表示されます。

電池残量表示（p.54）とともに、残量が1%単位で表示されます。

使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます（p.42）。

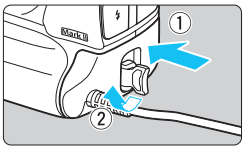
電池の劣化状態が3段階で表示されます。
- ■■■（緑）：劣化していません
- ■■□（緑）：少し劣化しています
- ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

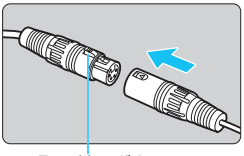
キヤノン純正のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4の使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

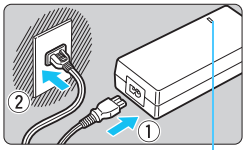
- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- ［**次回の充電時にキャリブレーションをおすすめします**］と表示されたときは、45ページを参照してください。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

家庭用電源を使用する

DCカプラー DR-E19（別売）とACアダプター AC-E19（別売）を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。







1 DCカプラーを入れる

- DCカプラーをカメラの奥までしっかりと入れ、着脱つまみを矢印の方向に回します。

2 DCカプラーとACアダプターを接続する

- DCカプラーのコネクターと、ACアダプターのコネクターをしっかりと接続します。

3 電源コードを接続する

➡ ACアダプターの電源ランプが点灯します。

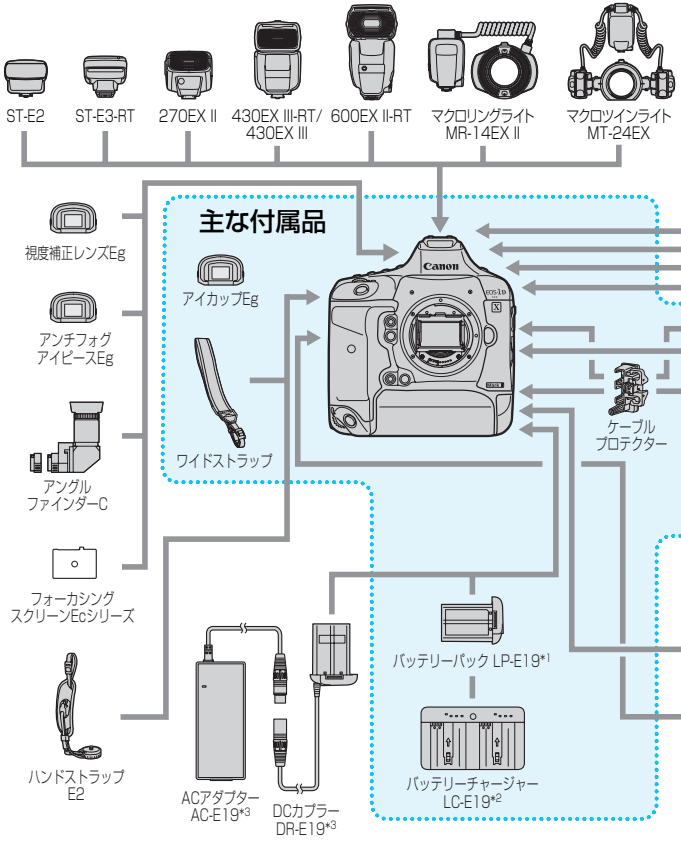
- 電源コードをACアダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする（p.53）

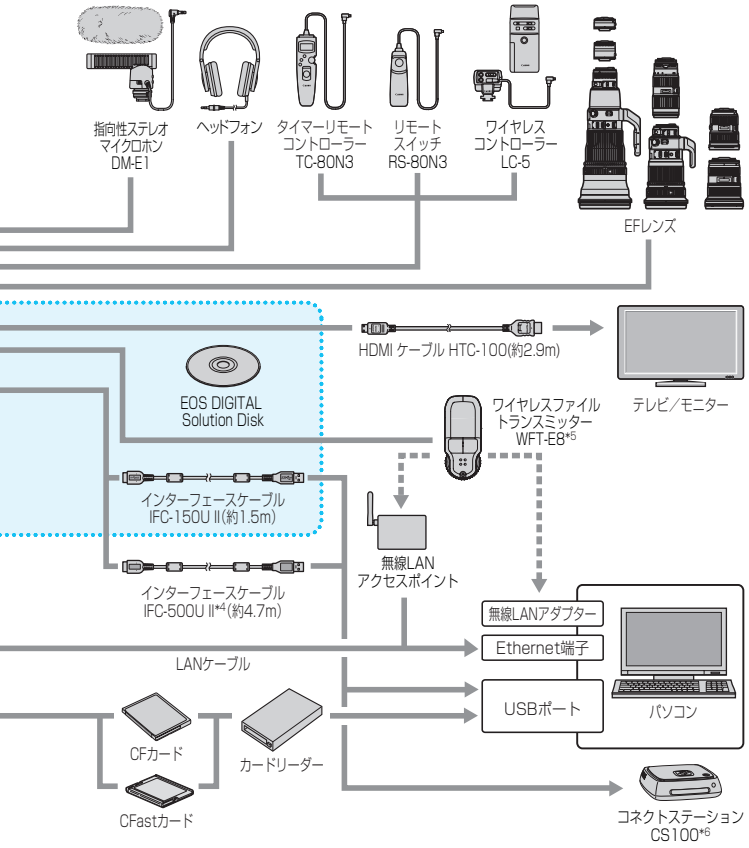
- ACアダプター AC-E19（別売）以外は使用しないでください。
- DC カプラーとACアダプターは防滴構造になっていないため、濡らさないように注意してください。
- カメラの電源が入った状態で、電源コードやコネクターの抜き差し、DCカプラーの取り外しを行わないでください。
- カメラの電源が入った状態で手順2, 3の操作を行うと、カメラの電源が入るまでに時間がかかることがあります。
- 使い終わったら、電源プラグをコンセントから抜いてください。

- コネクターを取り外すときは、取り外しボタンを押しながら引き抜きます。
- ACアダプターキット ACK-E4を使用することもできます。

システム図



*1: バッテリーチャージャー LC-E19以外では充電できません。
電源にバッテリーパックLP-E4N/E4を使用することもできます。
*2: バッテリーパック LP-E4N/LP-E4を充電することもできます。
*3: ACアダプターキット ACK-E4を使用することもできます。



*4: IFC-500U II使用時は、通信速度がHi-Speed USB(USB2.0)相当になります。
*5: ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6を使用することもできます。
WFT-E6を使用するときは、キヤノンのホームページから最新版のWFT-E6使用説明書(PDFファイル)をダウンロードしてお読みください。
*6: コネクトステーションのファームウェアは、最新版をお使いください。

各撮影モードで設定できる機能一覧

静止画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能		P	Tv	Av	M	bulb
全記録画質の選択		○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	○	○	○	○	○
	手動設定	○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	自動設定/オート	○	○	○	○	○
	任意設定	○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オート	○	○	○	○	○
	プリセット	○	○	○	○	○
	マニュアル	○	○	○	○	○
	色温度指定	○	○	○	○	○
	補正/ブラケティング	○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減		○	○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先		○	○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正	○	○	○	○	○
	回折補正	○	○	○	○	○
フリッカーレス撮影*1		○	○	○	○	○
色空間	sRGB	○	○	○	○	○
	Adobe RGB	○	○	○	○	○
AF	ワンショットAF*1	○	○	○	○	○
	AIサーボAF*1	○	○	○	○	○
	測距エリア選択モード*1	○	○	○	○	○
	AFフレーム	○	○	○	○	○
	手動ピント合わせ（MF）	○	○	○	○	○
	AFカスタム設定ガイド	○	○	○	○	○
	AFマイクロアジャストメント*1	○	○	○	○	○
	顔+追尾優先AF*2	○	○	○	○	○
	ライブ1点AF*2	○	○	○	○	○

機能		P	Tv	Av	M	bulb
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○
	高速連続撮影	○	○	○	○	○
	低速連続撮影	○	○	○	○	○
	1枚：ソフト動作	○	○	○	○	○
	ソフト高速連続撮影	○	○	○	○	○
	ソフト低速連続撮影	○	○	○	○	○
	セルフタイマー：10秒	○	○	○	○	○
	セルフタイマー：2秒	○	○	○	○	○
測光	評価測光	○	○	○	○	○
	部分測光	○	○	○	○	○
	スポット測光	○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光	○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト	○				
	露出補正	○	○	○	○*3	
	AEB	○	○	○	○	
	AEロック	○	○	○	*4	
	被写界深度確認	○	○	○	○	○
	多重露出撮影	○	○	○	○	○
	ミラーアップ撮影*1	○	○	○	○	○
外部ストロボ	ストロボ調光補正	○	○	○	○	○
	FEロック*1	○	○	○	○	○
	ストロボ機能設定	○	○	○	○	○
	カスタム機能設定	○	○	○	○	○
GPS機能		○	○	○	○	○
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○	○
タッチ操作*5		○	○	○	○	○

*1：ファインダー撮影時のみ設定できます。
*2：ライブビュー撮影時のみ設定できます。
*3：ISOオート設定時のみ設定できます。
*4：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。
*5：ライブビュー撮影時にタッチ操作ができます。

動画撮影時

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能		P/bulb	Tv	Av	M
全動画記録画質の選択		○	○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	○
	手動設定				○
ピクチャースタイル	自動設定/オート	○	○	○	○
	任意設定	○	○	○	○
ホワイトバランス	オート	○	○	○	○
	プリセット	○	○	○	○
	マニュアル	○	○	○	○
	色温度指定	○	○	○	○
	補正	○	○	○	○
	ブラケティング				
オートライティングオプティマイザ		○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減*1		○	○	○	○
高輝度側・階調優先		○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○
	歪曲収差補正				
	回折補正				
AF	+追尾優先AF	○	○	○	○
	ライブ1点AF	○	○	○	○
	手動ピント合わせ（MF）	○	○	○	○
	動画サーボAF	○	○	○	○

機能		P/bulb	Tv	Av	M
測光		●	●	●	●
露出	プログラムシフト				
	露出補正	○	○	○	○*2
	AEロック	○	○	○	*3
録音	オート	○	○	○	○
	マニュアル	○	○	○	○
	ライン入力	○	○	○	○
タイムコード		○	○	○	○
HDMI出力		○	○	○	○
GPS機能		○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○
タッチ操作		○	○	○	○

*1 ：フルHD動画撮影時のみ設定できます（4K動画撮影時は設定できません）。
*2 ：ISOオート設定時のみ設定できます。
*3 ：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。

メニュー機能一覧

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

📷：撮影1（赤）

		参照頁
ホワイトバランス	AWB（雰囲気優先）／AWB W（ホワイト優先）／☀／⛅／☁／💡／▦／⚡／🎨（1～5）／K（約2500～10000）／PC-1～5	177 179
MWBデータ登録	カード内の画像から登録／画像を撮影して登録／キャプション編集／ホワイトバランスに設定	180
WB補正/BKT設定*1	WB補正：B/A/M/G寄り各色9段	186
	WB-BKT：B/A、M/G方向1段ステップ ±3段	187
色空間*2	sRGB／Adobe RGB	200
ピクチャースタイル	オート／スタンダード／ポートレート／風景／ディテール重視／ニュートラル／忠実設定／モノクロ／ユーザー設定1～3	169
レンズ光学補正*3	周辺光量補正：する／しない	194
	色収差補正：する／しない	
	歪曲収差補正：しない／する	
	回折補正：する／しない	
多重露出*4	多重露出撮影／多重露出制御／重ねる枚数／撮影画像の保存／多重露出撮影の継続／重ねる画像を選択	248

*1：動画撮影時、［**WB補正/BKT設定**］は［**WB補正**］になります。
*2：動画撮影時、［**色空間**］は表示されません。
*3：動画撮影時、［**歪曲収差補正**］［**回折補正**］は表示されません。
*4：動画撮影時、［**多重露出**］は表示されません。

［**📷2：画像サイズ**］で表示される内容は、［**1：記録機能とカード・フォルダ選択**］の［**記録機能**］（p.152）の設定により変わります。［**振り分け**］に設定されているときは、カードごとに画像サイズを設定します。

📷：撮影2（赤）

		参照頁
JPEG画質	**L**／**M1**／**M2**／**S**の画質（圧縮）を設定	162
画像サイズ	RAW／M RAW／S RAW	155
	L／**M1**／**M2**／**S**	
ISO感度に関する設定[*1]	ISO感度設定／静止画撮影の範囲／オートの範囲／オートの低速限界	163 166 167 168
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	189
	M, Bulb時はOFF	
長秒時露光のノイズ低減[*2]	しない／自動／する	191
高感度撮影時のノイズ低減[*3]	しない／弱め／標準／強め	190
高輝度側・階調優先	しない／する	193

*1：動画撮影時、［**ISO感度に関する設定**］は［**ISO感度設定**］［**動画撮影の範囲**］［4K **の範囲**］になります。

*2：動画撮影時、［**長秒時露光のノイズ低減**］は表示されません。

*3：4K動画撮影時は設定できません。

📷：撮影3（赤）

撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	77
電子音	入／切	76
カードなしレリーズ	する／しない	50
ミラーアップ撮影*	しない／する／する（SET でミラーダウン）	256
ダストデリートデータ取得	EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	405
外部ストロボ制御	ストロボの発光／E-TTL II 調光方式／Avモード時のストロボ同調速度／ストロボ機能設定／ストロボカスタム機能設定／設定初期化	263
フリッカーレス撮影*	しない／する	198

* 動画撮影時、［**ミラーアップ撮影**］［**フリッカーレス撮影**］は表示されません。

📷：撮影4（赤）

		参照頁
ライブビュー撮影	する／しない	273
AF方式	顔+追尾優先AF／ライブ1点AF	284
グリッド	表示しない／9分割＃／24分割▦／9分割+対角✳	280
露出Simulation	する／絞り込み中／しない	281

📷：撮影5（赤）

LVソフト撮影	モード1／モード2／しない	281
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	283
LV時のタッチ操作	標準／敏感／しない	283

AF：AF1（紫）

Case 1	汎用性の高い基本的な設定	114
Case 2	障害物が入るときや、被写体がAFフレームから外れやすいとき	114
Case 3	急に現れた被写体に素早くピントを合わせたいとき	115
Case 4	被写体が急加速/急減速するとき	115
Case 5	被写体の上下左右の動きが大きいとき	116
Case 6	被写体の速度変化と上下左右の動きが大きいとき	117

動画撮影時に、［📷4］［📷5］タブに表示される内容については、502～503ページを参照してください。

AF：AF2（紫）

		参照頁
AIサーボAF1コマ目レリーズ	レリーズ優先／バランス重視／ピント優先	122
AIサーボAF連続撮影中レリーズ	連続撮影速度優先：−2/−1／バランス重視：0／ピント優先：+1/+2	123

AF：AF3（紫）

レンズの電子式手動フォーカス	ワンショットAF作動後・可能／ワンショットAF作動後・不可／AF時すべて不可	124
AF補助光の投光	する／しない／赤外光方式の補助光のみ投光	125
ワンショットAF時のレリーズ	レリーズ優先／ピント優先	126

AF：AF4（紫）

		参照頁
自動選択：EOS iTR AF	する（顔優先）／する／しない	127
AF測距不能時のレンズ動作	サーチ駆動する／サーチ駆動しない	129
任意選択可能なAFフレーム	全点／クロス測距点のみ／15点／9点	130
測距エリア選択モードの限定	スポット1点AF（任意選択）／1点AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択）／領域拡大AF（任意選択周囲）／ゾーンAF（ゾーン任意選択）／ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）／自動選択AF	131
測距エリア選択モードの切換	→M-Fnボタン／→メイン電子ダイヤル	132
縦位置/横位置のAFフレーム設定	同じ／別々に設定：エリア+フレーム／別々に設定：フレーム	132
〔〕時のAIサーボAF開始測距点	〔〕時に選択した開始測距点／時の任意選択測距点／自動	134

AF：AF5（紫）

AFフレーム選択時の循環	しない（端で突き当たり）／する	135
測距時のAFフレーム表示	選択AFフレーム／全AFフレーム／選択フレーム（合焦時/中）／選択AFフレーム（合焦時表示）／表示しない	135
AFフレーム点灯輝度	通常／明るい	136
ファインダー内のAF作動表示	視野内に表示／視野外に表示	137
AFマイクロアジャストメント	しない／全レンズ一律調整／レンズごとに調整	138

▶：再生1（青）

		参照頁
画像プロテクト	画像の保護	359
画像回転	画像の縦横回転	357
画像消去	画像の消去	387
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	415
画像コピー	カード間の画像コピー	382

▶：再生2（青）

RAW現像	RAWで撮影した画像を現像	394
トリミング	JPEG画像を部分的に切り抜き	401
リサイズ	JPEG画像の画素数を少なく処理	399
レーティング	[OFF]／[★]／[★★]／[★★★]／[★★★★]／[★★★★★]	361
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピート	376
画像転送	画像選択/転送／RAW+JPEG転送／キャプション付きで転送	412
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／プロテクト／レーティング	353

▶：再生3（青）

ハイライト警告表示	しない／する	350
AFフレーム表示	しない／する	351
再生時のグリッド	表示しない／9分割＃／24分割###／9分割+対角米	345
ヒストグラム	輝度／RGB	351
動画再生カウント*	記録時間／タイムコード	327
拡大倍率設定（約）	1倍（拡大なし）／2倍（中央から）／4倍（中央から）／8倍（中央から）／10倍（中央から）／等倍（任意選択合焦点から）／前回と同じ倍率（中央から）	356
HDMI機器制御	切／入	380

*［5（動画）］タブの［タイムコード］の［動画再生カウント］と設定が連動します。

🔧：機能設定1（黄）

		参照頁
記録機能とカード・フォルダ選択	記録機能：標準／カード自動切り換え／振り分け／同一書き込み	152
	記録・再生／再生：[1]／[2]	154
	フォルダ：フォルダの選択と作成	201
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	206
ファイル名の設定	カメラ固有設定／ユーザー設定1／ユーザー設定2	203
縦位置画像回転表示	する📷📱／する📱／しない	391
カード初期化	記録内容を初期化して消去	74
液晶の明るさ	7段階の明るさ調整	389
液晶の色調	1：暖色／2：標準／3：寒色1／4：寒色2	390

🔧：機能設定2（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／しない	76
日付/時刻/エリア	日付（年/月/日・表示順序）／時刻（時/分/秒）／サマータイム／エリア	55
言語	表示言語を選択	58
ファインダー内表示	水準器：表示しない／表示する	83
	グリッド：表示しない／表示する	81
	ファインダー内表示設定：撮影モード／測光モード／ホワイトバランス／ドライブモード／AF動作／フリッカー検知	84
INFOボタンで表示する内容	カメラ設定の内容／水準器／クイック設定画面／クイック設定カスタマイズ画面	480
クイック設定カスタマイズ	レイアウト編集開始／初期配置の状態に戻す／全項目消去	461

🔧：機能設定3（黄）

		参照頁
ビデオ方式*1	NTSC／PAL	312 379
バッテリー情報	使用電源／バッテリー残容量／撮影回数／劣化度	484
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	404
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	407
通信機能の設定	有線LAN機能、およびWFT-E8（別売）／WFT-E6（別売）による無線LAN機能の設定	–
GPSの設定	GPS／自動時刻設定／位置情報の更新間隔／GPS情報の表示／ロガー	211
HDMI出力フレームレート*1*2	自動／59.94i/50.00i／59.94p/50.00p／23.98p	340

*1：［**動画記録画質**］の［**24.00p**］が［**入**］のときは設定できません。
*2：表示される内容は、［**ビデオ方式**］の設定により変わります。

- GPS機能やワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E8（別売）／WFT-E6（別売）を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制に従ってください。
- WFT-E6を使用するときは、キヤノンのホームページから最新版のWFT-E6使用説明書（PDFファイル）をダウンロードしてお読みください。

有線LAN機能については、『有線LAN使用説明書』（p.4）を参照してください。

：機能設定4（黄）

		参照頁
カメラ設定をカードに保存・読込	カードに保存／カードから読込	470
カスタム撮影モード（C1-C3）	登録／登録解除／登録内容の自動更新	474
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	77
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	208
カメラシステム情報	シリアルNo.／ファームウェア／レリーズ回数／カメラ状態履歴	522
認証マーク表示	このカメラが認証を受けているマークの一部を表示	479
ファームウェア	カメラ、レンズ、ストロボ、ワイヤレスファイルトランスミッターのファームウェア変更時に選択	–

：カスタム機能（橙）

C.Fn1：露出	カメラの機能を細かく設定	423
C.Fn2：露出		426
C.Fn3：露出		429
C.Fn4：ドライブ		433
C.Fn5：表示・操作		435
C.Fn6：操作		438
C.Fn7：その他		441
C.Fn8：解除	カスタム機能をすべて解除	422

★：**マイメニュー**（緑）

		参照頁
マイメニュータブの追加	マイメニュー 1～5タブを追加	465
マイメニュータブの全削除	マイメニュータブをすべて削除	468
全項目削除	マイメニュー 1～5タブに登録されている項目をすべて削除	468
メニュー表示	通常表示／マイメニュータブから表示／マイメニュータブのみ表示	469

動画撮影時

📷：撮影2（動画）（赤）

		参照頁
ISO感度に関する設定	ISO感度設定／動画撮影の範囲／4Kの範囲	330

📷：撮影4（動画）（赤）

動画サーボAF	する／しない	331
AF方式	顔+追尾優先AF／ライブ1点AF	333
グリッド	表示しない／9分割＃／24分割###／9分割+対角✕	333
動画記録画質	MOV／MP4	311
	動画記録サイズ ・4K（4096×2160）／Full HD（1920×1080） ・NTSC：59.94p／29.97p／23.98p PAL：50.00p／25.00p ・MJPG／ALL-I（編集用）／IPB（標準）／IPB（軽量）	312
	24.00p：切／入	317
	ハイフレームレート：切／入	318
録音	録音：オート／マニュアル／ライン入力／しない	322
	録音レベル	
	ウィンドカット：切／入	323
	アッテネーター：切／入	
動画サーボAF時のAF速度*	作動条件：常時／撮影中	334
	AF速度：遅い（-7/-6/-5/-4/-3/-2/-1）／標準／速い（+1/+2）	
動画サーボAFの被写体追従特性*	粘る（-3/-2/-1）／0／敏感（+1/+2/+3）	335

*［**AF方式**］が［**顔+追尾優先AF**］のときは設定できません。

📷：撮影5（動画）（赤）

		参照頁
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	336
LV時のタッチ操作	標準／敏感／しない	336
タイムコード	カウントアップ／スタート時間設定／動画記録カウント／動画再生カウント*1／HDMI／ドロップフレーム*2	326
動画サイレント設定	有効／無効	325
ボタンの機能	AF／－／／－／AF／／／	337
HDMI接続時の表示	／情報表示なし／＋	338

*1：[3] タブの［**動画再生カウント**］と設定が連動します。

*2：119.9P（119.9fps）、59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）設定時に表示されます。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- 付属のバッテリーチャージャー LC-E19は、付属のバッテリーパック LP-E19、または純正のバッテリーパック LP-E4N/LP-E4以外は充電できません。
- バッテリーチャージャー LC-E4N/LC-E4で、付属のバッテリーパック LP-E19を充電することはできません。

充電器の〈CAL〉ランプが点滅した

- 電池に充電できる容量を把握して、カメラの電池残量表示が正しく行われるようにするため、キャリブレーション（放電）を推奨する表示です。詳しくは45ページを参照してください。

充電器に電池を取り付けた直後に〈100%〉のランプだけが点灯した

- 充電を開始してすぐに〈**100%**〉のランプだけが緑色に点灯したときは、電池内部の温度が適正範囲外の状態です。電池内部の温度が＋5～＋40℃の範囲内になると、自動的に充電が始まります。

充電器の3つのランプが全部点滅した

- 付属のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4以外の電池を充電器に取り付けたときは充電できません。3つのランプと〈**CAL**〉ランプが緑色で点滅します。
- 充電時に３つのランプが緑色で順番に点滅したときや、３つのランプが緑色で順番に点滅しながら、〈**CAL**〉ランプも緑色で点滅したときは、電池を充電器から取り外し、お買い上げになった販売店、または別紙の修理お問合せ専用窓口にご連絡ください。
- キャリブレーション時に、３つのランプが点滅したときは、電池を充電器から取り外し、お買い上げになった販売店、または別紙の修理お問合せ専用窓口にご連絡ください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.47）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.49）。
- 電池を充電してください（p.42）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

[ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？] と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4を使用してください。
- 電池の出し入れを行ってください（p.47）。
- 電池の接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.42）。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。［**3：バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.484）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - ・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使う
  - ・GPS機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
  - ・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］にしてください（p.76）。
- ［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-S、EF-Mレンズは使用できません（p.59）。

ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください（p.42）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.49）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.49、386）。
- ワンショットAFでピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.62、145）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、52、525ページを参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- 容量が128GBを超えるCFカード、およびCFastカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化した128GBを超えるカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

シャッターボタンを2回押さないと撮影できない

- ［📷3：ミラーアップ撮影］を［しない］に設定してください。

画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.59）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.61、62）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.231）、ISO感度を上げる（p.163）、ストロボを使用する（p.260）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- 229ページの『ブレの少ない画像を撮影するには』を参照してください。

AFフレーム（測距点）が少ない／エリアAFフレームの形が異なる

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Kの11グループに分類されます（p.102）。使用するレンズがどのグループに属しているか確認してください。なお、G～Kグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります（p.105～108）。

AFフレームが点滅している／2つ表示される

- 〈⊡〉ボタンを押したときのAFフレームの点灯／点滅については、95ページを参照してください。
- 登録した位置のAFフレームが点滅しています（p.95、450）。
- 任意選択しているAFフレーム（またはゾーン）と、登録AFフレームが表示されています（p.94、450）。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください（p.88）。AIサーボAFのときは、フォーカスロック撮影はできません（p.89）。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、電池残量、温度、ISO感度、フリッカー低減処理、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などにより低下することがあります。詳しくは148、149ページを参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、158ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。
- [**振り分け**] 設定時に、CFカード（カード1）とCFastカード（カード2）の画像サイズの設定が異なるときは、連続撮影可能枚数が少なくなります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、158ページの表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［**2：高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO 感度の設定範囲がISO200～51200になります。［**静止画撮影の範囲**］で設定範囲を拡張しても、L（ISO50相当）、H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）、H3（ISO409600相当）は選択できません。［**2：高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると（p.193）、ISO100/125/160、およびL、H1/H2/H3 が設定できるようになります。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］を［**しない**］に設定してください（p.189）。［**弱め**］［**標準**］［**強め**］に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- 237ページを参照して露出補正を行ってください。
- ストロボ撮影時に露出補正は行われません。

スポット測光範囲が表示されない

- ［5：フォーカシングスクリーン］を［Ec-A, B, L］に設定しているときは（p.435）、ファインダー内にスポット測光範囲は表示されません。

多重露出撮影時に撮影画像が表示されない

- ［連続撮影優先］設定時は、撮影途中に「撮影直後の画像確認」「画像再生」はできません（p.248）。

多重露出画像がRAWで撮影される

- 画像サイズの設定がM RAW、S RAWのときは、多重露出画像はRAWで記録されます（p.255）。

〈Av〉モードでストロボ撮影するとシャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出となるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、［3：外部ストロボ制御］の［Avモード時のストロボ同調速度］を、［1/250-1/60秒自動］または［1/250秒固定］に設定してください（p.264）。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボ（またはシンクロコード）がしっかり取り付けられているかどうか確認してください。
- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［5：LVソフト撮影］を［しない］に設定してください（p.281）。

ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.261）。
- ストロボカスタム機能の［**調光方式**］が［**TTL**］（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（p.268）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- ［**3：外部ストロボ制御**］の［**Av モード時のストロボ同調速度**］を［**自動**］に設定してください（p.264）。

ライブビュー撮影時にシャッター音が2回する

- ストロボ使用時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.274）。

ライブビュー撮影時に白い 🔥 と赤い 🔥 が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🔥〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🔥〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています（p.293）。

ライブビュー撮影時の連続撮影中に撮影画像が表示されない

- 画像サイズが**M** RAW、**S** RAW に設定されているときは、連続撮影中に撮影画像は表示されません（p.273）。

動画撮影時に赤い 🔥 が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い〈🔥〉が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.341）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、316ページを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒（ハイフレームレート動画撮影時は7分29秒）経過すると、動画撮影が自動的に終了します。
- 4K 59.94P / 50.00P MJPG 撮影時は、CFastカード［2］に記録してください。高速タイプのCFカード［1］を使用しても、一度にごく短時間（最大約10秒程度）しか記録できません。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**bulb**〉のときはISO感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときはISO感度を任意に設定することができます（p.302）。

動画撮影時にISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［📷2：**高輝度側・階調優先**］が［**する**］に設定されているときは、ISO 感度の設定範囲がISO200～になります。［**動画撮影の範囲**］［**4K の範囲**］で設定範囲を拡張しても、H、H1、H2は選択できません。［📷2：**高輝度側・階調優先**］を［**しない**］に設定すると（p.193）、ISO100/125/160、および拡張ISO感度が設定できるようになります。

動画撮影にすると手動設定したISO感度が変わる

- ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時は［**2：ISO感度に関する設定**］の［**静止画撮影の範囲**］（p.166）、動画撮影時は［**動画撮影の範囲**］［**4K の範囲**］（p.330）の設定内容でISO感度が設定されます。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。〈**Tv**〉〈**M**〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、現象が緩和されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画に音声が記録されない

- ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。

タイムコードが付加されない

- ハイフレームレート動画撮影時に、［**5：タイムコード**］の［**カウントアップ**］が［**フリーラン**］に設定されているときは（p.326）、タイムコードは付加されません。また、HDMI出力を行ったときも、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません（p.328）。

タイムコードのカウントが早い

- ハイフレームレート動画撮影時は、実時間1秒で4秒分カウントアップします（p.318）。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

操作関連

〈〉〈〉〈〉で設定を変更できない

- 電源スイッチを〈**ON**〉の位置にしてください（p.53）。
- ［6：**マルチ電子ロック**］の設定内容を確認してください（p.439）。

縦位置の〈〉〈〉やボタンが操作できない

- 縦位置操作スイッチを〈**ON**〉にしてください（p.67）。

タッチ操作ができない

- メニュー画面表示中や画像再生時にタッチ操作はできません。ライブビュー撮影、動画撮影時のAFフレーム選択、拡大表示のときにタッチ操作を行うことができます。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- ［6：**操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容を確認してください（p.445）。

表示関連

［★］マイメニュータブから表示される／［★］タブしか表示されない

- ［★］タブの［**メニュー表示**］が［**マイメニュータブから表示**］または［**マイメニュータブのみ表示**］に設定されています。［**通常表示**］に設定してください（p.469）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.200）。

ファイル名の4文字目が変化する

- ［1：ファイル名の設定］が［***+画像サイズ］に設定されています。カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください（p.203）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.206）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.55）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.56、57）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.415）。

［###］が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます。

液晶モニターの表示が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ［▶3：ハイライト警告表示］が［する］に設定されています（p.350）。

画像に赤い枠が表示される

- ［▶3：AFフレーム表示］が［する］に設定されています（p.351）。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 歪曲収差補正（p.195）が行われた画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません（p.358）。

動画がコピーできない

- ファイルサイズが4GBを超える動画ファイルはコピーできないことがあります。詳しくは382ページを参照してください。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします（p.323）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（p.301）。

動画がスローモーションで再生される

- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画として記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

テレビに映像が表示されない

- ［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.379）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.320）。ただし、128GBを超えるCFカード、またはCFastカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

動画からフレーム切り出しができない

- 4K画質で撮影した動画からのみフレーム切り出しを行うことができます。フルHD画質で撮影した動画や、他のカメラで撮影した4K動画からは、フレーム切り出しはできません。

カードリーダーでカードを認識できない

- 大容量のCFカード、CFastカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）を使って画像を取り込んでください。

RAW画像が現像できない

- **M** RAW、**S** RAW画像はカメラで現像処理を行うことはできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.552）で現像処理を行ってください。

画像をリサイズ／トリミングできない

- JPEGの**S**とRAW/**M** RAW/**S** RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズできません（p.399）。
- RAW/**M** RAW/**S** RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでトリミングできません（p.401）。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。[**3：センサークリーニング**]の[**今すぐクリーニング**]を行うと（p.404）、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- ［**今すぐクリーニング**］を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません（p.404）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがあります（p.53）。

印刷関連

ダイレクトプリントができない

- このカメラにPictBridge機能は搭載されていません（ダイレクトプリントはできません）。

パソコン接続関連

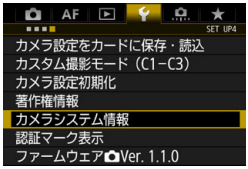
パソコンに画像が転送できない

- EOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM／p.4）をパソコンに入れ、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.552）をパソコンにインストールしてください（p.553）。
- EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。

MENU カメラシステム情報

カメラのシリアル番号、ファームウェアのバージョン、レリーズ回数を画面で確認することができます。また、過去に発生したエラーや注意の履歴を確認することもできます。

この機能でカメラの状態を確認して、必要に応じて別紙の修理お問合せ専用窓口でメンテナンスを行うことで、不具合の発生を低減することができます。



1 ［カメラシステム情報］を選ぶ

- ［4］タブの［**カメラシステム情報**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 内容を確認する

- シリアル番号、ファームウェア、レリーズ回数を確認することができます。

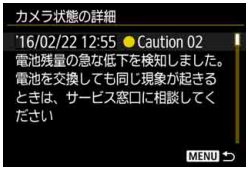
エラーや注意の履歴を確認する

過去に発生したエラーや注意の履歴や、発生時に使用していたレンズ、ストロボ使用の有無、使用電池を確認することができます。



3 履歴を確認する

- 手順２の画面で、〈INFO.〉ボタンを押します。
- ➡ カメラの状態履歴が表示されます。
- 「Err **」はエラー情報です。内容は525ページを参照してください。
- 「Caution **」は注意情報です。内容は次ページを参照してください。



4 内容を確認する

- 〈◯〉を回して項目を選び〈INFO.〉ボタンを押すと、エラーまたは注意の内容が表示されます。
- 〈◯〉を回して内容を確認します。

● 注意情報（Caution）について

このカメラは重要な機構が正常に動作しているかチェックしています。エラーに至らない不正確な動作を検知すると、注意情報として履歴に記録されます。撮影を続けることはできますが、不具合につながる可能性がありますので、メッセージおよび対処方法に従って対応してください。

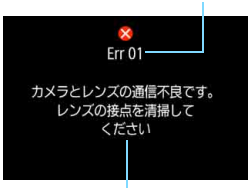
Caution 番号	メッセージ	内容／対処方法
01	シャッター速度の自動調整を繰り返し行いました。そのまま撮影はできますが、サービス窓口に相談することをおすすめします	このカメラはシャッター速度の誤差を検出すると自動的に調整を行い精度を維持します。繰り返し調整が行われたときに、この注意メッセージが表示されます。 そのまま撮影はできますが、サービス窓口に相談することをおすすめします。
02	電池残量の急な低下を検知しました。電池を交換しても同じ現象が起きるときは、サービス窓口に相談してください	電源が入っていない状態で所定期間内に電池残量が低下した場合に、この注意メッセージが表示されます。 充電済みの別のバッテリーパック LP-E19、またはバッテリーパック LP-E4N/LP-E4 に交換しても繰り返し同じメッセージが表示されるときは、カメラ本体の不具合の可能性がありますので、サービス窓口に相談してください。
03	シャッターチャージのリトライ動作が行われました。同じ現象が繰り返し起きるときは、サービス窓口に相談することをおすすめします	シャッターとミラーのチャージ動作が、正常に完了せず再度行われた場合に、この注意メッセージが表示されます。 そのまま撮影できますが、繰り返し表示されるときは、サービス窓口に相談することをおすすめします。

カメラ状態履歴の全削除

手順3で〈🗑〉ボタンを押すと、表示されている履歴をすべて削除することができます。

- カメラ状態履歴の画面には、エラー、注意を合わせて最新の5件が表示されます。5件を超えたときは、古い履歴が自動的に削除されます。
- レリーズ回数は1,000回単位で表示されます。なお、1,000,000回以上は、1,000,000回と表示されます。
- 同じエラーや注意が繰り返し発生するときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用、電池の出し入れ（p.25、26、47）
02	カード＊にアクセスできません。カード＊を入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.49、74）
04	カード＊がいっぱいになったため、記録できませんでした。カード＊を交換してください
	➔カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.49、386、74）
06	センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください
	➔電源スイッチ操作（p.53）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔電源スイッチ操作、電池の出し入れ、純正レンズを使用（p.53、47）

＊ 上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、EOS・サポートナビ(canon.jp/eos-navi)から修理をお申し込みいただくか、エラー番号を控えて別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式……デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体……CFカード（タイプI準拠、UDMAモード7対応）
CFastカード（CFast 2.0対応）
撮像画面サイズ……約35.9×23.9mm
使用レンズ……キヤノンEFレンズ群
* EF-S、EF-Mレンズを除く
（有効撮影画角は表記焦点距離の約等倍に相当）
レンズマウント……キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式……CMOSセンサー
カメラ部有効画素……約2020万画素
* 1万の位を四捨五入
アスペクト比……3：2
ダスト除去……自動/手動、ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット……DCF2.0
画像タイプ……JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数……L（ラージ）　：約2000万（5472×3648）画素
M1（ミドル1）：約1270万（4368×2912）画素
M2（ミドル2）：約890万（3648×2432）画素
S（スモール）　：約500万（2736×1824）画素
RAW（ロウ）　：約2000万（5472×3648）画素
M-RAW　：約1120万（4104×2736）画素
S-RAW　：約500万（2736×1824）画素
記録機能……標準、カード自動切り換え、振り分け、同一書き込み
フォルダ作成／選択……可能
ファイル名……カメラ固有設定、ユーザー設定1、ユーザー設定2
画像番号……通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル……オート、スタンダード、ポートレート、風景、ディテール重視、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス……オート（雰囲気優先）、オート（ホワイト優先）、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル（5件）、色温度指定（約2500～10000K）、カスタムホワイトバランス（5件）
ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応
画像の明るさ自動補正……オートライティングオプティマイザ機能搭載
ノイズ低減……高感度撮影、長秒時露光に対応
高輝度側・階調優先……可能
レンズ光学補正……周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正、回折補正

■ファインダー

方式……ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率……上下/左右とも約100%（アイポイント約20mm時）
倍率……約0.76倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント……約20mm（－1m^{-1}時、接眼レンズ中心から）
視度調整範囲……約－3.0～+1.0m^{-1}（dpt）
アイピースシャッター……内蔵
フォーカシング
スクリーン……Ec-C6標準装備、交換可能
グリッド表示……可能
水準器表示……可能
機能設定表示……画像タイプ：JPEG/RAW、撮影モード、測光モード、ホワイトバランス、ドライブモード、AF動作、フリッカー検知、警告！表示、AF作動表示
ミラー……クイックリターン式
被写界深度確認……可能

■オートフォーカス（ファインダー撮影時）

方式……専用AFセンサーによるTTL二次結像位相差検出方式
測距点……最大61点（クロス測距点：最大41点）
* 使用レンズにより、測距点数、デュアルクロス測距点数、クロス測距点数が変動する
* 中央部縦5測距点はF2.8対応デュアルクロス測距（AFグループ属性：Aグループレンズ使用時）

測距輝度範囲……EV -3～18（中央F2.8対応測距点・ワンショットAF・常温・ISO100）
フォーカス動作……ワンショットAF、AIサーボAF、手動（MF）
測距エリア選択モード……スポット1 点AF（任意選択）、1 点AF（任意選択）、領域拡大AF（任意選択上下左右）、領域拡大AF（任意選択周囲）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AF
測距点自動選択条件……EOS iTR AFの設定による
（顔情報、色情報を使用したAFが可能）
* iTR：Intelligent Tracking and Recognition

AFカスタム設定
ガイド機能……Case1～6
AIサーボAF特性……被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性
AF機能のカスタマイズ……17種
AF微調整……AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光……EOS用外部ストロボのAF補助光による

■露出制御

測光方式……約36万画素RGB＋IR測光センサー使用、216分割TTL開放測光
EOS iSA（Intelligent Subject Analysis）システム
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6.2%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約1.5%）
* 測距点連動スポット測光、マルチスポット測光可能

・中央部重点平均測光
測光輝度範囲……EV 0～20（常温・ISO100・評価測光）
撮影モード……プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ、カスタム撮影モード（C1/C2/C3）

ISO感度（推奨露光指数）……ISOオート、ISO 100～51200任意設定（1/3、1段ステップ）、およびL（ISO 50相当）、H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）、H3（ISO409600相当）の感度拡張が可能
* 高輝度側・階調優先設定時はISO200～51200
ISO感度関連設定……静止画撮影の範囲、オートの範囲、オートの低速限界設定可能
露出補正……手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）
AEロック……自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる
フリッカー低減……可能

■多重露出撮影
撮影方法……機能・操作優先、連続撮影優先
多重枚数……2～9枚
多重露出制御……加算、加算平均、比較（明）、比較（暗）

■シャッター
形式……電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度……1/8000～30秒（すべての撮影モードを合わせて）、バルブ、ストロボ同調最高シャッター速度＝1/250秒

■ドライブ関係

ドライブモード ..... 1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、1枚：ソフト動作、ソフト高速連続撮影、ソフト低速連続撮影、セルフタイマー：10秒、セルフタイマー：2秒

連続撮影速度 ..... 高速連続撮影
ファインダー撮影時：最高約14.0コマ/秒
（14～2コマ/秒に設定可能）
ライブビュー撮影時：最高約16.0コマ/秒
（16, 14～2コマ/秒に設定可能）
* H1（ISO102400相当）以上（カメラ内部が低温状態のときはISO32000以上）のときは、高速連続撮影時の連続撮影速度が、ファインダー撮影時：最高約10.0コマ/秒、ライブビュー撮影時：最高約14.0コマ/秒となる（バッテリーパック LP-E19使用時）
* 高速連続撮影時の連続撮影速度は、電源の種類、電池残量、温度、ISO感度、フリッカー低減処理、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがある
* ライブビュー撮影時に「16 コマ / 秒」に設定したときは、ストロボは発光しない
低速連続撮影：約3.0コマ/秒
（13～1コマ/秒に設定可能）
ソフト高速連続撮影：最高約5.0コマ/秒
（5～2コマ/秒に設定可能）
ソフト低速連続撮影：最高約3.0コマ/秒
（4～1コマ/秒に設定可能）

連続撮影可能枚数 ..... JPEGラージ：
CFカード：標準：約140枚／高速：Full
CFastカード：Full
RAW：
CFカード：標準：約59枚／高速：約73枚
CFastカード：約170枚
RAW+JPEGラージ：
CFカード：標準：約48枚／高速：約54枚
CFastカード：約81枚
* 当社試験基準CFカード（標準：8GB／高速：UDMAモード7対応 64GB）、CFastカード（CFast2.0対応 128GB）を使用し、当社試験基準（ファインダー撮影、高速連続撮影、JPEG画質：8、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード、IPTC情報の付加：しない）で測定

*「Full」は、カードの空き容量がなくなる（カードフル）まで撮影可能

■外部ストロボ

対応ストロボ ..... EXシリーズスピードライト
調光方式 ..... E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正 ..... 1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック ..... 可能
シンクロ端子 ..... あり
ストロボ制御 ..... ストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定

■ライブビュー撮影機能

フォーカス方式 ..... デュアルピクセル CMOS AF方式
AF方式 ..... 顔+追尾優先AF、ライブ1点AF
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
* タッチ操作によるAF可能
測距輝度範囲 ..... EV -3～18（常温・ISO100）
測光方式 ..... 評価測光（315分割）、部分測光（ライブビュー画面の約6.5%）、スポット測光（ライブビュー画面の約2.8%）、中央部重点平均測光
測光輝度範囲 ..... EV 0～20（常温・ISO100・評価測光）
露出補正 ..... 1/3、1/2段ステップ±5段
LVソフト撮影 ..... 可能（モード1、2）
グリッド表示 3種類

■動画撮影機能

記録形式 ..... MOV、MP4
映像 ..... 4K：Motion JPEG
Full HD：MPEG-4 AVC/H.264 可変（平均）ビットレート方式
音声 ..... MOV：リニアPCM、MP4：AAC
動画記録サイズ ..... 4K（4096×2160）、Full HD（1920×1080）
フレームレート ..... 119.9p/59.94p/29.97p/24.00p/23.98p（NTSC設定時）
100.0p/50.00p/25.00p/24.00p（PAL設定時）
* 119.9p/100.0pはFull HDハイフレームレート動画

映像記録方式／
圧縮方式 ..... Motion JPEG
ALL-I（編集用／I-only）、IPB（標準）、IPB（軽量）
* Motion JPEG、ALL-IはMOV設定時のみ
* IPB（軽量）はMP4設定時のみ
ビットレート ..... [MOV]
4K（59.94p/50.00p） ：約800Mbps
4K（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）
：約500Mbps
Full HD（119.9p/100.0p）/ALL-I ：約360Mbps
Full HD（59.94p/50.00p）/ALL-I ：約180Mbps
Full HD（59.94p/50.00p）/IPB ：約60Mbps
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/ALL-I
：約90Mbps
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）
：約30Mbps
[MP4]
Full HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準）：約60Mbps
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）
：約30Mbps
Full HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）：約12Mbps

要求カード性能 ..... 4K（59.94p/50.00p） ：CFast 2.0
（書き込み/読み取り速度） 4K（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）
：CF UDMA 7：100MB/秒以上／CFast 2.0
Full HD（119.9p/100.0p）
：CF UDMA 7：100MB/秒以上／CFast 2.0
Full HD（59.94p/50.00p）/ALL-I
：CF UDMA 7：60MB/秒以上／CFast 2.0
Full HD（59.94p/50.00p）/IPB ：30MB/秒以上
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/ALL-I
：30MB/秒以上
Full HD（29.97p/25.00p/24.00p/23.98p）/IPB（標準）
：10MB/秒以上
Full HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）
：10MB/秒以上
フォーカス方式 ..... デュアルピクセル CMOS AF方式
AF方式 ..... 顔+追尾優先AF、ライブ1点AF
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）

動画サーボAF.....可能
* 動画サーボAFのカスタマイズ可能
測距輝度範囲 .....EV -3～18（常温・ISO100）
測光方式.....撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光
* AF方式により自動設定
測光輝度範囲 .....EV 0～20（常温・ISO100・中央部重点平均測光）
露出制御 .....自動露出撮影（動画撮影用プログラムAE）、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出
露出補正 .....1/3、1/2段ステップ±3段
ISO感度 .....[Full HD]
（推奨露光指数）　P/Tv/Av/B：ISO100～25600自動設定、
H（ISO32000/40000/51200相当）、H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）の感度拡張が可能
M：ISOオート（ISO100～25600自動設定）、ISO100～25600手動設定（1/3、1段ステップ）、
H（ISO32000/40000/51200相当）、H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）の感度拡張が可能
[4K]
P/Tv/Av/B：ISO100～12800自動設定、
H（ISO16000/20000/25600/32000/40000/51200相当）、H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）の感度拡張が可能
M：ISOオート（ISO100～12800自動設定）、ISO100～12800手動設定（1/3、1段ステップ）、
H（ISO16000/20000/25600/32000/40000/51200相当）、H1（ISO102400相当）、H2（ISO204800相当）の感度拡張が可能
ISO感度関連設定.....動画撮影の範囲、4Kの範囲設定可能
タイムコード .....付加可能
ドロップフレーム.....119.9p/59.94p/29.97p対応
録音.....モノラルマイク内蔵、外部ステレオマイク端子装備、ライン入力可能
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能／アッテネーター機能搭載

ヘッドフォン ..... ヘッドフォン端子装備、音量調整可能
グリッド表示 3種類
静止画撮影 ..... 動画撮影時不可
2画面表示 ..... 液晶モニターとHDMI出力映像の同時表示可能
HDMI出力 ..... 情報表示なし映像を出力可能
* 自動／59.94i/50.00i／59.94p/50.00p／23.98pから選択可能
* [24.00p: 入] 設定時は、24.00pでHDMI出力
* タイムコード付加可能
アクセサリー取り付け ..... 底面に回転防止用の位置決め穴を装備

■液晶モニター
形式 ..... TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数 ..... ワイド3.2型（3：2）／約162万ドット
明るさ調整 ..... 手動（7段階）
色あい調整 ..... 暖色／標準／寒色1／寒色2
水準器表示 ..... 可能
メニュー表示言語 ..... 日本語、英語
タッチパネル ..... 静電容量方式
* ライブビュー撮影、動画撮影時におけるAFフレームの移動（AF可能）、拡大表示時に機能
ヘルプ表示 ..... 可能
カメラシステム情報 ..... 確認可能

■再生機能
画像表示形式 ..... 1枚表示（情報表示なし）、1枚表示（簡易情報）、1枚表示（撮影情報表示：詳細情報、レンズ/ヒストグラム情報、ホワイトバランス情報、ピクチャースタイル情報1、ピクチャースタイル情報2、色空間/ノイズ低減情報、レンズ光学補正情報1、レンズ光学補正情報2、GPS情報、IPTC情報）、インデックス表示（4枚/9枚/36枚/100枚）
ハイライト警告 ..... ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示 ..... 可能（撮影条件により表示できない場合がある）
グリッド表示 3種類
拡大表示 ..... 約1.5～10倍、拡大開始倍率／開始位置設定可能
画像送り 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/プロテクト/レーティング

画像回転 ..... 可能
画像プロテクト..... 可能
レーティング ..... 可能
音声メモ ..... 記録/再生可能
動画再生 ..... 可能（液晶モニター／HDMI）、スピーカー内蔵
動画前後カット..... 可能
4K動画フレーム
切り出し ..... 任意のフレームを切り出しJPEG画像として保存可能
スライドショー..... 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/プロテクト/レーティング
画像コピー ..... 可能

■撮影後の画像処理
カメラ内RAW現像..... 明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、レンズ光学補正（周辺光量補正、歪曲収差補正、デジタルレンズオプティマイザ、色収差補正、回折補正）
リサイズ ..... 可能
トリミング ..... 可能

■画像転送機能
転送対応画像 ..... 静止画（JPEG画像、RAW画像、RAW＋JPEG画像）、動画
* プロテクト画像のみの転送可能

■印刷指定
DPOF..... バージョン1.1準拠

■GPS機能

対応衛星	GPS衛星（アメリカ）、GLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）
GPS信号受信モード	モード1、モード2
画像への位置情報付加	緯度、経度、標高、協定世界時（UTC）、衛星捕捉状態
位置情報の更新間隔	1／5／10／15／30秒間隔、1／2／5分間隔
位置情報の保持時間	10分／30分／1時間／3時間／6時間／制限なし
時刻合わせ	GPS の時刻データをカメラに設定
ログデータ	NMEAフォーマット、1日1ファイル生成 * エリアを変えると別ファイル生成 * 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動／パソコンに取り込み可能
ログデータの消去	可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能	35種
クイック設定	
カスタマイズ	可能
カメラ設定保存	1枚のカードに最大10件登録可能
カスタム撮影モード	C1/C2/C3に登録
マイメニュー	5画面登録可能
著作権情報	設定/付加可能
IPTC情報	付加可能

■インターフェース

デジタル端子	SuperSpeed USB（USB3.0） パソコン通信、コネクトステーションCS100接続
HDMIミニ出力端子	タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力／ ライン入力端子	Φ3.5mmステレオミニジャック 指向性ステレオマイクロホン DM-E1接続
ヘッドフォン端子	Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子	N3タイプのリモコンに対応
拡張システム端子	ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E8／WFT-E6接続
イーサーネット端子	RJ-45端子、ギガビットイーサーネット対応

■電源

使用電池 ..... バッテリーパック LP-E19/LP-E4N/LP-E4、1個
* 家庭用電源アクセサリー使用によりAC駆動可能
電池情報 ..... 使用電源、電池残量、撮影回数、劣化度確認可能
撮影可能枚数の目安..... ファインダー撮影：
常温（＋23℃）約1210枚/低温（0℃）約1020枚
ライブビュー撮影：
常温（＋23℃）約260枚/低温（0℃）約240枚
* フル充電のバッテリーパック LP-E19使用時
動画撮影可能時間..... 常温（＋23℃）合計約2時間20分
低温（0℃）合計約2時間
* フル充電のバッテリーパック LP-E19使用、動画サーボAF：しない、Full HD 29.97p/25.00p/24.00p/23.98p IPB（標準）設定時

■大きさ・質量

大きさ ..... 約158.0（幅）×167.6（高さ）×82.6（奥行）mm
質量..... 約1530g（バッテリー、CFカードを含む）／約1340g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度 ..... 0℃～＋45℃
使用可能湿度 85%以下

■バッテリーパック LP-E19

形式	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	DC10.8V
容量	2700mAh
使用可能温度	充電時：＋5℃～＋40℃ 撮影時：0℃～＋45℃
使用可能湿度	85%以下
大きさ	約68.45（幅）×34.2（高さ）×92.8（奥行）mm
質量	約185g（保護カバーを除く）

■バッテリーチャージャー LC-E19

充電可能電池	バッテリーパック LP-E19/LP-E4N/LP-E4
充電時間（常温）	LP-E19：約2時間50分/1本 LP-E4N/LP-E4：約2時間20分/1本
定格入力	AC100～240V（50/60Hz）
定格出力	DC12.6V/1.63A
電源コード	約2.0m
使用可能温度	+5℃～＋40℃
使用可能湿度	85%以下
大きさ	約155.0（幅）×51.0（高さ）×95.0（奥行）mm
質量	約335g（電源コード、保護カバーを除く）

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- キヤノンは、さまざまな国/地域で登録されているCFast 2.0™商標の公認ライセンシーです。
- CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- Google™ 、Google マップ™ および Google Earth™ は Google Inc. の商標です。
- Map Utilityは、Google マップ™ 地図サービスを使用して地図上に画像や軌跡を表示しています。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーパック LP-E19、およびバッテリーパック LP-E4N/LP-E4は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

15

パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて

この章では、パソコンに画像を取り込む方法、EOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている各ソフトウェアの概要、パソコンへのインストール方法、ソフトウェア使用説明書CD-ROMに収録されているPDFファイルの見かたについて説明しています。



EOS DIGITAL
Solution Disk
（ソフトウェア）

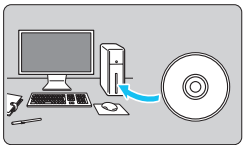


ソフトウェア
使用説明書

パソコンに画像を取り込む

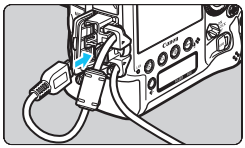
EOS用ソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は2通りあります。

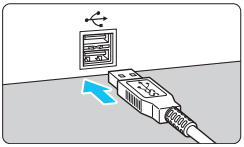
カメラとパソコンを接続して画像を取り込む



1 ソフトウェアをインストールする

（p.553）





2 付属のインターフェースケーブルでカメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.38）、プラグの〈SS⇆∞〉がカメラの背面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

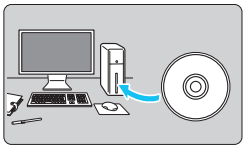
3 EOS Utility を使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書（p.554）を参照してください。

付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください（p.487）。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.38）。

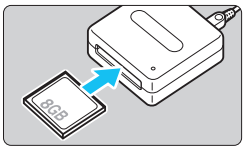
カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。



1 ソフトウェアをインストールする

（p.553）



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書（p.554）を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要



イオス デジタル ソリューション ディスク
EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。
（EOS DIGITAL Solution Diskに「ソフトウェア使用説明書」は収録されていません。554ページを参照してください。）

イオス ユーティリティー
EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。

デジタル フォト プロフェッショナル
Digital Photo Professional

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

ピクチャー スタイル エディター
Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

マップ ユーティリティー
Map Utility

GPS機能で記録した位置情報を使用して、パソコンの地図に、画像の撮影場所を表示できます。なお、Map Utilityのインストール、および使用には、インターネット接続環境が必要です。

● キヤノンホームページからダウンロード

以下のソフトウェアとソフトウェア使用説明書は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

EOS（イオス） MOVIE（ムービー） Utility（ユーティリティー）

撮影した動画の再生や、分割された動画ファイルの連続再生・結合保存を行うことができます。また、動画のフレームを選んで、静止画として保存することもできます（フレーム切り出し）。

ソフトウェアのインストール

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［setup］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

3 インストールが終了したらCD-ROMを取り出す

ソフトウェア使用説明書



ソフトウェアの使用説明書が収録されています。ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のコピー方法と見かたは、以下のとおりです。

なお、ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることもできます。

http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html

---

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

3 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下のソフトウェア説明書（PDFファイル）がコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx
Map Utility	MUx.x_J_xx	

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）を見るためには、パソコンにAdobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF 閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

索 引

英数字

10秒後/2秒後撮影.....150
1点AF 91, 96, 287
1枚：ソフト動作.....147
1枚撮影.....146
1枚表示.....344
4K 4096×2160（動画）.....312
4枚/9枚/36枚/100枚.....352
ACアダプター.....485
Adobe RGB.....200
AEB.....243, 424
AEマイクロアジャストメント.....431
AEロック.....245
AF.....87
AFカスタム設定ガイド機能.....113
AF機能カスタマイズ.....122
AFグループ.....102
AF作動表示.....90
AFセンサー.....100
AF動作.....88
AFの苦手な被写体.....144, 289
AFフレーム数.....102
AFフレーム選択.....94, 453
AFフレーム点灯輝度.....136
AFフレーム登録／呼び出し.....450
AF方式.....284, 333
AF補助光.....125
AFマイクロアジャストメント.....138
F8 AF.....100, 101
色情報.....127
エリアAFフレーム.....92, 98
顔情報.....127
クロス測距.....100
構図変更.....89, 245
手動ピント合わせ.....145, 291
スポットAFフレーム.....30, 96
測距エリア選択モード.....91, 93, 96
ダイレクト選択.....453
デュアルクロス測距.....100
電子音.....76
ピンポケ.....61, 62, 508
AF-ON（スタート）
ボタン.....62, 446, 448
AI SERVO（AIサーボAF）.....90
開始位置.....134
速度変化に対する追従性.....119
測距点乗り移り特性.....120
被写体追従特性.....118
ALL-I (編集用／I-only).....315
Avモード時ストロボ同調速度.....264
Av（絞り優先AE）.....233, 298
B/W.....170, 174
buSY（BUSY）.....161, 192
bulb（バルブ）.....246, 296
C1/C2/C3（カスタム撮影）.....474
Case.....113
CFastカード　→カード
CFカード　→カード
CLn.....407
D+.....193
DCカプラー.....485
DIGITAL端子.....28, 38, 410, 550
DPOF.....415
Err.....525
Ethernet　→有線LAN使用説明書
exFAT.....75, 320
FHD 1920×1080（動画）.....312
FAT32.....75, 320
FEB.....267
FEマイクロアジャストメント.....432

FEロック.....260
Full HD（動画）.....295, 312
GPS.....211
H/H1/H2/H3
（拡張感度）.....163, 166, 330
HDMI.....38, 367, 379
　出力.....338, 340
　接続時の表示.....338
　タイムコード.....328
HDMI CEC.....380
ICCプロファイル.....200
INFO.
ボタン.....67, 275, 305, 344, 480
IPB（軽量）.....315
IPB（標準）.....315
IPTC情報.....444
ISO感度.....163, 299, 302
　4Kの範囲.....330
　オートの低速限界.....168
　オートの範囲.....167
　感度拡張.....166
　自動設定（オート）.....165
　手動設定範囲.....166
　静止画撮影の範囲.....166
　設定ステップ.....423
　動画撮影の範囲.....330
iTR AF.....127
JPEG（ジェイペグ）.....155, 158
LAN　→有線LAN使用説明書
LOCK.....66, 439
LOG.....222
LV　→ライブビュー撮影
M（マニュアル露出）.....236, 301
MENUマーク.....8
MF（手動ピント合わせ）.....145, 291
M-Fn.....93, 132, 447, 449
M-Fn2.....447, 449
Motion JPEG（MJPG）.....315
MOV.....311
MP4.....311
M-RAW
（ミドルロウ）.....155, 158, 160
MWB.....180
NTSC.....312, 379, 499
ONE SHOT（ワンショットAF）.....89
P（プログラムAE）.....228, 296
PAL.....312, 379, 499
Q（クイック
設定）.....68, 279, 310, 365
RAW（ロウ）.....155, 158, 160
RAW+JPEG.....155, 158
RAW現像.....394
S-RAW
（スモールロウ）.....155, 158, 160
sRGB.....200
Tv（シャッター優先AE）.....231, 297
Ultra DMA（UDMA）.....50, 158
USB（デジタル）
端子.....28, 38, 410, 550
UTC.....212
WB（ホワイトバランス）.....177

あ

アイカップ.....61
アイコン（絵文字）.....8
アイピースシャッター.....258
アクセサリーシュー.....27, 260
アクセスランプ.....51, 52
圧縮（JPEG画質）.....162
アッテネーター.....323

後幕シンクロ 267
安全上のご注意.....20
アンダーバー「_」.....200, 205
位置情報.....219
位置情報の更新間隔.....220
位置情報の保持（付加）期限.....221
色あい.....173
色温度.....177, 185
色空間.....200
色収差補正.....195
色の濃さ.....173
印刷指定（DPOF）.....415
インデックス表示.....352
ウィンドカット.....323
液晶モニター.....24
　明るさ.....389
　色あい.....390
　画像の再生.....343
　クイック設定.....68, 482
　水準器.....82, 480
　メニュー機能.....71, 492
エラー表示.....525
エラー履歴.....522
エリアAFフレーム.....92, 98
エリア（地域）.....55
オートパワーオフ.....53, 76
オートフォーカス　→AF
オートライティング
オプティマイザ.....189
オートリセット.....207
オート（📷A）.....169
お気に入りマーク.....361
主な仕様.....526
音声メモ
　記録.....363
　再生.....364
温度警告.....293, 341
音量（動画再生）.....370

か

カード.....5, 25, 49, 74, 316
　入れ忘れ防止.....50
　初期化（フォーマット）.....74
　トラブル.....52, 75
カード自動切り換え.....153
カードなしレリーズ.....50
開始測距点.....134
回折補正.....196
階調優先.....193
回転（画像）.....357, 391
外部ストロボ　→ストロボ
外部マイク.....323
拡大開始倍率／開始位置.....356
拡大表示.....290, 291, 355
拡張ISO感度.....163, 166
拡張子.....205
拡張システム端子.....28
各部名称.....26
カスタム機能.....420, 423
カスタム撮影モード.....474
カスタムホワイトバランス.....178
画像
　AFフレーム表示.....351
　インデックス表示.....352
　オートリセット.....207
　音声メモ.....363
　拡大表示.....355
　画像番号.....206
　強制リセット.....207
　コピー.....382

サイズ.....155, 158, 312
再生.....343
撮影情報.....347
自動回転.....391
自動再生.....376
ジャンプ表示（画像送り）.....353
手動回転.....357
消去.....386
スライドショー.....376
テレビで見る.....367, 379
転送.....410
通し番号.....206
取り込み（パソコン）.....550
ハイライト警告.....350
ヒストグラム.....351
プロテクト（画像の保護）.....358
レーティング.....361
画素数.....156, 158
家庭用電源.....485
カメラ
構え方.....61
カメラブレ.....229, 256
システム情報.....522
設定初期化.....77
設定内容表示.....481
設定保存／読込.....470
簡易情報表示.....346
感度 →ISO感度
キャプション.....184
キャリブレーション.....45, 46
強制リセット.....207
記録画質.....155, 311
JPEG画質.....162
画像サイズ.....155, 312
記録機能.....152
クイック設定.....68, 279, 310, 365
クイック設定カスタマイズ.....461
クリーニング.....403
グリッド.....81, 280, 333, 345
クロス測距.....100
警告表示.....438
軽量（IPB）.....315
ケーブルプロテクター.....38
言語.....58
高感度撮影時のノイズ低減.....190
高輝度側・階調優先.....193
合焦マーク.....89
高速連続撮影.....146, 148, 433
故障.....504
細かさ（シャープネス）.....173
ゴミの写り込み防止.....403
コントラスト.....173, 189

さ

サーボAF
AI SERVO AF.....90
動画サーボAF.....331, 334, 335
再生.....343
先幕シンクロ.....267
撮影画像の確認時間.....77
撮影可能時間（動画）.....307, 319
撮影可能枚数.....54, 158, 273
撮影情報表示.....347
撮影モード.....32
Av（絞り優先AE）.....233, 298
bulb（バルブ）.....246, 296
C1/C2/C3（カスタム撮影）.....474
P（プログラムAE）.....228, 296
Tv（シャッター優先AE）.231, 297
M（マニュアル露出）.....236, 301

撮影モードで設定できる機能 488
撮像素子の清掃.....403
サブ電子ダイヤル.....64
サマータイム 57
三脚ねじ穴 26
しきい値（シャープネス）.....173
システム図 486
自動再生 376
自動時刻設定（GPS）.....222
自動選択AF..... 92, 98
視度調整.....61
絞り込み 235
絞り優先AE.....233, 298
シャープネス 173
シャッターボタン.....62
シャッター優先AE.....231, 297
ジャンプ表示 353
十字タッチパッド..... 66, 325
充電.....42
周辺光量補正 194
縮小表示 352
手動ピント合わせ.....145, 291
消去（画像）.....386
照明（表示パネル）.....67
上面表示パネル.....32
初期化（フォーマット）.....74
初期設定一覧 77, 78, 79, 80
白黒写真.....170, 174
白とび 350
シンクロ設定 267
シンクロ接点 27
シンクロ端子 261
水準器..... 82, 83
スタンダード（ ）.....169
ストラップ.....37
ストロボ（スピードライト）.....259
FEB 267
FEロック.....260
外部ストロボ.....260
カスタム機能 268
シンクロ（先幕／後幕）.....267
ストロボ制御（機能設定）.....263
調光補正.....260, 267
同調速度.....261, 264
マニュアル発光 265
メータードマニュアル.....262
ワイヤレス.....266
スピーカー.....27, 364, 369
スポット1点AF.....91, 96
スポットAFフレーム 30, 96
スポット測光 239, 425
スモール
（画像サイズ）.....155, 158, 399
スライドショー 376
清掃.....403
セイフティシフト 426
設定初期化.....77
AIサーボAF特性.....121
カスタム機能 422
カメラ設定.....77
クイック設定カスタマイズ.....463
ストロボ機能設定 268
操作ボタンカスタマイズ.....445
マイメニュー 468
セピア調（モノクロ）.....174
セルフタイマー 150
全押し.....62
センサークリーニング.....403
全レンズ一律調整（AF）.....138

操作ボタンカスタマイズ.....445
ゾーンAF 92, 97
速度変化に対する追従性.....119
測距エリア選択モード.....91, 93, 96
測距点自動選択 92, 98
測距点乗り移り特性.....120
測距点
(AFフレーム)..... 91, 94, 96, 100
測光タイマー 62, 283, 336
測光モード.....238
ソフトウェア 552
使用説明書 554
ソフト撮影
1枚：ソフト動作 147
LVソフト撮影.....281
ソフト高速連続撮影 147, 433
ソフト低速連続撮影 147, 433

た

タイムコード.....326
ダイレクト選択（AFフレーム）.....453
多重露出.....248
ダストデリートデータ.....405
タッチ操作.....283, 284, 336
縦位置画像回転表示.....391
縦位置操作スイッチ.....67
縦位置/横位置AFフレーム 132
チャージャー 36, 42
注意履歴／情報 522, 523
中央部重点平均測光.....239
忠実設定（EF）.....170
調光補正.....260, 267
長時間露光（bulb）.....246
調色（モノクロ）.....174
長秒時露光のノイズ低減.....191
著作権情報.....208
強さ（シャープネス）.....173
低速連続撮影.....146, 433
ディテール重視（EF）.....170
デジタル端子.....28, 38, 410, 550
デジタルレンズオプティマイザ.....397
手ブレ 61, 229
デュアルクロス測距 100
テレビで見る.....367, 379
電源 53
オートパワーオフ.....53, 76
家庭用電源.....485
キャリブレーション 45, 46
撮影可能枚数.....54, 158, 273
充電 42
電池残量.....54, 484
電池情報.....484
劣化度 484
電子音 76
電子ダイヤル
サブ電子ダイヤル 64
メイン電子ダイヤル 63
電池　→電源
同一書き込み.....153
動画 295
24.00p.....317
AEロック.....300
AF方式.....310, 333
HDMI出力 338, 340
MOV/MP4.....311
圧縮方式.....315
アッテネーター.....323
ウィンドカット.....323
映像記録方式.....315
外部マイク.....323

記録カウント 327
記録コマンド 328
記録時間 319
クイック設定 310
グリッド 333
サーボAF 331
サーボAF時のAF速度 334
サーボAFの被写体追従特性 335
再生 367, 369
再生カウント 327
自動露出撮影 296
絞り優先AE撮影 298
シャッター速度 297, 301, 304
シャッター優先AE撮影 297
情報表示 305
前後カット 372
測光タイマー 336
タイムコード 326
楽しみ方 367
テレビで見る 367, 379
動画記録画質（サイズ） 312
動画サイレント設定 325
動画撮影ボタン 296, 337
ドロップフレーム 329
ハイフレームレート 318
ファイルサイズ 319, 320
フリーラン 326
フレーム切り出し 374
フレームレート 312, 340
ヘッドフォン 324
編集 372
マイク 296, 323
マニュアル露出撮影 301
ライン入力 322
レックラン 326
録音／録音レベル 322
通し番号 206
ドライブモード 146
トラブル 504
トリミング 401
トリミング情報 441

な

ニュートラル（N:N） 170
任意選択（AF） 91, 94, 96
ノイズ低減
　高感度撮影時 190
　長秒時露光 191

は

バースト枚数 158, 161
ハイフレームレート 318
背面表示パネル 34
ハイライト警告 350
パソコンへの画像取り込み 550
発光モード 265
バッテリー（電池） →電源
バルブ撮影 246
半押し 62
汎用ストロボ 261
ピクチャースタイル ...169, 172, 175
被写界深度確認 235
被写体追従特性 118
ヒストグラム 275, 305, 351
日付／時刻 55
ビットレート 532
ビデオ方式 311, 379, 499
評価測光 238
表示パネル
　照明 67
　上面 32
　背面 34

標準（IPB）.....315
ピント合わせ →AF
ファームウェア.....500
ファイナルイメージ
シミュレーション.....277, 308
ファイルサイズ.....158, 319, 347
ファイル名.....203
アンダーバー「_」.....200, 205
ファインダー
グリッド.....81
視度調整.....61
情報表示.....84
水準器.....83
フィルター効果（モノクロ）.....174
風景（[SCN]）.....170
フォーカシングスクリーン.....435
フォーカスロック.....89
フォーカスモード
スイッチ.....6, 59, 145, 291
フォーマット（カード初期化）.....74
フォルダ作成／選択.....201, 202
付属品.....3
部分測光.....238
ブラケティング
AEB.....243, 424
FEB.....267
WB-BKT.....187, 424
フリーラン.....326
フリッカーレス.....198
振り分け.....153
フルハイビジョン
（Full HD）.....295, 312
フレーム切り出し.....374
フレームレート.....312, 340
プログラムAE.....228, 296
プログラムシフト.....229
プロテクト（画像転送）.....413
プロテクト（保護）.....358
雰囲気優先（AWB）.....179
ヘッドフォン.....324
ヘルプ.....85
編集用（ALL-I）.....315
ポートレート（[SCN]）.....169
ホワイトバランス.....177
色温度指定.....185
オート.....179
カスタム.....178
ブラケティング.....187
補正.....186
マニュアル.....180
ホワイト優先（AWB）.....179

ま

マイク
音声メモ.....363
外部.....323
内蔵.....296
マイクロ
アジャストメント.....138, 431, 432
マイメニュー.....465
マニュアルフォーカス.....145, 291
マニュアル露出.....236, 301
マルチコントローラー.....65
マルチスポット測光.....240
マルチ電子ロック.....66, 439
マルチ
ファンクション...93, 132, 447, 449
マルチファンクション2.....447, 449
ミドル
（画像サイズ）.....155, 158, 399

ミラーアップ撮影.....256
メイン電子ダイヤル.....63
メニュー.....71
機能一覧.....492
設定操作.....72
灰色（グレー）表示.....73
マイメニュー.....465
メモリーカード →カード
モノクロ（[M]）.....170

や

ユーザー設定（[C]）.....170
有線LAN →有線LAN使用説明書
要求カード性能.....316

ら

ラージゾーンAF.....92, 98
ラージ
（画像サイズ）.....155, 158, 399
ライブビュー撮影.....271
LVソフト撮影.....281
顔+追尾優先AF.....285
クイック設定.....279
グリッド.....280
撮影可能枚数.....273
手動ピント合わせ.....291
情報表示.....275
測光タイマー.....283
ライブ1点AF.....287
露出シミュレーション.....281
ライン入力.....322
リサイズ.....399
リモートスイッチ.....258
リモコン端子.....258
レリーズタイムラグ最速化.....442
領域拡大AF
任意選択.....91, 96
任意選択周囲.....92, 97
レーティング.....361
レックラン.....326
レンズ.....25, 59
AFグループ属性.....102
色収差補正.....195
回折補正.....196
光学補正.....194
周辺光量補正.....194
デジタルレンズ
オプティマイザ.....397
フォーカスモード
スイッチ.....6, 59, 145, 291
ロック解除.....60
歪曲収差補正.....195
連続撮影可能枚数.....158, 161
連続撮影（連写）.....146
ロウ.....155, 158, 160
ロウ現像.....394
ロガー.....223
ログデータ.....224
録音／録音レベル.....322
露出維持.....427
露出シミュレーション.....281
露出設定ステップ.....423
露出補正.....241
露出補正（M+ISOオート）.....237
露出レベル表示.....31, 33, 275, 305

わ

歪曲収差補正.....195
ワンショットAF.....89
ワンタッチ記録画質
切り換え.....161, 457

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOSホームページ：canon.jp/eos
EOS・サポートナビ：canon.jp/eos-navi

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00 ～ 18：00
（1 月1 日～ 1 月3 日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の弊社修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は2016年6月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH-J318-000
© CANON INC. 2016